令和6年第3回定例会会議録目次

会期日程	1
第1号（9月10日）（火曜日）	
1. 開 会	5
1. 開 議	5
1. 日程第 1 会議録署名議員の指名	5
1. 日程第 2 会期の決定	5
1. 日程第 3 諸般の報告	5
1. 日程第 4 行政報告	6
1. 日程第 5 一般質問	7
福 岡 兵八郎 議員	7
みどりの食料システム戦略（有機農業の推進施策）	
地域情報通信整備	
橋梁整備計画	
（高城農林水産課長、村上総務課長、高岡町長、 作城建設課長）	
徳 田 進 議員	22
TMRセンターについて	
堆肥センターについて	
（高城農林水産課長、吉田おもてなし観光課長、高岡町長、 高岡町長）	
宮之原 剛 議員	36
コロナワクチン接種について	
人にやさしい町づくりについて	
住宅用火災報知器設置について	
急傾斜地危険箇所対策について	
（吉田健康増進課長、中島企画課長、高岡町長、 村上総務課長、作城建設課長）	
是 枝 孝太郎 議員	47
地域観光振興について	
農業振興について	
福祉政策について	

(吉田おもてなし観光課長、高岡町長、水野耕地課長、
廣介護福祉課長、吉田健康増進課長)

植 木 厚 吉 議員 57

離島医療の現状について

海水浴利用について

特定利用空港について

(吉田健康増進課長、高岡町長、吉田おもてなし観光課長、
中島企画課長)

1. 散 会 68

第2号(9月11日)(水曜日)

1. 開 議 71

1. 日程第 1 一般質問 71

竹 山 成 浩 議員 71

地域行事の継承について

教育振興について

スポーツ振興について

(安田社会教育課長、吉田おもてなし観光課長、
作城建設課長、中島企画課長、福教育長、
太学校教育課長、高岡町長)

政 田 正 武 議員 83

予算の執行について

交際費について

徳和瀬グランド多目的広場のバックネットについて

本町のラスパイレスについて

(村上総務課長、作城建設課長、安田社会教育課長)

内 博 行 議員 90

農業振興

(高城農林水産課長、尚花徳支所長、中島企画課長)

木 原 良 治 議員 98

中学校の現状について

公共下水道事業について

不納欠損について

(太学校教育課長、福教育長、作城建設課長、
保久水道課長、村上総務課長、高岡町長、新田税務課長、
廣介護福祉課長、吉田健康増進課長、水野耕地課長)

勇元勝雄議員 112

子供医療費について
給食費について
副町長選任について
開発基金について
水道事業について
入札について
町の備蓄について

(廣介護福祉課長、高岡町長、太学校教育課長、福教育長、
村上総務課長、高城農林水産課長、保久水道課長、
作城建設課長、尚花徳支所長)

1. 散会 134

第3号(9月12日)(木曜日)

1. 開議 137

1. 日程第1 一般質問 137

広田勉議員 137

教育行政について
有機農業産地について
行旅死亡人葬祭費について
観光交通体系の整備
道の駅について

(太学校教育課長、福教育長、高岡町長、
高城農林水産課長、大山住民生活課長、中島企画課長、
吉田おもてなし観光課長、尚花徳支所長)

松田太志議員 166

徳之島町における学校教育の熱中症対策ガイドラインについて
徳之島町における部活動の地域移行について
今後の認定こども園のタイムスケジュールは
住宅入所選考について

レプリコンワクチンについて

(太学校教育課長、高岡町長、福教育長、中島企画課長、
廣介護福祉課長、作城建設課長、吉田健康増進課長)

1. 散 会	187
第4号(9月13日)(金曜日)	
1. 開 議	192
1. 日程第 1 議案第71号	なごみの岬公園管理運営基金条例の制定について
	192
1. 日程第 2 議案第72号	刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条 例の整理に関する条例について
	193
1. 日程第 3 議案第73号	徳之島町国民健康保険条例の一部を改正する条例 について
	194
1. 日程第 4 議案第74号	徳之島町堆肥センター設置条例の全部を改正する 条例について
	195
1. 日程第 5 議案第75号	徳之島町花徳地区高品質堆肥施設設置及び管理に 関する条例の廃止について
	196
1. 日程第 6 議案第76号	鹿児島県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変 更する規約について
	197
1. 日程第 7 議案第77号	機械器具設置工事請負契約の締結について
	198
1. 日程第 8 議案第78号	物品購入契約の締結について(令和5年度(繰)徳 之島町下水道事業可搬式発電機購入(3工区))
	199
1. 日程第 9 議案第79号	令和6年度一般会計補正予算(第3号)について
	200
1. 日程第10 議案第80号	令和6年度国民健康保険事業特別会計補正予算 (第2号)について
	207
1. 日程第11 議案第81号	令和6年度介護保険事業特別会計補正予算(第2 号)について
	208
1. 日程第12 議案第82号	令和6年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第 2号)について
	209
1. 日程第13 議案第83号	令和6年度水道事業会計補正予算(第2号)につ いて
	210

1. 日程第14	議案第84号	令和6年度下水道事業会計補正予算（第2号）について	211
1. 日程第15	議案第85号	令和5年度一般会計歳入歳出決算の認定について	212
1. 日程第16	議案第86号	令和5年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	212
1. 日程第17	議案第87号	令和5年度農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	212
1. 日程第18	議案第88号	令和5年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	213
1. 日程第19	議案第89号	令和5年度公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	213
1. 日程第20	議案第90号	令和5年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	213
1. 日程第21	議案第91号	令和5年度水道事業会計歳入歳出決算の認定について	213
1. 日程第22	報告第6号	令和5年度健全化判断比率について	216
1. 日程第23	報告第7号	令和5年度資金不足比率について	216
1. 日程第24	報告第8号	継続費精算報告書について	217
1. 散会			218

第5号（9月20日）（金曜日）

1. 開議			221
1. 日程第1	徳之島愛ランド広域連合議員の選挙		221
1. 日程第2	議案第85号	令和5年度一般会計歳入歳出決算の認定について	221
1. 日程第3	議案第86号	令和5年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	221
1. 日程第4	議案第87号	令和5年度農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	221
1. 日程第5	議案第88号	令和5年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について	222
1. 日程第6	議案第89号	令和5年度公共下水道事業特別会計歳入歳出決算	

		の認定について		222
1. 日程第	7	議案第90号	令和5年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算 の認定について	 222
1. 日程第	8	議案第91号	令和5年度水道事業会計歳入歳出決算の認定につ いて	 222
1. 日程第	9	議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の申し出について	...	225
1. 閉会				226

令和6年第3回徳之島町議会定例会

会 期 日 程

令和6年第3回徳之島町議会定例会会期日程（案）

令和6年9月10日開会～令和6年9月20日閉会 会期11日間

月	日	曜日	会議別	日程
9	10	火	本会議	○開会 ○開議 ○会議録署名議員の指名 ○会期の決定 ○諸般の報告 ○行政報告 ○一般質問（福岡・徳田・宮之原・是枝・植木）5名
	11	水	本会議	○一般質問（竹山・政田・内・木原・勇元）5名
	12	木	本会議	○一般質問（広田・松田）2名
	13	金	本会議	○議案（条例・補正予算等）審議、採決 ○令和5年度決算上程（特別委員会設置、付託） ○報告 ○決算審査特別委員会
	14	土	休 会	
	15	日	休 会	
	16	月	休 会	
	17	火	委員会	○決算審査特別委員会
	18	水	委員会	○決算審査特別委員会
	19	木	委員会	○決算審査特別委員会
	20	金	本会議	○委員長報告 ○議案審議 ○閉会

令和6年第3回徳之島町議会定例会

第1日

令和6年9月10日

令和6年第3回徳之島町議会定例会会議録

令和6年9月10日（火曜日） 午前10時 開議

1. 議事日程（第1号）

○開 会

○開 議

○日程第 1 会議録署名議員の指名

○日程第 2 会期の決定

○日程第 3 諸般の報告

○日程第 4 行政報告

○日程第 5 一般質問

福岡兵八郎 議員

徳田 進 議員

宮之原 剛 議員

是枝孝太郎 議員

植木 厚吉 議員

○散 会

1. 本日の会議に付した事件

○議事日程記載事件のとおり

1. 出席議員（16名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	内 博行 君	2番	政田 正武 君
3番	宮之原 剛 君	4番	植木 厚吉 君
5番	竹山 成浩 君	6番	松田 太志 君
7番	富田 良一 君	8番	勇元 勝雄 君
9番	徳田 進 君	10番	池山 富良 君
11番	是枝 孝太郎 君	12番	広田 勉 君
13番	木原 良治 君	14番	福岡 兵八郎 君
15番	大沢 章宏 君	16番	行沢 弘栄 君

1. 欠席議員（0名）

1. 出席事務局職員

事務局 長 清原 美保子 君 主 査 中野 愛香 君

1. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町 長	高岡 秀規 君	教 育 長	福 宏人 君
総務課長	村上 和代 君	企 画 課 長	中島 友記 君
建設課長	作城 なおみ 君	花徳支所長	尚 康典 君
農林水産課長	高城 博也 君	耕 地 課 長	水野 毅 君
地域営業課長	清瀬 博之 君	農委事務局長	白坂 貴仁 君
学校教育課長	太 稔 君	社会教育課長	安田 誠 君
介護福祉課長	廣 智和 君	健康増進課長	吉田 忍 君
おもてなし観光課長	吉田 広和 君	税 務 課 長	新田 良二 君
住民生活課長	大山 寛樹 君	選管事務局次長	上原 悟 君
会計管理者・会計課長	田畑 和也 君	水 道 課 長	保久 幸仁 君

△ 開 会 午前10時00分

○議長（行沢弘栄君）

おはようございます。

ただいまから、令和6年第3回徳之島町議会定例会を開会します。

△ 開 議 午前10時00分

○議長（行沢弘栄君）

これから本日の会議を開きます。

△ 日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（行沢弘栄君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第127条の規定によって、1番内博行議員、13番木原良治議員を指名します。

△ 日程第2 会期の決定

○議長（行沢弘栄君）

日程第2、会期決定の件を議題にします。

お諮りします。本定例会の会期は、本日から9月20日までの11日間にしたいと思います。御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、会期は本日から9月20日までの11日間に決定しました。

△ 日程第3 諸般の報告

○議長（行沢弘栄君）

日程第3、諸般の報告を行います。

一般的な事項についてはお手元に文書で配付してありますので、口頭報告は省略いたします。なお、この際、特に報告いたしますことは、監査委員から令和6年度の例月現金出納検査8月分の結果報告がありました。

なお、関係資料等は事務局に常備してありますので、御覧いただきたいと思います。

これで諸般の報告を終わります。

△ 日程第4 行政報告

○議長（行沢弘栄君）

日程第4、行政報告を行います。

○町長（高岡秀規君）

詳細につきましては、お手元に配付してありますので、主なものを申し上げたいと思います。

6月18日から6月19日、町村の振興を考える会意見交換懇談会に出席。全国町村会正副会長会に出席。全国町村会理事会に出席。そして全国町村会政務調査会、全国町村会理事会に出席。

7月7日、全国町村会正副会長会に出席。全国町村会理事会に出席。第57回海外地方行政調査団報告会に出席。

7月17日、19日、20日につきましては、大島郡の町村会としての要望活動を、東京で行っております。そしてまた、鹿児島県の地域離島精神医学寄附講座の協定式、昭和大学との協定式を行っておりますが、現在改善した点につきましては、7月に1人、30代の医師が来ております。そしてまた10月にはもう1人、30代の医師が来る予定になっております。

現在、与論・沖永良部島につきましては、オンライン診療と巡回診療の届出を県のほうに出しているところございまして、今後はこの寄附講座によって医師が2人、そしてまた与論・沖永良部について、オンラインと巡回診療が可能になるというふうに思っております。そしてまた、私どもの考えといたしまして、発達障害の診察についても研究をしていただけないかというお願いを、今しているところです。

11月には昭和大学の幹部のほうが来島予定ですので、その際には皆様方で懇親会を企画しております。またドクターについても島の良さを分かっただいて、常駐していただけるよう、我々からも要望したらどうかというふうに考えております。

7月29日、衆議院国土交通委員会の視察に、奄美市のほうに行っております。これは奄振の概算要求の前に、しっかりとした当初予算の確保をお願いしております。

8月7日、8月8日、鹿児島県の市町村総合事務組合、令和6年度第1回組合議会臨時会に出席。町村振興の諸施策に関する鹿児島県の要望活動を行っております。これは主に医療費の問題でありますとか給食費、そしてまた子育ての環境についての県の要望を強く訴えております。またそこでは、地方交付税の在り方についても、県との意見交換をし、県と市町村がともに国のほうへ要望できないかということの話をしたところでございます。

8月25日から8月27日、これは町村振興の施策に関する国等への要望活動でありまして、その際には私のほうから追加としてふるさと納税の企業版ふるさと納税が、令和6年度で特例措置が終了ということから、さらなる延長を強く要望したところでございます。そしてまた地方交付税の拡充についても、臨時職員、会計任用職員の給与が多少増額になっておりますので、その点についても地方交付税措置をしっかりとするよう、要望したところでございます。

さらには農林水産省につきましては、農業の振興について休耕地が今ある中で、農地を守る方に、作物だけではなくて、農地を守るために農地保全ということで支援策ができないかという要望もしていたところでございます。この国等への要望については、森山事務所を通じて各省庁1時間ずつ意見交換ができて、有意義な要望活動ができたのではないかなというふうに考えております。

そして9月3日、5日等々につきましては奄美振興特別委員会、これは概算要求が出ましたので、主に公共事業で191億3,400万、昨対で105%、非公共で28億4,400万、昨対で120%の概算要求が出ておりますが、その中身を私が精査いたしますと、徳之島3町でゴミ処理センターの改修が、国費で8億余りを要望しているところでございますが、実際に概算要求では1億7,000万ぐらいが交付になっているということから危機感を感じまして、しっかりと要望活動を今、環境省等々に行ったところでございます。

内容については、令和6年度の補正予算で前倒しで、全て令和7年度で終了できるように要望したところございまして、これにつきましては、年度をまたがってしまいますと、今使っている古いものが工事中に1年以上待ってしまいますと、ダイオキシンの問題等も発生することから、令和7年度には必ず終了したいということを強く訴えてまいりました。

町村の振興を考える会朝食懇談会につきましては、まず体育館、熱中症等の問題で町村として体育館等に風呂場で汗をかくようなものですということから、全体の体育館について冷房ないし、そういった措置ができないかという要望をしたところでございます。そしてまた、全国町村会正副会長会、全国町村会理事会に出席をしております。

以上で報告といたします。

○議長（行沢弘栄君）

これで、行政報告を終わります。

△ 日程第5 一般質問

○議長（行沢弘栄君）

日程第5、一般質問を行います。

福岡兵八郎議員の一般質問を許可します。

○14番（福岡兵八郎君）

おはようございます。

まずお礼を申し上げたいと思います。先般、長い干ばつによって、水源地が枯渇いたしました。私たち轟木は集落共有林が200ヘクタールございます。天城町から来る連山と重なりますと、膨大な山をバックですので、水だけは豊富で、集落の宝であると思込んでいたわけですが、今年2回枯渇がありました。

1回目は、町職員の皆さんが夜も、朝早くからも、消防車を利用して水源地に水を供給していただき、何とかしのいだわけですが、今回はまた砂防ダムの上にエンジンを運んで、職員が朝早くから管理をしながら、水を何とか供給しようということでした。しかし風呂をためると、バスクリンを入れたような色であり、水道水はもちろん飲めない。飲む分については町からの水の応援がありましたが、やはりシャワーとか、夏は非常に必要なんですけども、非常に不便を来しました。

また轟木は花徳の上花徳地区にも供給しておりますので、早く何とかしないといけないということでありましたが、水道課長はもちろん、総務課長も企画課長も現地を見ていただきました。集落民一同になり代わり、まずお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。また今後の対策として、供給方法の改善をしたいということで、集落でやりましょうと、予算は町にお願いしますよということで、しました。

では任せるということでしていただきまして、近くに小川がありましたので、きれいな水が、それを上から来るパイプにつないでやる方法を工事しました。昨日で終わる予定でしたけど、昨日はまた大雨でしたので、今日していると思いますが、今日で終わると思いますけれども、もう堆積しますと、それを除去する期間は、今度作った取り付けた小川からの水で供給しながら、きれいに今度掃除もできるということで、未来永劫、万全な環境ができたなと本当に思っております。

これは轟木に限らず、やはり水源地をチェックされて、そして供給しながら掃除もできるような、以前私は神嶺ダムのことも申し上げました。あと一つ、そのダムの建設が必要じゃないかと。掃除をしながら、もう一つで供給しながらということを申し上げました。神嶺ダムは御承知のとおり、計画をしてから完成まで15年かかっております。ですので、水だけは、もう待ったなしでありますので、やはりそういうことがほかの地区で出ないようにお願いしたいなと思いました。

その水の工事をしながら、私も立ち会ってずっとやりましたが、しながら考えたことは、この新しくつなぐ水が、もしこれが中国企業が買収していたらどうなるんだろうと思いました。もう使えないわけですから。たまたま個人の持分でありまして、それは心よく、ぜひ使ってくれということでありましたので、その水が今使っているわけだけでも、今、国内、中国企業が日本の水資源を買収しているという話を聞きます。具体的に調査はしていませんが、これを国家の法律か市町村の条例、いろんな面でやはり防ぐ方法をしていかないと、いつの間にかその買収されて、気がついたときには遅かったと、この水問題しっかりとしないといけないなと、その工事に立ち会いながら感じたところでありました。

ついでにですので、今、ワクチンについてであります。2021年、mRNAワクチン接種が始まった。NHKの放送がございましたが、この3年で48万人死亡者が増えたと言われておりま

す。広島原爆、長崎原爆、東京大空襲に合わせると死者30万人だけでも、それより多い。また原因不明の疾病や不治の病を発症した体調不良を訴えている患者が、今600万人だそうです。

そしてアメリカの米国疫病予防管理センターCOCが、来年の4月に日本でオープンするそうであります。厚生省も保健所も日本はあるわけだけでも、米国から来て、そのセンターがオープンすると。今度始まるだろうレプリコンワクチン、今回、松田議員が一般質問に出しておりますので、待ってましたという感じではありますが、執行部の答弁を期待しているところではありますが、自己増殖型次世代ワクチン、汗でも広がっていきますし、唾液でも広がっていくという。都会では、レプリコンワクチンを接種した人はもう入らないでくださいという、入口に張り紙もするほど、今都会では起きているんだそうです。

またそれから、ワクチン入りのトマトがもう販売されているようであります。その商品名はラウンドレッドというトマト。ラウンドアップを作っている会社がしているんじゃないかなと感じるわけですが、もう奇形用ラウンドアップ除草剤、あれを使うと植物も奇形ができるわけですが、ラウンドレッドという商品ですね。某企業が苗を小学校に無償で配布して、まず学校で栽培させようと、子供たちに学校で食べさせて、先生たちも一緒になっておいしいよねと。まず子供たちを仲間につけようということを、今戦略を組んでいるわけです。子供たちは今度は家庭に、親に、帰って学校でこういうトマトを作っておいしいよと、お父さん作ってよと言うと、お父さんは子供の言うことを聞くわけです。家庭菜園で作る。

そうしますと、今度はお母さんがスーパーに行って、このトマトありませんかと言う。そうしますと、このお店、スーパーはまた卸業者に要求をする、卸業者は市場に行って、これありませんかと聞くと、今は市場はそれは取り扱いませんと言っているけれども、そうして注文が来るとやるしかないということで、戦略・戦術がそういうふうで今取り組んでいるということなんです、実際に。

これは私の情報であります、そういうことで、私たちは何をすればいいかなと、もし考えたときに、やはりゲノム編集含む遺伝子組替え食品、工業製品ですから、これを学校給食には絶対使わない方法をしないとイケない。だから私は考えて、12月議会ではこの学校給食にこの遺伝子組替え食品を使わないという条例を提案したいと思っておりますので、議会の皆様、また執行部の皆様の御理解とまた御協力をお願いしたいと思っております。

今回3項目出しておりますが、14番福岡が通告の3項目について、質問をいたします。このみどりの食料システム戦略、時あるごとに取り上げておりますけれども、今、社会は非常に企業が利益誘導型で、人間の健康関係なく、その事業だけ拡大しようということで侵入してきております。前回申し上げましたけれども、地球が支える人口は35億だそうです、今82億なんですね、地球の人口が。日本はだんだん減ってきておりますけれども、だから35億まで絞るような、どこかで戦略を組んでいるんじゃないかなと思いたくなるぐらい、私たちの生活環境は

非常に怖い環境にあるような気がいたします。

それによってここで出しております、まず本町では、鹿児島県で2つ目ではありますが、オーガニックビレッジに手を挙げて本当に取り組んでいただいて、非常に健康の町宣言にふさわしいなと思っているわけですが。まずこの今取り組んでいる有機農業推進協議会、農林水産課が事務局として取り組んでおります。まずこの過去3年間、どういうことを取り組んできたか、やはり情報は共有する必要がありますので、まずお尋ねしたいと思います。よろしくお願ひします。

○農林水産課長（高城博也君）

それでは、福岡議員の御質問にお答えいたします。

有機農業の推進施策、過去3年間の取組成果ということで、まず本町では令和4年度から令和6年度、現在までみどり食料システム戦略推進対策事業補助金を活用して、有機農業の推進を図っております。令和4年度は、徳之島町有機農業推進計画の策定に向け、徳之島町農林水産課、徳之島町教育委員会学校教育課、徳之島町農業委員会、県大島支庁徳之島事務所農業普及課、JAあまみ徳之島事業本部、並びに生産者代表、消費者代表等で構成される、徳之島町有機農業推進協議会を設立し、生産・流通販売・加工・消費のそれぞれの分野で検討の開催や、有機農業の先進地事例調査を実施いたしました。

また試行的な取組として、有機農業実証モデル圃場を設置し、有機ばれいしょの栽培、有機農業指導員を派遣して栽培指導の実施、JAS認証の取得支援、有機ばれいしょのPR活動、消費地への輸送試験、学校給食における有機農産物の導入、消費者との交流等に取り組みました。また令和5年度は、徳之島町有機農業実施計画を策定し、オーガニックビレッジ宣言を行いました。有機農業実施計画の実現に向け、令和4年度に引き続き、各分野で検討会の開催や有機農業の先進地事例調査の実施、有機農業実証モデル団地を設置し、有機農業指導員を派遣しての栽培指導の実施、JAS認証の取得支援、学校給食における有機農業の導入のほか、有機農業・無機農産物の販路確保に向けた商談会や、有機農業の理解情勢を図るため講演会を開催いたしました。

事業の成果については、有機農業に関する相談件数や本町の有機農業面積及び有機農業者は、確実に増加しているものと思います。令和6年度における有機農業取組面積は4ヘクタール、有機農業者数が6戸見込まれております。現在、令和6年度につきましても、令和5年度の取組等を継続し、今後も本町の有機農業の推進を図っていきたいと考えております。

以上です。

○14番（福岡兵八郎君）

今、有機農業の全国の取組の棒グラフで、皆さん出ていますか。大体ここに数字をつけないといけません、数字までも調べていただくようにと思ったんだけど、取りあえず全国、

こうして取り組んでいると。鹿児島県と北海道が今一番進んでいるということでもあります。塩田知事も、農業産出額、鹿児島県は全国第2位だと言うんだけど、その後、僕は聞こうと思うんだけど、なかなか後言わないんですよ。何を言わないかということ、所得率は後ろから2番目なんです、鹿児島県は。産出額は前から2番目、所得率は後ろから2番目なんです。

だからいかに作っている農家は儲けていないかということなんです。土地利用型が多いから。南西諸島はさとうきび、本土はさつまいもです。だからコスト高騰の中で今後やっていけるかどうかですね。どうなるか、どういう施策が来るのか、農水大臣がどういう政策を打つか、非常に今関心を持って見ているわけですが、私、今、過渡期に来ているなど思っております。

では早速入りますけれども、有機農業新規参入者技術習得支援の内容ですよ。今、自民党総理候補小泉進次郎さんが世論調査トップだと言っていますけれども、小泉先生が青年局長のとき、自民党の、是枝議員と松田議員と3名、お尋ねしたことがございました。そのときに3つ提案いたしました。

1つは、やはり農家はなかなか普通農協だけ扱っているから、窓口しているから、なかなかやりくりができないから、各銀行にも、農家への金融環境を緩和すべきだということが1つと、もう1つは、今、課長がおっしゃった指導者、指導者をもっと育成すべきだということ、そういう環境をつくるべきだということと、もう1つは輸出もできる、あのときは税ギャップでしたけれども、今はグローバルギャップ、それも含めて、そのギャップの国際基準に十分土俵が出られるような環境をつくるべきだということで申し上げて、私は自分は地方を回っているんだとおっしゃいましたので、ただ空回りじゃいけないよと、お土産持っていくべきだ、お土産なんです、お土産は補助金でしょうと。

農政は補助金ですよ。もう農政は徹底して補助金で包んで守っていかないと、全て自分でなさいって、これ一部の人たちは、企業農業している人はいいいんだけど、そのほとんどが中流以下ですから、自分で生きるのはいけません。だからかつて民主党が政権取ったときに、所得補償方式というのを打ち出したんだけど、自民党が取ってからそれがなくなった。だからその辺のところの政策も、今度は細かく各代表が論戦交わすでしょうけれども、関心を持って見ていきたいと思っております。

まずこの技術習得支援の内容、これについては課長のお考えをお尋ねしたいと思います。

○農林水産課長（高城博也君）

まずみどりの食料システムの中に有機農業の関係の事業が幾つかありまして、有機農業新規参入技術習得支援事業は、新たに有機農業に取り組む農業者が国際水準の有機農業に関する技術基準等を習得するため、有機JASに関する研修や初回の圃場実地検査を受講受験する際に、取組に支援するものであります。

事業内容といたしましては、補助対象経費、講習会の受講料は実費のみ、また一農業者当たりの上限額は3万円とする。交通費、宿泊料は対象外となっております。一農業者当たりの上限は3万円。また圃場実地検査の受験、補助対象経費は圃場実地検査の検査料の実費のみとし、一農業者当たりの上限額は9万円となっております。こういった意味で事業が取り組まれておりますので、機会というか、新規参入者の要望あれば、こういったものに関して取り組んでいくべきだと思いますし、実際にいろいろ講習会等も行っております。

またこのみどり戦略が出てきたときに、啓発して何名か指導者の講習も受けておりますので、そういった意味でこれをもっと末端のほうまで広めていく必要は、今後必要ではないかなと十分認識しております。

以上です。

○14番（福岡兵八郎君）

ありがとうございます。今、ほかに町村にないわけですよ。徳之島町が率先して取り組んでいる。本当に半世紀以上、この農業に携わってきた私からすると、非常にそうだし、職員はもう仕事でしたくないはずなんです。もう大変なんです。けどもあえてやるということは、責任感と使命感で取り組んでおられるということで、非常によくやっておられると本当に思います。御苦労さまです。

今言う講習会の受講料とか、それも具体的にやっておりますので、あとは人口をどうして増やすかということなんです。じゃあなぜ有機農業が必要かという、ああもう亜熱帯で、島、草山になって、もうそんなできるものやっていう意識がいっぱいありますけれども、しかし、ドクちゃん、ベトちゃんと皆さん知っていますよね。ドクちゃん、ベトちゃんですとね、もう似たようなのいっぱいですから。一対に頭が二つとかね、もうね本当にかわいそうな子供たちがいっぱい写真が出てきます。

これが今現実にあるわけですよ。それから発達障害とかね。これはドクちゃん、ベトちゃんは御承知のとおり、そのベトナム戦争でアメリカが除草剤まいて、山は全部枯らした。枯らさないと、その兵隊がどこに隠れているか分からんからということでね、大変な無残なことをやっているわけですが、それ戦争が終わって、そのドクちゃん、ベトちゃんの家族は引っ越してきたわけですね、ベトナムに。井戸の水を飲んだ。井戸の水を飲んだら、ドクちゃん、ベトちゃんが生まれたわけです。もうお母さんはそれを見た途端に、もういなくなったわけですね、ショックで。

だから今、そこまでいかないけれども、除草剤と農薬と、観光栽培でもう便利ですから、使っているわけですよ。制御もない。しかしグローバルギャップとか、そういう制度の中では、この農薬は3回までですよとか、収穫の何日前ですよとか、全部研究されて、農薬会社が研究されて登録を取っているわけです。一つの農薬を登録するために、100億かかると言うんです

よね、100億。その代わり100億かかるけれども、世界で使える。そして買う農家に負担をするわけですので、農薬会社自体は、結局は自分たちが出しているわけじゃないわけですが。

病院で使う医薬は10億らしいですけども、農薬は100億かかってやるから、個人ではできないわけですよ。幾らいいの作っても。だから力のある、体力のある会社がするわけでないといかんけれども、しかしそれでも農薬は駄目だと、化学薬品は駄目だと排除の論理で、この有機農業というのが始まって、そしたら次は自然栽培、自然農法とかね。自然栽培と自然農法は別ですよ、皆さん。自然農法というのは、一つは宗教家、一つは思想家が発案したものなんですよ。別なんです。

例えば土は15センチ以上は耕していけないとかね、もうテーブルの上で一生懸命考えたんでしょね。それで振り回しているんだけど、都会ではそういう農家がどんどん産地ができてきているわけですよ、それにしただがって。だから私たちはいろいろ文句言っているとね、もう電車に乗り遅れてしまうから、四苦八苦しなながらも、何とかかじりついて道を開けないといけない。それが将来の後輩たちに対して道を作っておかないといけないと思いながら、今この皆さん非常に御苦労されておりますよね。

四苦八苦、シック36、ハック72、108、これは大晦日の煩惱の数であります。除夜の鐘ですね。年内7回107打って、年明けて1回打つんですよ。その意味は調べていただきたいと思いますが、とにかく四苦八苦しないと道は開けない。それで徳之島町がやはりそれを率先垂範して今取り組んでいるということで、本当に自信を持ってね、課長、頑張ってもらいたいなと思っております。退職するときは笑ってできるようにね、頑張りましょうね。

じゃあ2番目の環境保全型農業直接支払交付金、これについて説明をお願いいたします。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

環境保全型直接支払交付金は、農業の持続的な発展と農業の有する多面的機能の発揮を図るとともに、みどりの食料システム戦略の実現に向けて、農業生産に由来する環境負荷を低減する取組と合わせて行う地球温暖化防止や、生物多様性保全等に効果の高い農業生産活動を支援するというものであります。対象となる取組といたしまして、事業のほうは提案・提起しております。化学肥料、化学合成農薬を原則5割以上低減する取組と、なおかつ地球温暖化防止に効果の高い営農活動。その中には有機農業、堆肥の施用、カバークロープ、これに関しましては作物の被覆等のことであります。目的は、土壌中に炭素を潮流し、地球温暖化防止に貢献するというふうにやっております。

次に、化学肥料、化学合成農薬は原則5割以上低減する取組と、生物多様保全等に効果の高い営農活動、その中にも有機農業、また総合的病害虫雑草管理等、様々な生物を地域で育み、生物多様性保全に貢献するということであります。そういった取組に対して、交付の単価が10

アール当たり1万2,000円になるということでもあります。現在、まだ徳之島町においては取り組まれておりませんが、要望等、農家等、そこ辺の意見等も聞きながら、今後検討していきたいと思います。

ただし、ここにも、先ほど説明したように、化学肥料、化学合成農薬を原則5割以上低減というふうな形でありますので、これを実現するために、やはり今本町でやっている堆肥の有機肥料の増産計画も、関連性を持って進めていかなければいけないなと考えているところであります。

以上です。

○14番（福岡兵八郎君）

そう、今この堆肥のペレット化とかね、これはすごく非常に時得たりであります。ただ私は心配しているのはね、さとうきびを作るときに、やっぱり2,4-Dを使うわけですよ。農薬の中で一番分解しにくい農薬と言われているわけね。島全体で何百トンぐらい使われているか分かりませんが、それがないとキビは作れないわけですよ。そのハカマに残留がないかどうかね、ちょっとそれを心配しているんですけども、恐らくないと思うんですよ。大分時間たって、もう枯れてからの収穫ですので、もちろんあつてはいけないと思うんですけどもね。1回分析をさせてほしいなと思っております。

ここで1つの提案、農家からの御意見を聞きますということを課長おっしゃいましたが、環境保全型ですから、やっぱり亜熱帯ですから、もうすぐ草が生えるんですよ。どんどん草が生える。だけど、マルチを使わないといけない、マルチをね。分解マルチってありますよね。打ち込んでもいい、もう分解するマルチがあります。それちょっと割高ですので、そのマルチを使うには、例えば50%助成しますとかね、具体的にそういうのも打ち出してほしいなと思っております。

この過去3年間、毎年、今年も決算で439万7,589円、この有機農業産地づくり推進緊急対策事業として決算に出ているわけですが、過去3年間、大体この金額で来ているわけですけども、やっぱりもうちょっと補助事業を増やしてね、マルチを使いたいわけですよ、皆さん。マルチを使いたい。もう草が生えるから。だからその分解マルチね。分解マルチだったらもう溶けていきますから、なくなりますから、水と空気に分解しますので、安全ですよ。

だから環境保全型から見た、この部署から見た方法として、ひとつ新しくね、この9月決算したら、また新しい予算に向けて、事業に向けていろいろもう論戦するでしょうから、特別その有機農業の皆さんに分解マルチを使うならば50%助成しますとかね、それを打ち出していたきたい。課長、お願いします。どうでしょうか。

○農林水産課長（高城博也君）

ただいまの質問のお答えになるかどうか分からないですけども、先進地視察に行ったとき

に、やはり有機農業に取り組んでいるところは、非常に力が、知力があるなど感じました。雑草が生えてから、肥料にいろいろ除草作業もやると、刈り取りやると、それも肥料の一部になるのではないかなとは思っております。そういった意味で、マルチも分解マルチ、これも理解はしているところでありますし、できる限り、圃場の中に、作物を取った後はその自然のものを残して、それを有効活用する循環型農業は、やはり真剣に考えていかなきゃいけないですし、そこら辺も担当とともに一緒になって考えて、どういった方法があるか、また鹿児島県も含めて、改良普及課のほうがありますので、そういったものを考えて、今後助成のほうも財政等、補助事業等も模索しながら、早急に対処していきたいと思っております。

以上です。

○14番（福岡兵八郎君）

とにかく今、生産者が必要だなど思っていることなんですよね。だからぜひそれは園芸振興協議会なり、島内のあるでしょうから、もちろん県の先生方もすばらしい先生方お見えですので、ぜひその環境保全型の視点から考えて、農家の労働力軽減のために、分解マルチを使いましょうという一つの、徳之島町からひとつ発信をしていただきたいなど、ぜひお願いいたします。

次、有機農業推進体制整備交付金について伺います。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

有機農業推進体制整備交付金につきましては、みどり食料システム戦略及びみどり食料システム法に基づいて、地方公共団体が農林事業者等と連携して行う地域のみどり食料システム基本計画の点検、改善、情報発信、モデル地区の創出や、農業者の認定に向けた推進、指導、及びモデル地区の創出に見合う有機農業指導員等の育成、確保の取組を支援する事業となっております。

内容のほうは推進体制整備でありますので、みどりの食料システム基本計画の推進、交付対象はもっぱら講師の謝金、講師の旅費、あと一般事務経費となっております。また有機農業指導員の育成もありまして、それに関しましては有機農業やグリーン栽培体系、地域循環型エネルギーシステムの指導・助言を行う人材を育成する。また各取組の普及に向けて、地域に即した有機農業指導員や有機農業指導員以外の専門指導員の配置や認命、総合窓口の設置を行い、農業に対し栽培誘致や有機JAS制度について指導・助言を行い、体制を整備するというふうになっております。

中身のほうは、対象経費といたしましては受講費の経費、研修会の経費、講師の謝金等もこれも対象となっております。1事業主体当たり350万円が上限となっておりますけれども、現在、この体制を整備している最中でありまして、またこの体制整備資金があるということは、

今まであった推進協議会等に並ぶような存在にまだ引き上げて、有機農業の推進体制を引き上げていくものだと感じております。そういったものも議論、今後、園芸も含めた中で定義していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○14番（福岡兵八郎君）

そうですね、今、コンサルを入れて着実にしておられますので、このままずっと中身を濃くしていければいいなと思っております。

次の強い農業・担い手づくり総合支援交付金について、お願いいたします。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

強い農業・担い手づくり総合支援交付金については、内容といたしましては食料生産供給の不安定化や労働力不足など、生産構造の急速な変化に対応するため、先駆的モデルや農業支援サービス事業体の育成等を支援、また産地の収益力強化と持続的な発展及び食料流通の合理化のため、強い農業づくりに必要な産地基幹施設、卸売市場施設の整備等を支援する事業というふうに事業の内容はなっております。

内容のほうは幾つかタイプがありまして、先駆的モデル支援事業、これにつきましては、食料・農業・農村基本法見直しを踏まえた新しい農業を創出して行くために、安定生産供給を実現するような先駆的モデルの育成を支援する。また、農業支援サービス、事業支援タイプといたしましては、農業支援サービス事業の提供に必要な農業機械等を支援するというふうになっておりまして、この事業につきましては各多様の事業が提案できていくと思っておりますので、しかしながら中のほうに重点施策の推進といたしまして、みどりの食料システム戦略、スマート農業産地における戦略的な人材育成といった重点施策の推進に必要な施設の整備等を、支援の対象としております。

以上です。

○14番（福岡兵八郎君）

そうですね、スマート農業、今回も議会で出ているわけですが、時代とともに進めていただきたいと思っております。今の課長の説明では、もう十分であります。これをまた町民の皆様に座談会なんかで、やはり分からせてあげないといけないんですよね。だからそれをどういうように啓発するかということが次の課題かなと思っておりますので、ぜひ前向きに、自信を持って取り組んでいただきたいなと思っております。

2番目の、地域情報通信整備に入りたいと思っております。分かりやすく言いますと、天城のAYTですね。天城町民の皆さんは家庭で、テレビで町内の活動を全部勉強できるわけです。見ることができますよね。今テレビはね、もうコマーシャルばかり、サプリメント、もうBSなんか最たるものですね。朝起きたら、もうみんなコマーシャル。もう騙されたらいけない

んですけどもね、サプリメントで健康になるのであれば、金持ちは全部健康のはずなんですよ。金持ちほど病気になるのだから。だから、社会教育も学校教育も今のテレビでは駄目だと思っています。だから、町内のいろいろな活動が、お茶の間に家族団らんの時間につけてみられるような、もうそろそろそういう整備があってもいいのではないかなと思ひ、調べましたら、総務省管轄で地域情報通信基盤整備事業がある。これらの事業等により、町内全戸に情報伝達環境整備はできないか、伺います。

○総務課長（村上和代君）

福岡議員の御質問にお答えいたします。

先日この質問を受けまして、地域情報通信基盤整備事業について総務省九州総合通信局に確認したところ、平成21年度までで、現在、この事業は実施されていないとのことでありました。要綱のほうはまだ残っているようではありますが、事業については実施されていないということでございます。要因といたしましては、現在、インターネットの普及とともに、従来の地上波やケーブルテレビの視聴者が減少傾向にあるからではないかと思われまます。

以上でございます。

○14番（福岡兵八郎君）

そうですか。平成21年度、この事業はなくなっている。私がちょっと勉強不足でしたかね。私もちゃんと調べて出したつもりでありましたが、そのケーブルテレビを見る人口が減ってきているんじゃないかと、これはどこの情報ですか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

これは今いろいろな情報、ネットの情報でありますとか、もちろんテレビの情報でありますとか、そういったところでも若い人たちがインターネットでありますとか、携帯でユーチューブでありますとか、そういったところを見るほうが多くなっていると。私も近所の子供たち、都会に出ている子供たちに聞くと、今はほとんどテレビは見ないというような話を、よく伺います。こういったところからも、今テレビ離れをしているのではないかとということで、先ほど発言いたしました。

○14番（福岡兵八郎君）

では、町民の構成は何歳から何歳までですか、町民の人口は。若い人ばかりですか。どこの集落に行っても若い人ばかりですか。高齢化で限界集落の年齢の方が多いわけですよ。若い人は確かにそうだと思いますよね。若い人は確かにもうスマートフォンとタブレットを持って歩けば、家でパソコンを持てばいいんでしょうけれど。

もちろん若い人たちには、ITのいろんな先進の、学校教育にしても福教育長がしておられるこういう教育現場では、どんどん最先端を持っていくべきでありますけれども。やはり人生

を、この世の中を作ってきた、基盤を作ってきた先輩方に、いつまでも頭と心は若いわけですので、体はあまり自由に動かなくても、現実の情報だけはテレビでいうコマーシャルだけ見せるんじゃないくて、やはりそういう生のテレビでそういう勉強ができるような、そういう、例えば社会教育、いろんな講演会もありますよね。それもわざわざ出ていなくても、元気な人は行って聞けばいいでしょうけれども、あまり動けない人もやはり家庭でそれから勉強できるというような、そういう対象もあっていいと思うけれども。

だから今、課長がおっしゃる、その若い人に聞けばそうだと思う。若い人がじっとしてテレビを見る時間はないんですが、今後どういう状況がいいのか分かりませんが、その辺はもう一度御検討してもいいんじゃないかなと思うんだけど、いかがでしょうか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

福岡議員のおっしゃることはもちろん、今小さい集落等におきましては、高齢者の方々がそうやってテレビを見ながら団らんする時間も必要かと思えますし、またその有用性についても認識しておりますが、実はこの現実的な実施に向けては、大きな多額の費用がかかってくることでございます。

天城町におきまして、現在ケーブルテレビを運用しておりますが、まずこのケーブルテレビですが、初期費用に天城町でその当時で16億かかったということでございます。またその後、アナログからデジタルに移行するために、11億の予算がかかったということでありました。このことにつきましては、またその当時は農業農村活性化補助金というものを活用して初期費用、ケーブルテレビを始めた、スタートしたわけですが、現在この、議員のおっしゃっていた地域情報通信基盤整備事業というものが今実施されていないということで、またこのような多額の費用がかかってくるのではないかということが、またちょっと困難かなと思われるところでございます。

○町長（高岡秀規君）

少し補足をさせていただきたいと思えます。回線につきましてはADSL、これは電話回線を利用した非常に遅いものであります。そしてまたCATV、今、天城町がやっているのも実はデータ量は遅いわけです。しかしながら、一番早いのは光ファイバーでありますから、光回線を使ったテレビ、そしてまたネット上の環境を今でもできるのではないかなというふうに思っております。

それでテレビを光回線で見えるためにどうしたらいいかとなりますと、映像用の回線等々の装置が必要でありまして、回線は引く必要はないんですが、映像用を光回線に乗せるための装置は必要になってきます。それでも、例えば徳之島の情報をということになれば、以前からネットテレビをユーチューブでありますとか、こういったデバイス、こういったサイトを使うか

は今後検討していきますけれども、ネットテレビのほうが非常に低廉な価格でできるのではな
いかなというふうに思いますので、今後は、徳之島の情報等についてはネット回線を使ったも
のに移行していきたいなというふうに思っております。

○14番（福岡兵八郎君）

そうですね、全て財政が伴うことでもありますので、簡単にはいけないと思いますが、やはり
そういう常に情報を共有し、やはりそこに住んでいる人たちが意識改革をしないと変わらない
わけですよ。幾ら世界自然遺産登録になりました、幾ら建物ができましたにしても、意識改革
を図っていかないといけない。意識改革って今日に明日はできないわけですよ。毎日のじわじ
わした積み上げが意識改革になっていきますので、常に都会の情報も島の情報も、例えば町長
が出張しました、講演会みたいな、報告会みたいなものもそれを通じて家庭で聞けるような、
そういう身近なものにやったらいいかなという町民の皆さんの意見がありましたので、出しま
したが。

今、広報誌と防災無線でやっているんだけど、ひとついい方法で、光の環境ができてい
ますので、ぜひ検討して、どのほうがいいのか、そして若い人たちもこの環境でいいなという、
若い人の住む環境というのは医療とか教育とか職場とかあるんだけど、これもやはり環境
のうち1つだと思うんですね。ですので、ぜひ前向きに常に検討していただきたいと思っ
ております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

次は、橋梁整備計画であります、橋の上からみんな通っているから分かりませんが、
こんなずーっと下から見るとコンクリートがどんどん崩落しまして、鉄筋が出ているところ
が多いという話がよく聞くんですが、この橋梁計画、町の管轄する橋梁は何件、何件でいいの
かな、あるのかということをお尋ねいたします。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えいたします。

町の管轄する橋梁につきましては、令和6年3月末現在で91橋であります。

以上です。

○14番（福岡兵八郎君）

そう、橋だから91橋ですよ。では整備計画がされていると思いますが、来年に向けてど
どこ整備されるのか、計画がもしできておりましたら、お願いします。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

年次ごとの整備計画につきましては、令和6年度までに補修設計委託が完了している17件
の橋梁について、土木費年間2億円の予算のうち橋梁費4,500万円の枠の中で、順次整備を予定
しておまして、令和6年度は花徳の前川橋、山の第2船換橋、母間の当畑橋の3橋を予定し

ています。令和7年度は井之川の佐渡橋、轟木の第2大川橋、母間の池の子橋、亀津の下田橋の4橋の整備を予定しております。以降は、令和8年度3橋、令和9年度2橋、令和10年度1橋、令和11年度以降4橋を整備する計画となっております。

以上です。

○14番（福岡兵八郎君）

課長、ありがとうございます。ぜひこの一番、橋をみんな当たり前、当然大丈夫だろうとみんな通っているんだけど、もちろん今まで1回もそういう事故はないんだけど、万全を期してひとつ頑張っていたきたいと思っております。

今回は3件、申し上げましたけれども、今最近、ニュースの中で、主食の米不足が言われています。先日の農業新聞によると、かつての米作農家の世帯数6万世帯が今3万7,000世帯まで減っていると。そして昨年が、米作農家倒産件数が最多だという記事がございました。米卸売業者の買入価格60キロ1万6,000円ですが、その60キロ生産するのに農家は、これは10ヘクタール以下の面積の農家の場合ということではありますが、1万4,000円かかるわけですよ。1万4,000円かかって米を作って、1万6,000円で売るわけですよ。だからもう辞めていくのは当たり前なんですよね。

だから、今、米がなくなるという、不足するというよく出ているんですけど、私たちは100%米を輸入しております。みんな輸入しておりますが、かつて過去1回ありました。タイ米が入りまして、細長いおいしくない米が入ったことがあったんですけど、離島、農村、全国一緒だと思いますけれども、その辺の対策はどうなるのか、野村農林水産大臣のときはしきりと食料安全保障という、よく言っておられましたけれども、今の坂本農林大臣になってから、一言も聞いたことがないんですよ。

だからどういうふうには政策が転換していくのかなと思ったり、輸出・輸入の問題、国家間の問題もありますけれども、国内の主要品目ですよ。三大栄養素、タンパク質、炭水化物、脂質、これは国家が人間の健康の主でありますから、国が守るべきものであるけれども、何かこれ基本も何が基本か分からない状況になっているような気がしてならないわけでありまして。それで、米農家は都会ではあるということ、それからさとうきび農家にしても、もちろん肥料高騰対策とかこう決算書で出ておりますけれども、それなりに対策を打っていますけれども、中薄いような気がしますよね。思いっきり何かしないといけないような気がします。

それから畜産農家、個人誰々とは私は聞いていませんけれども、飼料高騰によって民間から飼料を取った。だけど飼料代が払えない。牛が価格が下がってきた、払えない、牛を持っていたかたという話を聞いたことはございませんか。だから今、そういうのが起こりつつあって、第一線で頑張っている人たちが非常に今苦しい思いをしておりますので、ぜひ手厚い政策を、何か知恵を絞ってしていただきたいなと思っておりますが、これ総合的になりますけれども、

町長のお考えをお願いします。

○町長（高岡秀規君）

坂本大臣とは幾度か会を重ねておりますけれども、考え方は食料安全保障というのはぶれてはいません。今回、米の問題については在庫等々で、国の施策だろうというふうに思いますが、今後は、例えば畜産にしても、じゃがいもにしても、価格は農家が決められないというところが弱いですよという話は、国も掌握しております。しかしながら、どこまでのコストを見るか、北海道と徳之島では全然コストが違うということもあって、なかなか価格には踏み切れないということが現状であります。

ただ価格の高騰対策ということで、価格をいかに需要を増やして、増やすということも大事なんですけれども、コストをいかに下げるかということを中心にやっていただけないかという話を、今回私のほうからしております。よって自給率を高めるためにも、輸入のものと国産の価格が、輸入が相当価格が安ければ、国産化は絶対に進まないんだと。農家のコストをいかに下げて、そこに助成を出して、幾らでも消費者に渡る価格が低ければ消費者は喜ぶわけですから、価格が上がると消費者が怒るということが、なかなか国が踏み切れないものですから。でしたら、コスト削減に向けての支援策を拡充するべきだということ、今後も強く訴えていきたいというふうに思います。

○14番（福岡兵八郎君）

まさにそうだと思います。あと具体的に実施するには大変だと思うんですけれども、ぜひ高岡町長も経験豊かで、農家の気持ちを十分分かっていただいておりますので、やはり徳之島町が1つのモデルとなって、ぜひ後継者がどんどん増えてくるような、そういう環境をお願いしたいなと思っております。

ただスーパー行って安い、皆さん消費者は飛びつくか分からんけれども、ほとんどが国内においても、もうスマート農業の大分発展したのもいいんだけど、もう空中散布ですよ、農薬漬けです。だから都会の農家はもう専門化されていますから、もう空中散布で農薬漬けしてきれいなものを作るんですが、それが例えばちょっと傷ついたから余っていると、それをじゃあ家に帰って食べようって、だったら食べないですから。人にもあげない。もう捨てるわけですから。なぜか。農薬漬けだからですよ。農薬漬けだからです。

リンゴ農家はリンゴを食べないとか言いますが、知人の方からスマホに奇跡のリンゴの木村さんとこないだ写真を撮りましたということで、リンゴの写真と一緒に写真を撮っているのを送ってきましてけれども。だから健康のための食料でありますので、そのためにはやはり財政出動をどうするかということで、とにかく食料が健康の食じゃなくて健康を害する食になっておりますので、だからその辺のところをしっかりと吟味しながら、ひとつこれは農水の職員の中でそういうチェックするぐらいの担当、兼務になろうかと思うんですけれども、担当し

て。

また高城課長は若いときに一番品質の高い築地市場でも、非常に若いときに大分研修をされているわけですので、十分知識と経験をされていますから、その辺のところを健康のための食であるということ、徳之島町ではこうしているんだということ。

それから12月の道の駅のオープンに向けては、町長に前からお願いしていますが、徳之島町のマークをつくらないといけませんね。これがグローバルギャップや有機農業や、いろいろな含めた形で徳之島町が一番最高だと、安心だと、消費者が安心だというそのマークをぜひ12月のオープンまではつくって、そして12月に出す、そのときまでは農家、一般のものだと思うんだけど、そこでこういう取組をしますとこのマークをちゃんとつけますという報告をできるように、12月までお願いしたいなと思っております。

どうかひとつ、すぐ答えが出るものではありませんが、また財政の厳しい中で大変だと思えますけれども、ぜひ前向きに一生懸命取り組んでいただきたいなと思っております。皆さんには、徳之島オーガニック健康推進協議会としておりますが、徳之島町が協議会をつくる前に作っていたものですから、徳之島オーガニックとしました。これを村上課長に見せましたら、そんな大げさなことを言うなど、徳之島町にしなさいと言って、今、徳之島町オーガニック健康推進研究会にしてありますので、それは訂正しますけれども、そして四苦八苦しなながら次の若い人たちが取組みたいという方にはそういうメニューが選べるように、何とか道ができればなと思って、熱い思いだけはしていますけれども、経過なかなか難しいですが、諦めないで取り組んでいきたいなと思っております。ありがとうございます。終わります。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。11時20分より再開します。

休憩 午前11時05分

再開 午前11時20分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、徳田進議員の一般質問を許可します。

○9番（徳田 進君）

おはようございます。

池山議員、激励をありがとうございます。

それでは、令和6年9月定例会において、9番徳田が2項目について質問いたします。今回は6月定例会でも質問した、前回と同じ質問ですけど、これいずれは大きな問題になると思い、前回6月に駄目出しをしておきましたが、その後、真剣に町サイドは捉えているかどうか、その辺も確認を込めて、再度9月議会で提案しました。しっかり調べていると信じていますが、

町長並び所管課長の明快な答弁をお願いいたします。

それではTMRセンターについてですが、今年は猛暑の影響で農家の夏場の草の確保が厳しかったと思いますが、TMRセンターの島内畜産農家への供給状況はどうでしたか、伺います。

○農林水産課長（高城博也君）

それでは、徳田議員の御質問にお答えいたします。

令和5年度は年間目標生産販売量を達成しているものの、令和4年度と比較し200トン程度、生産販売量は減収となっております。さらに令和6年度については、現在のところ猛暑の影響が、干ばつ等で主要作物の生育は悪く、現在、供給体制に支障を来しているところであります。農家の皆様には御迷惑をおかけしておりますけれども、早急にそういう体制を整備できるような形で、指導していきたいと思っております。

以上です。

○9番（徳田 進君）

政策自体は、物すごい良い政策なんです。それがしっかり反映されていない。今さっき、福岡さんが最後のほうに、飼料代が払えなくて牛が持って行かれた農家が島内にいるという話、あれは事実です。隣の町に実際にいます。今後は増えていくと思いますので、この施設が本当に稼働していれば、助かる農家も多かった、多いと思うんですけど、前回の答弁で島外業者にほぼ提供して、島内業者には量が回らなかったと、そういう答弁がありました。実際の全体の量は、そのロール計算でどのぐらいものができているか、ちょっと課長、把握はしていますか。

○農林水産課長（高城博也君）

TMRセンターにつきましては、生産販売を平成25年から行っております。当初、平成25年が153トン、平成26年が468トン、平成27年が4,229トン、平成28年は5,536トン、平成29年は7,609トン、平成30年度で8,745トン、当初の計画がやはり7,000トン程度でありましたので、この時点である程度目標は達成、クリアしております。令和元年が8,414トン、令和2年が8,101トン、令和3年度が8,000トン、令和4年度が8,100トン、令和5年が7,900トンと、これまで経緯しています。ものとしてはある程度生産は行っていますので、また販売も同じ数量の分販売されております。

○9番（徳田 進君）

そのできたやつが、前回ですよ、島外業者が引き受けたおかげで監査をクリアできたと、そういう答弁があったですね。実際、向こうがなければ、恐らく引っかかっていたと思います、それは。それが事実だと思います。

今のトン数で言いましたけど、ロールの数で言えば、あれ1個何トンくらいあるの。

○農林水産課長（高城博也君）

500キロから800キロと報告を受けております。幅があるようであります。

○9番（徳田 進君）

当初はTMRセンターを作る際、その牧草地は事業申請に当たりどのぐらいを確保しないとイケないという条件があったと思いますけど、その面積はどのぐらいだったですか。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

以前TMRセンターを立ち上げたときに私が担当していたので。たしか20町分だったと思います。

○9番（徳田 進君）

その面積は、その請け負ったきらめきサポートのメンバーが提供した土地の面積の最低数ですよね。それから牛は増えているんですよね。牛は増えているんですよ。それじゃそれだけの草の供給量じゃ、足んないと思うんですよね。それで今の現状は、どのぐらい増えているんですか。

○農林水産課長（高城博也君）

TMRセンターのほうから報告を受けている段階では、借地は約80町分前後で推移しているようでありまして、借地のほうはです。また徳田議員のおっしゃるとおり、その20町分じゃ非常に量が足りないというのは、そのとおりで考えております。

○9番（徳田 進君）

今、設立したときより60町、約増えているわけじゃないですか。それでも実際島にいる農家には、そんだけの草が回ってないわけじゃないですか。ほとんど島外の業者さんに回っている。そんなことで実際いいんですか。

○町長（高岡秀規君）

当初は、立ち上げのときのスタンスで、メンバーがやはり抜けたメンバーもいらっしゃいます。そこで多少紆余曲折あったんですが、今は運営自体は順調にしております。そしてまた最初は飼料キビ糖を使うということで立ち上げたんですが、その飼料キビを使った飼料がなかなか販売力がなかったということで、売れないと作れないということから、我々が提供するものが農家が理解を得て買うというところまでなかなか厳しい道のりでした。

そしてまた少頭農家についてはロールが大きすぎると。もう少し小さくできないかという要望を以前より受けておりまして、予算的に非常に厳しい中で今来ておりますから、今後はしっかりと農家の需要に応じた体制を作らないとイケないかなというふうに思っております。

そしてまたTMRセンターにしても、堆肥センターにしても、いかに農家のコストを下げるかということ、できるものは自治体のほうでしっかりと今後は体制づくりが必要かなというふうに考えております。

○9番（徳田 進君）

今、きらめきさんが受けて、それは畑、徐々に増えていると思うんですけど、畑を増やす際に賃貸料とか、例えば適正な委員会を通して借りているとか、そういうことに対して支障とか問題は発生していませんか。ちゃんと今、土地の貸し借り、委員会に通さないといけないですよ。一般の農家にも闇小作はやめなさいという、行政のほうで指導するくらいですから、その辺はしっかり適正にされているか。

○町長（高岡秀規君）

今、担当のほうが少し調査をさせていただけないかなと、今答えられないようですので、少し時間をいただけないかなと思います。

○9番（徳田 進君）

きらめきから当初のメンバーが脱退した際、もちろん出資金とかいろんな増資とかされていると思います。脱退した際に、きっちりそれが清算されたか。また途中で草を入れる倉庫を作るとか、いろいろ設備をかけたときにも集めたと思うんですけど、そういうお金はしっかり清算できているか、またその小作料、草の土地代とかね、そういうやつもきれいに支払いは済んでいるかどうか、その辺は把握しているか、行政としてね。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

この小作料等については、誰のところがどういうふうにして支払われたというのは、確認のほうは決算書の中でしかしておりません。決算書に出てきている分に関しては、確実に支払われているものと認識しております。

○9番（徳田 進君）

いや、昔からの友達で、そこに結構金出している人が、まだ徳田もらえてないよとか、そういう話を自分は聞かされるんですよ。それも何百万単位なんでね。

そしたら、決算上ではきれいに報告されている。例えば、こういうこと言ったらあれですけど、今、島外の畜産を扱っている方がTMRの役員をしていますよね、実際は。幾らでも自分は決算で問題ないっていうことは、払われているっていうことだと自分は思いますが、それで不明なお金は、じゃあ誰がどこに持っていったかと、そういう疑問も出てきます。そういうふうには思いませんか。

○町長（高岡秀規君）

現在、徳之島町が委託しているのでは補助金はありませんけども、委託している以上、経営がしっかりしているかどうか、健全なのかどうかということは、しっかりと指導していかなければいけないかなというふうに思います。今後、今の議員の指摘を受けまして、初めて知る情報等もございます。しっかりと調査をし、指導していきたいなというふうに思っております。

○9番（徳田 進君）

じゃあ今、きらめきで運営している組織ですね、例えば今の株主は本来の規約の中で、その該当する人が株主になっているか。会社の規則の中で誰でもいいとかうたってあるんだったら、別にいいですよ。実際に畜産をしていて、畑も提供できるような状態の人が、前回では法人は1社と聞いていますけど、あと個人でバラバラ、自分に言わせれば、ただ仮に役員を置いているというだけにしか聞こえなかったんですけど、その辺はしっかり精査すべきだと思うんですけど。

よその会社のことですから、行政がそこまで言えないと思いますけど、あれは公設で作ってありますから、ある程度はその権限はあると思いますし、しっかり決算書は提示して見ることができるわけですから、その辺は課長、どうなんですか。

○農林水産課長（高城博也君）

まず決算書の中で、借地料の中で相手先の確認、またその中で株主としてまずなっている方の借地もありますので、同等であれば問題ないかと思えますけれども。しかしその農地は、農業委員会を介して町の利用集積を介してちゃんと設定されているかというふうな、これまでの問題も出てきていますので、そこら辺は十分調査して確認して、きつく指導していきたいと思っています。

○9番（徳田 進君）

いや町長ね、これ本当、作った当初は、自分は物すごい良い政策だと本当に思っていたんですよ。それ今現状の状況に対応できる徳之島の畜産振興だと思っていたんですが、物すごい今ちょっと残念な気持ちでいっぱいなんです。

次に質問する受精卵センターもきらめきサポートが実質的に運営しているということなんで、次、受精卵センターについてちょっと聞きたいんですが、本来自分はそのTMRの草を作るところと受精卵は、分けて運営組織をするべきだったと思っているんです。それをなぜ一元化したか。そうしないといけない理由がもしあったなら、教えてもらいたい。

○町長（高岡秀規君）

一元化につきましては、やはりTMRセンターでありますとか堆肥センターにしても、低廉な価格で農家に提供という公益的な使命を請け負いますと、なかなかキャッシュフローが回っていかないということがございます。そしてまた町としても、運営費について予算を組むということは考えておりませんでしたので、ある程度、畜産農家の要望を受けて、今後の品種改良には絶対価格の形成には必要であるということから、スタートしております。

今後は、経営の一元化を図りながら、赤字を少しでも減らさないといけないかなど。そのためどういう分野の事業を行っていくかというところは、あらゆる指定管理者制度の在り方につながろうかというふうに思っておりますので、今後はしっかりと経営をうまくいく、そしてまた公益的な使命をしっかりと果たしていくということを注視することが重要かというふうに

思います。

○9番（徳田 進君）

この受精卵センター、今、子牛の値段が暴落しています。そこで良い血統の牛を取って、農家の所得を向上させる。牛、つけている種、良い悪いありますけど、お金になるまでの期間は農家さん一緒なんですよ。所得向上のために作ったと思いますけど、それが実際あまり稼働していない。今現状、受精卵のその稼働率はどういう感じで動いていますか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

施設の開設当初から着実に稼働というか、採卵頭数が増えてきております。優良雌牛自家保留に一役を買っているとは考えております。まず平成30年に採卵頭数26頭、受精卵回収個数が525個、うち使用可能数受精卵が388個あったものは、現在は、令和6年現在ですね、採卵頭数63頭、受精卵回収個数1,017個、うち使用可能が639個となっており、遅ればせながら町の農家の購入料に今後促進が図れてくるものになると思います。当初はストックがほとんどない状況でできなかったのですが、今後ますます促進が図れるものだと考えています。

○9番（徳田 進君）

受精卵センター自体、鹿児島県にはそんなにはないですよ。県の黒毛和牛、県全体の畜産を守るための施設でもあるわけですよ。それがほかの県に流れた、そういう話は多分聞いていると思います。それ行政として、そういう事実かどうかという確認を、一応、確認調査、実際はそういうのはありませんでしたと、そういうことを言えるような調べとかね、そういうのはちゃんと裏づけはしたのかどうか。

○農林水産課長（高城博也君）

徳之島町が管理している受精卵に関しましては町のほうで預かっておりますので、これは確実に管理されていると思います。ただし、5個採取した中の4個は個人の農家の所有になりますので、その個人の農家の所有のほうで管理しております。ただし1年に1回、県の家畜保健所のほうが行き先を全て調査し、こうやって確認しておりますので、そこら辺は、行き先は分かって、確認、この数字資料は持っていませんけれども、以前にも議会のほうで質問あったときにも、そういった形で県のほうに確認しておりますので、そういったものは今のところ大丈夫だと思います。

○9番（徳田 進君）

牛の場合は、生まれてすぐから、人間じゃないですけども、戸籍とかそういう登録あるわけじゃないですか。それが例えば東京行こうが、北海道行こうが、どこに行っても、それ分かると思うんですけど。こっちの優良品種の牛ですよってということで、向こうは肉質がいいんで高くで売れるわけですから。日本は中国じゃあるまいし、そのぐらいしっかりできるんじゃない

いかなと思っているんですけど。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

卵をストローにやる場合には管理番号が打ってありますので、そのどの牛とどの牛の、誰々さんが飼っていた牛の部材から採取したものであるというのは確認はできます。今のところ全てそういうふうな形で管理されていると思います。

○9番（徳田 進君）

これは鹿児島県ブランドとして登録されているわけですから、これは種子法の何たらかんとか、そういう違反にはならないんですね。実際、以前いた鹿大の先生ですか、所長していた、あの方、実際は捕まっているじゃないですか。それは、中身は種屋さんにこう種の価値が下がる、ばらまいたせいでそうなっているわけですから、自分に言わしたら鹿児島県を売り飛ばした、ちょっとした犯罪じゃないかなってぐらいに思っているんですけど、そういうのは関係ないですか。

○町長（高岡秀規君）

これにつきましては、数年前にそういった話がございまして、しっかりと担当のほうに追えるように、絶対にそれはないようにするための農家への周知と契約書、それはほかに流通しないというような、多分そのときから誓約書を取っていると思うんですけども、しっかりとその辺については今は問題なく進んでいるものだと思っております。

○9番（徳田 進君）

今問題なく、今現行はそうやっていっていると。実際そういう話が出たときにしっかりと調査すべきじゃなかったかなと思いますし、ましてやそれが徳之島町から県全体を脅かすような行為であるわけですから、畜産が盛んだって言いながらそういうことを片方でやってもらったら、何しているか分かんないじゃないですか。もういち早く、さきのTMRセンターにしても、先取って徳之島町に誘致して、それを建設して、受精卵センターまでして、裏でそういうことになっていたら。それは島の恥でもあると思いますけど、そういう認識はあるのでしょうか。

○町長（高岡秀規君）

実際に僕が把握しているのは間違いかもしれませんが、実際に当然、調査はしました、担当のほうです。しかし出なかったと僕は思うんですけど。

○9番（徳田 進君）

そういう事実が表に出てないということはなかったと、自分は信じたいと思いますけど、いろんなこういう問題が出てきますんで、今の状態で、例えば条例監査とか国の検査とか入った場合に対応できますか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

公益を目的とした施設設置でありますので、当然、委託先の会社も共通の目的で設立されたのではないかなと思います。私は年1回決算書、要するに、会社の決算書においては、今のところ町としては適正ではないかと思っておりますが、懸念事項等があるという話がこういった議会等で出れば、やはり詳細にそこら辺は調査していきたいと考えています。またその内容によっては協議を行い、改善も検討の一つになるかなと思っております。

○9番（徳田 進君）

こういう問題が出る前に、やはり町が作った施設ですから、委託した当初からしっかり精査しながら、一緒に運営すべきだと思いますし、今後そのTMRセンターも、いずれは堆肥センターと一緒に公社化する予定があるわけじゃないですか。そしたらそのとき公社にするに当たっては、外部監査が必ず必要になるのでね、もう早めにきれいにしておいたほうが後々いいんじゃないかなって、自分は思いますけど。

○町長（高岡秀規君）

公社化につきましては、どうしても離島においては、経営がやっぱり厳しいだろうと、低廉な価格で農家に渡さないといけないという公益的な役割、そしてまた会社自体が、この会社がなぜ予算をつけるんだとか、いろんな等々の視点があるかもしれません。それは、それをなくすためにも町のほうの公社化で、公益的な法人によって運営するのが、今は一番いいのかなと思っておりますので、今後、まず堆肥センター、そしてまた徐々に公社化を進めていきたいというふうに思っております。

○9番（徳田 進君）

前回も、ゆくゆく公社化に当たるためにね、例えば今TMRセンター、公社としてあそこを作りました。備品も町で準備しました。その備品自体が見当たらないものが結構あったり、そういうものの精査は、前回言いましたよ、精査ちゃんとしてくださいよと、それできていますか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

備品については、徳之島町が備えた備品については、備品の整備等については今のところちゃんとなされているところでございます。ただし、委託先の会社が事業主体となって入れたものに関しては、ちょっとやはり大きな機械やいろいろこれまでもありますので、見当たらないものがあるところであれば、そこら辺が耐用年数が過ぎた時点で処分されたという経緯もあるようなので、そういったものでは、目についてしまうのかなと考えております。

○9番（徳田 進君）

いやそれでも、例えば備品は公に出して、その入札とかそういう形を取るべきではないんですか。ただその役員が、社長が印鑑を押せばいいですって、すぐ売れるもんなんですか。

○町長（高岡秀規君）

その備品等々についての支出の仕方が、民間が購入してリース料を払っているということもございまして、その辺の精査はしっかりとしなければいけないというふうに思っております。そしてまた町の財産なのか、それとも民間の財産なのかは、しっかりと精査していきたいというふうに思います。

そしてまた倉庫等についても、一番問題になるのが、それを町が買い取るのかどうかということが、将来問題になるかというふうに思います。なぜならば、TMRセンターでも倉庫を作ります。しかしながら、要望としたら町のほうで補助金出していただけないかと要望をあったことを、断っています。自分たちでやってくれということは、自分たちで作っているものですから、民間の財産になるわけです。

それを買い取るのかどうかということは、なければならぬ施設ですから、それをどうするかということが、今後大きな問題になるのかなというふうに思いますが、議会の理解を得ながら、TMRセンターにしても公社化を進めてまいりたいというふうに思います。

○9番（徳田 進君）

でも作った当初、その備品、リース代で毎年500万ずつ町が支出していますよね。

○町長（高岡秀規君）

たしかリース代ではなくて、運営費の補助だったと思います。そうです。

○9番（徳田 進君）

町がやっぱり何かとお金を出している。帳面上は向こうの備品になっているかもしれませんが、それがなければ向こうも仕事できないわけだし、そこまで行政に迷惑をかけずに、僕から言わせれば、金儲けの材料を与えて、何で運営できない連中から文句言われて、町は頭を痛めないといけないんだと。いい加減にしなさいって言うのが自分の気持ちですけど、実際そういうふうに思わないですか。

○町長（高岡秀規君）

経営が赤字ですから、というふうな文句といいますか、そういったクレームは受けておりませんが、今後、農家の皆さんにコストを下げて、低廉な価格でしっかりと供給するというのを考えれば、儲けを度外視しなければいけません。ということは、キャッシュフローは何かなくても、減価消却費は出ないというふうなことも考えられますので、しっかりと町のほうで公社化することが一番、今の離島に合った運営の仕方かなというふうに考えておりますので、一次産業はなかなか子供に継ぎなさいというような産業ではないかもしれません。

しかしながら、目指すは一次産業をぜひ子供に継がせたいというような一次産業を目指していきたいというふうに思いますが、その点については価格が十分で、コストを計算して幾らで買ってくださいができない農業であれば、コストをいかに下げるかということに、自治体は支

援を施策としてやるべきかなというふうに思いますので、その点についてしっかりと取り組みたいと思います。

○9番（徳田 進君）

担当課長、色んな便利な施設作るのは誰のために作るか、その目的は何か、その辺を明確にしてやらないと、こういう問題が出ると思います。今の中見、こうずっと話聞いていたら、運営している人のために仕事場を作っているようなもんなんで。農家が使う、町民が使う、そのために町はそれを応援する、それが当たり前の形なんでね、何でもそうだと思います。だから誰のためにやるか、その辺をしっかりと把握して物事をしないと、もうみんな足引っ張られて、大変なことになります。

大丈夫、町長。

○町長（高岡秀規君）

堆肥センターにしても、私は議員時代に民営化したんですけども、私が思っているような目的ではなかったかもしれません。運営する側が、例えばバカスであるとか、ハカマであるとか、誰が取るのか取らないかとか、その当時は多頭農家等々が育てるということで、議会も理解を得られたのかなというふうに思いますが。

これほど奄美群島が増頭、増頭できた中で、また価格の不安定の中で、じゃあどうやって支えていくかという、やはり自治体がコスト削減のためにも利益を度外視した、一次産業へのコストを供給するということが必要かなということで、二、三年前から実は計画していたところですので、しっかりと議員のおっしゃるように、公益的な立場で、しっかりと農家の皆さんに供給をするということを進めていきたいと思います。

○農林水産課長（高城博也君）

先ほどTMRセンターの計画当初の数字を、また訂正というか、報告させていただきます。計画のときは装置は80ヘクタール、並びに飼料用キビは20ヘクタールを予定しておりました。

それと、先ほど徳田議員のほうからあったように、誰のためにやるのか。もうそれは、重々私が、農林水産課を拝命したときから分かっております。私もここ7年、今8年になりますけれども、この在り方、TMRセンター並びに堆肥センターは直接設置のときには私も関わっておりませんので、これを何とかしなきゃいけないという気持ちで、いろんな政策をこれまでやって、自分が拝命をもらってから、事業を行っております。

議員の皆さんから強い指摘を受けながらこうやってやっておりますけれども、今後も、先ほどから従来出ているように公益化、これに関しても公社化というもの、どういった方法でやれば健全なあれを戻せるかということで、正直言って私のほうが提案したとは思っております。

これは、私が農業委員会、二十数年前にいるときから、農業公社的なものは絶対に必要だというふうなものを言い続けて、そのときは20代、30代であったんですけど、全然聞いてもらえ

なかった。その当時の町長、課長等には聞いてもらえなかったんです。やっとここに来て、この役場職員として目の前が見えたときに限って、話を聞いてもらえたというふうな認識でおります。

ですから、強い気持ちで、私はやはり公益化を進めるべきだと思うし、収益のないものに関しては民間に下ろすべきではないと思うし、まず先ほどから徳田議員がおっしゃるとおり、誰のためにこの役場が施設を作ってやっているかということは、一番考えるべきだと思っておりますので、肝に銘じながら、今後また事業を進めていきたいと思っております。

○9番（徳田 進君）

分かりました。もう課長の熱い思いがすごい伝わります。できれば、今後もしっかり健全化になるように、自分としては頑張ってもらいたい。自分が議会にいる間は目一杯協力をしますし、また例えば問題の施設の、その中身の、例えば台帳とか、その決算書とか、そういうのは見ることができるんですか。

○農林水産課長（高城博也君）

委託先なんで、町が委託しているんで情報開示請求していただければ、私のほうでは了解をもらいながらやっていく。何も見せないというものではないと、公益的な施設を預かっているわけですから、そこら辺は私は大丈夫だと思いますし、やるべきだと思っております。

○9番（徳田 進君）

幸い、うちの議会にもすばらしい目利きの監査委員がいますし、ぜひ、例えば外部に出す前に、できれば議会からもお願いして、やっぱり見てもらうのが一番いいのかなとは思っています。例えば議会の。町長どうですか。

○町長（高岡秀規君）

しっかりとその辺は誤解のないよう提示をして、明らかにする方向で進めていきたいと思っておりますし、今までも、本当はそれはできたんですけども、そういったのが今、公社化にすることによって、そういった要望等が出てきたので、しっかりと要望に応えるようにしていきたいと思っております。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。13時30分より再開します。

休憩 午後 0時01分

再開 午後 1時30分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○9番（徳田 進君）

午前中に引き続き、2項目めの堆肥センターについてを質問します。

さとうきびの植付け時期に入り、堆肥の需要が増えると思いますが、農家に迷惑がかからないように対応はできていますか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

堆肥の受付については、随時堆肥センターにて受付していますので、夏植えされる農家の方も十分散布できているのではないかなと思います。

また9月2日から役場にて受け付けており、ばれいしょ農家の方々が随時受付に来ている状況であります。今後ばれいしょ農家、春植えされる農家に対しても今後は問題ないのかなとは考えております。

ただし、散布においては問題ないものと思われませんが、天候次第では散布が遅れるという可能性もありますので、そこは農家と堆肥センターの従業員のほうで連絡を取りながら散布していただければなと考えております。

○9番（徳田 進君）

今、例えば圃場に運ぶ際、機材等が不足しているとか、そういう状況はあります。

○農林水産課長（高城博也君）

現在、以前の委託者から引き継いでおりますので、機材自体は恐らくその分、使用分を払わなければいけないと考えております。

前臨時議会でマニアスプレッダ並びにかさ上げの特装トラックを承認いただきましたので、これによって年度内にはある程度、そういったものが、不足の分は整備できると思いますけれども、それまではリースと借上げでやっていかざるを得ないなというふうな状況であります。

○9番（徳田 進君）

今、課長が言ったように、民間でもリース事業等していますので、そこで対応して、農家に支障がないように。それとまた今後、必要になる車両等がもしあれば12月、例えば町のほうからまた新たな事業等を組んで補助申請するとか、とにかく利用者に不備がないようにやってもらえればいなとは思っています。

それと、もともとこの法人は、各農家が島の農業発展のためにという思いを持って設立されたと思いますけれども、そういう思いがなかなか見えないんですけれども、課長ないし町長の目にはどういうふう映っていますか。

○町長（高岡秀規君）

この平成13年設立というふう聞いておりますけれども、当初これを民間委託にする前に、私もちょうどそのとき議会におりました。町が経営しているときには非常に、匂いが非常にきついと、それでやっぱり民間委託にするべきじゃないかということが一つと。あと牛ふん堆肥の牛ふんの置き場、利活用が非常に厳しくなってくるだろうということから、畜産農家で堆肥

センターというものを民間委託できないかという話がありました。そして当初はうまく運営していておりますが、今現在、町が予測もしていなかった事柄で言いますと、この堆肥センターはまず第一に堆肥を作るのが目的です。余ったバカスをどうのこうのというよりも、堆肥をいかに作るかということが最終の目的でありまして、このバカスの利活用についてはあまり力を入れてはいけない分野ではあるんです。しかしながら、そのバカスを、余ったバカスをどうするかによって畜産農家のトラブルが発生したかのように僕は見えています。本来、堆肥を作るべきところに神経を集中しないといけないんだけど、トラブルが発生するのは残ったバカスであるのではないかなということでもあります。そこは敷料であるとか、今現在、増頭になってますから、その畜産農家が一番必要としている敷料についてどうあるべきかということから、今回のハカマの事業を入れることによって、農家にしっかりと平等に、小規模農家にも平等にそういった敷料についても供給できるのではないかというふうに思っておりますので、今後は民間で、なかなかやっぱり厳しい公の立場というものがございましたので、今回は町のほうでしっかりと運営をし、小規模農家にも堆肥、そしてまたさらには敷料等についても配布できるような体制を取っていきたいというふうに思います。

○9番（徳田 進君）

そのハカマに関しては、年間、南西糖業ではキビの20万トン以上とか量がありますけど、出た分だけの量が出てくるわけじゃないですか。堆肥にそれを使うにしても必ず余りが出ると思うので、敷料に今もうやっているわけですから、それはもうやっぱりやらないと、それを必要とする農家が、もしそれをやめた場合、困るので、そのためにそれを運ぶ手段というのも必要になるし、今ある引き継ぐ会社からの備品、本来なら今までありがとうございます、使ってくださいと言うべきところだと自分は思いますけど、それは町は査定をして、このぐらいでじゃあお願いしますと言っている中、その備品の単価に関して折り合いがつかないと。それで今、揉めていると。今そういう状態で、次、また引継ぎの交渉をするわけですよ、課長ね。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

以前の委託会社との備品交渉については、これまで2回協議を行いました。本課としては1回目の協議で必要な備品について選定を行い、見積もった上で複数の業者から見積もりをもらって、低い価格で当然提示したわけなんですけど、2回目の協議については先方が考えている金額の提示があった。それに、その提示があった価格との機械によっては開きがあるということで、またこちらのほうでこの部分に関しては必要ないのではないかなという部分に関して、どうしても購入すべきじゃないかというふうな形が委託先のほうから要望があります。ですから、今後3回目の協議をする予定になっておりますけれども、その前に、やはり必要なものは当然持っていてもしょがないというふうな状態もありますので、今後できれば非常に本

課もこうやって前にも後ろにも行けないような状態になる前に、議員の方々のアドバイスもいただけたらなと思っているところでもあります。

○9番（徳田 進君）

町長、これ誰も損をしない方法は、恐らく向こうが提示する金額で買う人がいる前提で提示していると自分は思いますので、向こうは向こうで売らせたらいいですよ。町は向こうの提示額に乗って、話が分かりましたとか言えば、それ誰が負担するかを考えてもらいたい。利用者とその農家さん、言えば税金が投入されるわけですから、みんな嫌な目合うんですよ。それを回避するためには、向こうはそれで買う人がいるんだったらその値段で売って、町は新しい事業で農家さんに迷惑かけないように、それ導入するか、また間に合わせて、来るまでリースでその道具を借りとくか、まずそっちのほうが効率的じゃないかなと思いますけど、どう思います。

○町長（高岡秀規君）

今、議員のお話も、なるほどなというふうに思っております。

この協議については担当者が今、必死で協議を進めているところですので、そういった意見もあったということから、どのように進めたらいいか等を検討してまいりたいというふうに思います。

○9番（徳田 進君）

何かもう最初にその会社を設立したその思いが、今になって崩れてきたというのがすごい残念であって、そういう気持ちが残っていれば、こういう問題は多分出ないと思いますし、それでもこじれるようだったら自分が提案した方法がいいのではないかなと思いますし、課長、執行部もそっちのほうがすすきりするんじゃないですか。ぜひ課長、どう思います。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

3回目に当たっては、議会のほうからもこういうふうな提言があったということで、もし私ながらやってどうするかを最終的に、3回目ですのでそれを含めた上で決定したいと思います。当然、前回も総務課長並びに町長も出席してもらっているので、そういった主管課だけでなく、そういった方たちもそういう、総務課長等にも参加していただいて、話し合いを持ちたいと思います。

○9番（徳田 進君）

町民に迷惑をかけないように、議会のほうも町民に迷惑をかけるような案件に関しては、議会サイドも容易に承認することはできないと思いますので、その辺了承しながら、課長、大変ですけど、問題の施設、健全になるよう公社化に向けて尽力をもらえればと思います。

これで質問を終わりたいと思います。

○議長（行沢弘栄君）

次に、宮之原剛議員の一般質問を許可します。

○3番（宮之原剛君）

議場の皆様、町民の皆様、ネットの中継を御覧の皆様、こんにちは。

先日の台風10号、幸いにも徳之島での被害は少なかったようであります。しかし、予想進路が西にずれ、奄美大島北部、喜界島、また全国各地に甚大な被害をもたらしました。被災された皆様に心からお見舞いを申し上げ、早期の復旧復興を祈っております。

最近の台風は、温暖化や様々な要素が重なり、コンピューターでも進路予想が難しいようで、今後また次々に台風発生が予想されております。常に先々の用心こそ最善の対策だと感じるところであります。

さて、本年11月17日に公明党は結党60年の節目を迎えます。立党精神であります、大衆と共に語り大衆と共に戦い大衆の中で死んでいくとの原点の指針を胸に、国政においては政権与党の一角として、また町議会においては町民の側に立ち、町民福祉の実現へ決意新たに組み込んでまいります。

令和6年9月第3回定例会において、議長の許可を得て3番公明党の宮之原剛が町民の皆様の声、身近な問題から喫緊の課題まで4項目にわたり一般質問をいたします。執行部の明快かつ簡潔な答弁をお願いいたします。

通告しました1項目めのコロナワクチン接種についてお伺いいたします。

新型コロナ感染症は、昨年5月に感染法上の位置づけも2類相当から5類へ移行され、本年4月からはワクチン接種の公費負担もなくなりましたが、第11波の様相とか変異株K P 3とか言われ、ウイルスの脅威は変わっていないと思います。新聞等で週1回保健所別の感染者の状況が報道されていますが、（1）本町のコロナ感染の状況の現状はどうなっているのか、お伺いをいたします。

○健康増進課長（吉田 忍君）

宮之原議員の御質問についてお答えいたします。

新型コロナウイルス感染症につきましては、先ほど宮之原議員のおっしゃったとおり、昨年5月8日から季節風インフルエンザと同じ5類感染症に変更となり、今年4月からは通常の医療提供体制に移行となったため、現在、本町ごとの人数は保健所より公表されておられません。

しかしながら、徳之島保健所感染症情報、こちら先ほど申し上げられました1週間ごとの感染情報によりますと、7月1日から28日までの28日間の島内の感染者数は337名、7月29日から8月25日までの28日間におきましては100名と、減少傾向にございます。この100名、週平均で申し上げますと25名となりますが、この後の8月26日から9月1日までの1週間は、本町、徳之島島内におきましては8名まで減少、比較的平常時に戻りつつあるかと思っております。

○3番（宮之原剛君）

大分少なくなっているということではありますが、7月の感染状況が300名を超えておりましたですね、337名。その後は8月少なくなっておりますけれども、7月を急激に増えたのか、そこら辺どういう原因があったのか、また課長の知り得る限りで。

○健康増進課長（吉田 忍君）

お答えいたします。

正確に増えた要因については定かではございませんが、この当時、新聞やニュース報道の中で、奄美大島と沖縄県のほうで同じく集中的に感染者が増えておりました。そういったところから帰省された方々の、例えば児童生徒等から感染があったかと記憶しているところです。

○3番（宮之原剛君）

感染が増えている場所からの移動に伴った感染増じゃないかということではありますが、最近でも徳之島町内でもコロナ感染が原因で亡くなったという話を島内でも耳にします。国としても定期接種を推進しておりますけれども、奄美市では既に予算計上してありまして、この秋に実施するようであります。対象者は65歳以上の高齢者と60歳から64歳は持病、基礎疾患のある方となっているようであります。あくまでも任意接種で希望する方ですが、ワクチンは金額が1万5,300円だそうです。そのうち国が8,300円、これは基金活用なのかな、8,300円で、市が4,000円負担ということで、自己負担は3,000円だということで聞いております。

先日の8月2日のNHKのニュースで、10月以降に1万5,000円のワクチンを7,000円程度にする見込みということで、先ほどのこれは基金との関連があるのかも分かりませんが、そういうニュースも流れておりました。結局、奄美市と同じで、各自治体がいくらか助成することになると思いますが、自治体の助成がなければ高額なワクチンを打ちたくても打てない方も出てきます。福岡議員の質問でもありました。後ほどまた松田議員のほうからもレプリコンワクチンの質問が出ておりますけれども、副反応、後遺症等の心配をされる方もおられますので、あくまでもこの定期接種は任意だということではありますが、（2）本町の定期接種計画と対象者・自己負担額をお伺いいたします。

○健康増進課長（吉田 忍君）

お答えいたします。

まず定期接種計画についてお答えいたします。

予算につきましては、今回の補正予算に計上しております。今年度の接種期間につきましては、10月1日から翌年3月31日までを予定しております。これは、もちろん補正予算が可決したことが前提になってまいります。

なお、接種回数につきましては初回接種と追加接種の区分を設けず、原則として1回接種を行うことを想定しております。

自己負担につきましては、まず先ほどの8,300円の経緯でございますが、新型コロナウイルスワクチンについては今年度から予防接種法上の定期接種に位置づけられております。これまでは国が特別な供給体制を整備して実施しておりましたが、今後の定期接種への移行における激変緩和措置として、このワクチン確保事業に対して、研究開発支援センターというところからワクチン生産体制等緊急整備基金、こちらのほうを活用して8,300円の助成がなされるところです。本町といたしましては、徳之島3町及び医療機関予防接種担当者会議等を開催しまして、徳之島3町におきましては町の助成額を3,000円、自己負担額が4,000円となっております。対象者につきましては、先ほど宮之原議員がおっしゃったように65歳以上、そしてまた60歳から65歳未満の方の基礎疾患をお持ちの方が対象となっております。

以上です。

○3番（宮之原剛君）

3町の担当者会議で、3町合わせて協議をして、自己負担額は4,000円ということですよ。またこれ奄美市では3,000円ですから、これまた1回やってみてどういう状況かいろいろ精査して、自己負担額も見直しをするということもお願いしたいと思いますが、これはあくまでも任意接種ということによろしいですか、もう1回。

○健康増進課長（吉田 忍君）

任意接種、この新型コロナにつきましては、疾病がA類、B類のうちのB類疾病という部分に区分づけられております。こちらのほうは個人の発病、または重症化の予防に重点を置き、接種者、対象者本人が接種を希望する場合において実施されるもので、努力義務は課せられていないとされておりますので、任意接種でございます。

○3番（宮之原剛君）

ちなみにインフルエンザの予防接種の場合は、自己負担はいくらでしたですかね、分かりますか。

○健康増進課長（吉田 忍君）

お答えいたします。

インフルエンザにつきましては……、申し訳ない、町の助成額を調べておりました。個人負担のほうは、ちょっと待ってください。後ほどまた。

○3番（宮之原剛君）

後で分かったら教えていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

この定期接種の件で、（3）に移りますが、今後の定期接種の町民の皆さんへの案内、周知はどのようにされる予定でしょうか。

○健康増進課長（吉田 忍君）

お答えいたします。

町民の皆様への周知方法につきましては、補正予算可決後、速やかに65歳以上の方々へ全員郵送により案内いたします。

また町広報誌10月号を皮切りに継続的に掲載をしていく、併せまして町公式ウェブサイト及びSNSへの掲載を計画しているところです。

○3番（宮之原剛君）

分かりました。補正可決後ということですね、速やかに周知をするということですのでよろしくお願いいたします。

感染予防ですが、今まで手洗いとか消毒、手指消毒、それからマスクとかありますけれども、今までのような予防方法なのか、よろしくお願いします。

○健康増進課長（吉田 忍君）

お答えいたします。

宮之原議員がおっしゃいますように、感染者数は減少傾向と御説明いたしましたが、今後も手洗い等の衛生管理や換気、そしてまたマスク着用などは基本的な感染対策として有効とされておりますので、今後も各場面に応じて自主的な感染防止対策に取り組んでいただくようお願いと周知をしております。

○3番（宮之原剛君）

それでは、今後の案内、それからまた周知をされるときにこの感染予防の仕方等の分も併せて案内するというので、よろしくお願いします。

高齢者、基礎疾患のある方が感染してしまうと、重症化リスクは高く、死亡に至ることもあります。どうか定期接種の推進に努力をしていただきたいと思います。

○健康増進課長（吉田 忍君）

すみません。先ほどの宮之原議員のインフルエンザに係る自己負担額という質問に対してお答えいたします。

自己負担額65歳以上につきましては1,000円となっております。

○3番（宮之原剛君）

分かりました。

それでは2項目めですね、人にやさしい町づくりについてということで、（1）路線バスのバス停へのベンチ設置についてであります。令和5年6月議会でも一般質問いたしました。その際の答弁で、これは議事録ですが、課長答弁で、奄振交付金、そしてまた国・県の補助メニューや財団等の交付金等もございますので、こちらの中身を調査した上で総務課財政と協議しながら設置していくことは可能でございます、という答弁をいただいておりますが、その後の進捗状況はどうなっておりますでしょうか、お伺いします。

○企画課長（中島友記君）

お答えします。

昨年の議会答弁から、現在のところ、新たに整備されたバス停のベンチにつきましては亀津児童公園前の1か所になります。これにつきましては、株式会社総合陸運様が独自で設置をいただいております、町の事業としては実施した実績はありません。

以上です。

○3番（宮之原剛君）

それ以降、5年6月の議会で質問した以降は進捗していないということではありますが、今、話が課長からありましたように、亀津児童公園の前ですね、総合陸運さんが設置してありました。それから、あと亀津中央通りの待合所と児童公園、それから亀徳総合住宅のバス停のほうには古いベンチがまだ設置されております。この3か所くらいかなと思いますが、天城町ではほとんどのバス停にベンチが設置されております。ここに写真を準備した。これは天城町のほうのバス停で、一応、あそこに映るかなと思って、写真、ラミネートしなかったんですけども、映らないということで、皆さん、執行部と議員さんにはタブレットで映っていると思いますが、ネットのほうで映らないもんですから、これを映してもらって、こういう写真だということ。

これ、もう1枚目、お願いします。この下のほうはちゃんとボルトでしっかりと地面に固定されるように、がっちりした形で作られております。

ちなみに、このベンチは全く児童公園にあるベンチと同じです、この形式を見たらですね。そのように、天城町ほとんどのバス停で設置されております。

徳之島町の施政方針の9ページにも、人に優しい地域づくりとあります。バス停で炎天下の中、荷物を持って立っている高齢者を見かけますと、本当にふびんでなりません。中には障害を持たれた方もいるでしょう。また、そのバス停の近くの影を探して、その影で待っている方もおりました。町が助成してベンチの設置はできないでしょうか。課長、よろしくをお願いします。

○企画課長（中島友記君）

お答えします。

天城町のほうにベンチ設置について確認したところ、町単独事業で実施したという回答をいただきました。今、議員の言われたとおり、昨年、今年度策定しております公共交通計画を策定する際にアンケートを実施しております。その中でもやっぱりバス停にベンチの設置、あと日よけが欲しいというような意見も幾つか見られました。それで、やっぱりそういった意見があって、またバスの利用者が多くて、設置の要望が多い箇所については、ふるさと思いやり基金とかを活用するのもいいんじゃないかということで、ちょっとうちの課のほうでも協議したところがございます。今後、そういった事業を活用しながら、人に優しいまちづくりを目指して整備を進めてまいりたいと思います。

以上です。

○3番（宮之原剛君）

よろしく願いをいたします。

目で見て分かる人に優しいまちづくり、どうか早急に、バス停で場所によりけりだと思っただけでも、設置できるスペースがある場所には設置をしていただきたいと。アンケートでもあったということでもありますので、以前の、前課長さんの答弁の中には、歩道の幅が2メートルという規定があるということもありましたですね、車道までの。ですから、今の歩道が整備されているところは、もうちょっと測ってきたんですけども、2メートルちょっとあります。バス停の場所は、歩道に入り込んでいる、ちょっと歩道が狭くなっているんですけども、その近くは2メートル10センチ以上ありますので、どうか確認をされて、そういう場所には設置をしていただきたいと。

先ほどもありました、ふるさと納税の使い道にも高齢者及び障害者の健康増進、福祉の充実に関する事業とありますので、よろしく願いしたいと。

また町長が必要と認める事業ということも、この使い道の項目の中にも入っておりますので、町長からも一言お願いしたいと思います。

○町長（高岡秀規君）

大分前にもこのような質問があつて、ある程度スペースがあるところには検討するということがあったんですが、一応、今回のそのバス停のベンチの設置については設置をする方向で考えていきたいなというふうに思っております。

そして、またバスも1時間に1本とか、非常に待ち時間が長いだろうということ、あとまた夏場は熱中症対策等々も考えますと、設置は必須かなというふうに考えております、そして、もしできるのであれば、その2メートルのスペースがないときには、どこかの壁で折りたたみ式の椅子を設置したときには、その2メートルのその法的なものはクリアできるのかどうかも含めて検討していきたいというふうに思います。

○3番（宮之原剛君）

よろしく願いいたします。

ちなみに、先ほど写真で御覧いただいたベンチは10万前後、10万から15万ぐらいだと思うんですけどね、ということで予算措置もお願い、そんなに高いものではありませんので、よろしく願いしたいと思います。

次に、（2）ですが、亀津・亀徳巡回ワゴンバスの運行ということで、デマンドワゴンバスですか、デマンドバスより小さい、ちょっと小型の形で運行はできないかということで、令和4年12月議会で質問いたしました、質問の仕方がちょっと悪くて、私の、そこまで踏み込んで質問ができなかったのが再度の質問になります。

亀津・亀徳を細かく巡回するワゴンバス、運行ができないか、ライドシェアということもずっと国のほうも言ってるんですけども、今年の3月議会でも質問しましたが、6月27日の奄美新聞に載っておりましたが、6月27日の奄美新聞に、地域公共交通計画策定ということで、徳之島でも協議会が行われたということで、鹿児島銀行グループの九州経済研究所の方が、この同計画策定支援業務を委託されて、そこで協議会が行われたということで、同研究所は約15年前、県内で初めて路線バスとタクシーの中間的なデマンド型交通の計画を徳之島地区に提案し、ほか地域普及の足がかりを作ったということで載っておりました。計画策定支援事業業務の概要をそのときに説明をされておりますが、このときの中身ですね。ライドシェアとか、デマンドバスの運行とか、そこら辺の話はなかったのかですね。

それから9月の3日の新聞、南海日日新聞に奄美市のことが載っておりました。奄美市のライドシェア的な、今度、市内のバスの路線再編に伴い、日中の交通空白時間が発生する住用・笠利地区での自家用有償旅客運送業務委託を開始するというものでありまして。住用は前日正午までの予約制、デマンド型、笠利は定時運行で運賃は1人当たり一律300円と、小学生半額、未就学児無料ということで決まったということで、10月1日からこれ実施されるという報道がありました、掲載新聞記事がありました。

そこら辺も含めて、このライドシェア、もしくは巡回ワゴンバスの運行について、中島新課長のまた思いも発想もあるでしょうから、この亀津・亀徳巡回ワゴンバスの運行はできないかということで、どうでしょうか。

○企画課長（中島友記君）

お答えします。

まず、6月の26日に第1回目の徳之島地域公共交通会議、地域公共交通活性化協議会がありまして、先ほど議員の言われた株式会社九州経済研究所がこの業務、徳之島地域公共交通計画策定支援業務を受託しておりますので、その九州経済研究所のほうから自家用有償旅客運送事業ライドシェア等についても今後検討していきたいというような提案はありました。

現在のところ、バス利用者へのアンケート、あとまた事業者ですね、交通事業者、総合陸運さん、島内タクシー会社さんへのヒアリングを実施して、今後、実施可能な新たな公共交通の在り方について検討が進んでいくものと思われまして。そして、本町における公共交通の今の在り方の課題についてもちょっと先日打ち合わせをしたところです。内容については、乗車率の悪いバス路線、路線バスの運行について、そしてデマンドバスの有効について、そしてデマンドバスと自家用有償旅客運送を比較した際に、どちらにどういったメリットがある、どういったデメリットがあるというものを深く調べた上で、どちらかが使い勝手のいいというか、住民が使いやすいものに切り替えていく方向を検討していきたいという旨をお伝えしたところであります。

それに併せて亀津―亀徳間の巡回ワゴンバスについても、また今後、検討の一つとしてその方法がライドシェアがいいのか、自家用有償旅客運送事業がいいのか、そういったものと、あと以前、この亀津・亀徳の巡回というものは大丸からなごみの岬を巡回するバスが運行していたというのを聞いております。利用者が少なくて廃止に至ったということを総合陸運さんからお聞きしたんですが、またこれについても住民の要望等も踏まえた上で、今後の公共交通活性化協議会の中の提案として、検討を進めたいと考えております。

以上です。

○3番（宮之原剛君）

やはり高齢化も、私たちの徳之島は地域でありますし、また全国も高齢化が進んでおるわけでありまして、国としても日本版ライドシェアを今、推進しておるということでニュースでも言っていましたけれども、3町、また本町でも協議も進んでいるようでもありますので、今後、必ずライドシェアは必要になってきます。奄美市を参考にされて、事業所関係機関も巻き込んで、また町北部のデマンドバスも、デマンドバス運行してもう10年以上経つと思うんですけども、デマンドバスの課題とか、いろいろな改正点も見えてきていると思いますので、そこも含めて地域のニーズにあった交通弱者対策に頑張りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、次の3項目め、住宅用火災報知器設置についてであります。

（1）本町の住宅用火災報知器の設置率についてお伺いをいたします。

○総務課長（村上和代君）

宮之原議員の御質問にお答えいたします。

住宅用火災報知器の設置率につきましては、消防組合のほうが令和6年6月時点において調査した結果で63%となっております。

以上です。

○3番（宮之原剛君）

令和6年6月の調査状況が68%ということで、こちらの資料に令和4年の6月の各地区消防組合のデータがネットに出ておりました。そのときは徳之島地区の消防組合の数値は77%という設置率になっておりましたけども、やはりそれからもう2年、約2年経って68%ということで、大分これも落ちているようであります。設置率は県内の中で比べても低いほうでありまして、20ぐらいある消防本部消防組合でも低いほう、下から2番目なんですけども、そのように設置率が低いという中で、以前、本町でも十数年前に各世帯にチラシが配られました。たしか総務課の消防係からのチラシだったと思いますけども、そこに、住宅への火災放置器設置が義務化されましたということで設置をしてくださいということで、設置される方は申し込んでくださいというようなチラシでありました。そこで、消防組合も絡んでたか、消防団のほうの主体で

役場総務課消防係が窓口になって推進したということであったと思いますが、その詳しいそのときの事情、お願いします。

○議長（行沢弘栄君）

村上総務課長、さきの設置率の68%と63%とこれがあるようです。そこも含めて。

○総務課長（村上和代君）

設置率につきましては63%であります。

ただいま質問のありました、以前取付をした経緯でございますが、住宅用火災放置器につきまして平成23年6月から消防法において一般住宅での設置が義務づけられました。この設置が義務づけられる前に、普及率向上のために消防団に協力いただき、各世帯に販売、設置を行った経緯がございます。そのときの費用は1台3,000円で、全て自己負担でございました。

以上です。

○3番（宮之原剛君）

この1台3,000円は取付代も込みでしたよね。たしか1台2,000円で、取付代1,000円で、合計3,000円で、消防団の皆さんが各家庭回って取り付けていただいたということでもあります。

当時、私も消防係のほうに申込みをしまして、3台の、こっち今、タブレットに載ってきておりますが、このような天井についているやつの写真であります。これはネット中継の皆さんは見れますかね。もう1枚目も一緒のあるんですけど、私は3台を購入いたしまして、そのうち2台が壊れてしまいました。というのは、この耐用年数が10年だと書いてありました。ちょうどやっぱり10年越した頃に使えなくなりまして、電池交換をするにも電池が、電気屋さんで聞いたら1,500円から2,000円するということで、じゃあもう新しいのを買ったほうがいいんじゃないかと思いつきながらまだ買っておりませんけれども、やはりこの一、二年、いろいろ話聞くと、周りでも誤作動をして、それで火事です、火事ですということで、高齢者のひとり暮らしの方はどうしていいかわからない、どうやって止めていいのかわからないということで、警察に電話して、警察署の職員を呼んで行って止めたということも聞いております。

そのように誤作動もあちこちで起こって、また使えない部分も増えてきているということで、やはりこの設置率も63%ですか、大分減っていると思いますので、やはりこれは火災防止ということで、やっぱり命にも関わることでありますから、もう一度、町でもその旨、これ国から来ている通知がありました。県のほうから来て、国から県に来たやつで、これ多分、県からまた町にも来ていると、また消防組合のほうにも来ていると思いますが、設置から10年以上経過している住宅用火災報知器に対する本体交換の推奨など、機会を捉えた適切な維持管理のさらなる働きかけをお願いしますという通知が来ております。ですので、これはもう2年前ですけども、このような状況の中で再度、このような推進を、火災報知器の新規設置、また取換えの推進をしていただきたいと思います。どのように対策をお考えでしょうか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

新設につきましては、新築の世帯には建築の際に必ず設置が義務づけられておりますので、新築については現在のところ心配ないとは思いますが。

今、宮之原議員がおっしゃったように、この電池切れにより本体の故障があったりとか、本体や電池の交換が国のほうからも推奨するようにとございますので、住民の大切な生命や財産を守るためにも、火災報知器の設置率、また取換えについては消防組合と連携しながら町民の皆様への広報活動であったり、働きかけを行ってまいりたいと思います。

また広報紙やウェブサイトでの掲載はもちろんです、12月に火災予防運動時に消防団が各家庭を訪問いたします。その際に町民の皆様には1件1件声かけをしたりするのも効果的ではないかと思っておりますので、その辺も含めまた検討していきたいと思っております。

○3番（宮之原剛君）

なるべく早く広報紙、またはホームページ等、ネット等を使って皆さんに周知をしていただきたいと思っております。できれば町が必要分、申込みを取って、格安で取り寄せてつけてもらうとか、以前やったような形でしていただければ助かるなと思っておりますけれども。前回のよう町と消防組合と協議されて、推進していただきたいと。

先日も与論町で60代の男性が火災で亡くなられたということも報道もありました。特に高齢者、独り住まいや障害者の方の住宅への設置は強く推進をしていただきたいと思っておりますので、どうかよろしく願いをいたします。

それでは次、最後に急傾斜地危険箇所対策についてであります、（1）本町の急傾斜地危険箇所対策工事の今後の予定をお聞かせください。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えいたします。

急傾斜地危険箇所工事の今後の予定につきましては、町の対策としまして、県単急傾斜地崩壊対策事業を活用し、危険箇所の対策を行ってきているところで、令和5年度で井之川中学校裏の対策事業が完了しまして、新規地区として亀徳地区の急傾斜地対策事業に着手しており、現在、測量・設計の段階で、本年度から対策工事を実施し、令和8年度完了の予定であります。

令和9年度以降の工事予定としましては、亀津の古勝川沿いの箇所、亀徳の里晴住宅裏の箇所、東区公民館の急傾斜地の3箇所の対策工事を予定しております。

以上です。

○3番（宮之原剛君）

6月15日の日でしたと思っておりますが、大雨が、線状降水帯の影響でしょうか、大雨がありました。その際、母間地区のほうでも地滑りで民家に被害がございましたが、幸いにも、その家の方

は旅行中で人的被害はなかったようであります。

東区公民館なんですが、先ほども課長からありましたけれども、東区公民館の急傾斜地対策ですが、令和4年の6月議会でも質問しました。その際の課長答弁であります。課長の答弁でこのようにありました。小規模な急傾斜地のため市町村が実施する崩壊防止施設の設置に対し、鹿児島県補助金交付規則及び鹿児島県単急傾斜地崩壊対策事業補助金要綱に基づき、県が補助を行うものであることから、採択基準に関しましては東区公民館は災害避難場所に指定がなされているので、基準は満たしていますと。今後、県と協議をしながら要望書を提出したいと思いますということで答弁をもらっていますが、要望書の提出はどうなっていますか、お伺いします。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

県単急傾斜地対策事業につきましては、例年8月から9月に次年度の事業の要望書を提出しております。

東区公民館横の危険箇所につきましては、現在の亀徳地区の危険箇所対策を早急に行っているしながら、ほかの事業予定箇所の優先順位を検討して、また今の時期に要望書を提出する形となりますので、検討はしていきたいと考えております。

以上です。

○3番（宮之原剛君）

この東区の急傾斜地の件は、令和4年1月14日に建設課のほうに危ないということで、小石が落ちてきたり木が落ちてきたりしたものですから建設課に通報しまして、それで一般質問でも取り上げた次第であります、令和4年6月にですね。それから1月の通報から2年7か月が経っておりますので、この写真が最初の部分ですね、この黄色い落石注意の看板があるところから右側が8メートル、これが最初に通報した部分であります。それから2枚目、2枚目は、これはまたさらに6月の大雨を受けて、また延長されているんですね。これが立入禁止のテープがここで15メートル、合計23メートルのところ立入禁止テープが貼ったままなんです。それで担当者に聞きましたら、当初はいろいろ雨の状況とか見ながらお盆明けまで、夏のお盆明けまでちょっと状況を見ながら様子を見てまた判断しますということでありますが、その件はどうなっていますでしょうか。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

現在、設置している危険ポール、テープ等の撤去についてはお盆明けということでしたが、今後、まだ台風のほうも発生しております、もうしばらく様子を見たいと思っております。

○3番（宮之原剛君）

非常に公民館東区行事と、またほかの方も公民館借りていますので、東区以外の方も、前庭でのイベントもあります。それでかなり駐車場もその分、やっぱり七、八台分狭くなっておりますので、できれば早く撤去していただきたいんですけども、台風時期が過ぎるまでということみたいです。人的被害の危険性が高いのであれば、この前回、最初に通報したこの8メートルの部分も含めて優先順位を変えてでも早期対応を強くお願いしたいと思います。危険性がなければと判断した場合には、早期テープの撤去をよろしく願いをいたします。安心安全な地域づくりに共に頑張ってまいりましょう。

以上で、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。14時45分から再開します。

休憩 午後 2時29分

再開 午後 2時45分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、是枝孝太郎議員の一般質問を許可します。

○11番（是枝孝太郎君）

皆さん、こんにちは。

最後から2番目、一般質問を行いたいと思います。

初めに、世界的に日本経済の低迷の要因は幾つか考えられるが、少子化、技術進歩の停滞、設備投資の停滞、低金利の政策、不良債権問題、これらの要因が複合的に作用し、日本経済の低迷を起こしております。今後の課題としては、技術革新の促進や労働力の確保、適切な経済政策の実施が求められています。

第3回定例会におきまして、11番の是枝が通告の3項目について質問します。執行部並びに主管課長の適格で明快なる答弁を求めます。

1、地域観光振興について。

(1) 2021年7月に世界遺産登録され、今年で丸2年と書いてありますが、丸3年経ちましたが、徳之島に観光客の流入は、登録前と登録後の観光客の推移について伺います。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

是枝議員の御質問にお答えします。

登録前の2019年、令和元年の徳之島の入込み客数は14万3,883人で、2020年、令和2年はコロナが発生し8万503人で56%まで下がっています。その後、徐々に回復しており、令和3年は63%、令和4年は76%で、昨年2023年、令和5年は13万1,295人とコロナ前の91%まで回復してきています。

以上です。

○11番（是枝孝太郎君）

コロナ登録前が14万3,000人、コロナをたどって今13万人、2023年13万人ということですが、この方々に対してのいろいろな手厚いサービスを今後していかなければならないんですけども、この方たちにどういうふうにして手厚いサービスをしていくか、その足がかりとなるのが（2）になります。

徳之島観光連盟という組織があるんですけども、徳之島観光連盟という組織がある徳之島町から、組織に対して年間負担金を支出していますが、年間の活動または随時の報告活動はなされているのか。ちなみに、年間の補助金についても伺います。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

年間または随時の活動報告につきましては総会、理事会等で報告を受けています。

補助金につきましては180万円ということになっています。

以上です。

○11番（是枝孝太郎君）

ちなみに町長に伺います。随時いろいろな活動報告を町長に表敬訪問されて、報告をなされているのか、活動内容について報告をなされているのか伺います。

○町長（高岡秀規君）

観光連盟のその報告活動につきましては、以前より、今だけではなくて以前より直接報告というのはなかったように思います。

○11番（是枝孝太郎君）

年間180万円、その総会、そして理事会、いろいろなパターンで3町の担当者が入っているわけですが、その担当者が入っている以外でも、やはり町長にいろいろな報告をしていたら、徳之島町と観光連盟の連携が取っていけない。

それを踏まえながら、（3）観光連盟の負担金を支出した結果、180万円支出した結果、我が徳之島町に対して観光でどれぐらいの経済効果があるのか、伺います。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

観光での経済効果としては、数字としては出せませんが、観光連盟の活動による経済効果はあると考えています。

○11番（是枝孝太郎君）

難しいと思いますけれども、町長の見解を伺います。

○町長（高岡秀規君）

今、様々な観光連盟の活動を活性化にしつつあるというのを聞いておりますが、その効果につきましてはなかなか数字で表せないんですけれども、1つ、その飛行機のチケット等が取りにくくなったホテルはいろんな要因がありますけれども、取りにくくなったということをよく島外の郷土会の方たちから聞きます。それによって経済効果というものはある程度生まれてきているのかなというふうに思いますが、観光連盟の役割という観点から更に活性化し、そしてまた観光連盟、観光に関する業者がその連盟と連携を図って効果を生むということが今後は必要ではないかなというふうに感じております。

○11番（是枝孝太郎君）

各地域に観光連盟が存在し、その観光連盟の在り方というのが、地域の観光連盟や、または観光協会は観光振興の中核な役割を担わなければいけない。それはもちろんですよ、町から負託を受けているんだから。これらの組織は地域の観光資源を活用し、観光客を引きつけるための様々な活動を行っていかなければならない。例えば、各地域の観光連盟の在り方についてのポイント、観光連盟の組織の運営と広域の連携、広域の連携は徳之島だけじゃなくて永良部、与論、奄美との連携を観光連盟が担うようにしなければいけない。そしてインバウンド対策もどうするかというのも考えていかなければいけない。地域資源の活用をどういうふうにして作り上げて新しいイノベーションで、そして観光客にそれを提供する。それとプラスアルファ人材育成、観光連盟に組織の中で仕事をしている以上は、ある程度のリーダーシップ、そして観光地全体の経営のノウハウなんかちゃんと専門的な知識も持たなければいけない。そして、さらに補助金を3町からいただくんじゃなくて独自財源の確保、それも観光連盟の主たる在り方なんですよ。

ちなみに、4番目に行きます。観光連盟に加入している会員の方々がいますが、会員数と会員に対する還元について伺います。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

現在会員は160名になっています。

会員に対する還元については観光関係の情報やホームページへの掲載、窓口問合せでの照会を優先的に会員に事業所を紹介する。あと物産事業者においては物産店での商品販売、または事務所窓口でチラシ等を設置できるなど、会員を優先した取組を行っています。

以上です。

○11番（是枝孝太郎君）

担当課長に伺いますけど、専門的な人材を持った事務局の職員とか事務局の配置が今なされているのか、なされていないのか、言えないかも分からないけど、今の人数で足りているのか、伺います。窓口ですよ。空港、または亀徳新港。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

現在、人員は足りていない状況だと思います。

○11番（是枝孝太郎君）

課長がおっしゃるように、空港はいいとしても、亀徳新港、課長に伺ったんですけど、船の入り、船の出のときには、前までは職員とかお願いした担当者が来ていたらしいですけど、今は全然、ただそこに存在する。暗闇の中で部屋があるだけであります。それは、その在り方を提案したのは、今までずっと携わってきた植木議員が、ああいう、そういう場所がないと観光の一役を担えないので、そういった窓口を新港に作らなければいけないということで試みたことなんですけど、そこに人材派遣をしようと言いつつ全くなされてないわけでありまして。

観光連盟について一言言います。今の現事務局で仕事をされている方は1年半ぐらい経つみたいなんですけど、今はある程度、観光連盟の在り方はある程度進歩していると。過去はなかなかなかったと。それについて、観光連盟について、最近まで元会員の方の体験と現状を言います。

会費を払うばかりで還元がなく、メリットがない。会費を何に支出しているのか分からない。60名の方が多分そう思っているでしょう。会員に広報もなく物産展を開催している。決まった会員にしか連絡は行っていない。高い費用で作成したホームページも長い間更新せずに放置している。トップページも作成途中のまま、ほかのページも含めて修正されず放置されている。ホームページを見る限り、理事の人たちは島の観光の代表という意識が低いように感じる。元の方ですよ、僕は会員じゃありませんので聞き取り調査したらそういうふうに言うんですよ。徳之島町の理事が6人であるんだけど、定員が6人であるんだけど、4人のままで運営されている。あと2人補充されていない。徳之島町の理事ですよ。

それと、役員改選が2年なんですけど、もうそろそろ役員改選の年月日に来ています、今年。それもどうなっているのか分からない。理事に観光連盟のイベントや事業活動について質問しても、理事会がなされていないので何も知らないと言われた。観光連盟の理事会は機能しているのか疑問を感じる、その方が。これまで出ていなかった出張費が会長、副会長、出るようになったと聞いた。経営費がカツカツの団体で、もう経費がカツカツなんだけど、そういう出張費とか、そういうのをある程度の予算確保をしたら出費もいいんじゃないかというふうなことも言われています。そして大和支部、大和に支部があるみたいで、大和支部というのができているのが、本土の活動拠点がどこにあるのか紹介されていない。大和支部がどこかにあるらしいんですよ、この徳之島観光連盟のほかに。それがどこにあるのか分からない、紹介されていない。会員にメリットもなく、何のために作ったのか疑問を、大和支部というのを作ってあるんだけど会員にメリットがない、何の情報も提供もされていないし、会員がそこに行って活動しようとしても何も連絡がないから、どこで活動しているのか分からないからメリットもない。

そして退会届けしても会費を2年間徴収される契約に疑問を感じる。やめても2年間分は会費を取りますよと、1年間1万円ですので2万円取るということですよ、多分。全く会員のことを考えていないというふうな、情報を収集したらそういうふうに言われました。

これから観光連盟の在り方というのはどういうふうになればいけないかというのは、やっぱり3町でもう1回話し合っていないと、世界自然遺産登録をなされる、または道の駅がもうすぐ11月に完成、12月に引渡しなる、それも前に進まない状況でそういうことをやられると、何のために180万の年の補助金を出しているのか。そして経済効果も把握できない。その他もろもろも観光連盟の批判をあちこちで伺いますけれども、町長の見解を、今後どういうふうな観光連盟の在り方がふさわしいのか伺いたいと思います。

○町長（高岡秀規君）

観光連盟につきましては、以前より様々な課題、問題点があるというのは把握しているところですが、私が当初、就任してすぐに世界自然遺産登録、そしてまた観光連盟で群島奄美ですかね、一元化しようという話があったときに僕は反対だったんですけども、ある程度の団体のほうは一元化したほうがいいということで、結果的にそのような形になっています。

そこで、そのときには、それ以前は各町長が観光連盟の会長を持ち回りでやっていたと思うんですよ、たしか。それである程度、会合にはちゃんと出席をして、何をやっているかということが把握できていました。しかしながら天城の総会のときに、一元化になる上で、行政は監視役といいますか、オブザーバーとしての立場がふさわしいのではないかなということで、今の組織がなされたのかなと私の思いはそうです。

しかしながら、観光連盟という組織自体は、自治体としっかりと連携しないといけないと僕は思っています。それで役員を選抜のときに、私もそのときたまたま出席していましたが、町長は何もしていないじゃない、何の意味もないというような発言までする方もいらっしゃいました。しかしながら、そこには私は違和感を感じています。やはり180万と予算を組む場合の3町での話合い、そしてまた1人、やはり専任でないといけないということで、当初は徳之島町から発言をしました。しっかりと約束を守った予算を組んでいるのは徳之島町であります、3町ではなかなか同じ金額が数年かかったということですね。

よって、今後の観光連盟の在り方というのは、今まで入っていた会員がなぜ辞めたのかということをしっかり把握しながら、そして辞めた会員の中には直接、観光に携わっている企業が多いわけですよ。ただそこが辞めてしまっているということに大きな課題があるかなというふうには私は思っていますので、今ようやく事務局が一生懸命、活性化へ向けていろんな事業に取り組もうという姿勢は見られますから、今後は町と、行政との連携の上で、しっかりとその分野に費用対効果をもたらすような企画、政策、なぜ奄振で沖縄との連携を組んだか。それは南3島で沖縄に行ってしっかりと観光の特産品の販売であるとか、そして観光の交流とかを

提案しようじゃないかということから奄振予算にも沖縄との連携をうたったわけですから、そこは行政のほうでしっかりと構築しました。それを観光連盟がそういった情報を把握して、行政と一緒に沖縄との連携、そしてまた観光客、交流人口、関係人口を増加するためにどうしたらいいかということを実際に考えないと取り残されてしまうだろうと私は思っています。

○11番（是枝孝太郎君）

町長がおっしゃるとおり、行政とちゃんとタッグを組んで、観光連盟も将来の観光サービスを提供していかなければいけないと思います。

大手の運輸会社が退会されたところもあります。相当な、観光連盟に対しては本当に屈辱的です。それも何も思わない観光連盟も連盟です。具体例が全国広域観光振興事業というところがありまして、明日の観光地域づくりに向けて地域観光協会等の実態と課題に関する調査報告というのがありまして、社団法人日本観光協会というのがあるんですけど、それは、そこに具体的に書いてあるのがやっぱり行政との連携、行政とのつながりをしっかり密にして、専門的な知識を持った方を置きながら地域の観光を担っていけばいいというふうな、簡単なこと言葉で省略してあります。そういうふうなことが書かれています。今後ともやっぱり観光連盟に対しては、ある程度、指導・助言をしていかなければいけないと思いますので、最後に課長の考えを伺ってこの質問を終わります。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

私が観光課に入ってから3町の課長が幹事役になっています。今のお話を聞いて、昨年も理事会を4回やっています。しかしながら、会員の皆さんが何も聞いていないということは、私も含め理事の皆さんが会員の皆さんに報告をしていないということが分かりましたので、今後連携ということで、私も町長のほうに言っていないこともありますので、それを反省して協力して頑張っていきたいと思います。

以上です。

○11番（是枝孝太郎君）

よろしくお願いします。

それでは次に行きます。農業振興について。

（1）徳之島町における井之川地区新規畑総事業の活動内容と新規畑総のタイムスケジュールについて、伺います。

○耕地課長（水野 毅君）

井之川地区新規畑総事業につきましては、地元関係者、地元推進協議会、土地改良土改連徳之島支部、農村整備課の皆様方と協議、検討を行っております。

地元出身議員であります大沢、是枝両議員には、地元とのパイプ役を担っていただき誠にあ

りがとうございます。

今年度の活動内容といたしまして、土地の地権者全員からの同意取得作業が進められている地区、約20ヘクタールでの事業申請を目指し、本年度、事業実施計画書作成の作業中でありま

○11番（是枝孝太郎君）

課長に難しい話を質問しますが、2年間の空白があったわけですが、その2年間の空白がなければもっと早めに事業展開ができたんじゃないかなと思うんですけど、その点、どういうふうなことでそういうふうになったのか、伺いたと思います。

○耕地課長（水野 毅君）

耕地課、私、3年、4年ぐらい前は補佐でおりまして、それから1回、選挙管理事務所に出たんですけど、その約2年間に及ぶ遅れにつきましては、もう少し広範囲、約25ヘクタールでの計画ができないかと土改連の設計担当等から提案され、同意取得に向けて活動しましたが、まずは今、現段階で動いている今の団地を優先すべきではないかということで現在があるものであります。

以上です。

○11番（是枝孝太郎君）

畑総は今度、ヒアリングがあるわけですが、いつごろヒアリングがあるのか、そういった経過報告をお願いしたいと思います。

○耕地課長（水野 毅君）

お答えいたします。

今後のタイムスケジュールなんですが、県及び国の審査を受け、これが来年の2月ぐらいと考えられております。それで県及び国の審査を受け、令和8年度に事業採択を目指しているところであります。

以上です。

○11番（是枝孝太郎君）

耕地課全体一丸となって、私たち地域も真剣に一丸となってやりたいと思います。さらなる同意に関しては大沢、是枝が各地域をめぐって同意書をもらっていきますので、今後とも耕地課一丸となって新規畑総。井之川地区の畑総をしっかりと作り上げていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは福祉政策について伺います。

（1）社会福祉協議会に宅配給食事業を委託され、日々高齢者の健康管理に努めていますが、宅配給食の拡大について伺います。

○介護福祉課長（廣 智和君）

お答えいたします。

社会福祉協議会へ委託をしている宅配給食事業なんですけれども、改めて簡単に内容を御説明いたしますと、独り暮らしの高齢者などで身体虚弱なために調理ができない方や日常生活を営むのに支障がある方に配食サービスを提供し、安否確認を行うとともに、配食訪問時の利用者の健康状態、生活状況の変化や異変がないかなど見守りを行っているところでございます。

拡大につきましては、そういった見守り等を含めまして、その社会福祉協議会で実施しているところなんですけれども、そちら、また利用者負担が400円、また町が500円負担しているところの中では財政等も関わってきますので、財政当局、町長等ともまた協議しながら、拡大については検討していければなというふうに思っております。

○11番（是枝孝太郎君）

宅配事業に関しては、要支援、要介護、様々ありますけれども、現在、ケアマネジャーの会議において宅配利用者の決定がなされておりますが、決定をなされていない高齢者から宅配給食の利用はできないかと要望が数多くあります。その点、どういうふうに考えておられるのか。そして宅配利用を受けている方は何人おられるのか、伺います。

○介護福祉課長（廣 智和君）

お答えいたします。

まず対象者なんですけれども、要支援、要介護認定を受けている方で必要な方はもちろんなんですけれども、今、認定を受けていなくても生活の環境、状況や本人の体調、病状等を考慮して、独居等に関わらずサービスは実施しているところでございます。

また人数なんですけれども、令和5年度の実績で1年間の延べ人数なんですけれども、719名の延べ人数で活用しています。また令和6年度直近で、こちらは月利用なんですけれども、7月末の月利用者は49名で、そのうち今言った要介護の方が18名、要支援、またその他事業の方が31名といった形になっておりますので、要介護、要支援、またその他の人も一応含まれているということになります。

以上です。

○11番（是枝孝太郎君）

町長並びに総務課長、担当課長も聞いていただき、90歳の老夫婦がいます。食事に関して、食事に対して難を期しています。台所に立つのも支障があります。住民に対して、そういった方々に対してきめ細かな支援をすることが町当局ではないかと伺います。そういう90歳の方を切られたということを実際、伺っていますので、そういった方に手厚いサービスを柔軟な対応ができないか、伺います。

○介護福祉課長（廣 智和君）

お答えいたします。

サービス実施までの流れなんですけれども、本人をはじめ家族、生活支援などに関わっている民生委員さんなど関わっている方などから相談があって、申請に至った場合は関係機関、社会福祉協議会、包括センターなどの担当で調整ケア会議を実施しています。その中で本人からの聞き取りとか生活状況等を見に行き、いろいろと環境を見た上で、その会議でアセスメント表というのがあるんですけれども、40項目ほど調査項目があります。その結果に基づいて宅配サービスの会議を決定しているところなんですけれども、その中で、ちょっとより結果的に厳しくなったこともあったのかなとも思ったりもします。

また最近、この事業が実施された当初は、やはり申請イコール決定だったような流れもあったみたいなんですけど、現在20年ほど経過している中で、どうしても介護制度の改正とか、中で自立支援というところがすごくピックアップされていまして、そういった少しでも料理ができたり自立できそうな場合は、なるべく自立できるようにというような感じで結果が出る場合もあるということです。残念ながら、ちょっと認められない方もいるということは確認しております。

○11番（是枝孝太郎君）

その調査に行ったときは、すごくよかったかも分からない。1週間後見たら、本当にできない状態だと、そういったことが多々あるらしくて、調査報告はケアマネ何人かいてあるかも分からないですけど、個々いろいろな方々がおられますので、ある程度、民生委員からの情報も伺いながら、そういった方に手厚い健康管理のために、町長が言いますよね、健康を維持するためには本人の健康管理をしっかりしていかなければ、まずは健康管理は食育ですよ。

もう1つ、独居老人、その方々が、例えば男性の方、その方が台所に立って作る方もおられるでしょう。冷蔵庫にあるのを食って、それで栄養を保っている方もいる。そういった方々の、独居老人に対しての支援も大切ではないかなと思いますけど、それを課長、どう思います。

○介護福祉課長（廣 智和君）

お答えいたします。

実際にはもちろん独居老人も制度上含まれておりますけれども、やはり今言った、ちょっと大変な方がいるというところの中では、ケア会議で使われているアセスメント表、そちらの項目もありますけれども、それを少し見直す等、検討する必要があるかなと思っておりますので、また担当等を含めて協議していければなと思います。

以上です。

○11番（是枝孝太郎君）

よろしくお願ひします。

健康増進課長にお伺ひします。後期高齢者の方は何人おられますでしょうか。

○健康増進課長（吉田 忍君）

お答えいたします。

令和5年度末後期高齢者被保険者数は1,573人でございます。

○11番（是枝孝太郎君）

後期高齢者1,573人、その方から75歳以上ということですよ。その方々からもケース・バイ・ケースで要支援、要介護じゃなくて、ケース・バイ・ケースで宅配事業ができないかというの也要望したいのです。後期高齢者の方でも元気な高齢者もいますので、食が大事でありますので、そういった方の多少なりとも拡大していただいて、後期高齢者の方も柔軟な対応ができないか、伺いたいと思います。

○介護福祉課長（廣 智和君）

お答えいたします。

ちょっと答弁が繰り返しになるかもしれないんですけども、そのそういった状況、今でも要支援、要介護、その他、それ以外の方でも対応しているところなんですけれども、会議で使っている表ですね、アセスメント表のほうをちょっと見直していければなと思います。また財政も伴ってきますので、またそこら辺は当局と協議しながら検討させていただきたいと思います。

以上です。

○11番（是枝孝太郎君）

町長、宅配事業の基準のある程度の柔軟性を持たして、基準ですよ、柔軟性を持たして、やっぱり高齢者に対しての健康管理、健康維持を促すためにも、宅配事業、栄養のバランス、栄養士がついていますから、栄養のバランスの整った宅配給食の事業の拡充をどういうふうに考えておられますでしょうか。

○町長（高岡秀規君）

高齢者によっては自治体、みんなに迷惑をかけたくない、自分は自立できるということを強くおっしゃる方もいらっしゃいます。そして、また食という部分では我慢をして偏った簡単に済ませてしまうと、やはり健康障害に結びつくだらうというふうに思います。そこで宅配によってバランスの取れた栄養のある食を食べるということこそが長寿につながるのではないかなというふうに思いますし、私どもも母がそういったことで我慢をしたり、子供に迷惑をかけたくないとか、そういったことで断るというケースもあります。

それと、また高齢者によつての自立支援という文言なんですけれども、どうしても私はそこに違和感があって、障害者自立支援、全部自立支援という言葉でその制度の維持に、予算が足りないとか、そういった理由でそういった文言を使っているのではないかなというふうに違和感を感じているところでもありますから、その違和感を解決するのは直接、町民と触れ合う自治体だらうというふうに思いますので、今後も宅配栄養食にバランスの取れた食については、高

齢者にとっては必要だろうというふうに思いますので、担当の課とも今、話しているところですから、できる限りのことはやっつけていこうというふうに考えております。

○11番（是枝孝太郎君）

本当にありがとうございます。その延長線上で、社会福祉協議会もある程度の地位貢献ができますので、今後とも町長の意見を踏まえて前向きに検討していただきたいと思います。

11番の是枝の一般質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。15時40分より再開いたします。

休憩 午後 3時24分

再開 午後 3時40分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、植木厚吉議員の一般質問を許可します。

○4番（植木厚吉君）

皆様、こんにちは。

令和6年9月定例会におきまして、4番、植木厚吉が通告の3項目について一般質問をさせていただきます。

まず、質問に入る前に、去る7月の10日、徳洲会グループの創設者であり元衆議院議員の徳田虎雄氏が御逝去されました。衷心より哀悼の意を表しますとともに、故人の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

徳田虎雄氏は、「生命だけは平等だ」の理念の下、「いつでも、どこでも、誰でもが最善の医療を受けられる社会」の実現へ向け、文字どおり全身全霊を傾けてこられました。その思いや意思は国内外の多くの人たちに今後も引き継がれていくことと信じております。

それでは質問に入りたいと思います。

近年、離島や僻地における医療体制は格段に向上してきてはいるものの、まだまだ本土並みとは行かず、離島の医療体制の課題は山積しております。その中でも、本土と離れた離島においては交通事故や重症患者の手術など、緊急的に大量の輸血を必要とする場合、輸血血液の一定量の確保ができなければ人命に関わることとなります。現在、島内の医療施設において輸血用血液製剤の保有状況はどうなっているのか、また島外からの供給体制の現状を伺いたしたいと思います。

○健康増進課長（吉田 忍君）

植木議員の御質問についてお答えいたします。

先月8月に県立大島病院の医師が来庁され、奄美大島における緊急医療体制の逼迫した現状

等について町長を交えてお話を伺いました。

現在、奄美群島における輸血用血液製剤につきましては、医療機関の責任のもと、鹿児島赤十字社血液センターへ発注し、管理、そして使用できなかった分については廃棄することとされておりまして。

現在の島内の保有状況でございますが、島内では徳之島徳洲会病院が設立当時より自己備蓄しております。また島外からの供給体制の状況につきましては、ここ数年は緊急時には血液センターへ発注したことはないとのことでございます。しかしながら、供給するに当たりまして、血液製剤は鹿児島から航空機を利用して配送されますが、県本土から徳之島までの所要時間は平均で11時間かかることとされておりまして、なかなか緊急時の配送依頼はしていないということでございます。

○4番（植木厚吉君）

この問題につきましては、今、課長のおっしゃったとおり、私も医師の方からいろいろなお話を聞かせていただいて、今回の質問にさせていただいているところであるんですけども、やはり我々も知らない情報が多くて勉強になることがたくさんありました。

この中で、この血液の問題を調べていくうちに、なかなか奥の深いというか、大きな問題だなど思うところであるんですけども、この中で先ほどありました、保有血液の現状、現状はその医療施設に依存しているという形でお聞きしているんですけども、そもそも日本における血液製剤の扱いといいますか、の所管と申しますか、はどちらになりますか。

○健康増進課長（吉田 忍君）

この血液製剤につきましては、日本で唯一、製造・販売まで責任を持っているところが日本赤十字社になってまいります。本土におきましては緊急時のその主要医療機関までの配送までを日赤のほうで行っているところがございます。

○4番（植木厚吉君）

この日本赤十字社が、この医療の血液を統括して、いわゆる独占的に扱っているということをお聞きしました。その中で、日本の中で血液法という法律がありまして、その法律にのっとって血液の安定供給を図るといったところの組織であると認識しておるんですけども、先ほどの中で、島内のその備蓄状況も少しありましたけれども、大抵現在のストックの量でありますとかどのようになりますか。

○健康増進課長（吉田 忍君）

こちらのほう、電話にて確認させていただいておりますが、400ミリリットルの採血から得られた血液、赤血球製剤で、O型が3本、A型が1本、B型が1本を常備しているようです。

○4番（植木厚吉君）

すみません、内容量とか分かりますか。

○健康増進課長（吉田 忍君）

お答えいたします。

1本当たりの容量は280ミリリットルでございます。

○4番（植木厚吉君）

これは私もその資料を少しいただきましたけれども、感覚的ではあれなんです、すごい少ないなという認識をちょっと持ったところであります。これはその医師のほうからお聞きした話なんですけれども、仮に人がけがとか、大けがをした際に800ミリリットルの出血が起こるとショック状態に陥るという話を聞きました。その中で、先ほどの量では、いわゆるそのような緊急の事態のときにはほぼ対応が不可能ではないのかなというところでありますが、また今、先ほどからの血液の備蓄における課題と今現状における課題はどのようなところがありますか。

○健康増進課長（吉田 忍君）

お答えいたします。

血液製剤の備蓄における課題でございますが、そもそもこの血液製剤は非常に高価なものであり、また使用期限が約1か月と短く、そして使用できなかった分については廃棄する費用等も加算されるため、病院におきましては十分な容量を備蓄することが困難なようでございます。以上です。

○4番（植木厚吉君）

取扱いが非常に、温度管理も非常に厳しいとか聞きましたけれども、非常に取扱いも難しく、また毎日、緊急の手術があるわけでもないでしょうし、あらかじめ大量にストックしておくということも非常に難しいというところはよく分かりましたが、そのようなものであるからこそ日本赤十字社が国内において、その法律に基づいて血液の安定供給というものを担保しているところであったと思うんですけれども、その流れで2018年までに奄美大島のほうにこの備蓄所というものがあつたと聞きますが、その撤退をされた理由等は分かりますか。

○健康増進課長（吉田 忍君）

奄美大島の備蓄所につきましては、日本赤十字社鹿児島県赤十字血液センターより委託を受けた医薬品取扱い民間事業者、こちらのほうが一定量を備蓄し、医療機関からの注文に応じてこれまでは血液搬送を行って、配送を行っていたようでございます。こちらのほうが先ほど植木議員のおっしゃいました2018年、こちらで撤退、閉鎖した経緯につきましては正直なところ定かではございませんが、県立病院の医師のお話、そしてまた資料等々から、法的なコンプライアンス問題が指摘された可能性、こちらのほうは日本赤十字社とその民間事業者間における契約内容の中等々になってくるかと思えます。

また民間事業者の受託先ですね、労務管理問題、こちらのほうなどにより運営継続が困難になったことが要因の一つではないかと考えております。

○4番（植木厚吉君）

ここも分かりやすく言えば、離島でこのような施設を維持するには相当の維持管理費用、また法的なクリアしなきゃいけないくくりがあるということで余儀なく撤退されたことかと思いますが、そもそもこういうものが法律化、法制化されて、日本の、先ほどの徳田先生の言葉じゃありませんけれども、命だけは平等というそのような観点が少しやはり離島としての不利を被っているところもあるのかなと思うんですけれども、このような備蓄所の閉鎖後の影響とかはどのようなところがありますか。

○健康増進課長（吉田 忍君）

お答えいたします。

閉鎖前には緊急時に奄美大島から血液製剤が調達できておりましたが、閉鎖後は先ほど申し上げましたように鹿児島島のほうから航空機による配送で、奄美大島につきましては平均約10時間、徳之島におきましては11時間かかるため、血液製剤が不足した事態が起きた場合には病院内の院内血、輸血等を医師のほうで判断せざるを得ないことが本島における緊急医療体制の大きな課題だと考えております。

また医療機関の判断、責任により、血液製剤を備蓄することとなったため、備蓄量そのものを縮小していく、また先ほども申し上げましたが廃棄費用等、いろんなコストも課題になっております。

○4番（植木厚吉君）

島でもう十数時間かかれば緊急事態はほぼ対応できないという認識でよかろうかと思えます。この赤十字社のホームページのほうを拝見しましても、平均配送時間といたしますか、が載っております。全国平均でおおよそ30分から40分という平均値を出しておりますけれども、そもそもこういう平均値には離島は入ってないらしいですね。やはり離島を軽視しているわけではないでしょうけれども、やはりこれだけ医療が発達した中で、医療の中の一丁目一番地の血液が届かない。こういうような問題が我々も知る術もなかったところではありますけれども、これは以前、皆様も記憶にある方もおるかと思いますが、闘牛用の牛に腹部を突かれてけがをされた方がおりました。その緊急対処として30名ほどの緊急的な輸血者が必要で、一時的な手術は成功して、残念ながら亡くなってしまったんですけれども、そのような緊急的なときに必要な輸血体制、要は生血輸血と言うそうなんですけれども、そのような体制に依存せざるを得ない現状があるそうです。

これは本当、早急にどうこうできる問題ではないと思えますけれども、今後はこのようなこともしっかりと我々も勉強し、大きな離島の課題として、テーマとして考えていきたいところではあるんですけれども、この流れで次に行きますけれども、この離島における必要血液製剤の安定供給のためにも、また備蓄所の再設置やまたそれにする献血活動の推進する体制づくりも

必要と考えますが、見解をお願いします。

○健康増進課長（吉田 忍君）

お答えいたします。

まず初めに、献血活動の推進、こちらについて御説明いたします。

今現在、本町保健センターの取組といたしましては、日本赤十字社の献血計画に掲げる目標値をもとに年間400ミリリットル掛ける90本を目標に掲げて、町公式ウェブサイトやSNS、広報紙、防災無線等により周知を行い、通常の血液の献血の確保に努めているところでございます。

これに加えて、先ほど少しだけ申し上げましたが、院内輸血採血ですね、こちらのほうにつきましては、現在、奄美大島のほうには大島地区緊急時供血者登録制度というものがございまして、こちらのほうは協議会を発足し、県保健所や医療機関、各市町村長等によって構成されておりますが、この制度につきましては奄美大島地区で保有している血液製剤が不足し、かつ本土からの輸送による血液製剤の確保が困難になった場合において、緊急に輸血治療を必要とする患者を救命するための緊急避難的な方法として病院で採血を行う、これに協力していただく登録者を募る制度になっているようでございます。こういった制度につきましても、今後、3町及び医療関係者を含めた担当者会、そしてまた徳之島の医療と福祉を考える会、こういったところの中で情報共有と検討を重ねてまいりたいと考えております。

次に、備蓄所の再設置につきましては、昨年、県医師会及び徳洲会、県民医連、奄美医療生協を中心として日本赤十字社を主体とした血液備蓄所の再設置に関する要望、署名活動が行われております。我々行政といたしましても、奄美地区から離島行政懇談会等へ輸血用血液製剤の安定供給に係る血液備蓄所の設置について等を議題として提出しておりますが、依然、改善される様子がまだまだ見受けられません。本町を含めた離島、僻地地域においては血液備蓄所の再設置等、迅速な血液供給体制強化は必須であると考えております。今後も町長と相談しながら御助力いただき、群島12市町村の共通課題として声を上げ、厚生労働省や日本赤十字社等へ要望をしてまいりたいと考えております。

○4番（植木厚吉君）

このお話を私も聞かせていただいて、この冒頭にも言われましたけれども、町長もその医師と御面談されていろいろなお話を聞かれたかと思っておりますけれども、率直な見解と申しますか、御意見があれば伺ってよろしいですか。

○町長（高岡秀規君）

先だっのお話もあったんですけども、それ以前にブラッドローテーションということで陳情した経緯がございます。これは徳洲会病院にしても廃棄になる血液があるということで、何百万とかという予算をやはり捨てているということで、賞味期限前に本土のほうへ送って、

本土のほうで使っていただくというブラッドローテーションということも最初は要望したことがございますが、これもなかなかうまく稼働していないようで、そうするとやはり備蓄が必要だということですね。

それで議員がおっしゃるように、その備蓄には経費がかかる、24時間体制ということと、24時間で人がいないといけないと、運ぶ人がいないといけないということがあって相当な経費がかかるということから、大きな赤字はできないということで、そこの設置を廃止したということなんですけれども、実際に我々が要望しないといけないのは、命に関わる問題が赤字だとか、そういったもので判断していいものかどうかということです。そして、それが法的なものがネックになっているのであれば、私は法改正が必要じゃないかなというふうに思っております。

そこで、設置で買取りをしないといけないとかいろいろなコンプライアンスの話がございましたけれども、代わりに委託業者に、例えば血液を保管をしまして、買取りではなくて、使った分だけ赤十字社に支払うするというので、私はある程度の経費が削減できるかなと。そしてなおかつ消費期限が来る前に本土のほうへ送ると。その経費についてもしっかりと、それは赤十字社が責任を持ってやるということから、ブラッドローテーションと設置する委託が法的に可能になれば理想だなと僕は思っています。なぜならば、徳洲会病院や民間の機材のそろったところであれば、マイナス20度の装置を2台、3台と置いてくれば、24時間体制で病院は動いていますから、新たな人材は必要じゃないのではないかなという私は可能性を期待をしています。それが委託になって、買取りとなると、余剰な血液は持てませんから、それで余剰に持ってしまうと廃棄処分になるということから無駄が生じてしまうということから、これはもしコンプライアンスの問題があるのであれば、命を守るための法改正というのは絶対必要じゃないかなというのを思っておりますので、今後はしっかりと現場の声と、現実的にできることは何なのかということを精査して、効率的な要望活動はしないといけないかなというふうに考えております。

○4番（植木厚吉君）

やはり半分、公社化といいますか、公の団体であると思います、日本赤十字社はですね。やはりそのような大事な血液に関して不平等が生じてはいけないということで、その法律も整備されておるかと思っておりますので、まだまだ先ほど町長がおっしゃったように、法律を読み解いてと言いますか、言葉の端々と言いますか、法的に不備があるのであれば法律を再整備をして、そのような、この問題をこのまま置いとくわけではなくて、ぜひ法整備も含めて、またこの血液の安定した供給体制が離島に整うようにぜひ動いていきたいな、一緒に活動させていただければと思うところであります。

その中で、令和7年来年には徳洲会病院も新設されまして、新たな医療体制が整うわけですが、今後、この離島における、この離島医療の在り方、また理想について、町長の見解

をお聞きしてもよろしいですか。

○町長（高岡秀規君）

今、必要なベッド数にしても、地域調整会議等々の会議がございますが、私は少しやはりそこに問題があるかなど。ベッド数の確保にしても、今回、徳洲会は250の病床を確保しますけれども、それも島内でのシェアでの配置だったんですね。大島郡では結果的に病床は余っていると。だけど徳之島に譲らないわけですよ、おかしいと私は思っています。一番少ないのは徳之島なんですよ、住民1人当たりのベッドというのは一番少ない。それで今回、250床取りますけれども、それでも少ないわけです。仮に50床大島から持ってきたとしても、それでも徳之島が一番少ないんです。それが認められないということは、今の制度は、話合いの仕方は、僕は間違っているんじゃないかと私は思っています。

今回、新設する徳洲会病院が完結型の離島医療を目指していますので、そこはしっかりと自治体と連携を図りながら、それに向けて取り組んでいきたいというふうに思っていますので、ぜひ急患搬送が少しでも減らす努力、そしてまた牛等々のけがで相当な血液が要って亡くなる方がいるということも聞いていますので、血液製剤等の設置場所についてもしっかりと取り組んでいきたいというふうに思います。

○4番（植木厚吉君）

今、町長の言葉にもありましたけれども、様々な課題と申しますか問題、なかなか理由が解せないところもたくさんあるかと思っておりますけれども、やはりこのような課題を我々はこのような議会を通してですとか、民間の声でありますとか、大きな声を上げていって、ぜひ国としても大きな問題として捉えてもらえるように今後、活動していければと思います。

次の質問に移りたいと思います。

少し文言の訂正がありますけれども、海岸の海水浴利用について伺いたいと思います。

昨今、帰省者や観光客などを含め、夏休み時期などの海岸の海水浴利用者を多く見かけるようになりました。他方、利用者増に伴う海難事故も増加傾向にあると聞きますが、今後、また対策等が必要だと考えます。当局の見解を伺いたいと思います。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

植木議員の質問にお答えします。

まず泳ぐ方々への事故防止のための看板の設置ですね。あと、この徳之島には海水浴場はありません。海水浴のため、利用者のために、もし監視をつけるのであれば、ライフセーバーの育成と、そのために必要な備品等の整備、さらに雇用のための予算等の確保が必要だと思います。

以上です。

○4番（植木厚吉君）

この問題を出した際に、先ほど文言の訂正も行いましたけれども、課長のおっしゃるとおり海水浴場の扱いではないということで、私もちょっと指摘を受けたところであったんですけども、近年と申しますか、インターネットが普及して様々な検索方法ができるかと思うんですけども、今、南の島、お勧め、ビーチとか、そういうような要は観光に関連する検索をかけますと、結構なサイトでプリンスビーチ、出てくるんですね。ほぼほぼ引っかかると言ってもいいぐらいだと思うんですけども、そのぐらいやはりいいビーチとして認識されていると思います。

また、その中の紹介の中で、海水浴利用に適しており、シュノーケリング等にも適していると文言が入っているんですね。やはり先ほどありましたように、海水浴場ではないんですけども、一般の方も含めて、そのような住み分けがよく分からない部分もあろうかと思いますが、先ほど出ましたお話のように、今後はその島外から来られたような方などは、島の危険生物でありますとか、また吉田課長も御存じかと思いますが、里久浜等は離岸流があるじゃないですか。あのような潮流の危険性とか、島の自然の危険な一面を知らない方もやはり多いと思います。

その中で、その海岸を海水浴も含めて安全に利用するためには、安全利用の啓発文や緊急連絡先、またAED等の設置場所を明示した看板等の設置は必要かと思いますが、今後、検討されますか。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

先ほど植木議員からもありました、徳之島町でもそのような事故があつて、ちょっと緊急なことがあつたと聞いて、私自身、驚いているんですけども、その中で消防のほうからAEDの設置はできないかということで話がありましたので、今、そのような、一般の方からよく見える場所での設置とかを計画しているところであります。

以上です。

○4番（植木厚吉君）

これまたすみません、改めてなんですけど、海水浴場の定義とかってどういう定義ですか。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

先ほど言いましたけど、ライフセーバーが必ずいないといけないというのが先にあるということを知っています。監視員ですね。

○4番（植木厚吉君）

その他の要項とかありますか、その他の。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

水質とか、そういうところがあります。

○4番（植木厚吉君）

すみません、少し意地悪だったかもしれませんが、これちょっと調べてみたところ、水質の基準、おっしゃったライフセーバーの設置、あとは清掃衛生管理、またトイレ、シャワーの設備、監督機関への許認可の取得、また駐車場、営業時間の明示となっております。これ今、現況でいけば半分ほどはクリアしているところもあろうかと思しますので、もちろん人件費等々もかかるところとは思いますが、夏期の一定の期間を限定して、そのようなライフセーバーを育成、養成して設置をして、しっかりとしたビーチに整備するのも一つなのだと思いますけど、どうでしょうか。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

植木議員がおっしゃるように、海水浴場とうたうのもいいと思いますが、海浜公園としてライフセーバー等を要望して、例えば夏休み期間とか、一応、天城町が今そのようにしていて、海水浴場として今後うたうのかということ聞いたんですけれども、今のところ海浜公園ということで進めていくということだったので、私もそのような考えがいいんじゃないかなと思っています。

以上です。

○4番（植木厚吉君）

まあ文言的に海水浴場とうたうか、うたわないかというところもあろうかと思しますが、この趣旨としてはそれに準ずるといいますか、十分クリアできるような条件をしっかりと整えて、やはりこのような南の島での楽しみといいますか、ビーチというのは外せないものだと思いますし、またやはりニュースの報道とかを見ていると、夏場時期のいろんな離島とかにおいて海難事故等、特にシュノーケリングの事故等は非常に多いと感じるところであります。

以上の観点からも、ぜひ本当、夏休みの短期間とかでもいいですので、そういう整備等ができるのであればぜひ検討いただきたいなと思うところであるんですけれども、その話に引き続いて、3番目行きますが、畦プリンスビーチや里久浜等の利用者の多いビーチにおいては、ビーチフェンス、いわゆる沖の区割りのブイですね、また先ほど出ました浜のごみの除去する機械等を導入して、安全に利用できる環境整備ができないか、伺いたいと思います。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

お答えします。

まず海岸整備のための例えばバギーですね、そういった感じのものは以前、私もライフセーバーが必要だということを言って、その中で救助のためのバギーとか、あとマリッジットですね、あとレスキューボード、そういったのも、今、山のほうでオープンウォーターという競

技をやっています。それに必ず必要だということ。あとはライフセーバーも必要だということになっていきますので、そういったのを含めて整備ができたらいいかと思っています、私は。

ビーチフェンスですか、ビーチフェンスについては、やはりそういった安全ですよという範囲を置いて、誰もいないようなちょっと無責任なことはできないので、海は何が起こるか分からないので、それはやはりライフセーバーをつけてから設置したほうがいいと考えます。

以上です。

○4番（植木厚吉君）

今、出ましたライフセーバー含めてマリンジェット等の導入等々、ぜひぜひ強烈に推進していただきたいなと思うところであります。

やはりこの問題を取り上げたのも、先日、畦のほうで海難事故がありまして、救護者の方がAEDのある場所が分からずに、右往左往された事例があるということをお聞きしたのも要因の一つであります。やはり事故が起きてから、あのときこうすればよかったなとかがないように、ぜひ先ほどの話も課長の力で推進していただければと思うところであります。お願いします。

次の質問に移りたいと思います。

先般、徳之島空港が特定利用空港として選定をされました。この特定利用空港の概要について伺いたいと思います。

○企画課長（中島友記君）

植木議員の御質問についてお答えいたします。

この特定利用空港についてですが、鹿児島県の記者発表資料をもとにちょっとお答えをしたいと思います。

国は安全保障環境を踏まえた対応を実行的に行うために、南西諸島を中心としつつ、その他の地域においても自衛隊、海上保安庁が平素から必要な空港、港湾を円滑に利用できるよう、インフラ管理者との間で円滑な利用に関する枠組みを設け、これらを特定利用空港、港湾とし、これらについて民生利用を主としつつ、自衛隊や海上保安庁の艦船、航空機の円滑な利用に資するよう必要な整備または既存事業の促進を図ることとしていますという内容になっております。

○4番（植木厚吉君）

以前から、この南西諸島における国防に関しての件は度々挙げさせていただいておるところでありますけれども、いよいよ国のほうがこのような特定利用空港として選定したということで、このような内部の話ではありますけれども、しっかりと地域住民の方ともできる範囲での情報を共有したりとか、また変な誤解等が生まれないように、ぜひ分かる範囲での情報の掲示等はしていったらいいのかなと思うところであります。

また先般、中国機によります長崎県におきましての領空侵犯等々もございました。やはり南西諸島も含めた日本という国が今、いろんな意味で、そういった危機にさらされておるのかなと感じるところであります。

先ほど課長の言葉にもありましたけれども、条件にする整備等々を進めていくということでもありますけれども、これを機会に今後、この空港は民間を含めた当空港を利用する航空機の大型化や、また空港設備の高機能化を図るために空港滑走路の延伸やまたエプロンの拡張、誘導道路の増設整備等の要望活用等も必要ではないかと思えますけれども、この辺の見解を伺いたいと思えます。

○企画課長（中島友記君）

お答えします。

国土交通省が総合的な防衛体制の強化に資する取組についてということで公表資料があります。公共インフラ整備についてですが、それがこの空港、港湾の運用、整備の在り方といたしまして、先ほど説明いたしました、平時から必要な空港、港湾を円滑に利用できるように、インフラ管理者との間で円滑な利用に関する枠組みを設けるということにより、有事のみならず平時においても円滑な利用を確保することとしております。その整備の中で、空港の滑走路の延長、エプロン整備や港湾の岩壁、航路の整備などを行うという考え方を示しておりますので、まずこの民生利用、平時における円滑な利用に対しての整備という考え方の下に、また地元からの要望については、特定利用空港を所有している島として3町の空港利用促進協議会等で協議した上で要望することは可能かと思われます。

以上です。

○4番（植木厚吉君）

これまず先ほど課長の言葉にもありましたが、民生利用を軸とするというのが基本でありますので、その民生利用に対してどのような空港の今後、整備が必要になってくるかというところをまず念頭に置かなきゃいけないと思えますけれども、町長、今、直行便の要請ですとか、様々なLCC等々の要請等を行っているところかと思えますけれども、その中で、やはり飛行機便の増便等も考えられると思うんですね。やはりその中で今、空港としてやはり現状で間に合っているのか、果たしてはまだまだ整備する必要があるのか、原課的なものを聞かせていただけますか。

○町長（高岡秀規君）

直行便等々の誘致に、今の空港の滑走路がどうなのかという点につきましては、ある程度、対応は可能かなというふうに思っております。

そして、また特定利用ということから、今、3町で様々な要望活動をしていますけれども、それがあつ程度、計画にのせられた暁には整備が必要じゃないかなというふうに思っております。

す。

そこで一番3町が望むのは、首都圏からの航空の直行便でありまして、今、臨時便が要望がかなって何便か飛んでいますけれども、中身を見ますと、ある程度、乗降率は高いというふうに聞いております。

そこで週に何便を要望するかというと、日本人の旅行は大体2泊3日となると、3日に1回飛ばす、例えば。毎日飛ばしてしまいますと、行きはいいんだけど、いや、来るのはいいんだけど、徳之島から来るお客がいるのかどうかということも考えないといけないと。それで首都圏から徳之島まで来たら、徳之島から鹿児島ということも考えられるわけですね。そして、そこでもし直行便を誘致するのであれば、2泊3日の週に3便ぐらいを要望しようかなというふうに、今、考えているところですが、今後、そのデータに基づいて、今、広域のほうでいろんな観光客の誘致活動、そしてまた補助事業等がありますので、ぜひ乗降率のデータをいただけないかという話はしております。そしてそのデータを基に、我々がどういう要望をしたら的確な要望になるのかということも考えていきたいというふうに思います。

○4番（植木厚吉君）

以前、空港の延伸に関しての要望等の活動もあったような記憶があるんですけども、その中でやはりこのような要望と申しますか、動きをつけるのは一番絶好のタイミングではないかなと思うところがありますので、ぜひまた先ほど町長のおっしゃったようないろんなデータを基に、そのような論理的にお話ができるようなことを我々議会は勉強して、今後、活動につなげていければと思うところがあります。

またこのようなタイミングで、今、自衛隊の訓練等々も今年から始まっておりますけれども、そのような利用も始まってくるかと思えます。このようなタイミングで我々もしっかり要望するところは要望していくような形で活動できればと思うところがあります。

以上で、質問を終わりたいと思います。

○議長（行沢弘栄君）

以上で、本日の日程は全部終了しました。

次の会議は、9月11日午前10時から開きます。

本日は、これで散会いたします。お疲れさまでした。

散 会 午後 4時25分

令和6年第3回徳之島町議会定例会

第2日

令和6年9月11日

令和6年第3回徳之島町議会定例会会議録

令和6年9月11日（水曜日） 午前10時 開議

1. 議事日程（第2号）

○開 議

○日程第 1 一般質問

竹山 成浩 議員

政田 正武 議員

内 博行 議員

木原 良治 議員

勇元 勝雄 議員

○散 会

1. 本日の会議に付した事件

○議事日程記載事件のとおり

1. 出席議員（16名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	内 博行 君	2番	政田 正武 君
3番	宮之原 剛 君	4番	植木 厚吉 君
5番	竹山 成浩 君	6番	松田 太志 君
7番	富田 良一 君	8番	勇元 勝雄 君
9番	徳田 進 君	10番	池山 富良 君
11番	是枝 孝太郎 君	12番	広田 勉 君
13番	木原 良治 君	14番	福岡 兵八郎 君
15番	大沢 章宏 君	16番	行沢 弘栄 君

1. 欠席議員（0名）

1. 出席事務局職員

事務局 長 清原 美保子 君 主 査 中野 愛香 君

1. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町 長	高岡 秀規 君	教 育 長	福 宏人 君
総務課長	村上 和代 君	企 画 課 長	中島 友記 君
建設課長	作城 なおみ 君	花徳支所長	尚 康典 君
農林水産課長	高城 博也 君	耕 地 課 長	水野 毅 君
地域営業課長	清瀬 博之 君	農委事務局長	白坂 貴仁 君
学校教育課長	太 稔 君	社会教育課長	安田 誠 君
介護福祉課長	廣 智和 君	健康増進課長	吉田 忍 君
おもてなし観光課長	吉田 広和 君	税 務 課 長	新田 良二 君
住民生活課長	大山 寛樹 君	選管事務局次長	上原 悟 君
会計管理者・会計課長	田畑 和也 君	水 道 課 長	保久 幸仁 君

△ 開 議 午前10時00分

○議長（行沢弘栄君）

おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

△ 日程第1 一般質問

○議長（行沢弘栄君）

日程第1、一般質問を行います。

竹山成浩議員の一般質問を許可します。

○5番（竹山成浩君）

おはようございます。

定例会2日目、本日一般質問のトップバッターを務めます、ドジャースのトップバッター大谷選手にあやかって、いい成績が収められるように頑張りたいと思います。

それでは、5番竹山成浩が議長の許可を得て、3項目について質問させていただきます。町長はじめ教育長、担当課長の明快で前向きな答弁を求めます。

質問の前に、先月8月10日、母間新港において、第5回東天城祭りとは第27回母間ちゅっきやい節夏祭りが併せて開催をされました。当日は天候にも恵まれ、多くの来場者の下、盛会に開催することができました。

足を運んでいただいた方々はもちろん、開催に携わっていただいた北部地区の青年団や消防団、また地域の伝統芸能などで盛り上げていただいた集落関係者、そして前日からの準備や交通整理に汗をかいていただいた職員の皆様方、町職員の皆様方と地元関係者の皆さん、全ての方々に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

そして今回は、この夏の徳之島でトップを切って打ち上げ花火も行うことができました。当初の祭り予算にプラスアルファで花火の予算を組んでいただいた花徳支所並びに町当局に感謝を申し上げます。すばらしい花火となりました。

さて、今回の祭りは、徳之島町の町制施行60周年を機に、北部地区の山、花徳、母間の3校区の持ち回りで開催されている東天城祭りということで、町当局より補助金を頂いての開催でありました。

そこで、毎年恒例となっております母間ちゅっきやい節祭りとなると、4集落からの負担金と来場された方々からの寄附金が頼りの運営となっていて、集落にとっては非常に厳しい状況でございます。

そこで通告の1番目、母間ちゅっきやい節夏祭りは、今年で27回目を迎えました。以前、有

志の方たちで行っていた母間を語る会でのちゅっきゃい節祭りを含めると、30年は優に超えて開催をしております。

こうした集落行事を継続していくには、集落だけでの運営は非常に厳しい状況になってきています。そうした伝統的な集落行事に対しての補助ができないか、伺いたいと思います。よろしくをお願いします。

○社会教育課長（安田 誠君）

おはようございます。

竹山議員の御質問にお答えいたします。

私のほうからは、社会教育課で所管している各集落の伝統芸能関係についてをお答えいたします。

現在、各集落で行われている伝統芸能を保存・継承していくことは、集落の活性化や本町の文化の発展につながっていくものと考えます。

しかしながら、人口減少などにより保存・継承が難しくなっているという聞いております。伝統芸能は、一旦途切れてしまうと、復活させるのはなかなか難しくなるので、町といたしましても保存会や関係団体と連携して、保存・継承活動を行っていく必要があると考えています。

補助金についてですが、今後、活動状況や地域の実情などを考慮しながら、文化協会などと協議し、検討していきたいと思っております。

○5番（竹山成浩君）

町においても伝統芸能の無形文化財とか有形文化財とか、いろいろございますけど、そうした町の指定された芸能保存会とか、そういったところには補助がいろいろあるということでしょうか。

○社会教育課長（安田 誠君）

今、文化協会のほうから、町の無形文化財に指定されている手々ムチタボレ、井之川夏目踊り、亀津浜踊りのほうへ文化協会のほうから補助金を支出しております。

○5番（竹山成浩君）

集落行事、母間においてはちゅっきゃい節祭りと、集落行事なんですけど、観光や交流人口の観点からすると、お盆前後の帰省客や観光客等、多くの参加が見込まれると思われそうですが、おもてなし観光課長はどのようにお考えか、見解をお願いします。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

竹山議員の御質問にお答えします。

母間ちゅっきゃい節夏祭りが今年で27回目ということで、母間出身の私としましては、多くの先輩方の努力により祭りが継続していることに感謝しています。

集落行事に対して補助はできないかということですが、各集落については規模が違えども、

それぞれの問題を抱えながら、工夫して集落行事を継続していると思います。

予算面であったり、人手不足であったり、それぞれ要因があると思います。このことについては、これから検討しなければならない課題だとは思いますが、おもてなし観光課においても、どんどん祭りを運営することが厳しい状況であり、毎年、皆さんの寄附に頼るしかないのが現状です。

そういった現状も理解していただき、母間の皆さんのアイデアや工夫によって、これからも祭りを継続していただけたらと思っています。

以上です。

○5番（竹山成浩君）

課長においては御夫婦で踊りに参加していただき、すばらしく盛り上げていただきました。ありがとうございました。

もちろん集落の活性化のためには、母間地区だけではありません。他の集落、先ほど安田課長がおっしゃったように、井之川にしては浜下り、それから亀徳のネンケとか手々のムチタボレとか尾母のイッサンサンですか、そういった地域の行事が多くあります。

もちろん私たちの母間においても、集落の活性化のために、集落活性化補助金も活用させていただいておりますが、他の集落においても、様々なイベント等になかなかお金というのが足りないなという現状を思っているんじゃないかなと思います。

そこで、イベント行事等に特化した補助金の活用があれば、町全体への経済の波及効果や交流人口の増へつながると思われまますので、またその辺をぜひ検討いただければなと考えるところでございます。

次の2番目、母間地区では、先ほどからの夏祭りやフリーマーケットを含むイベント、年末なんでも市、そして恒例のさくら祭りの駐車場としての活用や、それと町が主体のグランドゴルフ、ゲートボールなど様々なイベントが開催される母間新港ですが、その入り口の幅員が非常に狭く、車両の出入りが不便であります。

先日のちゅっきゃい節祭りには、想定外の人が来られて、交通整理をされた職員の方も目の当たりにされたと思いますが、間口を広げるか、もう一か所、入り口を増やすことはできないかと思いますが、建設課長ですか、見解をよろしくお願いします。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えいたします。

母間港の入り口につきましては、港内の臨港道路幅員が8メートル、県道からの取付道路の幅員が4メートルとなっています。

母間港建設当時、平成13年度であります。既存の2メートルの道路を6メートルに拡幅する計画でしたが、用地交渉の結果、現在の4メートルの幅員となっています。

出入口を2か所にするのは難しい状況ではありますが、今後イベント状況などを踏まえ、間口を広げる検討を前向きにしていきたいと思えます。

○5番（竹山成浩君）

ありがとうございます。

例えばイベントの開催中に緊急車両の出入りとか、また自然災害発生時、津波とか等の避難指示が出る場合も考えられます。こうしたときに離合が非常に難しい現在の入り口では、車両の逃げ道が閉ざされてしまうんじゃないかと思えます。

建設課長、用地交渉に関しては、前回、そういったのが頓挫してなくなったということを伺いましたけど、今回、地元の区長さんたちと話し合いを持ちたいと思えます。地権者の同意が得られた場合には、前に進めるということによろしいでしょうか。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

入り口のほうに2筆ありまして、2メートル分の用地交渉で今後交渉を進めて、拡幅ができたらいなと思っています。

以上です。

○5番（竹山成浩君）

ぜひよろしくお願ひしたいと思えます。また、これは集落に持ち帰って、また話し合ってみたいと思えます。

次、1項目め、3番目です。昨年、奄美群島が日本に復帰して70周年という節目に、各地で様々な記念行事が行われました。本町においても12月25日は復帰記念日として条例制定されていますが、関連したイベント等計画があるのか、伺いたたいと思えます。

○企画課長（中島友記君）

お答えします。

今議員の言われたとおり、昨年は奄美群島日本復帰70周年記念事業として、本町においても多くの関連事業を実施しました。11月5日には午前中に亀津高千穂神社の参拝、そして午後からは記念式典、あと基調講演、あと邦楽と相撲の公演であったり、あと記念祝賀会を開催したところでもあります。

本年につきましては、奄美群島日本復帰の記念の日として制定した条例を基に、この歴史を忘れることなく、後世に語り継ぐことを目的として、復帰記念の日12月25日に亀津高千穂神社への参拝のパレード等の実施について、今社会教育課と協議をして、実施の方向で今協議をしているところでもあります。

以上です。

○5番（竹山成浩君）

昨年は本当70周年ということで、非常に多くの行事が開催されたわけですが、今年は今課長が言われたように、参拝という、パレードもですか、ということですか。

今年12月に花徳に待望の道の駅とくのしまが世界自然遺産センターと同時にオープン予定となっております。オープンセレモニーに関しては、企画が担当課となるんですか。

一つの私の提案というか、遅きに失する感はありますが、12月25日の日本復帰記念日に合わせて、先ほどからお話ししています、母間新港を利用した明かりの祭典というか、イルミネーションやランタンを活用した、少し趣の違うイベントで、祖国復帰へ御尽力をされた先人たちへの感謝と平和への願いを胸に、企画してみてもどうかと考えますが、企画課長、中島課長の見解をお聞きしたいと思います。

○企画課長（中島友記君）

先ほどの母間ちゅっきやい節祭りで、さくら祭りとかも、先ほど竹山議員からの提案もありましたが、今の12月25日にそういうイルミネーションとかのそういったイベントの企画ができないかということで考えたところ、地域振興事業、昨年サーフィン大会、花徳で実施しました。ああいったイベント、ソフト事業にも活用できる事業でありますので、母間地区の年間を通じたイベントの計画を提案して、地域振興事業で実施するのも面白みがあるのかなっていうところを思っております。

議員からも以前も提案があった大アラ釣りとか、私も母間出身なので、ぜひそういった企画の提案を地域振興事業で計画するのもいいんじゃないかと思っておりますので、ぜひ一緒に要望を上げていく方向で考えたいと思っております。

以上です。

○5番（竹山成浩君）

ありがとうございます。

今現在は花徳なんですけど、母間出身の課長のほうに期待をしたいと思います。

何がしか町長もよくおっしゃいますけど、突拍子もない企画というのは、非常に面白みがあっていいんじゃないかと考えているところです。また、そのようにいろんなイベントができて、活性化を目指して頑張っていきたいと思えます。

昨年12月議会でも少し、私がこの件に関して提案させていただきましたけど、イルミネーションや明かりをともしことで、年末年始の新しい交流も広がると思われれます。今年は多分無理です。来年以降、また検討をいただけたらと思えます。

次、2番目、教育振興について質問行きます。

先日9月5日にGIGAスクール構想実現へ御尽力をいただきました盛山文科大臣が本町への視察もあったようでございます。やはり本町の教育に対する様々な取組が認められているということに、改めてうれしく、敬意を表することでした。

さて、先日、広報徳之島9月号が配布をされました。その中で徳之島町島われんきゃ教育ビジョンが策定され、4つの柱のプロジェクトの内容が詳細に記載をされていました。

まず1つ、学びを変える「新学士村」プロジェクト、誰一人取り残さない「フーガ」プロジェクト、未来は自分で創る「ニライカナイ」プロジェクト、学校魅力化を一緒「ヤンキチシキバン」プロジェクト、子供たち一人一人に対して他に類を見ない、きめ細かな教育ビジョンとなっております。

そこで、サブタイトルに、サブタイトルという言い方が適切かどうか分からないんですけど、「将来を担う子どもたちが、「豊かな自然や希少動植物と共生できる」まちづくりを目指して」とありますが、どういったことを指すのか、少し教えていただきたいと思います。

こちらに広報徳之島、持ってきたんですけど、島われんきゃビジョン、すごい、素晴らしい、内容を詳しく書かれております。そこで豊かな自然、今伝えたいんですけど、それをどういったことを指すのか、教えていただきたいと思います。

○教育長（福 宏人君）

御質問ありがとうございます。

御存じのとおり、9月号の町の広報紙に、島われんきゃ教育ビジョンを今策定中ですが、掲載をいたしました。

その中で、議員が御質問の豊かな自然や希少動物と共生できるまちづくりを目指すということで、今御指摘にあったとおり、こっちに掲載をしております。

この内容については、このわれんきゃ教育ビジョンの大本になっているのが、例えば第6次の町の総合基本計画でありますとか、町の教育大綱でありますとか、これまでの本町の伝統的な教育文化でありますとか、様々なことを総合的にまとめて方向性を指し示したものです。

今後、町長と教育委員会で開催する総合基本計画も含めて、そこで最終的にまた確定をしていきたいというふうに考えております。今後、令和10年度までの5年間の方向性を一応示したものであるということで策定をしております。

この中で、先ほど申し上げましたことは、既にこの町の総合基本計画の中の徳之島町の目指す将来像の中に「We' re OPEN」というようなことが掲げられてあります。その中で、こういったようなことが書かれています。本町の10年後の姿ということで、将来を担う子供たちが、地域住民に支えながら、新たな夢や目標へ挑戦できること、島内外においていろんな経験ができること、豊かな個性や能力を最大まで伸ばすことができる町、そして豊かな自然や希少動物と共生する町というようなものが将来像の中に基本理念として書いてあります。

ですので、子供たちは将来に向けて、学校でもそうなんですけど、本町の教育行政の中心的に掲げる目標として、この豊かな自然や希少動物と共生できる町ということで、学校においては総合的な学習の時間とか、今回世界自然遺産にもなりましたので、そういったような世界自

然遺産の宝である、そういったのを学習をしながら、それから野外で体験活動をしなが、子供たちに持続可能な在り方を学ばせるというようなことで、掲げてあるというようなことでございます。

以上でございます。

○5番（竹山成浩君）

すばらしい、何て言ったらいいのかわかりませんが、やはり世界自然遺産登録になって、そうした希少動物も含めて、子供たちに伝統芸能とか、そういった自然も触れさせるような思いで、今後また頑張っていたきたいと思います。

少し時代遅れの感はありますが、私が子供の頃、昭和の時代です。おのおの小学校には飼育小屋があり、ウサギや小鳥やニワトリまでが飼育がされておりました。そして、餌やり当番や清掃係など、子供たちでやっていた覚えがあります。また池のコイやフナも見ることができました。そうしたことが情操教育にもつながっていったんじゃないかと、今になって考えるところでもございます。

時代の流れでしょうか。現在、本町の各小学校では、飼育小屋の姿はほとんど見かけませんが、どのような理由でなくなっていったのか、教えていただきたいと思います。

○学校教育課長（太 稔君）

竹山議員の御質問にお答えいたします。

以前は各学校のほうで鳥とか動物を飼っていたと思いますけども、鳥インフルエンザの発生や動物アレルギーとか、そういった観点、また教職員の働き方改革、そういった理由で現在は飼育しておりません。

以上です。

○5番（竹山成浩君）

鳥インフルエンザの大規模発生とか、様々な要因があつてのことだと思われませんが、動植物をみんなで愛情を込めて育てたり、先ほど教育長もおっしゃいました、伝統芸能や集落の行事に参加し、島唄や方言のよさを聞いたりして、感性や情緒を育てることも、情操教育や郷土教育にもつながると考えるところでございます。飼育小屋はなくても、豊かな自然や希少動植物と共生できるような学校づくりをまたよろしくお願ひしたいと思ひます。

次、2番目、通告書には児童生徒の体力テストの現状と表示されていますが、体力テストは各それぞれの学校で行っているとのことですので、本町における児童生徒の体力、運動能力など、現状と課題はないか、伺いたいと思ひます。

○学校教育課長（太 稔君）

竹山議員の御質問にお答えいたします。

議員のおっしゃったとおり、各学校のほうでは体力測定を行っております。主なものは握力

とか上体起こし、シャトルランとか持久走とか、そういったものを行っております。

教育委員会のほうでは、各学校のほうからそういった結果を連絡というか、徴収しておりますが、学校の測定結果については、抽出校として、今年ですけども、東天城中学校、神之嶺小学校のデータを県に提出しております。そして、県のほうで集計いたしまして、県が11月頃、全国の結果を2月頃公表されます。それを参考に今後、子供たちの体力に関して実施していきたいと思います。

以上です。

○5番（竹山成浩君）

それぞれの学校でそういった体力テスト、行われているということでお聞きしましたが、先月、下久志から井之川中へ、多分夏休みの出校日だったと思われませんが、朝、自転車で通学する生徒さんがいらっしゃいました。また、2学期が始まってから、井之川から徳和瀬方面へ夕方、自転車を降りて押しながら、二、三人で帰宅する生徒さんがいました。多分その二、三人の生徒さんは、多分部活の帰りだったんじゃないでしょうか。

今年の夏は防災無線で熱中症対策として、不要な外出は控えるよう呼びかけも多々ありましたので、徒歩や自転車での登下校をあまり見かけなかったのかもしれませんが、この生徒さんたちには非常に感心をしたところでございました。

私たちの、また昭和の時代というか、私たちの小学校、中学校の頃は雨降りでも傘をかぶって登下校がほとんどでした。

そこで、今の現状はどうなのかなと、お聞かせいただけないかなと思います。

○学校教育課長（太 稔君）

竹山議員の御質問にお答えいたします。

各学校のほうでは、体力をつけるためにいろんなことを取り組んでおります。一例といたしましては、中学校のほうでは週3回、朝ランを開始して、子供たちの体力をつけることを取り組んでいるというふうに伺っております。

以上です。

○5番（竹山成浩君）

それぞれの学校で体力をつけるためにランというのかな、学校で走ったり、日頃からやっている学校も見受けられます。それぞれの学校に方針の違いはあるかと思われませんが、日頃から歩いて登下校が基礎体力や精神面を鍛えることにつながるんじゃないかなと認識しているところでございます。今後、そうしたことにも取組を期待をしたいと思います。

次、3項目め、スポーツ振興について、質問に入ります。

先日、奄美スポーツアイランド協会の総会の内容が新聞紙上で掲載されておりました。令和5年度は、新聞のコピーなんですけど、課長にもお見せしたんですけど、令和5年度、団体数

が94団体、来島人数が1,335人、宿泊人数は過去10年で最多の1万4,200泊だったようです。交通の便や宿泊施設の容量、数、そういった関係上、同じテーブルでの比較はもちろんできませんが、本町においてのスポーツ合宿の受入れ実績を教えてくださいたいと思います。

○社会教育課長（安田 誠君）

竹山議員の御質問にお答えいたします。

令和3年度から5年度までのスポーツ合宿の受入れ実績についてお答えいたします。

令和3年度は2団体、延べ人数727名、令和4年度は6団体、延べ人数1,337名、令和5年度、6団体、延べ人数2,108名となっております。

以上です。

○5番（竹山成浩君）

課長、ありがとうございます。

プリントも先ほど私、頂いておりますので、実際の人数を確認させていただきました。奄美との同じテーブルでは比較はできないんですけど、徳和瀬の健康の森総合運動公園は、雨天時も練習可能な屋内運動場やトレーニング室など、すばらしい設備、環境が整っております。

本町にも徳之島スポーツアイランド推進協会、こういったパンフレットをつくっていらっしゃると思うんですけど、私は3町が一緒になっての運営だと思っておりましたが、町単で運営されているようです。当初予算で毎年100万の予算を計上して、3町であれば300万円近くの予算で運営かと勘違いしていました、恥ずかしながら。

今回のその内容を、今回の決算で140万円の決算額、140万幾らか、決算額が出ております。40万は補正で組まれたと思います。

事業内容にしても、宿泊される選手の皆さん1人につき1日1,000円か2,000円の補助があると聞いていますが、どのような事業内容なのか、担当課長、教えてくださいませんか。

○社会教育課長（安田 誠君）

竹山議員の御質問をお答えいたします。

助成金についてですが、宿泊延べ人数が20泊を超えた場合に補助の対象となります。それで1日につき1人当たり1,000円の助成を行っております。対象といたしましては、町内の宿泊施設を利用するというのが条件になっております。

以上です。

○5番（竹山成浩君）

20泊を超えた場合、町内の宿泊施設に泊まった選手等ということです。ありがとうございます。このように本当ほかにはないような、ほとんどないような、選手にとっては手厚い待遇がされております。

そうした予算のほかにも、誘致活動へ行くときのお土産品とか、もちろん担当職員の旅費も

ございます。新規団体への誘致活動にも、現在の予算では賄えないと思いますが、安田課長はどのように思われますか。

○社会教育課長（安田 誠君）

お答えいたします。

竹山議員がおっしゃるように、誘致活動は予算、旅費を組んでいただいています、3泊4日ぐらいで関西方面だったり、関東方面のほうに誘致活動を実施しております。その回数を増やすとかなると、また今の予算ではちょっと難しい部分もあると思います。

以上です。

○5番（竹山成浩君）

新しい誘致活動に、予算の倍とは言いませんが、予算増への検討もよろしくお願ひしたいと思ひます。

次、2番目の質問です。冬場の1月から3月ぐらいの間、社会人野球、大学野球、高校野球のチームが毎年来ていただいて、ほかの団体もあるかと思ひますが、なかなかグラウンドのほうの空きは取れないということでお聞きしております。

そこで、シーズンオフという言葉が適切かどうか分かりませんが、夏場に合宿誘致が可能なスポーツはないか、担当課長に伺いたいと思ひます。

○社会教育課長（安田 誠君）

竹山議員の御質問にお答えいたします。

今、鹿児島県内のほうに夏場で合宿に来ているスポーツといたしましては、サッカー、野球、バレー、ラグビーなどがあるようです。本町のほうでも、夏合宿の誘致等を行っておりますが、現状としてはなかなか難しい状況であります。

○5番（竹山成浩君）

つい先日、フランスのパリで開催されていたオリンピックでは、徳之島の二世や、二世の大会出場、それから見事金メダルを獲得した徳之島三世のアスリート、また徳之島に関係のあるパラアスリートとか、またプロ野球にしたら、夏場はペナントレース真っ最中ですから無理ですけど、現在一軍で出場している本町二世もいます。

そこで提案というか、あれなんですけど、手始めに2月、3月、代々木で行われているとくの島観光・物産フェアや、尼崎で行われている徳之島祭り、そういったイベントに、郷土会の方々の協力を得て、徳之島二世、三世のアスリートの方たちに祭りに実際に参加してもらおう。そして、誘致に向けての啓発や本町のイメージアップにつながるスポーツ合宿の振興を目指してみてもどうかと考えるところですが、高岡町長、見解をお聞きしたいと思ひます。

○町長（高岡秀規君）

郷土会へのアプローチというものは、非常に必要だと思ひます。まず、情報の共有が必要だ

ろうと。我々も二世、三世がどのような活躍しているかということが、なかなか情報が100%取れているかという、取れていないような気がいたします。

そして、また二世、三世でスポーツについて指導ができるかどうかとか、どういった内容で合宿が可能なのかどうかということも含めて、今後は検討して、郷土会ともそういったお話がありませんかというようなことを共有したいというふうに思います。

○5番（竹山成浩君）

何かしらつながりのある方がおられると思います。そうした方から接点を見いだすのもありかなと。また、ふるさと納税のPRや特産品のPR、担当職員も参加し頑張っていますので、合宿誘致へ、アバウトではありますが、そうしたイベントへ社会教育課の担当職員の参加もいただいで、誘致活動もやっていただけたらなと考えるところでございます。そうすることによって、スポーツ合宿の受入れ数も増えてくると認識するところでございます。

次、3項目め、最後の質問です。先月8月19日から23日の5日間、長崎県壱岐市において、第15回離島甲子園が開催されたようです。その大会に出場した選手の保護者と話をする機会がございまして、野球を通じて島と島の交流があり、人と人との交流にもつながり、素晴らしい大会だったとお聞きしました。

昨年は奄美群島日本復帰記念として、奄美大島で開催されたわけですが、来年は沖縄県の宮古島ですか、ちょっとその辺、はっきり分かりませんが、決定しているようですので、再来年以降、徳之島に誘致ができないか、率直に伺いたいと思います。

○企画課長（中島友記君）

竹山議員の御質問についてお答えいたします。

議員の言われたとおり、昨年の奄美大会に引き続きまして、今年度、長崎県の壱岐市で行われた大会に2回目として参加をさせていただきました。

結果としては、宮古島のチームに1回戦で敗退しましたが、宮古島のチームが準優勝したということで、結果としても5対3で負けたんですけど、本当にすごくいい試合で、また本当に選手間のチームワークというか、島内がワンチームとなって活躍できたということと、あと島外のチームとも物すごくいい交流ができたということで、本当に保護者からすごい感謝の言葉を頂いて、すごくこの事業に協力というか、実施したことについて、すごく本当に私たち事務局としても、すごくいい気持ちで保護者、また選手から本当にありがたいというお言葉を頂いたというのが、直属の感想であります。

本町に誘致はできないかということではありますが、まず大会を開催するに当たって、野球会場及び練習会場がそれぞれ4会場必要ということと、あと大型バス及び宿泊施設、駐車場、そういった関係の確保が必要となってきます。

そういうことを踏まえまして、参加者が今年度は選手だけでいいですと23チームの430名、

それに選手、監督、コーチ、そして帯同審判・保護者というところで言いますと、奄美市で開催されたときの新聞記事を確認いたしますと、約700名ぐらいが来島されていると、その大会に関して。そういったところでの宿泊施設や交通手段の確保というところが一番重要になってくると思いますので、3町連携して実施できるかどうかということ、今後協議していきたいと考えております。

以上です。

○5番（竹山成浩君）

地元、こちらで開催となると、非常にハードルは高いと思います。今課長がおっしゃったように、球場は4球場必要ということで、本町の総合グラウンド、伊仙町、BGとか、残り徳之島高校のグラウンドを借りたりとか、その辺はいろんなアイデアを出していただいて、相当な人数の関係者が来島が見込まれると思います。宿泊施設等も、今後いろいろ考えていってほしいと思います。

そこで、予選は南三島合同での開催とかで、準決勝、決勝を本町の総合グラウンドでやるか、いろんな知恵を出し合って、ぜひ誘致へ向けて頑張っていただきたいと思います。

応援に行かれた高岡町長、感想と誘致へ向けた見解があれば、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○町長（高岡秀規君）

主催の省庁は国交省になります。そこで以前、奄美で開催された折に、離島の甲子園をぜひ徳之島でできないかということでお話を頂いたのは事実でありまして、3町の首長がしっかりと同意を得られるかということと、あと予算等の問題もあります。

会場は恐らく4会場ですが、問題ないのかなと。我々が思っているよりも、あるものを利用するというのが離島甲子園ですから、その辺は問題ないかなと。

ただ宿泊について、当然離島ですので、全てがそろっていないということも想定はされていますので、その宿泊施設がしっかり対応できるのかどうか、送り迎えが大丈夫なのかどうか。例えば風呂がついていなければ風呂をどうするのかとか、そういったものを総合的に判断をして、3町の合意を得て、開催するかしないかを検討したいなというふうに思います。

○5番（竹山成浩君）

ありがとうございました。

今アメリカでは前人未踏の記録へ向けて、日本人の大谷翔平選手が多くの子供たちに夢と希望を与えています。ぜひ島の子供たちが野球を通じて多くの仲間たちと交流が広がり、みんなが徳之島のファンになっていただけるように頑張りたいと思います。

これで竹山の質問終わります。ありがとうございました。

○議長（行沢弘栄君）

次に、政田正武議員の一般質問を許可します。

○2番（政田正武君）

おはようございます。

先月24日、役場前駐車場において開催されたどんどんフェスタは、家族連れなど、多くの町民の皆様が来場し、非常ににぎわいました。また、庁舎1階も開放されており、多くの子供たちが楽しそうに遊んでいました。自治体の敷地内でのこういったお祭りは、全国でも初めてではないでしょうか。

庁舎建設の際に、建設場所については賛否両論ありましたが、災害時の避難場所としてはもちろんですが、町民の憩いの場としてのコンセプトもあったと思います。まさに今回のどんどんフェスタは、町民の憩いの場としての機能を十分に発揮し、現在の場所に建設したことは正解だったのではないのでしょうか。庁舎が市街地から離れた高台等にあれば、このように多くの町民が参加できず、盛り上がりにも欠けたと思います。

祭りはおもてなし観光課が協力して、連合青年団、商工会青年部が主催し、少ない予算で多くのボランティアを頂き、舞台ややぐらを設置していただいたそうです。

どんどん祭りが10月に移行して、8月の祭りがなくなり、町民の皆様も残念がっていましたが、このように若い人たちが発起人となり、町を盛り上げ、活性化につながるのは、本当ありがたいことだと思います。

来年は連合青年団、商工会青年部が主体となり開催する予定だそうです。もっと盛り上がるように、お楽しみ抽せん会のようなイベントなども開催できるよう、来年度は少し多めに予算を計上していただきたいと思います。

それでは、2番政田正武が4項目について御質問いたします。

初めに、予算の執行についてですが、令和5年度予算は、年度内に遅延することなく、迅速かつ適正に執行されたか、お伺いいたします。

○総務課長（村上和代君）

政田議員の御質問にお答えいたします。

予算の執行につきましては、当初予算及び補正予算にて必要となる予算を計上し、適正なタイミングで事業が実施できるよう努めております。また、イベント等の開催で、台風や自然災害等の影響を受ける場合については、その都度協議を行い、中止や延期等の判断を迅速に行っております。

○2番（政田正武君）

4月に四半期ごとの予算の配分を行っていると思いますけれども、例えば第1四半期、4月、5月、6月において執行すべき事務や事業を行わず、遅延して執行したという事例はありませんか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

年度当初に、今議員がおっしゃいましたように、四半期ごとの歳入歳出予算執行計画書を作成し、会計管理者へ提出しております。予定より遅延もしくは時間を変更して予算を執行する場合といたしましては、当初予算編成時期が12月から2月のため、価格高騰等により短期間で価格が変更し、また補正予算等で調製、予算可決後に執行することがございます。

以上でございます。

○2番（政田正武君）

当初で予算が計上され、四半期ごとの予算も配分されているにもかかわらず、事務や事業が遅延して執行されているのではないかと、議会でも度々指摘されていますけれども、そのようなことはないということですか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

現在のところはないと思いますが、またないようにこれからも努力していきたいと思います。

○2番（政田正武君）

ないということですので安心いたしました。今後も予算については、迅速かつ適正な執行をお願いしたいと思います。

次に、繰越明許費についてですが、地方自治法第208条に、地方公共団体の会計は、毎年4月1日から、3月31日に終わるものとなっております。自然災害等の発生や時事の影響による資材の納入遅れなど、事故繰越は別として、人為的な事務処理の遅れなどで繰り越すといったような事例はありませんか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

繰越明許費につきましては、国・県の補正予算による事業や災害復旧等の年度途中での予算化、また事業の実施などの場合、年度内に支出の終わらない見込みのものについて、繰り越して執行しております。

そのほか、近年の世界情勢や新型コロナウイルス感染症等の影響による半導体不足や資材の高騰等で、資材の確保や一部作業の遅れにつながり、繰越ししなければならない場合もございます。事業の執行並びに事務処理につきましては、先ほど御質問でお答えしたとおり、迅速かつ適正に執行しております。

以上です。

○2番（政田正武君）

建設課のほうはどうですか。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

建設課のほうも、総務課長の答弁とほぼ一緒なのですが、繰越明許につきましては、建設課の事業の都合から、道路事業は補助金追加補正分の確定が2月になるため、年度内3月での完了が見込めないことから繰越しとなります。

その他の理由としましては、計画、設計の諸条件や異常気象、用地の関係、また資材の入手が困難などで繰越しとなっております、事務処理の遅れで繰り越したという事例はありません。

○2番（政田正武君）

繰越明許費についても、正当な理由を持って繰越しされているということで理解いたしました。先ほども申し上げましたけれども、予算の執行につきましては、迅速かつ適正に執行していただきたいと思います。

本議会では決算審査もありますけれども、予算については当初予算、補正予算とその都度担当者、担当課長から丁寧な事前説明を頂いているわけでございます。その上で議会も承認しているわけですので、決算審査の際には同じ質問して、議員の皆さんは同じ質問をしていると、そういうことを課長に言われぬように、私たち議員もしっかり勉強して、厳しくチェックして審査してまいりたいと思います。

次に、交際費についてですが、以前から島外からの訪問者も、訪庁者も度々ありましたけれども、最近では特殊出生率日本一ということもあって、本町に来られる市町村や議会などの団体も増え、視察研修会後の懇談会も増えてきたと聞いております。

本町はおもてなしの町です。先方から懇談会の申入れがあれば、断るわけにもいきません。職員の負担軽減という意味でも、交際費または食糧費を復活させることはできないかお伺いします。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

今政田議員のほうからもございましたが、今年の4月に本町が合計特殊出生率日本一と厚生労働省から発表後、急激に行政視察が増えてきております。関係各課において、現場の視察であったり、意見交換会や懇親会など、各課長や職員も昼夜問わず対応をしている状況でございます。

交際費につきましては、地方公共団体の長、または他の執行機関の長の外部等の交渉をするための経費として位置づけられております。町長交際費として予算計上しておりますが、交際費と同様な食糧費につきましては、来客用のお茶菓子など、接待に対する経費として対応しておりますが、近隣市町村の取扱いなどを参考に、使途、目的を明確にした上で、職員の費用負

担軽減などを柔軟に対応してまいりたいと考えております。

○2番（政田正武君）

やはりこういった視察や研修会後の懇談会等は必要だと思うんです。お互い個人のネットワークも広がりますし、人を知るといことで、いろんな情報のやり取りができ、取得もできるといったメリットもあります。

私たちの時代は、研修会後の懇親会も食糧費として、公費としてあったんですけど、今の職員は全額自費です。若い職員も多いので、非常に負担になっていると思いますので、今回補正で食糧費を計上してあるようですけれども、来年度は令和6年度の懇談会の回数等、精査、把握して、しっかりと予算計上していただいて、職員の負担軽減につなげていただければと思います。よろしく願いいたします。

次に、徳和瀬グラウンドのプール横にあります多目的広場のバックネットについてですけれども、さびによる腐食で、金具はグラウンドに散乱しております。多目的グラウンドはサッカースポーツ少年団など、子供さんがよく利用されているんですけれども、非常に危険な状態になっております。

私もたまに利用させていただいているんですけども、そのバックネットの金具は針のようになっているんです。シューズを突き破っていることもありましたが、そういったことが度々、10年前ぐらいもあったんです。ですので、早急に撤去して、応急処置できないか、お問い合わせいたします。

○社会教育課長（安田 誠君）

政田議員の御質問にお答えいたします。

先日の政田議員からの指摘を受けまして、現場を確認し、散乱している金具等については撤去、処分いたしました。また、再度周辺の安全対策も行いました。

以上です。

○2番（政田正武君）

ありがとうございます。

撤去したということで、その後、応急処置としてビニールのネットとか、そういう処置は行わないんですか。

○社会教育課長（安田 誠君）

一応安全対策としての黄色の立入禁止のテープを貼ってあります。多目的広場のバックネット及びフェンスについては、建設課のほうで社会資本整備事業を活用いたしまして、今年度中に全面改修する予定となっております。

以上です。

○2番（政田正武君）

今年度中ということとは、時期的には何月ぐらいか分かりませんか。

○社会教育課長（安田 誠君）

建設課のほうから伺っているのは、10月ぐらいから着工の見通しだというふうに聞いております。

○2番（政田正武君）

10月頃に着工するというので、本当に速やかな対応ありがとうございます。

先ほど予算の執行についての質問でも、総務課長から予算については迅速かつ適正な事務を行っているという答弁がありましたけれども、改めてしっかりと予算を執行しているのだと実感いたしました。

次に、本町のラスパイレスについてでございます。

ラスパイレス、皆さん、御存じのとおり、ラスパイレス指数とは、国家公務員を100とした場合の地方公務員の給与水準を指数で示したものでございます。

令和5年度の本町のラスパイレス指数の鹿児島県内、奄美群島内における位置づけ、ランクはどのあたりなのか、お伺いたします。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

本町の令和5年度のラスパイレス指数につきましては90.7となっており、令和4年度と比較いたしまして1.0ポイント上昇しております。県内におきましては43市町村中40位、群島内におきましては12市町村中10位と低い水準となっております。

○2番（政田正武君）

県内43市町村中40位、群島内12市町村中10位という答弁がありました。全国で指定都市と中核市を除く団体は約1,660団体ありますけれども、過去5年間の資料を見てみますと、令和元年13位、令和2年17位、令和3年12位、令和4年18位、令和5年が25位となっております。非常に低い位置となっております。この数字は下から何番目という数字でございます。

総務省が出しております指数表がありますけど、下位団体50位という一覧表がありまして、その中に常に徳之島町は名を連ねております。10年前の平成25年度も16位となっておりますので、多分この数値は20年、30年、変わっていないものかと思うんです。

指数としましては、令和元年度が88.1、令和5年度が90.7で、2.6ポイント、5年間でアップしておりますけれども、令和5年度の県内の平均が94.4ポイント、本町の場合、これより3.7ポイントも低い水準となっております。

これを金額をざっと計算したんですけども、大体月約1万4,000円弱ぐらい、県内の平均より低い数値になっていると思うんですけども、いずれにしましても、伊仙町、与論町、徳之島町のこの3町、下位を独占している状況でございます。非常に低いポジションに位置していま

すが、この現状について、総務課長はどうお考えでしょうか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

政田議員も元総務課長でしたので、中身のほうをよく詳しく御存じだと思いますが、本町のラスパイレス指数につきましては、県内はもとより、全国的に見ても低い水準となっております。

このことにつきましては、以前から町財政の影響を考慮し、人件費の抑制に取り組んできた影響が大きいかと考えております。

以上です。

○2番（政田正武君）

今総務課長からありましたように、健全な財政を維持するために、人件費等の抑制などの施策に取り組んできて、町の借金も年々減少してきたと思いますけれども、現在、少なからず職員の給与に影響を与えているのも事実だと思います。

こうして全国、県、郡と比較しても、非常に低い位置にあります。高校卒業して大学、短大、専門学校などで学んで、島に帰り、町民のため、町のために貢献したいと思い、夢と希望を持ち、本町に入庁してきたと思います。また、安定した職を求めて、役場を選択したと思います。

町長は新採用の入庁式の際に、役場職員は町民に対し質の高いサービスを提供する。その対価として給料をもらうわけである。役場職員として自信と誇りを持って、町民のために一生懸命業務に当たってほしいとおっしゃっております。

先ほど竹山議員から昭和の話もありましたけれども、前にもお話しいたしましたけれども、私が勤務していました昭和の親方日の丸の時代、メリヤスにランニング、作業ズボンに膝までまくり上げ、ゴムスリッパといった格好、そして勤務時間中にパチンコや食事、そういった事例も本当になくなりました。

以前、先輩議員から職員の服務について、議会でも度々取り上げられ、指摘されておりました。現在では服務規定もしっかりと遵守され、勤務態度も大幅に改善されております。昨今、町民の監視の目も非常に厳しくなっている中、職員の皆さんは自信と誇りを持ち、町民のために一生懸命頑張っておられると思います。

令和5年度のふるさと納税も4億3,000万近くですか、ありました。そして特殊出生率日本一にも輝きました。そのほか農業、教育、福祉と町長が掲げる施策について、忠実に業務を遂行し、すばらしい成果を上げていると感じております。

地方公務員法第24条第1項、職務給の原則、職員の給与は、その職務と責任に応ずるものでなければならない。同条3項、24条3項、均衡の原則、職員の給与は、生計費並びに国及び他の地方公共団体の職員並びに民間事業の従事者の給与その他の事情を考慮して定めなければな

らないとされております。これらを踏まえ、今後改善していくというお考えはありませんか、総務課長。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

昨今の物価高騰、また人口減少等による公務員の成り手不足などの解消など、人事院勧告に伴い、国家公務員に準じて地方公務員も給与表の改定なども行われているところでございます。

今後の改善等につきましては、町財政の影響も考慮しなければなりません。実際に給与改定、ヒアリング等におきましても、給与が低いということは、県のほうからも言われておりますが、まず、初任給が現在のところ、少し低いのかなというところがございます。初任給や昇格、そして昇給などの見直しなど、今後検討していかねばならないなと今考えているところでございます。

○2番（政田正武君）

人勧での給与改定も行われていますけれども、他の市町村も一緒に改定されていくわけなので、全国、県、群島内での低い位置というのはずっと変わらないと思うんです。この格差でいきますと、生涯、総所得は多分五、六百万と言わずに七、八百万、1,000万近くまで開いていくんじゃないかと思えます。

財政的にも非常に厳しいとは思いますが、どこかのタイミングでベースアップをしていただいて、せめて鹿児島県の平均指数くらいまでには近づけていただければ、職員のモチベーションも上がると思えます。私も何十年も、このラスパイレス指数を見るたびに、本当にモチベーションが低くなっていったことを記憶しております。

給料を上げて、職員のモチベーションも上がって、町民へのサービスの質も向上し、本町にとってもプラスになると思えますし、条例の改正等いろいろあると思えますけれども、前向きに検討していただきたいと思えます。

先ほど総務課長から公務員の成り手不足という話もございました。若い人たちが夢と希望を持てる、魅力ある徳之島町役場であってほしいと思えますので、このラスパイレスについては熟考をお願いして、なるべくベースをアップしていただけるようお願いしたいと思えます。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。11時25分より再開します。

休憩 午前11時10分

再開 午前11時25分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、内博行議員の一般質問を許可します。

○1番（内 博行君）

こんにちは。

徳之島を愛する熱い思いで、活気ある農業、活気あるまちづくり、活気ある徳之島にしたい、全力で取り組んでいきたいと思います。座席番号1番内博行の一般質問を行いたいと思います。

1項目め、農業振興についてお伺いします。

京都に1,200年続く老舗企業へ中国の起業家たちが視察をしに来るという、ドキュメンタリーの番組がありました。その中で京都の老舗社長が、企業とは環境適応業だ。環境に適応したものだけが生き残る。イギリスの生物地質学者チャールズ・ダーウィン、「ダーウィンが来た！」でも知られている、チャールズ・ダーウィンさんの言葉にあるそうですが、強いものだけが生き残るわけではない。大きなものだけが生き残るわけではない。環境の変化に適応できた生物だけが生き残った。会社も同様に、企業環境の変化に対応できたところだけが生き残るとありました。

町政にも通じる場所があると思います。徳之島町でも人手不足、肥料、飼料、資材の高騰など、課題は山積していますが、スマート農業の活用や、海外労働者を雇用し、今、何ができるか、これから何が必要なのか、町一丸となって取り組んでいかなければならないと思います。

スマート農業への本町の取組をお伺いしたいと思います。よろしくお願ひします。

○農林水産課長（高城博也君）

ありがとうございます。本日もよろしくお願ひいたします。

内議員の御質問にお答えいたします。

スマート農業への取組ということですので、本町においても町単独事業として、ドローン散布を園芸のほうで行っております。さとうきびにおいては、まだドローンでの除草剤散布の許可が下りていないため、現在はチンチバック駆除用でスミチオン乳剤の散布のみができるというふうになっております。今後、これらを考慮し、株出し対策等で何らかの方法ができないかということは今後検討していきたいと思っております。

また、南西サービスのほうでも、営農システムK S A Sの導入を行い、圃場台帳の整備、作業記録、進捗状況などが見える化し、管理業務の負担軽減を現在行っているところであります。

本議会でも予算計上しておりますけども、県単事業においてトラクターに搭載する自動操舵システムをさとうきび農家が今後、今年度導入する予定で、農家においては今後事業を活用して、積極的なスマート農業を進めていってほしいと現在考えているところであります。

○1番（内 博行君）

スマート農業とは検索すると、機械化であったり、システム化であったり、機械といえどロボット、システムであったらA Iであったり、インターネットと物をつないで、先ほど言わ

れた自動操舵などを使ってされることって結構出てくるんですけど、今回システム化のほうをいろいろ聞きたいなと思っていて、人手不足解消もできますし、新規参入の農家さんのハードルを下げるといふか、自動操舵というのは真っすぐ走るといふ、GPSとつないで走っていることなんですけど、どうしても若い子たちにトラクター乗って、さとうきび植え付けていいよ、じゃがいも植え付けていいよと言ったら、曲がったりすると、曲がっているよって、ちょっと恥ずかしいから自分ではしたくないとか言ったりするんです。

そこら辺がなく、南大東のほうに視察行ったときも、去年まで、去年Iターンで南大東に来られた方が、100町歩ぐらい、さとうきび植えていたんです。全然自信持って。その代わり全部機械化、人が要らなくなるかっていうと、そうではなくて、けがであったりとか事故があったり、絶対、人間が要らなくなるのはまだまだ先の話で、真っすぐ走ったり、簡素化できていることが、そういうシステム化の必要な問題で、南大東のほうは畑が、本当に1つ10町歩の畑があったりとか、畑の違いはあったんですけど、このシステムの導入は、若い子たちが入りやすかったりとか、そういうスマート農業ということも、南大東の方も言っておられました。

その中で、南大東で視察した際に、役割分担がされておまして、さとうきびを収穫する農家さん、管理する農家さん、植付け作業する農家さんと役割分担がされており、限られた面積で最高のさとうきび作りができておられました。

そして、徳之島の農家の主体って、伊仙町のほうで大竹さんとかもいろいろ作って、そのときの会話の中にもありましたが、農地の集積面積に応じて機械が導入できるというシステムがありまして、1つの農家さんが、私もハーベスターとか、植え付けたり管理作業する機械を持っているんですけど、さとうきび収穫しているときに、全ての作業が重なってくるんです。1月から4月までの作業が重なってくるときに、どうしても適期作業の遅れにきっかけになってしまったりと、農地の集積面積の壁を取り除き、誰もが参加しやすい農業環境を整えることも、スマート農業の一環だと思いますが、どう思われますでしょうか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

集積の面積というのは、恐らく機械の導入の下限面積、導入面積のことだと思いますけど、確かにこれは何十年も機械の機種によって制限があって、これらの要望があったことは、事業導入の際に、上のほうにまた機会があればつなげていきたいと思います。

また、それとは別に、南大東ということでありましたけれども、畑の圃場の形状、よく御存じだと思いますけれども、徳之島の場合は3反から、国営で大きなところでも5反、また形状に関しましては、勾配は、ある程度は畑地ということで、以前水田から転換、またやめたために、畑地を整備するために、ある程度の勾配がついてしまっております。

そういったときに、恐らく機械を直接乗る方がいっぱいいらっしゃると思うんですけども、

非常に機械操作に関してはリスクが伴うと思います。私も機械は乗りますけれども。ですから、完全自動操舵というふうには、正直言って徳之島ではないのかなと同感で思っております。

ただし、その畝の取り方は、直線的にちゃんときれいにやるような方法を取るためには、やはりGPS等を利用したものも、両方でやっていく必要がある。また、それによって圃場、スマート農業の導入も図れるし、また農作業者の技術の向上も十分図っていけると思いますが、そういった面でいろんな技術面のことも考えて進めていながら、またつないでいけるものは、現状、地域に合ったスマート農業の推進の仕方をお願いしていきたいと思っております。

○1番（内 博行君）

分かりました。今回自動操舵の申請されている方、何名ぐらいおられるのでしょうか。

○農林水産課長（高城博也君）

申し訳ありません。資料を準備しておりませんで、後でまた報告いたします。

○1番（内 博行君）

座談会などでも、自動操舵の推進などをまたよろしくお願ひしたいと思ひます。

（2）の繁忙期の外国人労働者受入れ体制のほうをお伺ひしたいと思ひます。

外国人労働者が来るに当たって、前回は質問したんですが、住居、ネット環境の確保が難しく、北部地区振興などに活用されている空き家ラボなどを利用できないかという声がありましたが、空き家ラボを活用するに当たって、町民でなければならないとかいう、そういった条件などはあるのでしょうか。

○花徳支所長（尚 康典君）

内議員の御質問にお答えします。

町民でなければいけないという要件はございません。

以上です。

○1番（内 博行君）

分かりました。であれば、外国人労働者が、借りる方が日本人であれば、外国人労働者でもいってことでしょうか。

○花徳支所長（尚 康典君）

お答えいたします。

今うちは花徳支所のほうで行っている事業としまして、今言いました空き家ラボで行っている事業は、北部地区の空き家流動化推進事業であります。これは空き家を結局推進するために、空き家活用事業者が大家となって、家賃の負担を低減する、サブリース方式による空き家の活用を行っているものでございます。

それによりまして、結局、実際今、サブリースで今借手を募集する物件はあるんですけど、実際これは移住定住促進が一応目的であり、期間限定とかではないので、実際もし外国人労働

者が借りたいとなった場合は、空き家活用事業者や、また家主の大家さんとも協議が必要になってくると思いますので、その辺が大事だと思います。

以上です。

○1番（内 博行君）

大体12月から4月ぐらいの間隔だと思うんですけど、期間だと思うんですけど、それでもし空き家主さんがオーケーが出れば、外国人労働者でも借りれるってことでしょうか。

○花徳支所長（尚 康典君）

それはそちらの実際、今やっているサブリースの、結局空き家活用事業者と大家さんと、また借主の交渉次第だと思いますんで、そちらのほうでまた話していただいて、それは可能かどうかになると思います。

以上です。

○1番（内 博行君）

分かりました。今、何件ほど北部のほうは空き家ラボで登録されている民家があるのでしょうか。

○花徳支所長（尚 康典君）

今現在でございますと、サブリースで空き家ラボが借手を募集している物件が5件ございまして、今家主と交渉中のサブリースの予定物件が4件ございます。

○1番（内 博行君）

分かりました。このような空き家ラボのような事業は、これから計画されておられるのでしょうか。

○企画課長（中島友記君）

空き家対策事業といたしまして、本年度から企画課で実施する計画につきましては、空き家対策総合支援事業ということで、まずは徳之島全町、町内における空き家の実態把握から開始いたしまして、次年度以降、空き家の所有者に対して活用するか、例えば危険空き家に対しましては除去するかといった聞き取り調査を行いながら、空き家を有効活用する方には、有効活用する支援を実施する内容で整備を進めていきたいと考えております。

あと除去に関しても、一応補助が出るということで、この総合支援事業を実施する予定であります。

以上です。

○1番（内 博行君）

海外の方が、皆さんもコンビニとかで、本土のほう行きますと、ほぼほぼ海外の方がレジに立っている方が多いと思いますが、離島ということで、海外の方が来るとちょっと驚いたりとかする方もおられると思います。

そういった海外から来た、この間も言いましたけど、コミュニティー、いろんなあれをできたらなと思いますので、そこら辺もまた来た際は、今はインドネシアの方が多いらしいんですけど、中国、インドか、アメリカも、次はインドネシアの方が世界でも多いということなんで、その方々が本土に帰って、徳之島はよかったとか、そういったことが出るように、徳之島でもおもてなしの形で、働きに来てくれる方に対しても、手厚くやってもらえたらありがたいと思います。よろしくをお願いします。

その中で、3項目めに行きたいと思います。農地集積化、農振除外区域の見直しについてお伺いします。

赤土ばれいしょ、さとうきび、牧草地、園芸作物など、農地の特性に合った集積化が本町で行われているか、そういった取組があるか、お伺いしたいと思います。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

農地の集積については、新規就農者、認定農業者、経営による経営改善計画書作成時に、経営拡大、作業の効率化を行い、向上を目指すということになっておりまして、その作物によって集積を図るというふうな御相談のほうは、農林水産課のほうでは受けておりません。ただし、そういったものがあれば、十分窓口として相談していくということは可能だと考えております。

○1番（内 博行君）

さっきのシステム化の形なんですけど、AIやインターネットと結びつけるという、KSASであったり、いろいろネットでその畑を検索することもできまして、最近。今まで夏植えとか春植えとかを、作付面積を確保しようということで、どうしてもなんですけど、この間、さとうきび部会の中でも、夏植えでなぜそれだけ単収が低いのかとかいう話がありまして、理由を一人一人立って発言してもらっているときに、春植えだと水はけが悪かったりとか、夏植えまでに土づくりをしたりとか、そういう事業があるから、荒れている畑だけど、開拓して事業に乗せてしようとかいう形があるということで、どうしても現状使いにくかった畑が、そういうところに入ってきて、どうしても次の、1回目の収穫がよくても、2回目が厳しかったりとか、どこにそういったお金を補助事業として組んでいくかというのも、こういった集積化、土の特性、農地の特性をネットとかで蓄積することで、そういった次の農家さんの苦勞とか、借手も新規参入で入ってきて、農地を借りれた、集積ができたで入ったら、なかなかつくれなかったで、それで機械導入したけど、機械代を払いにくくなったとか、そういった面がいろいろあって、もう少し、もう一步踏み入った、明日、あさってのことじゃなくて、来年、再来年、10年後のためにも、この農地のデータづくりというのは大事じゃないかなと思っております。そういったデータづくりも、ぜひこれから取り組んでいってもらいたいなと思っております。

それでは、農振除外区域の見直しは5年に一度と聞いておりますが、最終見直しはいつ頃さ

れたのか。また、次回の予定などをお伺いしたいと思います。

○農林水産課長（高城博也君）

まず、御質問にお答えする前に、先ほどの機械の導入に関して、現在、民営、民間のほうでは3台程度入っているようであります。今年度、農家のほうで1台を導入するということでもありますので、先ほどの質問に対して御報告申し上げたいと思います。

まず、農振地域の見直しでありますけれども、これは令和4年確定でやっております。これは昭和時代からやったやつを、令和4年にある程度新しいものとしてできておりました。その後、5年に1回、見直しということでやりましたけれども、なかなか見直しができない状況。さらにまた、十何年間でできなかったものをやったんですけれども、承認をいただけなかったと。そのまま令和、一番新しいので言えば平成4年です。令和4年じゃなくて平成4年です。平成4年のものがまだ生きているというふうな形です。

私も昔から担当して、これまでやった経緯もあります。その都度、見直しをさせてくれというふうな形で、その当時から上のほうにはつないでいたんですけれども、なかなか事業が入らないとできないような金額になっておりますので、今後は必ず早急にでも必要だとは考えています。

なぜこの農振の見直しが必要かという、やはり都市計画の関係とか、非常に宅地化、市街化、いろんな計画の中でまちづくりをする意味で、非常に農振地域に入っていると、これを除外するのに相当の時間を、二、三か月、3か月ぐらいかかってしまうと。

ましてや、ある程度、こうやって制限しなきゃいけない農用地もありまして、確実に今で現状に合ったものをやるために、確実に数年のうちにはやっていかなきゃいけないんだと、いけないのではないかなと非常に、これまでこの関係に20年余りこうやって関わっておりますけれども、非常にそこら辺は重要視を持っております。

何分にも予算がかかりますんで、予算との相談です。予算と、またこれを見直しをするためには農振地域、農業振興地域の整備に関する法律、その中の業務内容をある程度、数年にわたって熟知していないとできない案件であります。

以上です。

○1番（内 博行君）

見直しすることによって、ターゲットがどういうところにある、どういったものが農地であって、農地じゃないというのは分かると思うんで、ターゲットを絞るということでも、農地の適応利用に関しても、そういった農振内、農振除外というのをちゃんと知ってもらって、農地を大事にしていってもらえたらなと思います。

それでは、4項目めのクロウサギによる農作物被害状況、対策を伺いたいと思います。

北部方面でクロウサギによるさとうきびの新芽とか食べてしまうらしくて、被害が出ている

という報告がありました。本町ではどれほど把握されているのか、お伺いしたいと思います。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

令和5年度野生鳥獣による農作物状況調査によると、本町のクロウサギによる被害は、さとうきび及び果樹で36アールとなっております。ただし、この数字は報告のあった関係機関並びに報告のあった面積でありまして、実質上、私のほうに届いているものでは、かなりの面積が出ていると思っております。

実際に現場のほうもありますし、範囲が、これまで数年にわたって生息範囲が広がり続けているということでもありますので、これは度々、私も奄美群島の農政課長会の中で、もう5年、6年前からずっと言い続けているところであります。

この問題に関しては、まず推定頭数の修正と生態系の維持を、こうやって現状を維持するためには、どれぐらいの頭数がおればいいのか。これまでこうやってやってきた防除計画に対してプラスアルファ、何か方法を事業として取り組ませてくれるように、常に鹿児島県のほうには要望しております。

○1番（内 博行君）

分かりました。それでは、具体的な被害対策はまだできておられないということでしょうか。

○農林水産課長（高城博也君）

クロウサギに関しましては捕獲というのはできない。天然記念物であるんで触ることもできない。ということは農家のほうからは、そこに侵入を防止せざるを得ない状況である。

環境の面から言って、期ごとに保護というふうな話もあったんですけど、農家にしてみれば、それだけの労力かけるわけでもないの、防護の防護柵等の網目の小さいやつとか、そこら辺をやはり検討しなきゃいけないし、町単ではなかなかそこまで、今イノシシの柵はあるんですけど、そこまで導入できないんで、徳之島町は大島郡でも二つ、2町村ですか、防除計画のほうにクロウサギの被害も乗つけて計上しておりますので、そういった意味で、県並びに国のほうでも真剣に向き合って、こういうふうな防除対策の事業を採択していただけないかなど、話は持ちかけております。

○1番（内 博行君）

分かりました。5項目めの畜産ヘルパー事業の周知、活動実績をお伺いしたいと思います。

これまでも除角であったり削蹄であったり、ヘルパー事業は行ってきましたが、9月から子牛の運搬で、登録検査の牛を運ぶときも適用できるということになりましたが、広報など周知活動などは、これからされていく御予定はありますか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

本町における畜産ヘルパー事業は、徳之島町肉用牛ヘルパー組合が事業主体となって行っております。会員のほうは、町内の肉用牛飼育農家で構成されており、事業の周知については、当組合員より行われております。

現在実施されている主な活動は、肉用牛の削蹄及び除角のヘルパーが事業として実施されております。ちなみに、令和5年事業実績は、削蹄が1,727頭、除角が338頭となっております。

令和6年は4月と言いましたけれども、9月から運搬も対象として取り上げているということで、競りのときには、競り並びに登録検査のときに、運搬業務にヘルパーの対象事業として現在実施しているところであります。

○1番（内 博行君）

こういった畜産にはヘルパー事業あるんですけど、さとうきびの忙繁期とか、じゃがいもの収穫のときなどにも活用できるような事業というのは、県のほうではないのでしょうか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

自分が認識しているところでは、なかなかこれとはっきりとしたものはございませんけれども、調整事業としては、さとうきび生産対策本部がやって、また南西サービスとか調整センター、例えばトラクター等の調整センターがそれをある程度担っているのではないかなと思っておりますけれども、これにもいろいろ、いろんな課題がありまして、以前からこれを言いかけているのも、昔から、ハーベスターが導入された当初から、農協さんのほうに調整センターらしきものがあったり、その当時も南西テクノさんがやったり、なかなか軌道に乗ってないという現状があります。

その当時、私も農業委員会等にもいましたので、そのときにもやはり農業公社、そういった意味で、そういった体制づくりも、ソフトの関係として本格的にやるべきじゃないかということをお願いして、現在に至っています。

ですから、この調整センターを何らかの形で改善しながら、情報提供、営農集団、ばれいしょ及びさとうきび農家に機械の作業等を有効活用できるような方法で持っていきたいと考えております。

○1番（内 博行君）

そういった面をデータ化をして、ネットなどを使い、人手が余っているところをこっちに行く、こっちに行って、足りてないところに行くという形で、見やすく、皆さんが分かりやすいような情報提供ができればと思います。それもスマート農業の一環だと思いますので、ぜひ御尽力をいただきたいと思います。

また、スマート農業と言いながら、僕もちょっとスマートにならなきゃいけないと思っておりますが、お昼御飯も近くなってまいりまして、お腹が空いてきております。12時まで頑張っ

てくれと言われましたが、なかなか話がスマートですみませんでした。

これでちょうど時間となって、町の活性化に向けて皆さんで頑張っていきたいと思っておりますので、これからも頑張っていきましょう。内博行の一般質問を終わりたいと思っております。ありがとうございました。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。13時30分より再開します。

休憩 午前 11時54分

再開 午後 1時30分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、木原良治議員の一般質問を許可します。

○13番（木原良治君）

皆さん、こんにちは。

お疲れさまです。昨日からの一般質問、今日で2日目、4番目に登壇します。今しばらくお付き合い、よろしくお願いいたします。

一般質問には、3項目事前に通告しております。中学校の現状についてと公共下水道事業について、そして不納欠損について、3項目です。早速、一般質問に入ります。

各中学校の生徒数と今後の推移を伺います。

この後の一点一点、質問席から詳細については問うていきます。よろしくお願いいたします。

○学校教育課長（太 稔君）

木原議員の御質問にお答えいたします。

令和6年度の中学校の生徒数は、尾母中学校3名、亀津中学校207名、井之川中学校23名、東天城中学校41名、手々中学校2名、合計で276名です。

今後の推移に関しましては、中学校全体で微増で、令和10年度は320名、それ以降は少し減少いたしまして、令和14年度は269名と予想されます。

以上です。

○13番（木原良治君）

6つの中学校の中で山中学校が数字的に上がってきていないんですけど、この山中学校、今年度は休校ということで伺っていますが、来年はどのように決定しているんですか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

山中学校は、令和6年度、令和7年度の2年間は休校となっております。

以上です。

○13番（木原良治君）

各5つの中学校の生徒数は今述べていただきました。その学年、各中学校の学年の生徒数、これはなぜかという複式学級があると思いますけど、その現状ちょっとお伺いします。もしありましたら、なければいいんですけど。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

複式に関しましては、尾母中学校が複式となっております。

以上です。

○13番（木原良治君）

手々中学校は、1年、2年、3年と各学年ごとにクラスがあると認識していいんですか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

手々中学校は、1年生2名ですので1クラスとなっております。

以上です。

○13番（木原良治君）

次に、部活動のほうに行きますけど、各部活動、各学校単位での部活動があるところもありますよね。そうでないところ、部活動、連合チームとか合同チームとかで部活動をやって、そして試合に臨んでいる学校等がありましたら述べてください。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

部活動に関しましては、亀津中学校が9団体、井之川中学校が3団体、東天城中学校が2団体、手々中学校が1団体となっております。井之川中学校、東天城中学校は、ほかの学校と合同で試合に臨んでおります。

以上です。

○13番（木原良治君）

この合同でチーム組んで、そういう連合チーム、これはそれぞれの学校のほうから部活動、担当者が合同で参加している、生徒も参加していると、そういう受け止めていいんですか。各学校合同チームがありますよね、連合チーム。それは、それぞれの生徒が参加するのは分かるんですけど、その指導者の参加というのはどのようになっているんですか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

各学校に指導者がいらっしゃる学校もありますし、また不在の学校もあります。各学校で、例えば井之川中学校でしたら井之川中学校、また合同しているところと東天城中学校であれば

交互に練習をしている状況です。

以上です。

○13番（木原良治君）

手々中学校のほうに部活動はあるということで今お聞きしたんですけど、2名の生徒がどのような形で部活動に参加しておられるのか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

手々中学校は、バドミントン部でございまして、担任の指導者が1名いらっしゃいます。

以上です。

○13番（木原良治君）

次の人的交流等に行きますけど、やはり中学校、学習面のほうにも重なってくるんですけど、やはり成長期の中学の3年間、思春期といわれています。多感な3年間において、人的に、人と人との、先輩、後輩、もしくは同輩との付き合いは、つながりは、その中学校卒業してから生きてくるんです。ですから、少人数の生徒たちに対してどのような配慮というか、教育的な配慮。いい意味での競争心、切磋琢磨する環境というのはある一定の人数がいなければなかなか競争心とか切磋琢磨する闘争心が出てこないと思いますけど、これに対してどうお考えですか。

○教育長（福 宏人君）

議員がおっしゃるとおり、文科省の考え、私どもの考えもあれなんですけど、やっぱりこの子供たちの人数によって適正規模と適正配置という基本的な考え方が文科省から示されております。やっぱり集団の中で多様に触れ合ったり、認め合い、協力し合ったり、そういったようなことで、これは部活も一緒だし学習も一緒だというように考えています。

国は、小中学校の学校規模について標準というのを定めております。学校教育法施行規則によりますと、小中学校とも12学級以上18学級以下が一応適正規模というふうに示してあります。つまり、常にクラス替えができる学校、それが一応適正規模となっております。

この適正規模に照らし合わせると、本町では、亀津小学校が各学年2学級の12学級と、亀津中は6学級ということで、唯一、亀津小学校がいわゆる国の適正規模というのはもう亀津小学校だけです。

ただ、やはり離島僻地におきましては、小規模の学校についても、地域との兼ね合いも含めて、そういったような規模で、ほとんどがこの日本、4割以下が適正規模にない学校が多いです。

ですので、そういったような少人数であってもデメリットをなるべく縮小して、メリットを拡大するように、子供たちの交流も含めていろんな施策を進めているところです。

例えば、これは中学校ではないんですけど、小学校であれば、本町がやっている遠隔とか交流授業とか、ICTを使ったものをなるべく多様な子供たちと意見交換ができて、そういったようなものを進めてまいりましたが。

ただ、今後やっぱり急激にというか、令和12年度の統計を見ますと、やはりこれからは子供たちが少なくなるということで、やはりある程度の適正規模とかそういったものを考えていく時期に差しかかっているということで、教育委員会も含めていろんな検討をしていく必要があるのかなと今考えているところでございます。

以上です。

○13番（木原良治君）

小学校に関しては、全然取り上げることもないんです。ただ、今回取り上げたのは、現在、東天城中学校が建設中であり、今年度中に完成をします。そして、今年度中に新校舎での授業も始まると。それを受けて、東天城中地区の手々中、休校している山中、東天城中、この3つの中学校の在り方についてどのように考えていますか。現在、東天城中学校が建設中、完成間近に控えて、どう受け止めていますか。

○教育長（福 宏人君）

お答えします。

議員がおっしゃるとおり、小学校においては、そういったことで様々な今対策を取っているところです。今回、今、東天城中学校を建設しております。今年の12月には新校舎の部分が出来上がって、一部引っ越しを進めると。あと、また本体工事等いろいろと、プールとかグラウンドのものも含めて、令和9年度から本格的にスタートできるというふうに考えています。

そういったのも踏まえて、令和2年4月に幼小中学校の学校の再編の在り方について一応最終答申が出ております。この中で、方向性としては統廃合という形でなく、現状のままでというような形に出ています。その中で、例えば新たに学校はそのまましながら、施設分離型の学校の在り方とかそういったものを検討しながら、この答申の中には東天城中学校を新たに建設する場合に、将来、このように書いてあります。東天城中学校、山中学校、手々中学校を統合した場合も考慮した設計というような形で、この最終答申の中には盛り込んであります。今後、そういったような方向性を含めて協議を行う必要があるのかなというように考えています。

現在、午前中にありました島われんきゃ教育ビジョンの中で、学校の魅力化と一緒にプロジェクトという中で、この中でもこういったような学校の、小学校も含めて中学校の在り方を今後どうするのか、そういったような一応方向性を示してあります。現在、学校運営協議会を令和4年に設立し、各学校に学校運営協議会がございしますが、この学校運営協議会は、各学校に設置してその学校の在り方とか施設整備の在り方も含めていろんな意見を出していただいて、今後、自分の学校の在り方をどうすべきかということで今意見をいろいろといただいていると

ころです。

今年6月に開催しました合同の研修会の中でも、今後、本町における中学校、小学校も含めて学校の在り方をその答申を含めてどういったような検討をするのか、今いろんな意見をそこで出させていただいているところでございます。

以上です。

○13番（木原良治君）

令和2年に学校再編に関する答申がなされました。それは相当な時間をかけて答申がなされました。その中で、東天城中学校の校舎建設に配慮をした、再編に配慮した新校舎建設としっかりとうたわれているんじゃないですか。

○教育長（福 宏人君）

先ほどの繰り返しになりますが、そういったようなことで、方向性としてはそういうような考えているところです。

現在、山中は2年間休校ということで、山校区におきましては、学校の在り方の、今後山校区の小中学校を含めてどういったような方向性に進むのか、そういったことを今2年間にわたって住民の皆さんにアンケートをしたり、学校運営協議会で話し合いを進めて、小学校と中学校の在り方をどうするのかということで今話し合いをしながら、最終的に在り方検討委員会から要望書を出していただくというようなことで話を進めているところでございます。

手々におきまして、留学センター等も今ありますので、今後のスケジュールといたしましては、本年度から来年度にかけて、中学校も含めて学校をどうするのか、学校運営協議会の皆さん、それから地域の方々も話をしながら進めてまいりたいというふうに思います。

国の法令によりますと、統廃合も含めて、最終的には設置者である自治体が判断をするというふうになっています。その前に、住民の皆さんに説明とか学校関係者の説明というのがございますので、そういったものを含めて、6、7年度には方向性をきちっと決めて、8年度からは一部スタートを考えていきたいというふうに、今、定例教育委員会も含めて総合教育会議の中でも進めてまいりたいというふうに考えています。

以上です。

○13番（木原良治君）

やはり、学校再編に関する答申が令和2年度に答申がなされてからもう4年経過していますよね。そして、そろそろ東天城中学校も完成に向ける。そして新校舎での授業も始まる。その後にはプール建設がある、グラウンドも整備する。あと1年から約2年ぐらしかかるんです。その間に、答申の重みをしっかりと受け止めて、避けては通れない課題だと思います。ですから、奄美のそれぞれの市町村においても、学校の再編等に関していろいろ答申がなされて、実際に在り方検討委員会の答えが首長のほうに出されています。ですから、そういう答申がなされて

からの4年間、あと完全な完成まで2年かかるんですけど、そういう重みを受け止めていってほしいと思います。

それは、課長がリーダーシップ取るのか、教育長がリーダーシップ取るんですか。

○教育長（福 宏人君）

ありがとうございます。

この学校のそういったような再編とか統廃合も含めて、今、人口減少の中で様々な政策をしなければいけないということで、本町としては、先ほど申し上げましたとおり、町長と教育委員会が総合教育会議というのを年3回をしております。今の答申の内容についても、また町長とも意見を交換しながら、教育長がリーダーシップを発揮するようというふうな、教育委員会のそういったようなものもありますので、非常に様々な多様な問題を含んでいますので、やっぱり私がこのリーダーシップを取って、教育委員会そして総合教育会議を通して推進する必要があるのかなと思います。

この答申によれば、2025年度を目途に年次推進するというふうに年限もうたわれていますので、今、木原議員の御指摘のとおり、この年限以内に方向性をきちっと進めて、東天城中学校が新たに出来上がりますので、その学級編制規模それから教育内容も含めて、午前中にありましたこの島われんきゃビジョンも含めて、次の世代の教育を進めるために推進していきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○13番（木原良治君）

ちょっと話が広報誌のほうにぱっと行きますけど、皆さんの画面のほうに映っていると思いますが、映っていますか。

この一般質問を出してから9月号の町の広報誌が届いたんですけど、中学校に関する一般質問を出したとき、この町章見たときに、ど真ん中に徳之島町の町章がございまして。それを囲むように12の小中学校の校章があります。これを見たときに、やはり徳之島は教育の町でもあり、やはりこういう小学生、中学校の学校の存在が相当徳之島町を支えているという感じで、これからは徳之島町を見守る形のような配置の広報誌の表紙を見て、企画課の課長、センスがいいなと思った次第です。一応、これで次の質問に行きます。

公共下水道事業に行きます。

現在も亀津市街地でよく工事現場、目の当たりにするんですけど、現在の公共下水道事業の現状を伺います。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

公共下水道事業の現状につきましては、令和5年度に亀津全域を下水道認可区域に取り込み、

令和9年度までの事業計画に基づき、亀津地区の管路整備を進めております。

以上です。

○13番（木原良治君）

令和5年度にもう亀津全域が公共下水道区域に指定されたと。全てが含まれたということですか。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

完全に全域ではなくて、ほぼ全域という形になっております。

○13番（木原良治君）

この公共下水道事業をあと3年、令和9年度までの予定で進めているということで、今進捗率はどうなっていますか。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

計画面積のほうは125.5ヘクタールで、整備面積のほうは72ヘクタールとなっておりまして、進捗率のほうは57.4%となっております。

○13番（木原良治君）

あと3年半で、あと40%は達成可能ということで受け止めていいですか。

○建設課長（作城なおみ君）

今回の令和9年度までの事業計画のほうは、5年ごとの計画となります。まだ、その先の計画にも事業の計画としてはありますので、令和9年度よりまだ少しかかる可能性が高いです。

以上です。

○13番（木原良治君）

次は、加入件数と加入率。これだけ進捗率が57%行けば、加入率と加入件数が気になるんですけど、伺います。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

加入率のほうは、区域人口が2,689人、接続人口が1,526人、率のほうは56.7%となっております。加入件数のほうは、世帯数で882件となっております。

○13番（木原良治君）

事業課としては、その進捗率、加入率、加入件数は想定内というか、事業を進める上で許容範囲という受け止めていますか、まだまだ足りないという数字を受け止めていますか。

○建設課長（作城なおみ君）

管路のほうの事業のほうは、やはり道とかが狭くて工事がなかなか進まない状況にあったり

しますので、進みはちょっと遅れていると感じています。

○13番（木原良治君）

やはり亀津の町の中に入ると、狭い道の中で工事を進める上で、交通に気をつけながら進めていると思いますけど。やはり、一番懸念するのは水道管の破裂です。そういう事故等の件数というのは、どれぐらい出ているんですか、出たんですか。直近でいいんですけど。

○建設課長（作城なおみ君）

件数はちょっと確認はしていないんですが、私の記憶する限り二、三件は水道管の破裂が発生しております。

○13番（木原良治君）

その水道管の破裂したときに現場に行きますよね。建設課の下水道担当と水道課の連携、そして断水によって洗濯物とかいろいろ、風呂とかそういう台所とかに対して、周辺住民の方々に対してはどのように、苦情が来ていると思いますけど、どのように対処しているんですか。

○建設課長（作城なおみ君）

水道管破損時につきましては、速やかに現場を確認後、水道課立会いの下、業者の手配、周囲への声かけ、防災無線による周知を行い、緊急修理で対応しております。

○13番（木原良治君）

保久水道課長、公共下水道事業を進める中で、よく亀津の町の中、水道管の破裂が生じますよね。営業している方々とかに対してのその苦情というか、そちらに行っているんですか。どこに行っているんですか。

○水道課長（保久幸仁君）

ただいまの質問なんですが、水道の断水につきましては水道課のほうにも苦情が届いているところです。建設課のほうで今下水道工事を行っているわけですが、建設課のほうから今どの辺で工事を行っているという情報が事前に来ますので、万一そのような状況になった場合は、建設課と連携して、今質問にありました飲食店などには水をお配りするような対応を取っております。

○13番（木原良治君）

やはり工事を進める中では、こういう事故とかよくつきものなんです。しかし、この事故処理が一番大事なんです。周りの方々の住民の方々の理解を得られて、またこの公共下水道事業の推進に対しても理解を得られて、加入率も増えていくような事業であってほしいと思います。もう少し時間がかかりますので、しっかりとした対応をお願いします。

これから、徳之島高校のほうから第二大瀬橋の信用金庫までのほうが工事が始まるような感じで、亀津小学校周辺までの工事が始まりますよね。ですから、そこは亀津中学校、亀津小学校、徳之島高校生のオートバイ等の通学路にもなっています。しっかりとした交通安全対策の

ほうは徹底していただきたいと思います。

それと、令和9年度までの事業は分かるんですけど、この後、亀津市街地が網かけがなっている。その事業が終了することを見越して、次は川を渡って亀徳のほうはどのように考えていますか。

○建設課長（作城なおみ君）

先ほどの水道管破裂の件数についてですが、二、三件と申しましたけども5件でした。

あと、亀徳地区のほうにつきましては、令和10年以降、または今の計画の範囲内で下水道運営審議会において事業を実施するのか審議することになりまして、県とも協議して決めていく必要があります。

○13番（木原良治君）

亀津市街地の公共下水道の後に亀徳地区の公共下水道の網かけがなるのかならないのかというのは、今から結論が出るということですね。進めるのか、亀津だけで終わるのかというのは、これはいつ頃に結論が出ると考えていますか。

○建設課長（作城なおみ君）

今のところ、令和9年度までに亀津地区の事業を完成させたいと思っておるところですけど、この5年ごとの計画の期限までには、審議会のほうで亀徳地区の認可を取るかどうかを決めることになります。もしできる形になりますと、令和10年度以降からの整備に着手するためには、令和8年度には決定を取らないといけないと考えております。

○13番（木原良治君）

令和8年度、あと2年、それをまた見ながら、また公共下水道に取り上げてみたいと思います。

次の町が管理委託している最終処分場、浄化センター、これの業務内容から伺います。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えいたします。

浄化センターの業務内容につきましては、前処理、水処理、汚泥処理の各処理施設及び各種機器の定期点検に加え、水質検査や年間約300トンの汚泥搬出、月1回の管路点検、年1回の管路清掃などが主な業務となっております。

以上です。

○13番（木原良治君）

その業務内容に対して、全体的な浄化センターの運営状況、さっき述べた前処理から全て含めて、これはどのような運営状況であると判断しますか。

○建設課長（作城なおみ君）

運営状況につきましては、平成22年度より維持管理業務を委託しておりまして、業務に関し

ましては忠実に遂行していただき、町として高く評価しております。

運営のほうも、相手方に確認しましたところ良好であるとのことでした。

以上です。

○13番（木原良治君）

運営状況は、相手方からの良好であるということですか。あなた方が判断した判断ではなくて、もう一度お願いします。

○建設課長（作城なおみ君）

維持管理委託業務を契約をしております、この内容につきまして忠実に遂行していただいておりますので、町としては高く評価しております。

○13番（木原良治君）

前処理、水処理、汚泥処理、それぞれの処理のときに、あなた方、建設課の担当はそこに立ち会って運営状況を確認しているんですか。

○建設課長（作城なおみ君）

担当のほう現場のほうからこういう状況があると話があったときには、すぐに現場のほうに駆けつけて状況を確認しております。

○13番（木原良治君）

全体的な運営状況は良好であると、判断ですね。

次の汚泥処理なんですけど、その前に水質管理、汚泥処理行きます。最後に汚泥処理出ますよね。それは堆肥センターのほうに持ち込まれますよね。この汚泥処理に関して、よくこの議会でも福岡議員が取り上げるんですけど、この質の検査というのは、専門的なので分からないんですけど、どのような、公共下水道法にのっとった汚泥の排出のものであるという検査が行われていると確認していいんですか。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

汚泥処理につきましては、令和5年度は肥料として活用しました。今年度は、堆肥センターにて有効利用についての実証中であります。

脱水汚泥肥料のほうの分析とか試験をきちっとしております、加えて、植物栽培試験の結果も問題がないという結果になっております。あと、農林水産省に肥料の登録までしております。

以上です。

○13番（木原良治君）

そういう確かな結果の下で汚泥が処理され、堆肥センターのほうに持ち込まれていると。そして、これが堆肥として生かされていると受け止めてよろしいですか。

次の水質検査に行きますけど、最終的には海のほうに流しますよね。これの水質の検査結果、聞かせてください。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

水質検査につきましては、月2回の中試験、年2回の法定試験、年1回の汚泥含有量溶出試験を行っております。

水質につきましては、処理水分析を定期的を実施しており、水質的には問題ありません。

○13番（木原良治君）

そういう年に1回また月に2回ぐらいの法定的な検査のものは、あなた方どなたかが、担当課が立ち会った下での検査になるんですか。それとも、向こうのほうに委託して、向こうのほうで、委託先のほうでちゃんとした責任者がいて検査されていると。説明をお願いします。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

委託先のほうにきちっと検査をする担当がおりまして、毎月試験結果の報告をいただいております。

○13番（木原良治君）

なぜ、こういう厳しいことを聞くかということ、町の施設を管理委託させたときに、町の浄化センター、しっかりとなされている裏づけがあると、そういう結果が出る。そして、ほかの図書館なり文化会館なり総合運動公園なり、外部の評価もよくてしっかりとなされているという中において、一部のそうでない委託先があるということが、よくこの議会で6月から今議会までが指摘されている。そういう厳しい監査、検査するのは当然なんです。

また、統一的に、委託した施設に関しては、総務課長、契約があると思いますけど、ちゃんとしたそういうマニュアルは、全ての管理委託先にマニュアルは適用されているの、そういうマニュアルはあるんですか、管理委託するマニュアルというのは。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

特に、そのマニュアルというものはなかったように思います。それぞれの条例にのっとり、またそれぞれの課の契約によって行っているものだと認識しております。

○13番（木原良治君）

民間委託、契約しますよね。議会のほうにも議決求めて、提案しますよね。そして、文化会館しかり、総合運動公園しかり、図書館しかり、浄化センターしかり、それぞれの全体的なマニュアルというのは全くないんですか。これから新たな道の駅の委託も出てきますよね。そうしたときに、管理体制、検査体制はどうなるんですかということになるんですけど、そのマニ

ユアルの検討というのは今からなされるんですか、なされる考えがあるんですか。

○町長（高岡秀規君）

委託につきましては、それぞれの運営方法については、民間のほうが提案したものを我々が受けて許可になりますので、我々が押しつけるものではないわけです、委託ですから。

そして、また、今後も委託をする理由、なぜ委託をしたかというその目的に沿っているかどうかについては、チェック機能は発揮しなければいけないかなというふうに考えております。

○13番（木原良治君）

やはり緊張感がなされるから、しっかりとした運営が、管理が行き届いていると思うんです。よく議会で議員が管理運営に関して指摘しますよね。指摘したことが問題じゃないんです。指摘したことを問題としないのが、問題なんです、一番は。指摘されたことに対して。分かります。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

木原議員におっしゃっていただいたとおり、指摘されたことをしっかりと受け止めるということが大事だと思っております。

○13番（木原良治君）

それぞれの議員の方々も、しっかりと議員の職責を果たすためにこういう指摘をいろいろな角度からしていると思います。ですから、そういう指摘に対してやっぱり改善の余地があれば改善をする。その議会の後にやはり総務課長を中心になって対処、どのように改善すべきなのかとすべきじゃないですか。しっかりとした対応を、次の議会で取り上げられないようにしっかりとお願いします。

次の最後の不納欠損なんですけど、これは、一応、議長と議運委員長の許可を得て、監査委員の立場で、監査委員の範疇の中で一般質問します。

この後、決算審査委員会がありますので、ぱっと流れ的なものだけ、不納欠損だけを質問させていただきます。

令和5年度の不納欠損、内容、金額、件数、理由、法的根拠、ペナルティー、苦情等のほうに対して、それぞれの担当課の答弁を求めます。

○税務課長（新田良二君）

お答えいたします。

税務課での令和5年度の不納欠損は、町民税、件数が66件、金額にしまして52万9,261円、固定資産税664件の金額にしまして338万2,500円、軽自動車税58件の35万8,600円、国民健康保険税315件の259万1,000円、合計で1,103件、686万1,361円の合計となっております。

この件数につきましては、同一人物で何年分もありますし、あと何期分もあるということで、

この件数で報告してございます。

あと、この理由につきまして申し上げます。法的根拠も申し上げます。

滞納整理においては、滞納者の実情を十分把握し、その実情に即した処理を的確に行い、その結果、滞納処分することができる財産がない場合や滞納処分を執行することによってその生活を著しく窮迫させるおそれがある等、地方税法第15条7第1項各号の滞納処分の停止の要件及び同法第18条の地方税の徴収権の時効による消滅に該当するものを不納欠損したものでございます。

あと、ペナルティー、苦情等はございません。

今後の課題についてなんですが、いわゆる死亡者課税といわれるものですが、相続登記がなされず被相続人名義での固定資産税の課税をしている場合は、地方税法第9条の2第4項等の一部の場合を除き当該課税は無効になると解されていることから、固定資産税を徴収するためには相続人等を調査した上で納税義務者を被相続人から相続人に訂正し、改めて課税に係る手続を行うことが必要になってきます。

以上です。

○介護福祉課長（廣 智和君）

お答えいたします。

介護福祉課では、介護保険料についての不納欠損の状況をお答えします。

内容、事由につきましては、時効消滅、転出、死亡、行方不明、生活保護受給者となっております。

金額198万2,120円、件数におきましては180件、61名となっております。

また、法的根拠につきましては、介護保険法第200条1項ということで、その中に規定されている期間ということの時効によります。

また、ペナルティーなんですけれども、保険給付の減額、高額介護サービス費の不支給等の制限ということで、例えば保険給付の額が減額、7割給付、あるいは高額介護サービス費の支給を行わない旨、また高額医療合算介護サービス費の支給を行わない、また特定入所者介護サービス費の支給を行わない等があります。

また、苦情等につきましては、今のところ受け付けたことがございません。

今後の課題ということなんですけれども、戸別訪問の回数を増やしたり、あとは関係各課との連携、合同徴収などをもって納入誓約等を取って、一件でも多く不納欠損を防ぐように徴収の強化に取り組みたいということにしております。

以上です。

○健康増進課長（吉田 忍君）

お答えいたします。

健康増進課のほうは、後期高齢者医療保険料になります。令和5年度、1件、保険料額が1万6,500円でございます。

事由につきましては、こちらの方、平成28年10月以降に行方不明となっております、御家族のほうから失踪宣告の届出等がないため、やむなく有資格者扱いとなっているところでございます。本人いらっしゃいませんので、ペナルティー等はございません。

今後につきましては、また御家族のほうの届出に応じて対応してまいりたいと考えております。

○水道課長（保久幸仁君）

水道課の水道料金について報告いたします。

令和5年度の水道料金の不納欠損額は370万472円となっております。件数といたしましては、844件となっております。

理由につきましては、時効消滅による5年間の期限が来たということで、不納欠損として処理しております。

ペナルティーといたしましては、今後とも水道料金につきましては給水停止等の処理を行い、水道料金の徴収に、町民の水道料金の観点から行いたいと考えております。

○耕地課長（水野 毅君）

お答えします。

耕地課では、畑総過年度分担金としまして230件、1,473万1,403円を不納欠損処理といたしております。これにつきましては、昭和、平成時代のものであり、既に消滅時効が発生しているため不納欠損処理といたしました。ペナルティーはありません。

今後の対策といたしましては、滞納のある方の圃場整備等の事業申請については、完納や分納誓約を行うことを前提とした新たな滞納の増加を抑える取組を強化していきます。

以上です。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

令和5年度の建設課における不納欠損の内容としましては、住宅使用料1,031万5,150円、件数につきましては9名分の期別1件としての件数で、本人死亡が2件、住宅退去者で消滅時効が565件となっております。

公共下水道使用料につきましては、金額が133万5,256円、件数が58名分の期別件数で680件、法的根拠は消滅時効となっております。

住宅、下水のどちらもペナルティー、苦情等はありません。

○13番（木原良治君）

総務課長、一般会計の分と総額と特別会計の合計、不納欠損トータルして幾らになりました。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

一般会計のほうが2,931万6,914円。すみません、特別会計のほう。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。

休憩 午後 2時27分

再開 午後 2時33分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○総務課長（村上和代君）

申し訳ございませんでした。合計で3,894万2,262円となっております。

○13番（木原良治君）

決算議会なので委員会のほうでも出るという予想して、一般会計と特別会計足していけば合計は出ますから。

総務課長も町長代理であちこち飛び回って大変だと分かっています。しっかりと補佐して、各課をまとめて、そして民間委託の道の駅も期待が大きいがために厳しく指摘していると思います、みんな。そういうのを担当課もしっかりと自覚して臨んでください。

これで一般質問終わります。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。14時50分より再開いたします。

休憩 午後 2時34分

再開 午後 2時50分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、勇元勝雄議員の一般質問を許可します。

○8番（勇元勝雄君）

皆様、こんにちは。

議員の一番の仕事は、町政の批判と監視。町政に対しては是は是、非は非という姿勢で10年間頑張ってきましたけど、もう残りもあと1年半となりましたけど、私はこれからも町民目線の姿勢で一生懸命政治をやっていきたいと思います。8番勇元が以下の8項目質問いたします。町長、当局の明快なる答弁をよろしく願いいたします。

1番目の子ども医療費。前々回ですか、もうこれで質問をやめるということでやっていたら、いろいろ電話は来まして、なぜやめるのかということで、今回また出しましたけど。

子ども医療費、項目1番目、新聞報道であった県の子ども医療費助成の内容をお伺いいたします。

○介護福祉課長（廣 智和君）

お答えいたします。

鹿児島県による子ども医療費制度の改正の内容は、ニュースや報道等、新聞等でもありましたとおり、未就学児、6歳児までの課税世帯を対象として2点見直しがありました。

1点目は、これまでの自動償還払い方式から現物給付方式への見直し、これは医療機関での窓口払いがゼロになるということになります。また、2点目は所得制限が撤廃されております。

これにより、県の要綱では、一部負担3,000円というのが残っておりますので、徳之島町としましては、その助成3,000円も助成するというので、徳之島町においても窓口払いがゼロ、自己負担ゼロ、所得制限を撤廃することとしております。

いずれも令和7年4月1日からのスタートと考えております。

以上です。

○8番（勇元勝雄君）

全国と県内の自治体の子ども医療費の助成状況をお伺いいたします。

○介護福祉課長（廣 智和君）

お答えいたします。

まず、県内ですけれども、住民税非課税世帯におきましては18歳まで自己負担なし、ゼロ円、現物給付ということで、これは鹿児島県下、徳之島町も含めまして全市町村となっております。

住民税課税世帯におきましては、対象年齢につきましては18歳末までが32町村、中卒までが10町村、就学前が1町村、徳之島町。申し遅れましたけれども、これは令和6年4月1日現在のデータとなっております。また、自己負担につきましては、自己負担なしゼロ円が39町村、月額2,000円の自己負担を4月1日現在で取っているのが鹿児島市、霧島市、姶良市の3市、月額3,000円というのが本町、徳之島町1町でございます。

また、支給方法につきましては、課税世帯につきましては自動償還払い43市町村ともが現状であります。

あと、国におきましては、ちょっとパーセンテージになりますけれども、1,741市町村で18歳末までを対象としているのが1,202市町村、これは通院のほう、69%、また15歳までというのが27.6%、就学前というのが17市町村ありまして0.9%、自己負担ありが543市町村ありまして、こちらは31%くらいということになっております。

以上です。

○8番（勇元勝雄君）

全国的に見ても、それはある程度差額はありますけど、前の資料を見たら96%ですか、なっ

ているわけです。今度、県のほうも、県知事も国がやるべきだということで今までやっていたけど、額的には小さいと思いますけど、ある程度の助成を伸ばしたわけですね。

町のほうでも、県に先駆けて段階的にでも助成はできないか、お伺いいたします。

○町長（高岡秀規君）

県の助成事業についてですが、御存じだと思っんですけども、3,000円の負担は変わらないです。その3,000円の負担があるんですが、手続上どこの病院行ってもその3,000円以上の負担をどうやって見つけるのか、どうやって把握するのか等々で事務的にも非常に大変だろうということもあり、そしてまだマイナンバーカードの普及も考えたときに、なかなか現場が混乱するだろうということから、県は3,000円はしないんですが、町として未就学児、所得制限なしのところ、3,000円については町のほうで負担をするということとしております。

そして、また医療費の無償化については、政策的なものから、以前も答弁しているとおおり、ほかの事業等で予算を組んでいきたいというふうに思っております。

○8番（勇元勝雄君）

この間、介護福祉課からもらった資料がありますが、鹿児島市は来年より実施するという新聞報道、またテレビでもやっていたけど、霧島市のほうは来年から実施する予定ということでやっています。姶良市は今検討中だということですけど、恐らくこれも検討すること、ほかの市町村を考えたら実施するんじゃないかと思います。そして、残るのは43市町村のうち徳之島町だけです。

現在、多数の町民が、子育て世代の方が、子ども医療費の助成を望んでいます。町長は、今後も政策として国が実施するまでは子ども医療費の無償化は実施しないのか、お伺いいたします。

○町長（高岡秀規君）

医療費よりもほかに使うべきだということから、政策的な目的で、今、国、県に対しては医療費の無償化については全国一律にするべきだということで要望をしているところであります。

○8番（勇元勝雄君）

国に要望しても、何千億単位の金が要るわけです。なかなか難しいと思います。

私は、政策とは、町民の皆様が望んでいることを町長が酌み取り実施するのが政策だと思っています。町長はどのように考えているのでしょうか。（「議長、反問権を」という者あり）

○議長（行沢弘栄君）

ただいま反問権の行使について許可します。

○町長（高岡秀規君）

政策的にやっているところですが、もし仮に政策ということで議論したいんですけども、勇元議員の、先生の政策目的は何でしょうか。

○8番（勇元勝雄君）

子育て世帯への負担の軽減です。

○町長（高岡秀規君）

私はいつも話をしていますが、まず、私が医療費の無料化についての政策的なもの、少し、ごめんなさい、長くなります。については、まず子供の健康の増進が一つ。そして、また子育て世帯の経済的負担軽減は当然です。一つ。そして、また子育て世帯を中心とする住民の満足度の向上等々が政策的な主な目的だろうと私は思っております。

そして、またその中でするかしないかということなんですけれども、私はあらゆるデータ、そしてまた全国的な物の考え方、医療の体制を考えたときに、私の意見を少しお聞きいただきたいと思います。

まず、子供の健康増進についてなんですけれども、医療費の助成は、それにより通院が容易になり、疾病の重症化を防ぐことが可能となるなど、子供の健康増進に寄与するものであるとの主張もありますが、これまでの研究によりますと、子供の医療費の助成拡大による健康指標への影響はない、極めて限定的であるものと思われるということが一つ。子供の医療費の無償化は子供の命を守る制度だとの主張もありますが、生命に直結するような小児がんや疾病等については、これまで小児慢性特定疾病対策の対象の疾患の拡充等により負担軽減も含めた対策が今図られているところであります。

また、子育て世帯の経済的負担軽減についてですが、子育て世帯の経済的負担、とりわけ医療費負担の軽減は、それ自体が否定されるべきものでもないですが、前述のとおり命に直結するような小児がんや難病などについては小児慢性特定疾病対策等により患者家庭の負担軽減が現在図られているところである。高額療養費制度による窓口負担の軽減策のほか、最後のセーフティーネットとして医療扶助も制度化されている。つまり、本当に困っている人の医療費負担の軽減については、現状では既に相当充実しているものと思われる。そして、また子育て世帯の経済的負担を広く軽減するための施策という点に関しては、限られた財源の中で医療費助成以外のほかの選択肢との費用対効果の分析も含め、十分な比較検討を行った上で選択すべきものであるということが一つ。

そして、また子育て世帯を中心とする住民の満足度の向上についてですが、無償化を含む子ども医療費助成に関する子供の保護者に対するアンケート調査では、当然約85%が制度を支持している例がある。裨益者の満足度は高い。しかしながら、保護者から助かっているという声がある、評判がいいというだけで、医療保険制度における負担の在り方や医療提供体制、それらの規律に多大な影響を与えるという医療費無料化は安易に導入されるべきではない。限られた財源を効果的に使うという観点からもほかに使うべきことがあるということが一つ。

以上から総合して見ますと、評判がよいということ以外にその政策効果が検証不十分か、ま

た限定的であるとすれば、子ども医療費の助成、とりわけ医療費無償化はさらに拡大、拡充は行うべきではないだろうと。

そのほかの意見として、基本的に無償化の大幅な負担軽減を導入してしまいますと、政治的に変更は極めて困難であると。助成拡大や無償化による自己負担減は、基本的に後戻りできない選択であることは十分後世に留意すべきことであると。自治体が行う先駆的な事業であれば、国が追認するというのも妥当であるものと考えられる。しかし、政策目的も政策効果も明らかでないままに給付拡大競争、サービス合戦の結果として安易に拡大している子ども医療費の助成が、先駆的な事業であるとは到底考えられない。

そして、また様々な国の意見、国民の意見として、子ども医療費の助成の少子化対策への効果について。少子化のパッケージで一部構成するものであるという主張については、理解はできるが、その世帯で結果的にはデータとしてはない。少子化の原因は、未婚化、晩婚化、雇用、経済、就労形態やカルチャーの変化など極めて多様かつ複雑であり、子ども医療費助成は少子化対策に効果があるというには相当な無理がある。

そして、また無償化等に及ぼすその影響について、子ども医療費を無償化した場合、子供と保護者が診療後に医療機関の会計窓口を経ずに帰ることもあろうかと思う。このような場合に、医療費の明細等、保護者が確認する機会を失ってしまうのではないかということがある。よって、十分な検証を行う必要がある。

こういった、以前もう何十年も前に行われてきた施策の中で無償化を一度私も検討した。就任当時は、様々な住民からの声もありましたので。しかしながら、予算というものは当然ながら限りある予算ですので、どこに使ったら一番費用対効果は生まれるかということから、現在無償化はしておりませず、今度の少子化対策については、雇用であるとかそういったほかのもので予算を使うべきだと思っております。

そして、また、今後、東京都が出生率が1を切ったときに恐らく無償化、経済が裕福ですので、そこに人口がどんどん流れるということを私は危惧しております。よって、国のほうには、全国一律で財政の強いところ弱いところもサービスが受けられるよう、国が給食であるとか子ども医療費であるとかということは一律でサービスを行うべきだということを主張しております。

○議長（行沢弘栄君）

高岡町長、議員の答弁必要ですか。

○町長（高岡秀規君）

いや、いいです。終わります。

○議長（行沢弘栄君）

以上で、反問権行使を終了いたします。

これよりは、一般質問を再開いたします。

○8番（勇元勝雄君）

この件に対しては、もう町長と私の考えは平行線を毎回たどっています。

続きまして、給食費の無償化について、全国と県内の自治体の給食費の助成状況をお伺いいたします。

○学校教育課長（太 稔君）

勇元議員の御質問にお答えいたします。

全国の無償化助成の状況ですけれども、文部科学省の調査によりますと、令和5年度9月末現在で547自治体の無償化をしております。

また、小学校のみの実施や一部で無償化しているのが175自治体あります。

鹿児島県内におきましては、無償化は、令和6年5月1日現在ですけれども、完全無償化が19市町村、大島郡内で4市町村、また大島郡内で給食費を徴収して年度末に同額を別の補助金として支給している全額還付型方式を実施しているところもあります。

以上です。

○8番（勇元勝雄君）

県内でも23市町村ですね。43市町村のうちの23市町村。

また、新聞報道によりますと、瀬戸内町が来年から給食費を無償化するという話もあります。奄美市のほうも、給食の無償化を議会のほうで採択になっているみたいですが。恐らく議会で採択をされるということは、無償化なる可能性が大きいと思います。

今現在、われんきゃポイント事業をやっていますが、現在の状況はどのような状況でしょうか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

先ほどの給食に関しましては、19市町村、還付方式入れて20となると思います。

それでは、われんきゃポイントについて利用状況ですけれども、8月31日現在、われんきゃポイントの利用状況は454名で1,311ポイントを付与しております。

以上です。

○8番（勇元勝雄君）

金額的にはどのぐらいでしょうか。

○学校教育課長（太 稔君）

1,311ポイントですので、26万2,200円となります。

以上です。

○8番（勇元勝雄君）

これは、8月末ですか、それとも何月末のポイントでしょうか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

8月31日現在の実数でございます。

○8番（勇元勝雄君）

新聞報道でも賃金が5.4%上がったとかいろいろありますけど、島の現在の経済状況を見たら、それほど給料が上がっているという感覚はありません。島の経済状況を見て、事業主の皆様も給料を上げたいんだけど給料を上げられないという状態だと思うんです。そして、毎月物価が上昇しています。恐らく1人当たり給食費の徴収が3,200万、大体1,000人の生徒数で割ったら平均で年間3万2,000円ですよね。現在の島の経済状況を鑑みて、給食費の無償化は考えられないか、お伺いいたします。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

給食に関しましては、現在、徳之島町では、主食、牛乳の全額補助、そして温食の一部の助成を行っております。

今後、給食費に関しましては、現在検討しているのは、納入していただいた金額に対して地域振興券を交付いたしまして、経済的負担と地域経済の活性化を考えております。

以上です。

○8番（勇元勝雄君）

地域振興券というのは、どのようなシステムでしょうか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

給食費を納めていただいた金額相当の地域振興券を負担していただいた保護者に配布するものです。

以上です。

○8番（勇元勝雄君）

これは、予算は組んであるわけですか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

現在、計画中でございまして、予算のほうはまだこれからしっかりした計画ができ次第、予算計上いたします。

以上です。

○8番（勇元勝雄君）

これは、4月に遡ってやるわけですか、それとも予算が通ってからということでしょうか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

現在、今最後の調整に入っておりますので、でき次第12月補正に上程するのか、またそれに関しましてはこれからでございます。

以上です。

○8番（勇元勝雄君）

これは、実質給食費を無料にするということでしょうか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

考え方ですけども、納付していただいた金額を地域振興券という形でお返しするといいますが、給食費相当を地域振興券で保護者のほうにお返しするということですので、無償化になるのか、そういったことは捉え方次第だと思います。

以上です。

○8番（勇元勝雄君）

地域振興券でも無償でも一緒ですけど、地域振興券の場合はもう地元にお金が落ちることとでいいと思うんですけど。

確認しますが、給食費を払った人にはその全額、地域振興券を支給するというところでよろしいでしょうか。

○町長（高岡秀規君）

以前、給食についてはポイント制度で支給するというものを検討するということでした。それが、1子、2子、3子ということがございますので、今後、今、各課と教育委員会と話し合いをしながら、こういったパーセンテージ、それでこういった仕組みをそういった地域振興券にポイント制にするのかということは検討していきたいというふうに思いますし、恐らくその議論をしっかりと積み重ねた上で執行しますので、令和7年度の4月からスタートになることが濃厚じゃないかなというふうに思います。しっかりと議論していきたいというふうに思います。

○8番（勇元勝雄君）

教育長はどのような考えでしょうか。

○教育長（福 宏人君）

今、給食について、先ほど課長それから町長のほうの答弁があったとおり、今後、方向性としては地域振興券ということで進めるということですので、こういったことで進めますが、給食の食の在り方とかそういったことについては、また学校のいろんな取組の中で子供たちに指導していきたいというふうに考えています。

以上です。

○8番（勇元勝雄君）

初めてうれしいような答弁をもらえました。ありがとうございます。

続きまして、水道行政についてお伺いいたします。

○議長（行沢弘栄君）

勇元議員、3項目めは飛ばされるんですか。

○8番（勇元勝雄君）

あまり喜び過ぎて。

現在、副町長が不在ということで、総務課長はそのとぼっちりを受けているんじゃないかと思えますけど、副町長が退任して現在で5か月。なぜ、副町長の選任ができないのか、お伺いいたします。

○町長（高岡秀規君）

選任できないということではなくて、ちょっと時間を要したいということでもあります。やはり、副町長の人事につきましては、議会のしっかりとした理解を得るということと、あと職員そしてまた我々の信頼関係、人間力等々を総合的に鑑みないといけないということから、少し時間をいただきたいということでもあります。

○8番（勇元勝雄君）

副町長が退任するに当たって、それはもう何か月前から私は今度は退任しますということは恐らく町長のほうには伝えてあると思います。その間に、現在、町長は県の町村会長、全国の副会長になっていますけど、現在の町長の出張の状況を見たら、これだけ町長が役場にいなくても総務課長だけで、総務課長が副町長の役割をしながらやっていけるのか、非常に疑問に思うんです。

2番目の2項目の全国の町村会の副会長、県・郡の会長、町長としてのそれぞれの出張の回数と日数をお伺いいたします。

○総務課長（村上和代君）

勇元議員の御質問にお答えいたします。

令和6年度4月から現在までの期間でお答えしたいと思います。

全国町村会副会長としての出張、会議に出た回数ですが11回、それに係る出張の日数は4日、鹿児島県町村会会長としての出張が30回、それに係る日数24日、大島郡町村会会長としての出張が5回、それに係る日数が4日、町長としての出張は16回、それに係る日数が23日。

以上でございます。

○8番（勇元勝雄君）

現在まで62日ですね。4月から8月ですよ。5か月か、150日のうちの62日。これだけの

出張をして、総務課長として町政に対して事務の支障はないのか、お伺いいたします。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

副町長が不在の状況の中で、町政の円滑な運営におきましては、既存の体制やほかの役職者がその役割を今代行しております。職員の連携によって対応している、できているものだと思います。

また、会議等につきましてはリモートを活用したり、また決裁については電子決裁、そして町長との連絡は私のほうも密にしながら、重要な決定や業務が滞ることがないように努めているところでございます。

○8番（勇元勝雄君）

現在、これだけの日数を出張行って、恐らく出張行った日数にまた土日、祭日が入りますよね。恐らく半分近くの日数が出張行っています。前、大和村の村長が会長している、そして退任の挨拶で、こういう仕事をしていたら自分の村のことができないようなコメントを出していましたが。それはあまり定かじゃないですけど、そういうコメントだったと私は思っています。

副町長がいて、町長が町村会長、副会長やるんだったら私はいいと思うんです。これだけの日数を役場を空けて、緊急の場合は非常に困ると思うんです。この間、南海トラフ地震、1週間ぐらい緊急事態がありましたよね。私は、町長の一番の仕事は、町民のために働くのが一番の仕事であって、町村会の会長の仕事が徳之島町長の仕事ではないと私は思っています。町村会の会長をこれからも続けるつもりなら、私は早急に副町長を選任して、副町長に仕事をしてもらいたいと思いますけど、町長はどう考えますか。

○町長（高岡秀規君）

役員をすることによって徳之島町のことができないということは、誤解であります。一度経験してみたら分かると思います。徳之島町のためには、役員をしたほうが、情報そしてまた予算面での獲得にも有利に働くものだと思っておりまして。それで、また県の町村会長としたら、自分の町だけではなくて他の市町村の課題、問題点も把握をしながら要望しますので、それぞれ同じ課題を持っているなど、そういった情報交換の場としても町村会があるものだというふうに考えておりますので、その辺は誤解のないよう、よろしくお伺いいたします。

そして、また県の町村会の会長というものは任期がございますので、任期が終わればそれぞれの各町村で決めることとなりますので、その間は、任期中はしっかりと務めていきたいというふうに思っております。

それで、支障については、やはり役場の職員のスキルがそれぞれ上がってきていますので、僕はいなくても、重要な案件以外は役場の職員でもしっかりとした体制ができているなどという

ふうになんか感じているところでもあります。

結果的に、全て僕に聞かないと分からないということであれば、危機的 management ができていない町村となりますので、いざというときには自らが判断できるような体制というものも必要だろうというふうに思っております。

今後も、役場の職員のスキルアップ、それが結果的に町民のためになります。私もいつまでも町長しているわけではありませぬので、役場の職員の規律そしてまたスキルがしっかりと整うということが私の大きな使命だろうというふうに思いますので、その点については、今の現状というものは、ある程度職員のスキルをもってすれば最小限に影響は抑えられるというふうに考えております。

○8番（勇元勝雄君）

町長が課長の皆さんの力を信じていますので、また町長の期待に応えるように頑張ってもらいたいと思います。

4番目の開発基金についてお伺いいたします。

2年ほど前から開発基金のことをお願いしてあります。開発基金の当初の金額は幾らでしょうか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

土地開発基金条例がございます。この基金の額は1,026万2,000円でございます。

○8番（勇元勝雄君）

開発基金の土地が5万6,582.21平米ありますけど、この土地はどこにあるんでしょうか。確認できていますか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

以前から勇元議員のほうからこのことを御質問受けておりますが、土地開発基金の整理台帳がございます。その中で数々の土地がございますが、それを全て上げております。今回、ちょっと下がった分がございますが、この分につきましては、5年度の決算のほうで整理しておりますが、調査の下、返済状況の消し込み漏れが何件かございましたので、その分を引いて今回の決算のほうに載せております。

○8番（勇元勝雄君）

5万6,582平米の土地は確認できているかという質問ですけど。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

土地につきましては、一件一件の確認はまだでございますが、今それぞれの課の土地の内容

であったり面積の確認であったりをしているところでございます。

○8番（勇元勝雄君）

5万6,000平米、5町6反ですよ。これだけの土地がまだ確認できていないということは、おかしいんです。また、基金が1,000万しかないのに、この5万6,000平米の土地自体があるという自体は、私はおかしいと思うんです。早急に、この土地の確認をして、また後で連絡してもらいたいと思います。

5年度の決算で、1,770.21平米が減っていますけど、これはどのようなことで減らしたんでしょうか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

土地開発基金につきましては、基金の現金預金、そして土地等の不動産を有しておりますが、以前から勇元議員から御質問がありますように、長期にわたって現金預金及び不動産の運用実績がございません。現金預金につきましては、土地開発基金条例に基づきまして通帳の管理をしております。また、土地につきましては、資料を整理しているところでございます。

今回減りました土地の分につきましては、これまで台帳を調査し返済状況の消し込み漏れがありましたので、今回修正しております。

○8番（勇元勝雄君）

条例上はこの開発基金の土地を町が買うわけですよ、利子をつけて。この1,770.21平米の土地の代金は、もうその開発基金の現金のほうに入っているというわけでしょうか。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。

休憩 午後 3時32分

再開 午後 3時33分

○議長（行沢弘栄君）

引き続き会議を開きます。

○農林水産課長（高城博也君）

土地開発基金について御質問にお答えいたします。

私が答弁するのは、私も財産管理でこの土地開発基金の関係で、台帳上、最後のほうに担当しておりますので、お答えしたいと思います。

これに関しては、土地開発基金に関しては、昭和50年代に条例化されて積立てされています。先行取得的な意味合いで、これで土地をまず取得して、その名義は徳之島町であります。その土地としては、基金財産であります。基本的に、財源として使っているわけですから、本来は土地の売買契約を各一般予算で出して、その基金のほうへお金を戻して町のほうに基金財産を

買い上げるというふうな形になるんですけども、職員の入れ替わりが昭和時代からずっとあって、この引継ぎの中で、金銭の関係は出納簿全然動いていないし、以前の私の記憶では出納簿もちゃんと整理されているんですけども。その財産の面で、所管替えというか、そこら辺がなされていない部分があって、基本的に今回決算のほうで面積のほうを修正したということです。

この残額に関しましては、平成16年ですかね、13年ですかね、その当時から残額は全く動いていないという。実際に、この20何年間この基金のほうの残額は、預金は全く動いていないという現状であります。

土地の所在については、目的のために委員等の会を開いて取得するわけでありますので、一番古いので、たしか私の記憶では、国民宿舎汐路の用地とかそこら辺で、その施設用地の目録として何平米、何平米というふうな台帳整理はなっております。

もし、所管が違うんで総務課のほうに預けたいと思いますけども、それを調べるのであれば、その売買契約書があると思いますんで、そこら辺を引っ張り出して調べることになると思います。

以上です。

○8番（勇元勝雄君）

昭和時代からこういう事務処理をしてきた結果が、現在の職員の負担になっているわけです。

恐らく火葬場の今現在駐車場にしているあそこ辺りも、開発基金で買ったんじゃないかと思うんです。ある程度分かる範囲を調べてびしっと整理しておかなければ、未来永劫こういう問題が出ますので、びしっと整理をしてもらいたいと思います。また、その結果を後で報告するようにお願いします。

続きまして、水道行政について、大原の水源の場所を決めたのはどのような条件で決めたのか、お伺いいたします。

○水道課長（保久幸仁君）

お答えいたします。

令和3年度策定された徳之島町水道ビジョン及び経営戦略の中で、緊急の課題として亀津浄水場の老朽化への対応、また現在の亀津浄水場が地下水の取水による高硬度問題の指摘がありました。そのような理由から、新たに亀津浄水場を築造する場合は、現在の亀津浄水場の硬度の数値を低く収めるために水源を河川水による取水を新設することになり、大原の河川水の水源を決定いたしました。

○8番（勇元勝雄君）

大原の水源、課長とも3回ほど行きましたよね。その間に私も5回ほど、干ばつの時期見えました。大原の水源が大原の浄水場と亀津の浄水場、同時に水を取った場合に、絶対に水量

が少ないと思うんです。課長は、そこまで確認をして大原の水源をあそこに決めたわけでしょうか。

○水道課長（保久幸仁君）

お答えいたします。

現在の取水口は、勇元議員の御指摘のとおり取水量が十分ではありません。今年の事業の町単事業におきまして、取水口の改善を行いまして、新しい浄水場並びに既存の南部浄水場に取水できるように計画を行う予定です。

○8番（勇元勝雄君）

課長のほうから水源のほうでもそういう説明を聞きましたけど、水量が少ないのに取水口を幾ら大きくしても水量がないんです。水量が100トンしかないのに取水口を2つつけたってその水量自体が変わらないわけです。実際、課長がそれほど言うんだったら、水源の水量調査は何年間にわたってやったんでしょうか。

○水道課長（保久幸仁君）

お答えいたします。

水量調査につきましては、令和2年6月から令和3年1月までの期間行っております。合計で13回、水量調査を行っております。

○8番（勇元勝雄君）

実際十何億ですよ、金をかけるのに。それぐらいの水量調査で、水道の水源というのは一番干ばつを考えたときを考えて水源を探さなければ、雨が降って水量があるとき、現在、水道課でも防災無線で呼んでいます。水源の水量が少なくなりました、節水してください。私が水道課長をやっていたときも、轟木、花徳、山、金見、手々、母間、亀徳の浄水場、あそこも一番干ばつになったときは神嶺ダムが底を見えるぐらいの干ばつがあったんです。

十何億も金をかけるならもっと慎重にやらなければ、いざ浄水場造って、干ばつなって、水がありません。誰が責任を持つんですか。水道課長が持つんですか。恐らく、水源にしても、町長のオーケーが出たから水道課長は水源を決めたと思います。それは、干ばつ、浄水場が完成して、両方の南部と亀津の浄水場が稼働してどういう状態になるか、それはやってみないと分からないと思いますけど、最低限水量が十分にあるような水源を探さなければいけないと思うんです。この間、課長言いました。県のほうにお願いして砂防ダムでも造ってもらわなければ、現在の水源では絶対持たないという話をしましたよね。それから県のほうにお願いに行きましたか。

○水道課長（保久幸仁君）

この間、勇元議員のほうからそのような意見を伺いました。県のほうには、砂防ダムの件についてはまだ相談に伺っておりません。

○8番（勇元勝雄君）

だから、スピード感を持ってやらなければいけないんです。もし、来年も現在のような状態だったら、浄水場完成して水源の水はありません、断水です。そういう状態になったら困るから、県のほうでも事業を持ってくるのに、お願いしたら来年やりましょうということではできないんです。最低二、三年かかるわけですから。そういうのをスピード感を持ってやってもらいたい。

浄水場、今現在の浄水場ができていますけど、あそこの位置を選定したのはどういうことで選定したんでしょうか。

○水道課長（保久幸仁君）

浄水場の位置につきましては、現在の亀津浄水場からの既存の排水管の布設状況や新浄水場の水源の取水場所、また新配水池の位置と新浄水場の高低差等を踏まえ決定いたしました。

○8番（勇元勝雄君）

私は、もっと下のほうに浄水場を造るべきだと思うんです。もし、現在の水源が水量がなかった場合、川というのは川下のほうが水量があるんです。亀徳の浄水場、山の中ですよ。井之川しか。配水池というのは、結局配水するためにある程度の水圧を調整しなければいけないわけです。そういうことは、設計の段階で設計の人は意見を言わなかったんでしょうか。

○水道課長（保久幸仁君）

お答えいたします。

令和3年度に配水池のほうがまず完成しております。その配水池の位置から、その当時からも水源の場所も確定したと思いますので、そのような関係から配水池のほうから自然流下で送るという形になりましたので、浄水場はそのような形で決定いたしました。

○8番（勇元勝雄君）

結局、大原の現在の水源から現在の亀津の上に造ってある水源まで、恐らく50メートル以上の落差があると思うんです。50メートルだったら5気圧ですよ。水道管としてある程度以上の水圧をかけたら、負荷をかけたらいけないんです。先ほどから聞いているのは、その現在の浄水場と配水池、そういうもろもろの設計をするとき、こうしたほうがいいんじゃないでしょうかという助言はなかったのか、お伺いします。

○水道課長（保久幸仁君）

設計のコンサルタントは、そのような点を踏まえて場所的なものを決定したと考えております。

○8番（勇元勝雄君）

踏まえてじゃなくて、自分たちも考えなければいけないんです。水道課の課長でしょう。十何億の事業をするのに。実際、このコンサル、私は駄目だと思うんです。ある程度、十何億の

金をかけるわけだから、こうしたほうがいいんじゃないかとかそういう助言をしなければ、設計、恐らく南部の浄水場が水源のすぐそばにあるからということをやったと思うんです。もつと緊張感を持ってやらなければ、独立採算です。もし、干ばつになって水量がなくて、そうした場合、町長、これは誰の責任でしょうか。

○町長（高岡秀規君）

当然、水道の事業主は町の特別会計になりますので、町の責任は大きいだろうというふうに思います。

そして、また水源地については、あらゆるところから水不足という情報が私のほうにも聞こえてまいります。新たなダムができるのかどうかというのは、なかなかやっぱり厳しいだろうと。漏水の問題等もございます。そして、今、過渡期といいますか、水道事業については、更新も含めて大きな課題の中で解決しなければいけないかなというふうに思っておりますので、しっかりと議会の皆さんの指導仰ぎながら、町としてのしっかりとした施策を取っていきたいというふうに思います。

○8番（勇元勝雄君）

次の機会もあると思いますので、これで。

4番目の現在使っている亀津の浄水場の地下水です。大原の浄水場が完成しても使用するわけでしょうか、お伺いいたします。

○水道課長（保久幸仁君）

現在、3系統の地下水を利用していますが、2系統を廃止いたしまして、1系統は利用する計画となっております。

○8番（勇元勝雄君）

その地下水はどこに上げるんでしょうか。現在の浄水場にそのまま上げるのか、また新しく新設した配水池のほうに上げるのか、お伺いいたします。

○水道課長（保久幸仁君）

令和3年度に造りました新しい配水池のほうに地下水が行くように計画しております。

○8番（勇元勝雄君）

今、新しい配水池のほうから亀津の端のどこまで配管がされていますよね。その地下水の配管も同時に配管されているんでしょうか、お伺いいたします。

○水道課長（保久幸仁君）

お答えいたします。

今年度の事業におきまして管を布設する予定になっております。

○8番（勇元勝雄君）

私は、そういうのが無駄だと思うんです。去年、配管をしていますよね。今日もし地下水を

使うなら、その地下水の配管と現在の上からの配管を一緒に布設をしたら工費としても安くつくと思うんです。もう恐らく地下水だから、ケーブルも引っ張っていかなければいけない。穴を掘って1本管入れるのも2本管入れるのも一緒なんです。これは、設計屋がそういうことをしたのか、それとも町のほうでこうしてくれという話をしたのか、お伺いいたします。

○水道課長（保久幸仁君）

お答えいたします。

配水池からその地下水のほうに布設することは当初から計画が入っていましたので、今、勇元議員が話された第4大瀬橋のほうには配水池からその端まで地下水を一緒に管のほうは布設しております。

○8番（勇元勝雄君）

あそこには4管が入っているというわけですね。現在、去年、配管した分には、水道事業の現在の経営状況をお伺いいたします。

○水道課長（保久幸仁君）

お答えいたします。

令和5年度水道事業会計収益的収入及び支出になります。

収入が、税込みで4億6,225万7,669円、支出が、税込みで4億3,137万6,158円、差引き3,088万1,511円の黒字ですが、一般会計から収益的に対する繰入金が1億7,659万7,000円になります。ですので、実質のほうは赤字になることになります。

水道事業を取り巻く環境経営は厳しさを増しています。人口減少等による水需要の減少、管路布設等の老朽化、このような対策として着実な更新等を行う必要があります。今後、その費用が急増することが考えられます。水道事業者としても、これらの経費を勘案した上で、安定的な経営を可能とするために、より一層事業運営の効率化等を図る努力を行います。

○8番（勇元勝雄君）

実際、もう2億何千万の繰入れをしていますよね。だから、企業的な考え方をしなければ運営は成り立たないんです。今、職員が6名、7名ですか、会計年度の人が6名ですか、12名ぐらいいますよね。今効率化になって、検針でも浄水場の掃除でも全部自動化ですよね。昔、僕らの時代は検針をして検針票を書いて家入れて、それ役場に帰ってきて、その総量から金額まで計算してやっていた時代でも、そんだけの人間いなかったんです。

やっぱり、そこまで赤字を出しているわけですから、民間的な発想で人件費を減らすとかしなければ。また10月から水道料金上がります。ある程度、役場が努力して、こうこうですから水道料金を上げてくださいというのが本当であって。水道課自体は親方日の丸で赤字垂れ流ししながら、赤字だから上げてくれというのは、私は筋が違うと思うんです。町長、どう考えますか。

○町長（高岡秀規君）

水道事業につきましては、人口減少に伴う利用者の減少がありますが、資材高騰等で設備投資にそれだけの金額が減ったかという増額傾向にあるということから、町村会としても3分の1の補助事業を今回、国交省の管轄になり、上水道についても2分の1の補助金となりました。極力、その補助事業等の利活用が必要だろうというふうに思っております。

それで、また企業会計、特別会計につきましても、極力赤字を減らす努力はしなければいけません。どうしても漏水であるとか更新時期に来ている以上、なかなかキャッシュフローで設備投資をします。黒字というものは相当量の水道料金を取らないとできないということから、負担を考えつつ、ある程度の赤字は目論んだ上での経営というふうになるのではないかなというふうに思っております。

○8番（勇元勝雄君）

私が言っているのは、現在の水道課の職員の体制です。なぜ、あれだけの人が必要か。それに対して、私が水道課長時代、ここに同僚もいますけど、2人ぐらい、税務課長、宮之原さん、非常に難儀をして給水停止をしたんです。そして、当初は、夜中にずっと電話がかかってきて、お前首でも切つてやろうかというような電話もありました。それだけ前の職員が難儀しているのに、給水停止はしない、不納欠損で落とす、そういう状態じゃなくて、自分たちも努力して水道料金を上げなければいけないと思うんです。

水道事業というのは、現在の状況で絶対黒字にはなりません。黒字にするんだったら、現在の料金を2倍以上もらわなければ恐らく採算は取れないと思うんです。だから、そういう点を考えて、水道課としてももっと真剣に費用対効果を考えてやらなければ、務まらないと思うんです。

現在の浄水場の管理状態、この間、亀津の浄水場を見てきました。これが浄水場の状態でしょうか。あれはどう見ても草山にしか見えません。こういう状態を町民の皆さんに見せたら、役場の水は飲めない、そういう状態になると思うんです。今、検針している方も、検針のとき以外はこういう浄水場の管理をしなければいけないと思うんです。

また、現在この亀津の浄水場、表流水のろ過器は使っているんでしょうか。

○水道課長（保久幸仁君）

現在、河川からの取水は行っておりません。地下水のみ利用しております。

○8番（勇元勝雄君）

表流水は使わなくても、現在もつわけですか。現在もっているわけですね。では、何で浄水場を造ったんですか。造る必要はなかったんじゃないですか。地下水を石灰分を除去して使ったら、それでよかったんじゃないですか。町長はそういうことを分かっていたのでしょうか。

○町長（高岡秀規君）

お答えいたします。

水道課等々でこのような事業を行いたいということも意見交換はした上での決定です。そして、また地下水から石灰とかいろいろなものが出てきて、もしそれをろ過するとなると何億の設備投資が要るということから、沖永良部では四苦八苦しているところです。それで、地下水と通常の水を混和することによって石灰分を濃度を薄くしながら供給するというのもあって、今の現在の取組が行われているものだというように考えております。

○水道課長（保久幸仁君）

令和3年度策定いたしました徳之島町水道ビジョン及び経営戦略の中でも、今、勇元議員が御指摘をされた現在地下水のみから取水すると硬度の高い問題が発生しております。そのような対策として、新しい浄水場を造るか、今、勇元議員から御指摘がありました硬度を除去する方式並びに電気透析法の2つの種類で一応検討はしてまいりました。どちらも毎年維持費が1,000万以上かかるということで、新しい浄水場の築造に結果がなったところです。

○8番（勇元勝雄君）

現在は、硬度の高い水をそのまま飲ませているわけですよね。表流水と混ぜたらある程度硬度が下がるわけですから、そういう点も踏まえてある程度町民目線の仕事をしなければ、文句がありますよね、苦情が。すぐ石灰分でポットが詰まるとかいろいろ、鍋の底に石灰がたまるとか、そういう点も踏まえて事業をやらなければ。

それでも、浄水場はもっときれいにしておかなければ、町長も一遍見に行ってもらいたい。あれが浄水場の状態か。一般の町民は分からないわけです。あれ見て浄水場と思う人は誰もいない。

時間が。

○議長（行沢弘栄君）

ちょっとしばらく休憩します。16時20分より再開いたします。

休憩 午後 4時05分

再開 午後 4時20分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○8番（勇元勝雄君）

6番目の入札についてお伺いいたします。

もう何回目ですかね、本当情けない気持ちでいっぱいです。何回かこの質問書を出してから、何人かの人から電話が来ました。木原議員も先ほど言っていましたけど、指摘されたらすぐ直すべきです。こういう問題が議会で何回も取り上げられるというのは、本当、徳之島町の

恥だと私は思っています。

1 番目の指名の選定基準をお伺いいたします。

○総務課長（村上和代君）

勇元議員の御質問にお答えいたします。

指名の選定基準につきましては、有資格者であること、場所の地域性、技術的な適正を有しているか、不誠実な行為の有無がないか、経営状況、信用度、安全管理状況、手持ち事業量及び指名回数等の機会均等が選定基準となっております。

○8 番（勇元勝雄君）

今、総務課長が言ったような基準に合致しない業者もいっぱいいます。指名の回数、非常に偏っています。地域性、たまたま工事入札執行調書もらいました。これを見ても、明らかに今の総務課長の言ったような基準には当てはまらないと私は思います。

建設課の仕事が主ですけど、建設課長、これは自分で指名を組んでいますか。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えいたします。

建設課の各事業担当者から発注内容確認の上、工種、実績、経験、手持ち工事、場所等を考慮し、課長として自分で指名業者の選定案を作成しております。

以上です。

○8 番（勇元勝雄君）

そう言わざるを得ないわけです。私は、この指名の組み方は絶対もうこれは課長が組んだ指名とは思えません。

ある人から聞きました。あなたはこの指名に入っていないとということを役場職員から聞いたという話を聞きました。それを指名を組む立場の人間がそういう話をするわけですよ。

町長は、現在のようなうわさが出るということをどのように考えているのでしょうか。

○町長（高岡秀規君）

うわさがあることは把握しております。しっかりと、これはうわさがないように払拭するための努力が必要かなというふうに思っております。

そして、以前よりもそういった話が去年あたりから出ていた中で、各課には、人事の後に、情報等のやはり漏れ等がないようにしていただきたいというふうに今指導をしているところであります。

○8 番（勇元勝雄君）

情報が漏れる以前の問題です、これは。

支所長、道の駅の外構、3 件ほど出していますけど、この指名はどのような基準で組んだんでしょうか。

○花徳支所長（尚 康典君）

勇元議員の御質問にお答えいたします。

指名願を提出されている業者の中から業務の内容によって選定したものであります。

○8番（勇元勝雄君）

では、どうして亀津の業者、井之川の業者、その方々が3件とも指名されているのがありますよね。やっぱり、内容を見たらおかしいなと思うんです。これは、談合以前の問題です。もしこういうことが実際に行われているなら、もし外部に分かってもう警察沙汰になったら、職員も全部懲戒免職です。談合は業者の間ですることですから業者があれはしますが、談合以前に役場の外部の人間がこういう指名を組んで課長に渡して、それがまかり通っている。

先ほど、総務課長が、今、地域性とか考えたら、花徳支所の仕事、地元業者が6社います。6社でも、指名を組んで入札することに対しては支障はないわけです。それをわざわざ亀津、井之川のほうから業者を呼んで指名を入れて、そして建設課の19号線の橋梁、あれは大きな工事、3,000万以上ということは、ある程度大きな工事ですよ。そういうのには北部地区の大きな業者を入れない。これは、明らかに誰かがやっている指名の組み方であって、幾ら職員が否定しても否定できないと思うんです。指名基準から考えて、総務課長。

毎回毎回こういう話をして、これが改善されない、情けないです。一番悪いのは町長です。町長が職員にそういう指導をしたら、職員は町長に従わざるを得ないわけです。3回か4回目です、こういう話出るのは。

こういう話が本当であっても、町長は仕方ない。だけど、巻き添えを食うのは職員です。退職金はなくす、仕事はなくす。そういう点を踏まえて、町長はぴしっと職員を指導しなければ。

この間、たまたま金見のほう行って、ちょっと暗くなって帰ってくるときも、そのうわさの人の家に業者が2人ほど入っていきました。そう、たまたま、神様のお恵みか分かりませんが、そういう現場を見ました。

だから、庁舎建設のときも、会計年度か嘱託か分かりませんが、そういう人間が4階に事務所を構えて、担当でもない何でもない人間がそこで業者と打合せをしている。そういう話をしても、前の副町長は、前もやっていたからどうのこうのという話でしたけど。そういうことをその場で直さないから、現在のような状態になっていると思うんです。

業者というのは、町長、課長、事業課の課長は特に頭をぺこぺこ下げてきます。本人に頭を下げているわけじゃないんです。役職に頭を下げるだけであって。町長も議員も職員も、辞めればただの人。課長になったから偉いんじゃない、町長になったから偉いんじゃない、そういう気持ちで仕事をしなければ、町民の奉仕者として仕事をしなければ、こういううわさが次々出て、最終的には警察も動かざるを得ないような状態になる場合があると思うんです。

事業課の中、課長、特に気をつけなければ、前の美農里館の建設のときもいろいろうわさが

ありました。そういうことを気をつけなければいけないんです。今うわさを出ている人間も、役場にいるとき、課長の悪口をいろいろ私に言ってきました。そして、自分がなったときは、そういううわさが出ているもんだから、呼んで人間を批判する人間は人に批判されるようなことはしちゃいけないということを言ってきたつもりですけど、人間性でしょうか、まだそういうこと、うわさが出る。特に、事業課の課長、ぴしっと襟を正し、自分の退職金と職を捨てるか、そういう覚悟で仕事をしなければ。

この間、町長にも言ってあります。私があと1年半、その内容をまた町長に聞いて、どういうことになるか。役場がこれからも町民から信頼されるような役場にならなければいけないと思うんです。

下水道の工事をしたらいろいろ文句がありましたよね。だから、課長に、そういう人間を何で指名停止しないのかと。けじめがないんです。何であんな工事が検査を通るのかと、一般の人が言っているんです。技術屋は特に、現場に出て業者を指導するのが技術屋であって、業者と飲み食いするのが技術屋じゃないんです。

そういう点も踏まえて、役場職員として自覚を持って、プライドを持って仕事をしてもらいたい。町長、どう考えますか。

○町長（高岡秀規君）

職員の指導、そして、また、いかにスキルをアップするのは私の責任でありますので、しっかりと今の言葉を胸に、職員の皆さんにはスキルアップをしっかりと指導していきたいと。その指導の責任は私にあるということです。

○8番（勇元勝雄君）

今後、こういう問題が出たら、実際、もう、私は兵庫県のああいうような内部告発が出てほしいなと思うんです。私は証拠がないだけです。職員は証拠があるわけですから、そういう気構えを持って、外部の人間との付き合いを是正してもらいたい。こういう質問を次ないような体制に持っていてもらいたい。

7番目の町の備蓄について、災害用の備蓄の状況をお伺いいたします。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

災害用の備蓄品は、テント100張り、簡易ベッド100台、マット70枚、ブルーシートそして要支援者用のラップポントイレ2基、感染対策用にハンドソープや石けんなどを備蓄しております。

また、長期保存できる備蓄食料、御飯、パン500セット、ベビー用ユニットセットが20セット備蓄しております。

○8番（勇元勝雄君）

2日の日、一般質問、議会に持っていたとき、4階どういう状態になっているかということで見ました。そのときは、倉庫はがたがた、また備蓄品はどこにあるかなという状態でしたが、質問出してから見たらきれいに整頓されていました。

当初予算で予算は取ったわけですから、もっと早くスピード感を持ってやらなければ、この間の南海トラフみたいな事態になったですよね、あれがもし来た場合、非常に町民も困るわけです。徳之島町は、一番津波に対しては弱いと思うんです。港は壊れる、店の在庫は全部濡れる。恐らく大きな津波が来た場合は、徳之島町だけではないわけですから、救援物資もなかなか入らないと思うんです。そういう点も踏まえて、ある程度は備蓄を積み増ししてもらいたいと思います。

3番目は、恐らくもう購入して倉庫に入れていると思いますけど。我々議員が言う前に、予算を取ったらすぐ動かなければ駄目だと思うんです。

先ほど、総務課長は、繰越明許費の件で言っていましたけど、建設課の発電機、去年の当初を取って、今現在買っていますよね。必要だから当初で予算要求しているわけですから。そういうところも、予算取ったのをすぐ使うような状態に持って行って、町民に迷惑をかからないような状態に持ってしてもらいたい。もう恐らく発電機も、それがなかったら停電になった場合、下水のポンプが動かない。そういった場合は、非常に町民が困るわけですから。

今後もスピード感を持って、町民福祉のために、我々議会も一緒になって頑張りますので、役場の職員の皆さんも頑張ってもらいたいと思います。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（行沢弘栄君）

以上で、本日の日程は全部終了しました。

次の会議は、9月12日午前10時から開きます。

本日は、これで散会いたします。お疲れさまでした。

散 会 午後 4時40分

令和6年第3回徳之島町議会定例会

第3日

令和6年9月12日

令和6年第3回徳之島町議会定例会会議録

令和6年9月12日（木曜日） 午前10時 開議

1. 議事日程（第3号）

○開 議

○日程第 1 一般質問

広田 勉 議員

松田 太志 議員

○散 会

1. 本日の会議に付した事件

○議事日程記載事件のとおり

1. 出席議員（16名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	内 博行 君	2番	政田 正武 君
3番	宮之原 剛 君	4番	植木 厚吉 君
5番	竹山 成浩 君	6番	松田 太志 君
7番	富田 良一 君	8番	勇元 勝雄 君
9番	徳田 進 君	10番	池山 富良 君
11番	是枝 孝太郎 君	12番	広田 勉 君
13番	木原 良治 君	14番	福岡 兵八郎 君
15番	大沢 章宏 君	16番	行沢 弘栄 君

1. 欠席議員（0名）

1. 出席事務局職員

事務局 長 清原 美保子 君 主 査 中野 愛香 君

1. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町 長	高岡 秀規 君	教 育 長	福 宏人 君
総務課長	村上 和代 君	企 画 課 長	中島 友記 君
建設課長	作城 なおみ 君	花徳支所長	尚 康典 君
農林水産課長	高城 博也 君	耕 地 課 長	水野 毅 君
地域営業課長	清瀬 博之 君	農委事務局長	白坂 貴仁 君
学校教育課長	太 稔 君	社会教育課長	安田 誠 君
介護福祉課長	廣 智和 君	健康増進課長	吉田 忍 君
おもてなし観光課長	吉田 広和 君	税 務 課 長	新田 良二 君
住民生活課長	大山 寛樹 君	選管事務局次長	上原 悟 君
会計管理者・会計課長	田畑 和也 君	水 道 課 長	保久 幸仁 君

△ 開 議 午前10時02分

○議長（行沢弘栄君）

おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

△ 日程第1 一般質問

○議長（行沢弘栄君）

日程第1、一般質問を行います。

広田勉議員の一般質問を許可します。

○12番（広田 勉君）

おはようございます。

大変失礼いたしました。最後の最後までチェックしているものだから、質問書だけ忘れて出てきて、令和6年度9月、12番広田が提出してある5項目について、順次お尋ねしていきます。

昨今の米騒動を見ると、日本という国がいかにもろいかということさらけだしているかと、日本を潰すには大砲もミサイルも何も要らんと、少しだけの経済封鎖をすれば、日本国民は悲鳴を上げると、島もそうだけど、船が何日か欠航すると、スーパーの棚はがらがら、国も国防費に何十兆円かけると、今度総裁に出るある人が核の潜水艦を造るとか言っていますけども、そういうことをするより、日本の食料自給率を予算化して、もっと国に力を蓄えるべきだと、私はそう思っています。

歴史は、繰り返されると、非常時の経済封鎖がどれだけの痛手か、北朝鮮を見ればよく分かります。人間は、喉元を過ぎればということわざがありますけども、ここにこの本がございませぬ。

これは、戦争始まる9年前に書かれた本ですけども、GHQが日本人の人には見られたいと、ずっと隠していた本ですけども、最近ようやく復刻版が出まして、この中を見ると、当時アメリカを日本人はどう見ていたかという報告書ですけども、ここにも書いてあるとおり、日本は戦争する気は毛頭なかったというふうなあれですけども、経済というか、国力の差は歴然であると、ちゃんとここの報告書に書いてあるんです、ある大佐が。あの戦争は経済封鎖でアメリカに仕掛けられたと、私はそう思っているんだけどね。

だから、そういった意味で、日本の国力をどういうふうにするかというのは食料の自給率を上げる以外、何もないというふうに、これがもう最低限だと、私はそう思っています。

まず、第1項目めの教育行政についてであります。長い間、亀津の小中学校の課題でございました給食費の未納問題の転換期となる、公会計移行になったと思いますけども、先生の働き方改革以外に、保護者にも今までとはちょっと違う反応なんかがあるものかどうか、よろし

くお願いします。

○学校教育課長（太 稔君）

広田議員の御質問にお答えいたします。

学校給食の公会計は、文部科学省より、学校給食費の徴収に関する公会計化の推進についての通知がございます。その中に、学校給食については、公会計化及び地方公共団体による徴収を基本とするとの答申がありました。

本町では、令和6年度より、公会計を実施しております。公会計以前は、給食費の徴収は学校のほうで実施していました。公会計により、教育委員会が徴収を行うことによりまして、業務の負担軽減、口座払いにより、納付書などによる保護者の利便性の向上、徴収システムの管理による事務の効率化です。保護者の利便性といいますのは、口座払い、また納付書払い、またコンビニ納付ができるということです。

以上です。

○12番（広田 勉君）

以前から、本当は無料のほうがいいんだけど、公会計でもすると、ほかの学校はそうでもなかったんだけど、前も私は言いましたけど、私が関わっていた当時、亀津中で50万の未収があった。

そうしたら、校長に言ったよ。一緒に回りましょうかと、いやいや、会長にまで、そこまでさせんでええと、校長がそのとき頑張って25万まで落とした。25万ぐらい回収したんだけど、大体小学校から未収してきて、中学校を未収すると、これがずっと未収の難しいところがあったんですね。

今度総裁候補の公約にも給食費無料化とか、いろいろ出す方もいらっしゃるんだけど、この学校給食費未払いは大体が亀津だけの問題なんです。亀津小学校、中学校のほとんど問題なんです。ほかのところは大体みんな100%支払っていますので、今までも。この両校だけの問題だったんだけど、まだあるのかないのか、まだ期間が短いから分かりませんが、まだ未収があるのかないのか、まだ持ってこない子がおるのかどうか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

令和5年までの未収金ですけども、現在、未収金はありません。あるのは現年度分の令和6年度分だけでございます。

以上です。

○12番（広田 勉君）

なぜそうになっていたのかよう分かりませんが、昭和のずっと初めから物すごい額あったんです。その当時こう見ましたらね。これは、回収するには、本人たちが成人して稼ぎ出し

てからもらったほうがいいのかどうかというふうに思うぐらい、やっぱり出す子と出さない子がおるからね。そういうことをしちやいかんと、ずっと思っていましたけども、以前のこの未収金を不納欠損で落とすということはないよね。まだ残っていますか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

私が令和3年度から学校教育課に来ておりますけども、それ以前に関しまして調べたところ、ないということでした、前任の方、担当に聞いても、不納欠損はしていないということでした。以上です。

○12番（広田 勉君）

簡単にあれを不納欠損で落とすしちやいかんと思っているんですよ。未払いがないと、非常にいいことですので、あと3番目に、給食センター建設推進委員報酬2万4,000円、この会計報告がありますんですけども、以前から給食センターを移転するしないとか、どうのこうのとか、いろいろお話があるんですけども、その計画の進捗状況はどういうふうになっていますか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

給食センターの建設ですけども、給食センター建設推進委員会を立ち上げております。令和5年度に3回の会合を行いまして、現在、計画を進めているところです。

以上です。

○12番（広田 勉君）

大体方針としては、どういう方針になっているのかな。改造するとか移転するとか、そういった抜本的な考えするんでしょう。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

給食センターに関しましては、新しく建て替えるということですけども、新しく建設する場所は、これから検討してまいります。

また、その規模、どういった内容にするかということも現在議論しておりまして、それによりまして、どこに設置するかということもこれから進めてまいります。

以上です。

○12番（広田 勉君）

ぜひ給食のことですので、きちっとしたあれでよろしくをお願いします。

4番目に、本町のALT（外国語指導助手）の採用はどのようにやるのか、指導をどうふうにするのか、またALTになるにはどのような資格が要するのか要らないのか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

A L Tに関しましては、一般財団法人自治体国際化協会の協力の下、世界各国から募集を行う J E Tプログラムというシステムございます。これを利用してしまして、派遣された方を採用しております。

派遣の方法は、この方式は多くの自治体が利用しております。

資格といたしましては、自国での大学学士以上の学位を有する者となっております。

以上です。

○12番 (広田 勉君)

日本人は、英語の資格が取れているかどうかとか、いろいろあるんですけども、この人たちは、教員免許とか、そういった資格とか、取らなきゃいかんとか、そういうことはない。

○学校教育課長 (太 稔君)

お答えいたします。

資格といたしましては、ないんです。応募条件といたしましては、日本や日本文化への関心、指定の語学力を有すること、犯罪歴がないことなど等がございます。

以上です。

○12番 (広田 勉君)

次に、遠隔指導、英語の業務委託料295万5,000円となっておりますが、これはどのようなことをなさるのか、回数もあるのか。

○学校教育課長 (太 稔君)

お答えいたします。

遠隔指導に関しましては、令和5年度遠隔指導の英語の業務委託を行っております。免許外教科担任を支援する遠隔事業で、徳之島町立山中学校における生徒の英語学力の向上及び高校受験に対する対策を目的としたオンラインの個別授業を行いました。期間に関しましては、9月1日から令和6年2月28日までの週2回行っております。

以上です。

○12番 (広田 勉君)

それで、たまたま二、三日、伊仙町の小中学校でこの記事がありましたよね。これは、10日の日、おとといの奄美新聞の記事です。「海外の講師陣と1対1のマンツーマンで英会話レッスンを受ける『オンライン英会話』をスタート。町内の全8小中学校5・6年生、3年中学生が対象」と、「県内でも初の取り組み」というふうなタイトルで出ているんですけど、これは見ていない。この記事を見ていない。だったら、いいです。徳之島町だけ先やったんかなと思ったら、伊仙町も手がけているということよね。

もう一つ、これは、茨城の境町というところなんですけども、中学3年生の過半数が英検

3級以上を取得するためという目的でやっておられるみたいけども、目標としては、町長、全ての子供が英語を話せる町へという目標らしい。

じゃあ、どうするかというと、小中校含めた全学校に2人以上のALTを入れると、令和5年度には1校当たり約3名が常駐していると、一連の取組の成果として、中学3年生の英検3級以上の取得率は全国平均、令和5年で約28%であるのに対し、同町は52%、2級取得を目標に掲げ、直近の3年間で7名の合格者を出していると、すぐに全町でということにならないのではあるんだけども、取りあえず東天城中学校ぐらいやってみませんか。

全ての子供が英語を話せる学校というのを掲げて、そうすると、生徒数が増えるかも分からん。亀津中からも英語の好きな子が、じゃあ自分は東中へ行きますという子が出てくる可能性もあると。広島で、女性の教育長が前回おられたんだけど、ある島に高校か大学か、学校を造って、そこは英語以外はしゃべらないと、英語だけで授業もし、全部、全てするという学校を造って、すごい学生、日本中から学生が集まっているんです。

皆様御存じのとおり、手々集落は、集落内で方言をやめようと、共通語を使おうと決めて、ずっと実践してきました。そのせいで我々の年代でも、手々の方々は島口が使えません。本気で取り組めば、ある程度いけるんじゃないかなと思うんですけど、どんなものでしょう。

○教育長（福 宏人君）

ありがとうございます。英語の件については、この伊仙町においても英検ということで、ネイティブな方と学校とを結んで、週2回、全体指導と個別指導というようなオンラインを進めたというふうに聞いております。

本町においても、昨年度実施したのは、山中学校に、小規模の学校は、全ての先生方が教科の免許を持った先生方はいない場合もあるんですね。山中の場合は、一応免外対象ということで、例えばほかの教科を持っている先生が英語を教えると、そういったようなことで、特に英語の専門の先生がいないものですから、新たにマン・ツー・マンで、個別で、オンラインで子供たちの英語指導を実施したところでございます。

かなり子供たちには、それぞれの個別の英語力に対応して専門の指導者が支援したということで、大変保護者も含めて、学校も含めて、大変喜ばれていたところでございます。

今後、広田議員がおっしゃるとおり、これは文科省の今後に向けてなんですけど、中学校の英語の能力を英検3級程度を目指していくというような方向性が文科省のほうでも提言されています。日本の子供たちの英語は勉強しているんですけど、なかなか実践に結びつかないというようなことで、ALTを入れて、いろんな政策を文科省も取ってきましたが、今後この国際化の中で、中学校卒業程度には、先ほど申し上げましたとおり、英検3級を目指すというようなものが示されています。

先ほど本町についての英語教育なんですけど、御存じのとおり、CIR、そしてALTとい

うことで3名、本町に在庁をしておりますので、かなり子供たちへの英語を教える頻度は高くなっているというふうに考えています。

また、夏場に、ALTにそういう英語講座も実証しているところがございます。今後についてなんですが、今、議員のほうから、東天城中学校でのというような話もございましたが、先日の定例教育委員会の中でも、新しく校舎も整備されますので、新たにICTも含めて、この英語を外国語の早期導入による語学の強化というのも今話題に上っております。

現行の英語の先生プラス、今、ALT2名いますので、1名を頻度も増やして、そういったようなことに対応するという、それからこれは来年度に向けてなんですけど、英語専用のAIの教材も含めて、今導入の検討を進めているところです。

さらには、そういったような語学を今、アメリカの語学研修とか、そういったので子供たちがグローバル、少人数ですけど、そういう触れる機会も考えておりますので、早い段階から、小学校段階から、今、議員がおっしゃるとおり、外国語にかなり特化したような形の教育課程も含めて検討していく必要があるのかなというふうに考えているところです。

以上です。

○12番（広田 勉君）

いろいろこの島出身のアメリカで頑張っている人が最近よく聞きますし、島にもよく帰ってこられます。私の同級生も1人、ロサンゼルスにおられて、よく会長さんされて、帰ってくるんですけども、その方々は、我々の島で受けた、我々の当時の英語授業というのは、ほとんどアメリカで通用しないらしい。

アメリカにいた友達が、徳之島高校で自分に3回も赤点くれた先生が来られたので、レストラン行って、先生、英語の先生ですので、オーダーしてくださいと言ったら、ほとんど通用しなかったと、その人が言っていましたけど、まあまあそんなもんだらうと思いはします。

大体今頃も、NHKは、1ドル145円とか言いますよね。アメリカで1ドルと言う人、いないですよ。みんな、ダラーね。とにかく我々は、そういう通用しない英語をずっと教わっているわけよ。

まあまあ通用しないと、自分らも自覚しているもんだから、英語というより、ヤリ語と言っていました、そのときは。余談ではあるけど、指宿の先に颯娃という地方があるんですけども、その人たちは自分の方言というのかな。あれは、「エイ語」というらしい。そのとおりだろうと。

とにかく今、島の人も、アメリカにいっぱい行っています。ロサンゼルスで何名かお会いしたこともあるんです。ちょうどその人たちのお子さんが、今、ちょうどいい青年時代になっていると思うのよね。

だから、島口も恐らく分かるはず、日本語も分かる、しかも英語は向こう仕込みですので、

こっから行った英語仕込みではちょっと駄目なんですよ。向こうでの英語じゃないと、駄目なんですよね。

そういった意味で、町長、何かしていらっしゃると思うんですよ。新撰組とか、いろいろ皆いらっしゃっているから。

だから、そういう人たちのお子さんと交流できるようなシステムを何とかつくれば、今言っていたいろいろな何とか団体とか、そういうことをせずとも、結構簡単に話是可以るんじゃないかなと思うんですけどね。

○町長（高岡秀規君）

普通の会話で、イギリス英語とアメリカ英語等々、世界的に普及しているのはイギリス英語だと言われております。私も、中学、高校時代は、外国の先生でしたけど、イギリス英語でした。発音が非常に違うということと、通じないのは文法なのか発音なのかとなると、発音だろうというふうに思います。その発音を学ぶためには、英語しか使わない環境であるとか外国に少し滞在するとか、その環境によってリスニングとか、しゃべりとかができるようになると思います。

それが、どの方がそれを担うのかということ、2世、3世もそうでしょうけども、専門の教育のプロフェッショナルの教育と両方を連携するというのが大事なかと、だから、今、アメリカに、今、ニューヨークとかに行っていますけども、その前にしっかりと英語を、発音であるとかリスニングとかというのを訓練をした上で体験に行くというのが一番いいだろうということから、今それをスタートさせております。

今後も、英語力の強化につきましては、教育委員会、教育長ともしっかりと今連携を取りながら、奄振事業の活用もできるようになりました。その指標をどこに持っていくかということ、今数値化して、費用対効果が現れて、なおかつ体験でありますとか、英語学習、そしてまた英検で3級が50%とかと、そういう指標もある意味いいのかなと今思いましたので、今後また教育委員会としっかりと英語力については取り組んでいきたいというふうに思います。

○12番（広田 勉君）

この発音が、会話ができたらいいだろうと、それでうちの孫なんか今、伊仙におるんですけども、大体保育園のときにずっと英語を習っているみたいで、じじの発音違うよと指摘されるんですよ。ああ、そうですかと、いつも言うんだけど、英語だけしなさいというわけでもないんだけど、木原議員と俺が1回サイパン行ったんだけど、一番通用するのは何語だと思った。タガログ語、タクシー乗ってもフィリピンの人、飲み屋行ってもフィリピンの人、どこ行ってもタガログ語さえ分かれば、全て通用するような、ですので世界中どこへ行ってもフィリピン人いっぱいいらっしゃるので、タガログ語が一番いい。

国際語じゃないかなと私は思いはしているんですけど、そういった意味でも、こういうふう

に今、伊仙もオンラインのこれやっていますし、徳之島町も300万近く予算使ってやっていますし、それでこういうものを向こうに住んでおられる出身者と交流したら、もうちょっと有効にできないかなと私はそう思います。

向こうにいる同級生が、日本から留学いっぱい来ると、アメリカに。ほとんどは卒業の、何というか、履歴書に書く修了、卒業とか、そういうものを取るために1人で勉強しないと、本当に勉強する人は、どこの大学行っているとかね。

だから、日本から留学行っている。ほとんど、あんまり相手しないんですよね。

だから、そういったものを我々は知らないし、おっ、アメリカ、すごいな、留学行っているのかというふうにみんなするんだけど、中身は全然違うみたいです。

ですので、もう少し検討する余地があるんじゃないかと思いますので、またひとつよろしくお願いします。

7番目の文部省は、令和6年度の全国学力・学習状況の調査結果を公表したみたいです。本町のその結果は、どんなもんだったでしょう。

○教育長（福 宏人君）

御質問にお答えをいたします。

文科省で、先頃、7月29日に全国で、その結果を公表しております。本町のちょっと概要を申し上げます。

まず、この国語におきましては、全国が67.7、本町が63、算数が全国63.4、本町が59.0、小学校6年生ですね。中学校3年生、国語が全国58.1、本町が50.0、数学が全国52.5、本町が43.0というふうになっています。

これをもう少し、これでパーセントでいえば、なかなかちょっと分かりにくいと思いますので、ちょっと問題数で申し上げますと、ちょっと傾向なんですけど、小学校の国語、算数、6年生です。ほぼ全国、県と同率というふうに考えています。

全国と、ちょっと国語だけ比べてみますと、国が国語の問題が14問あります。国は14問中9.5です。本町は14問中8.8ということで、ほとんど同率というふうに考えています。

これは中学数学なんですけど、中学校は、問題数が国語、数学とも15問ということで、国と比較をして、本町が15問中7.5、全国が15問中8.4と、はっきり言えば、1問弱できなかったのかなということです。

この全国学力テストを全国的に見ていますが、今、例えば石川とか秋田とか、非常に全国で高いということなんですけど、最下位と全国と比べてどれぐらい違うかということ、ほとんど1問弱なんですよ。1問できるかできないかということで、この数値の開きがあると、文科省によれば、この10%については、それぞれ何も学力差を競うというようなことじゃなくて、本町でもそうなんですけど、でも、この1問にこだわらなければいけないということで、総括すれば、

小学校については、ほとんど全国、それから、中学校については、あと1問頑張る必要があるのかなというふうに考えているところでございます。

学校においても、それぞれ個別に分析をしながらやっていると、また小人数と、また規模の違うところは、またこの開きがあつて、非常に全国を超えている学校もあれば、もう少し、あと1問頑張る必要があるのかなということで、今学校と具体的な対策も含めて進めているところでございます。

以上でございます。

○12番（広田 勉君）

大体どういう問題が出るかと思つたら、ボールがあると、このボールを入れる箱に、その箱は厚さは考えず、体積がどれくらいかというふうな問題とか、そういったものらしいけど、今、私どもにやれというと、ちょっと難しいからできませんけれども、とにかく学力は上げていかんといけないので、教育目標をずっとしていてももらいたいと、そのために8番目のICTを週3回以上活用している児童生徒のほうがそうでない児童生徒よりも教科の回答率が高いと、本町も比べようがないと思うんですけど、そういう傾向であるかないかだけ。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

ICTを週3回以上利用している児童生徒の学力については、議員がおっしゃったように、公表されている結果と同様に、徳之島町においても、高い数値があります。特に、中学生においては優秀な成績があります。

以上です。

○12番（広田 勉君）

9番目の1人1台端末の時代になっていますので、本町の利用頻度は、小学校、中学校は、どうなっておられますか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

ICT機器、タブレットの活用状況については、小学生は、県、全国の結果を大幅に上回っております。中学校に関しては、少し下回っている状況です。

以上です。

○12番（広田 勉君）

これは、毎日持ち帰りオーケーですか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

タブレットに関しましては、持ち帰りのほうは行っておりません。

また、夏休みとか冬休みとかの長期休暇中には、持ち帰っている学校もございます。

以上です。

○12番（広田 勉君）

長期休みのときは、貸出してみたいな感じになっているということですか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

学校で使用しているタブレットを長期休みのときには、持ち帰ってお勉強するようになっております。

以上です。

○12番（広田 勉君）

大体がある程度、本土なんかは、これ持ち帰りオーケーと、そして家のほうでも、またいろいろそれを使って勉強してくれというふうになっているらしいんだけど、本町は、じゃあそれになっていないということ。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

学校のほうでは、持ち帰ることは、教育委員会のほうでは許可しております。

また、学校のほうでは、いろいろネット環境の問題とか、そういった紙での宿題を出すことで持ち帰らせていないではないかと思っております。

また、今年度実験的に実証している学習支援システムがございます。これは来年度から導入する予定ですが、これを導入することによって、ネット環境が続いていなくても利用可能ですので、そういったことを進めながら、学校のほうでも持ち帰り進めていくことを、また教育委員会のほうでも進めていきたいと思っております。

以上です。

○12番（広田 勉君）

タブレットで、使えないところと使えるところがあるわけ。

○教育長（福 宏人君）

全国的に見て、今、本町においても、学校の1人1台端末を家庭に持ち帰らせるという要綱、そういったようなものについても、既に令和3年度前後から、今つくって対応しています。

一番の大きな問題は、例えばWi-Fi環境なんですよ。全国的にもそうなんですけど、このWi-Fi環境がある家庭、ない家庭もあって、本町でも各児童生徒の御家庭にWi-Fi環境、前のコロナであったときに遠隔の授業をしましたので、あらかじめ調べたんですね。そしたら、約50%がWi-Fi環境がないというようなデータ、本町、上がっています。

今後、子供たちに持ち帰らせるにも、そのWi-Fi環境をどうするのかというようなこと

で、一つ課題がございまして、本町では、教育委員会がそういったようなない環境にも対応できるようにWi-Fiのルーターを50台前後でしたか、教育委員会で、学校教育課のほうで保管して、いざとなった場合はそれを貸し出すというようなことにしていました。

今後、今課長が言ったAIの教材型を、今各学校に入れています。AIが子供たちの、いわゆる使ったらできないところだったら前にAIで分析して、基本的な学習を使うというシステムを今導入をしています。これを来年度、先ほど申し上げましたとおり、タブレットの中に入れると、Wi-Fi環境あるなしにかかわらず、子供たちが学習できると、先ほど申し上げましたとおり、学力向上については、学校もそうなんですけど、家庭でも子供たちの状況に応じてきちっと勉強するという体制づくりを来年度に向けて今進めているところでございます。

以上です。

○12番（広田 勉君）

やっぱり離島であるとか、そういったことじゃなくて、どこでもこういうものを使えるということが、これは最低限平等でなくちゃいかんと思いますので、タブレット使えたと思ったけど、どこでも。孫なんか来たら、すぐタブレットないねとしか言わんからね。それで、ゲームしかしていないけど、まあまあそれはまだ1年生にもなっていない者たちがやるから、たまにさせるんだけど、こういうふうなことは、ちょっと町長、専門ですので、進めておってもらってください。

また、12番の東天城中学校の新築校舎開校記念として、特化したデジタル化を目指して、地域デジタル社会推進費というのがあるみたいですけども、そういうのを何か活用したりして学校自体をデジタル化、特化した学校にできないかと、そしてまたそれを扱える人事、私は、どうしても3月議会では、教育委員会には質問を今までしなかった。

それはなぜかという、教育長が人事するからです。鹿児島行ったりして、人事ずっとしてあるものだから、その人事の邪魔しないようにと思って、3月議会はほとんどしていなかったけども、いや、構わんと、教育長が言うものだから、ずっとしておるんだけど、この人事を重点項目に置いて、掲げて、先ほど言うたように、東天城中学校からモデル校みたいな感じで、人事もそういったできる人を要望、人事要望したりして、職員もそういう職員を随時替えていくというふうにしてできないかなと、私はできると思うんだけど、その目標さえ立てれば。

ですので、1校ぐらい珍しい学校をつくっていいと思うんですよ。町長たちが沖縄の大学院大学ですか、あれ見に行かれたけど、我々もずっと前からあれ見たいなと思って、いまだにちょっと沖縄行く機会がないから見ていないんだけど、どうしてもこれどっかのコネつくって、行ってみようかなと思ったりしているんですけども、沖縄に。

あれは東大以上の学校だというふうに評価されています。一つぐらい徳之島町にそういうのを造っていいよね、目標。できるできないは、別として。せっかく新校舎ができるから、人事

から、いろんな面において、そういうバックアップしてやっていけばどうかと、自分の母校だから言うわけじゃないんだけど、やっぱりそういうのが必要じゃないかなと思いますけど。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

東天城中学校に関しましては、新たに遠隔教室を設置いたします。この教室は、オンラインを活用した授業や外部の専門家講師の授業を受信できるシステムになっております。

さらには、他校とも連携しながら、現在進めているICTの遠隔、そういった教育を進めるような設計となっております。

また、人事に関しましては、教育長のほうが常に要望しているものと思われれます。

以上です。

○教育長（福 宏人君）

ありがとうございます。今、議員がおっしゃったとおり、今後国のほうでもICTとか遠隔とか、もちろんプログラミングとか、今、本町が進めているような形を既に、今後、次の急激な社会において、子供たちの資質能力にはやっぱり必要ということで、今進めているところでございます。

先日、盛山文科大臣が来られて、花徳小学校を訪問しました。そのときに花徳小学校の授業は、低学年からプログラミング教育、それから3・4年生は、いわゆる遠隔、それから5・6年生は、いわゆる中種子の納官小と結んで、メタバースを含めて、そういったようなことをしていました。

後日、その記者会見でも大臣のほうが話をしていましたが、本町における取組を今後進めていく必要があるのかなということ、先ほど人材というような、人事というようなことを議員がおっしゃっていただきましたが、本町では、来た先生が全て専門家じゃないんですね。

でも、今、本町では、先生同士が、例えば5校複式遠隔のその中で、お互いがプログラミングとかICT遠隔とか、様々なことで相互に研修しながら、能力を高めております。

ですので、今、北海道教育大学とか、広島大学とも今連携をしながら、さらにそういったようなICTを使った教育の実践を進めていますので、まさに本町から様々なそういったようなものを今発信しているという状況でございます。

今、小学校段階ですので、今後、中学校、今、東天城中学校ということをおっしゃいましたので、東天城中学校もそういったようなもので今環境もつくっておりますので、さらにそういったこと、今小学校では、盛んにして、中学校では、そのちょっと継続が今薄いので、そこを段階的に伸ばして行って、徳之島から新たにそういったものを発信するような、そういったような意気込みで、ぜひ町当局とも話し合いながらそういったのを進めてまいりたいというふうに考えています。

以上です。

○12番（広田 勉君）

今の盛山文部大臣のその前の前の柴山衆議院議員がいらっしゃって、代々木祭りに参加してくださいただけど、そのときに教育長たちが母間で頑張っていたあれを、いや、知っていますよと、徳之島のそういった教育は知っていますよと、文部大臣だった衆議院議員がおっしゃってくれたんです。

徳之島知っていますかと言ったら、いや、徳之島は知らんと、しかし徳之島がやっているそういう教育は、母間でやっていた教育は知っていますよと、その前の前の文部大臣がそういうふうにおっしゃっていましたので、やっぱり見るところは見ていますので、それだったら特化して行って、ずっと進めていったほうがいいんじゃないかなと、せっかく教育長になられていますので、もっともっと進めて行って、特化して行ってもらえると助かると思います。

次は、一番私も関心あるんですけども、義務教育は、授業料は要らないと、教育には金がかかると言われています。大体夫婦げんかの8割は子供の教育問題じゃないかなと私は思っているんですけど、ちょうど子供が義務教育にいらっしゃる課長に詳しくお聞きしたいんですけども、小学校1年生になると、まずランドセルの準備から始まって、制服から、そしていろいろ準備する靴から上履きから、いろいろございますよね。

学校の前でよく立哨していると、学期初めに机を、この引き出しを持っていくお子さんがおるから、机に引き出しは、これ付き物と思うんだけど、引き出しも買って持っていくみたいなんですよね。

それで、これは備品じゃないかと思うんだけど、そういったいろんなもろもろの金が、見えない金というか、教育費としていっぱい出ているみたいですので、1回洗いざらい、ちょっと出してもらえたらと思っているんですけども、お願いします。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

教育に関する教育費じゃなくて、学校で使う備品、そういう消耗品に関しましては、学級費として集めた中で、一緒に購入する件もありますし、また図書バッグとか、鍵盤ハーモニカ、その他水着とか、水泳帽子とか、そういったものは個々で購入するケースもございます。

議員がおっしゃるように、ランドセルから、制服、体操服、帽子、上履き、体育館シューズとか、多岐にわたって購入するものがございます。それを1年生のときに準備しまして、2年生になりますと、リコーダーとか、3年生になると、習字道具とか、そういったものは個人での購入となっております。

以上です。

○12番（広田 勉君）

義務教育は幾らかかるか、隠れ教育費としてここにいろいろあるんですけども、あとPTA会費もありますよね。PTA会費とか、この間あるところが県のPTA会費をやめるというふうなことも言っていましたけど、PTA会費も要るし、それととにかく金がすごく要るみたいなんですよ。

それで、この間、徳高の体育祭見に行ったら、1年生の体操着というのかな。色が違うわけね、2年生、3年生。じゃあ毎年買い換えんといかんのかなと、いや、それはどうか分かりやしないんですよ。色が違うんですよ。そういう金とか、あとリコーダーとか、いろいろな鉛筆のあれとか、その一式とか、書道具、習字を習うときは書道具も買わんといかんですよ。それ1年、2年、3年、4年、5年と、項目がある程度分かりませんか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

議員のお手元に資料といたしまして、小学生の必需品、また中学生の必需品ということで、1年生から6年生、また中学生は1年生から3年生のを配付してありますので、それを御覧になっていただきたいと思います。

以上です。

○12番（広田 勉君）

表があるんですけど、大体国公立で、学校教育費で6万5,900円、私立で96万1,000円と書いています。学校給食費が大体3万9,000円で、私立は4万5,000円で、学校課外活動費、部活だろうね、恐らく。それで、全部そろったユニフォーム作ったり、いろいろするんだろうね。

それで、国公立で24万7,000円、私立で66万、合計国公立で35万2,000円、私立で166万6,000円、あとアサガオなんかみんな、あれは支給ですか、学校の。

○教育長（福 宏人君）

1年生がアサガオの支柱も含めて置いている、あれは、基本的には教材ということで、それぞれ保護者負担で出してもらっています。

○12番（広田 勉君）

とにかく部活しても金が、サッカー部入ったら靴から全部買わんといかんし、ユニフォームから、ほかの子もそうですけども、ほんで、金はかかるわけなんですよ。

ずっと以前の話だけど、名瀬の小学校の6年の担任にはなりたくないというのが、定説があったんですよ。なぜか、修学旅行費をずっと持ってこないわけ、しょうがないから、その子だけ残すわけにいかんもんだから、先生が立て替えておくから後で持って来てねと言うんだけど、やっぱり持ってこないわけね。それで、踏み倒されるんだろうな、恐らく。

だから、6年生の担任にはなりたくない、徳之島町の場合は、全部修学旅行は公費負担だから、そういうことはないんだけど、その親の気持ちはよう分からんけど、子供は、気まずい

思いをずっとしているんじゃないかなと思うんですね。

我々の時代からもうちょっと上の年代になると、本当に金がなかったんです。持ってこいとされたら、親に言い切らんわけ。そしたら、学校行ったら、忘れましてと、理由は言うんだけど、何回も忘れましてというわけにいかんもんだから、後は花徳の浜なんかで遊ぶと、時間になったら家へ帰ると、そういう先輩方もいらっしゃったんですね。

まあまあ最近はある程度みんな収入がありそうだから、そうでもないと思って、我々の東京に出た時分には3畳間で大体みんな住んでいました。今3畳間で住むという人、ほとんどおらんでしょう。それぐらい金がなかったのよ。この教育を金があるなしで差ができないようなことをしないといけないんじゃないかと、ずっと思っているんですよ。

裕福な家は、確かに参考書を買ったりいろいろして、塾行ったりもできるんだけど、お金のない子はそこまでできなくても、独学でせんといかんというのはあるけど、大高から東大に入った子の母親は、2人とも浅間、そこのお子さんが大高から直で東大へ入って、東大から現役で弁護士の免許を取って、今、神戸とかどっかで判事やっていらっしゃるらしいんだけど、とにかく素質はあるわけよ。これをいかに伸ばすかが問題だね、教育長。

ですので、今までも一生懸命、みんなやってこられたんだけど、さらにちょっと変わった思考とか、いろいろして、やっていって、親に負担かけないようなことをして、みんなが学べるような状況をどうしてつくるかと、いつも考えているんですけど、ひとつ教育長。

○教育長（福 宏人君）

ありがとうございます。私もその現場にいた頃、担任になったときに教材費を集めたり、それ以外のお金を子供の学校徴収金ということで集めて、なかなか持ってこれないお子さんが、御家庭もあったのかなというふうに考えています。

国においても、いわゆる家庭によって、経済状況によって、例えば就学援助とか、そういったようなことで一部学用品とか給食費とか、そういったようなことは、国においても、今援助をしていますし、本町においても、全ての子供たちにそういったようなのが必要か必要じゃないのか、調査をもちろんしますし、経済状況によっては、申請しても、それが認められないケースがあります。

そういったような制度も一つあるということ、それから学校においても、必要以上にドリルとか、そういったような負担軽減じゃないんですけど、常に学校においては、これ必要か必要でないのかということは校長以下に、その教材選定の中で見直しを行って、なるべくは同じようなのは買わないとか、そういったようなことをしています。

今後、先ほど申し上げましたとおり、AIドリルとか、あるいは本町、教育委員会でありませうように、ああいったようなドリルも、そういうふうに子供一人一人の中に入れていくということで、ある程度の負担軽減をしていくというようなことです。

それから、今、町長と一緒に、われんきゃポイントというようなことで、子供たちがいろいろな活動に参加したときは適正な評価を競うということで、それがどの程度か、議員の中からも御質問あったとおりですけど、そういったことでも教育支援と子供たちのやる気を併せて出していくというような今施策を進めているところでございます。

また、その結果については、また具体的にちょっと見ていかなければいけないと思いますが、いろいろとまた相談しながら、またそういったような対応はどういったのがあるのか、また検討する必要もあるのかなというふうには考えているところです。

以上です。

○12番（広田 勉君）

以前もシングルマザーの応援ができないかという質問したことがあるんですけども、全シングルマザーが貧困というわけじゃないんだけど、もし自分が子供を連れて歩いて、シングルマザーだったらどうなのかと考えると、とてもじゃないけど、やっていけないというのがありますので、本当に家庭の差が学力のほうに出てこないような社会であってほしいなというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

○議長（行沢弘栄君）

この項目まで終わらせます。

○12番（広田 勉君）

続けていい。

○議長（行沢弘栄君）

15分、いいですか。

○12番（広田 勉君）

花徳小学校の余剰電力の売電6万、ここ何年かずっと6万ですけれども、前はもっと高かったんですね。これは売電の買取り価格が下がったためなのか、パネル等の劣化なのか、どちらでしょうか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

余剰電力の金額が下がった件に関しましては、一部パワーコンディショナーが故障しているためが要因の一つと、もう一つは、議員がおっしゃったように、買取り単価が下がったためです。現在、約7円となっております。

以上です。

○12番（広田 勉君）

これほかにはなかったですか、太陽光発電している学校。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

花徳小学校以外は、尾母小中学校、亀津中学校、亀徳小学校、神之嶺小学校、山中学校に設置しております。

なお、余剰電力についての販売はしていません。

以上です。

○12番（広田 勉君）

今の学校は、ほとんど売電はしていないわけですか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

先ほど申しました5校に関しましては、売電はしていません。

以上です。

○12番（広田 勉君）

じゃあ、自分がつくった電力は、全部自分で使っているという感じのあれですよ。

15番、徳之島教育大綱は、今年度で対象期間が来ますが、私がちょっと見たところ、おおむね達成できているんじゃないかなというふうに思っていますんですけど、その評価はどうされていますか。まだ途中だけどね。

○教育長（福 宏人君）

大綱につきましては、令和2年4月に教育委員会と町長部局、総合教育会議の中で、今後10年を見通した形で策定をしています。冒頭、町長のほうにどういったような方向を示すのかなというふうに書いてあるとおり、議員がおっしゃるとおり、この内容につきましては、プログラミング教育でありますとか、ICT教育でありますとか、向学塾、それからグローバルに子供さんがやるインターシップ事業であるとか、それから語学派遣とか、そういったもろもろのことを冒頭に書いてございますが、現在している施策につきましては、ほとんどこれに従って今進めているところでございます。

現在、今、見直し期間というようなことでございますが、今、島われんきゃ教育ビジョンというのを策定をしておりますので、今後こういったような内容をまた加味しながら、また今後5年間はこういったような方向で教育行政を進めるかについては、また町長と総合教育会議の中でもいろいろと今話し合いを進めておりますが、本年度策定をして、また来年度から新たに大綱の部分をちょっと見直しを進めていきたいというふうに今考えているところです。

以上です。

○12番（広田 勉君）

ということは、次期大綱も今策定中で、引き続き行うということですか。

○教育長（福 宏人君）

大綱指針がこの期間で、令和2年度から令和6年度末というふうに書いてありますので、本年度中に見直しを行うということでございます。

以上です。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。11時25分より再開します。

休憩 午前11時07分

再開 午前11時25分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

広田議員。

○12番（広田 勉君）

次に、有機農業産地についてですが、有機農業産地づくり推進緊急対策事業補助金として、令和5年は439万7,000円、今年度も500万円を予算計上しておりますが、どこの団体に、どのようなことをやらせている補助金なのか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

これに関しましては先般の福岡議員の御質問にもお答えした内容と同様となります。

まず、簡潔に説明いたしますと、補助金については、団体のほうは、徳之島町有機農業推進協議会へ支出しております。

○12番（広田 勉君）

どこにあるの。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

徳之島町有機農業推進協議会は、事務局が農林水産課が担当しております。

○12番（広田 勉君）

役場。どのような作物を対象にしているのか。

○農林水産課長（高城博也君）

現在、主にばれいしょを対象にしております。よろしく願いいたします。

○12番（広田 勉君）

葉物はちょっと弱いだらうということで、私の知っている人は、与論で里芋をずっとやっておるんですけども、このじゃがいもも、よく病気の蔓延予防のために早めの消毒をお願いしますという放送なんかしていないの。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

この有機に関しては、でき得る限りそういった化学の肥料、農薬等を抑える努力をしておりますので、そういった勉強会等を中心に行い、指導員養成、現在、そういった形で、そういったことを中心に取り組んでおります。

○12番（広田 勉君）

あまりよく分らないのですが、その次、堆肥センターに昨年は総額でどれぐらい町より補助金を出しているのか。

○農林水産課長（高城博也君）

去年の堆肥センターへの補助はしておりません。

○12番（広田 勉君）

堆肥センターには出していないで、堆肥に出しているという意味かな。

○農林水産課長（高城博也君）

堆肥センターへの助成ではなく、農家への助成、チケットを配布し、それを堆肥センターのほうへ持って行って購入をするというふうな形になっております。

○12番（広田 勉君）

方法、間違っていない。方法が間違っていないですか。堆肥に補助するんじゃなくて、堆肥作るのに補助して、いい堆肥を作らせたほうがいいと思うんだけど。

○農林水産課長（高城博也君）

優良な堆肥については、施設の所有者、町、並びにこれまで堆肥センターのほうで施設の整備をして、責任を持って優良堆肥をすると、その堆肥についても分析し、いろんな意味で優良堆肥として、ある程度認定をされておりますので、十分なあれで今購入されていると思います。

○12番（広田 勉君）

じゃあ、ちなみにチケットじゃなくて、堆肥が欲しいと、来られた農家どれぐらいおられるの。

○農林水産課長（高城博也君）

申し訳ありません。件数のほうはあれなんですけど、全量、昨年販売したのに関しては、全て助成対象となっております。ばら堆肥については、春植え、夏植え、園芸の関係で1,972トン、袋詰め堆肥に関しましては15キロ入りで1万531袋で、またペレット堆肥に関しましては1,762袋となっております。

○12番（広田 勉君）

大体がみんなが求める堆肥を作ってもらえればいいんだけど、前も言いましたけど、伊仙の堆肥買ったからかどうかわかりませんが、最近伊仙の畑で赤い花がいっぱい咲いているという話も聞きますし、それは堆肥買ったおかげだというふうな、それは因果関係はわかりませんよ。

みんながそう言っているだけですのね。

だから、前もタイワンカブトムシの話がよく出ましたよね。

だから、堆肥は使わんとかいうふうな話になりましたけども、私がとにかく議員に出たきっかけは、当時の総務課長の実家付近で、物すごく堆肥センターが不評だったんですよ。臭いで昼飯が食べられんというものが、何でそんなの簡単に消せるよと、それじゃ議員に出てやりましょうということで議員に出たんだけど、早速山形のBMWというふうな菌の視察へ行きましたんですけど、その後、体制が変わって、南国パワーが菌を用いて匂いを消したと、それが今の状況になっていると、とてもじゃないけど、風向きによって物すごいい匂いがしよったです、当時。

そういうのもあるものだから、堆肥というのは、今度は公社になると思うんだけど、本当真剣に考えて、やねだんも行ってきました。やねだんは、堆肥を作って、売っているわけよね。それで、利益出しているわけ。補助金出して、売っているわけじゃないのよ。

だから、そういうふうなシステムに持っていけないといけないんじゃないのと、私はずっと思っているものだから、その補助の仕方がおかしいんじゃないかなと、課長はどう思われますか。

○農林水産課長（高城博也君）

まず、臭気の問題に関しましては、私よりも非常に詳しいのは、町長のほうであります。また、答弁いただければと思います。

まず、草の不評であったものに関しましてお答えいたします。

私が担当課長になってからも、そのアサガオ問題、ガット、ギニアグラスの問題も非常に多かったです。それを打開するために温度を上げると、熟成させるために上げるということで、これまで議員の皆様にも御協力いただいて、ブロワー等の設置を試んで温度を上げておると、これはある一定の温度までを何時間か続けないと、その堆肥の中に含まれる種子等が死滅しないということで、そういった意味でやっております。現在は、私の耳に届いていない部分もあるかも分からないんですけど、そういうお話は聞いておりません。

ですから、種子は十分にある程度一定のほうで、種子問題に関してはある一定結果が出ているのではないかなと思っております。

以上です。

○12番（広田 勉君）

どうも私の考える有機農業とはちょっと、まだまだ隔たりがありますので、また後日ということで、次の機能性植物加工センター施設管理業務委託料、毎年36万円支払をされていますけども、昨年はこのセンターからの使用料として15万5,300円が入っております。今年の予算書にはそれは入っていないんですけど、今年は入ってこないのか。

もう一つは。この植物センターの、これは町のやつですけども、母間の加工センターと機能性植物加工センターというふうな案内が出ておるんですけども、アザミを納入した人とか、いろんな方から金銭面の相談をよく受けるんですよ。

どこが主催なのか、僕これを見ると、あっ、町かなとかいうふうに思ったりするんですけど、私に聞いても、内容はよく分からんし、どこに相談行くように言えばいいのか分からないものだから、母間加工センターと機能性植物加工センターと同列になっているんですけども、役場はどれぐらい関わっているの。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

まず、使用料のほうに関しましてですが、今年度においては60万を当初歳入で見込んでおり、当初予算に計上してあります。御確認ください。

その母間加工センター並びに機能性植物工場については、施設は併設されておまして、今のところ業務管理のほうを雇用委託しております。その委託のほうはヘルシーアイランズ、以前機能性植物工場に関してアザミの事業の関係で、機能性植物工場は、今までヘルシーアイランズが以前あったんですけども、そういったものを話し、いろいろな問題が生じて、もうちょっと多用途に使える施設であるべきではないかなということ、町のほうで引き取り、その備品等も精査しながら、買い取った次第です。

現在に関しましては、このアザミの関係に関しましては、取りあえずまだヘルシーアイランズのほうが引き継いで、そのまま継続しておりますので、事務所というか、管理のほうの受けているヘルシーアイランズのほうへ母間加工センター、機能性植物工場のほうになりますけれども、そちらのほうへ問い合わせただければなと思っております。

○12番（広田 勉君）

島アザミ特許現地代理人費用等で155万5,385円が決算書に出ているんですけども、これ特許は取れたのか、何回か聞いているような感じするんだけど、内容はどんなような特許なのか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

これに関しましては、特許のほうは、現在もまだ取れておりません。特許については、まず国内向け、中国向けの特許を申請した後の応答費用となっております。この申請の内容で、理由がある限り、応答する費用が出てくると今後も考えられます。

あとまたどれぐらいかかるかは、代理人事務所にも確認を取っておりますけれども、分からないということで、見通しについても同様ということです。特許については、まだまだやり取りが生じているということでもあります。

○12番（広田 勉君）

私の知り合いで、電気関係で、伊仙で特許を取った方がいらっしゃるんだけど、取りはしたものの、この活用ができないと、活用してくれる人がおらんとかいうふうなこともありましたけど、町は、今までの経過で、どうしても特許を取っておきたいという気持ちでやっていらっしゃると思うんだけど、活用するつもりなのか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

皆様も御存じのとおり、現在、世界情勢はいろいろなものが、こうやって権利が侵されております。

そういった意味で、徳之島町が関わった、この国の事業で導入してやったものに関して、どうしても守っていきたいという観点から特許申請、研究された先生のほうも、そういった形でありましたので、まずこのきっかけはヘルシーアイランズが単独でやろうとしていたところ、このいろんな問題、皆さん御存じのとおり、そういった条件の下、ほかからの権利が、徳之島町の権利が侵されてはいけないと思ひ、特許のほうの申請に承継してやっております。

○12番（広田 勉君）

伊仙の人のあれを見ていると、結構特許取るまで金かかっているわけよね。じゃあ、いざ取れたっておっしゃっていましたが、その後、それを利用する人が見つからんというふうなことで、大分難儀しておりましたけども、町がそれを取って、どういうまた金もうけできるか分かりませんが、まあ頑張ってる。じゃあ、町長。

○町長（高岡秀規君）

この特許の申請は、特許を使わせるという意味よりも、まねできないようなシステムができないというふうに琉大の先生のほうからアドバイスを受けたような記憶がございます。

そしてまた、中国向けのということで、一度招いてオープン記念をしたんですけども、いかんせん、いいことであれば、我々に作らせずに自分たちでやりたいということもあったり、そしてまた国内での消費量が十分でないと、中国では売れないとか、それでよくなれば、中国で自分たちでやりたいとか、そういったことが多々懸念されたので、特許というものをしっかりと申請したほうが侵害にならないのではないかなということから、この議論がスタートしたような気がいたします。自分たちでしっかりといいものを作るといことですね、まずは。

○12番（広田 勉君）

難しい特許とか、簡単な特許があるみたいで、この間、北海道の発明家という小学生が特許を取ったというふうに新聞には載っておりましたが、簡単に取れるものかなと、物によってはそうかも分かりませんが、推移を見させてください。

次に、徳和瀬の平張りハウス水道代として5,384円計上してございますけど、以前フルーツパイヤを作っていたんじゃないかなと思ひましたが、今何を作っておられるのか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

平張りハウスについては、現在、障害者雇用の作業の場所として事業所に貸し出しております。

そこで、現在、栽培されている作物についてですが、幾つかブロックに分け栽培しているとのことです。トウモロコシ、ショウガを栽培しているとのことです。

まず、それとまた1か所は、次の作物のため、堆肥投入等で、まだ植え付けされていない状況であるようです。

以上です。

○12番（広田 勉君）

これ実証実験はあちこちたまにやるんですけども、そういったものの結果というか、あれは残っているものですか。

○農林水産課長（高城博也君）

農業、農政のほうに関しましては、園芸部会の中にも野菜部会、果樹部会等が、いろんな部会がありまして、そこには県並びに農協、農林水産課と試験場等がいろんな形で入っております。その中で、資料として実証試験したものに関しては、その都度取りまとめて保管されております。

以上です。

○12番（広田 勉君）

前あちこちに芋を植えたりしていたんですけど、どういったことになったか、結果は聞いたことはないんだけど、次に参ります。

8番目の船舶免許取得補助金として35万円あれしていますけども、私は、ずっと何十年か前に免許を取りましたけど、当時20万だったか、昭和62、63年頃20万かかったんだけど、これ何名分なのか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えします。

5名分であります。

○12番（広田 勉君）

畜産もそうだけど、漁協もそうだけど、やっぱり免許があるからといってすぐ商売できるものじゃないし、牛舎造らんといかん、船買わないといけないと、そういう資金がずっと要るんだけど、これもし漁協なんかの正組合員には、もし漁業高だかとか出漁日数、あると思うんだけど、徳之島町は正組合員になれるものなのか。

○農林水産課長（高城博也君）

お答えいたします。

船舶免許を取得しても、すぐに漁協の正組合員になれるわけではありません。漁協の正組合員になるためには、まず准組合員に加入していただき、徳之島漁業協同組合の組合員資格審査会の資格審査を行わなければなりません。

以上です。

○12番（広田 勉君）

准組合員から正組合員になるのに資格審査が要するというわけですね。そしたら、ある町なんかは、准組合員にはずっと置くんだけど、正組合員には絶対なさないという話があったんですよ。徳之島町の場合は、資格審査というのは漁業高とか出漁日数とか、そういったものを見るんだろうと思いはするけど、ハードルはどんなものでしょうかね。

○農林水産課長（高城博也君）

内容のほうは、徳之島漁業組合が3か町をまたいで組織されておりますので、中身のほうは直接漁協のほうにお確かめいただければいいと思いますけれども、まず組合員資格審査委員については、組合長、3町の審査委員6名、計7名で審査を行っているようであります。その審査内容については、漁協のほうで御確認いただければなと思います。

○12番（広田 勉君）

漁業の跡取りがないとか、どこのこうのとか、いろいろあるんだけど、正組合員になさないというのも一つの不足というのものもある町が、今は分かりませんよ。前ずっと各町に漁協長がおられた頃の話だけど、難しいと、ほとんど正組合員になれんというふうな話しされていましたが、やっぱりこういうふうにせつかく補助金まで出して免許を取っていただくんだから、なるべく正組合員になるのを前提として出していただきたいというふうに思います。

次に、行旅死亡人の葬祭費についてでありますけども、以前この件で、住民課に質問したつもりが介護福祉課の課長が答弁に立ったので驚いたが、両課で、同じ項目で、同じ予算を計上しているんですよ、20万円ずつ。どちらか一本化できないのかなと、業務を譲り合ったり奪い合うことになりはしないかと、老婆心ながら思うんですけど、いかがでしょう。

○住民生活課長（大山寛樹君）

広田議員の御質問にお答えします。

行旅死亡人葬祭費につきましては、死亡者の葬祭費を町で立て替えて支払っている状態です。令和6年第1回定例会でも答弁いたしました。葬祭費につきましては、死亡者の本籍地市町村へ相続人調査を行い、相続人が確認されましたら葬祭費費用の請求を行います。

事務の一本化につきましては、予算が伴いますので、関係機関で協議したい。業務を譲り合ったり、奪い合うことはないと考えています。

以上です。

○12番（広田 勉君）

亡くなった人の背景で、住民課の担当、介護福祉課の担当になってくるわけですか。

○住民生活課長（大山寛樹君）

葬祭費につきましては、生活保護法や墓地、埋葬法に関する法律等があるため、介護福祉課と住民生活課のほうで予算を組んでいます。

○12番（広田 勉君）

金の出どころの関係があるとは思いますが、これぱっと見たときに20万じゃこれ足らんとって前回質問したら、両方で40万あるから、あっ、40万だったら何とかなるだろうなというふうに思っておりましたので、だから譲り合う、奪い合うという感じがあるんじゃないかなというふうにずっと思っていたんですけど、その亡くなった人の背景で違ってくるということですね。はい、分かりました。

次に、観光交通体系の整備についてであります。ずっとこれが何回か新聞に出ておるんですけども、県策定のこの中に、県管理空港の着陸料軽減や運航費補助などにより、交流人口の拡大に向けて施策を実施するとあるが、以前、県が着陸料を下げ、そのために航空会社が離島割引というのを設置した。それが今の割引運賃になっているんですけども、じゃあその着陸料というのは、今どれぐらいしているのか。

○企画課長（中島友記君）

広田議員の御質問にお答えいたします。

まず、徳之島空港の着陸料についてですが、鹿児島—徳之島間を運航するジェット機、機種名がエンブラエル170という機種で、座席数が76席の機材になりますが、それが1回当たり6万5,450円、そして鹿児島—徳之島間で運航するターボプロップ機ATR42という機種が、これプロペラ機です。座席数が48席が9,207円で、鹿児島—徳之島間を運航するターボプロップ機ATR72という機種が、機材が座席数70席ですが、1万1,803円、奄美大島—徳之島間は、先ほど説明いたしましたATR42という機材を使っておりますので、9,207円になります。

以上です。

○12番（広田 勉君）

離島割引を航空会社が設置するぐらい、恐らく前回から安めたと思うんですね。どこのあれ見ても、着陸料を下げ、頑張らましようとして書いてありますので、今のこの料金から、さらに下げる機運というか、そういうのがあるのかどうか。全町に書いてある、これ。そういう機運があるかどうか。

○企画課長（中島友記君）

この件につきまして、県の港湾空港課に確認いたしましたところ、今のところそういった料金のまた軽減というか、値下げについては、予定はないということでした。

以上です。

○12番（広田 勉君）

いや、私もそう思います。これ以上下げたらあれだなというふうに思っているんだけど、どうしても県の策定のこの振興開発計画の中で6年、下げて頑張らしましょうみたいなこと書いてあるから、だからそういう機運があるのかなというふうに思ったんですけども、またそのほかに新たな観光資源の発掘や案内板の設置、トイレや休憩施設等観光施設整備並びに観光地の維持管理の保全に努めるとあるが、これ具体的に何かありますか。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

広田議員の御質問にお答えします。

新たな観光資源の発掘とは、これまでになかったナイトツアーや集落歩き、闘牛ふれあい体験、ホエールウォッチングなどがよい例だと思います。

島民にとっては当たり前の暮らしの一部である闘牛の世話やザトウクジラが冬場にやってくるということは、島民にとってもあまり認知されていないことでした。今では重要な観光コンテンツになっています。

このように観光資源は、新たに発掘されたり開発されたりしています。地域営業課で進めている星降るレストランや12月にオープンする道の駅「とくのしま」も新たな観光資源になると思います。

以上です。

○12番（広田 勉君）

では、次に行きます。

次に、道の駅についてであります。管理運営委託料934万6,000円と、今回予算を補正していますけども、何をどこまで委託されるのか、どういうふうな契約書なのか。

○花徳支所長（尚 康典君）

広田議員の御質問にお答えいたします。

道の駅「とくのしま」におきましては、案内ステーションと販売所とレストランの機能を有しており、これら全てを指定管理によって委託するものであります。あと屋外トイレと駐車場の管理もしていただく予定です。

○12番（広田 勉君）

これには備品台帳とかはちゃんと整理されておるのか、契約期間というのはあるのかどうか。

○花徳支所長（尚 康典君）

お答えいたします。

備品台帳は、今からまた備品もあれますので、今からになりますけど、あと契約期間というのは、12月に入ってから、来年7年の3月31日までを予定としています。

以上です。

○12番（広田 勉君）

じゃあ、その後は、またその後で、またいろいろ見てやるわけですね。

○花徳支所長（尚 康典君）

お答えいたします。

令和7年の4月以降は、またその現状を見ながら、また契約をしていきたいと思えます。

○12番（広田 勉君）

伊仙の百菜は、出品者というのかな。そういう人たちが協力金というか、出資金とかいうのを全部集めておりましたけども、道の駅は、そういうのはなし。

○花徳支所長（尚 康典君）

お答えいたします。

この間出荷者の募集をかけまして、出荷者募集要綱に基づきやっているところなんですけど、道の駅「とくのしま」といたしまして、登録料として2,000円及びまた年会費、町内の方は2,000円、町外の方は3,000円を支払う形となっております。

ただし、今年度の年会費につきましては、オープン時期が12月ということもありまして、今年度は年会費を頂かないということで一応説明もしてあります。

○12番（広田 勉君）

出資金として何十万、何百万という金ではないわけよね。伊仙のほうは、ちょっと金額が高かったんですよ。じゃあ、そうしますと、年会費払えば、場所代として取るのか、品物にかけて手数料を取るのか、そういうのはなしなのか。

○花徳支所長（尚 康典君）

お答えいたします。

その年会の登録に対して、まずは登録料を頂きます。その後、年会で出荷していただく方に一応2,000円、3,000円を頂く形で、そしてまたあと販売したものに対して、手数料として15%から30%ぐらいの間に、手数料を頂く形となります。

○12番（広田 勉君）

3割はちょっと高くないかな。農協なんかは、恐らく場所代として取っているんじゃないかな。品物をこの横に置いていますでしょう。場所代として取るから、品物を1個100円で売ってくださいといえ、130円で売らんといかんわけよね、3割掛けると。場所代だったら、全部打っても、その場所を幾らで、代で取るというふうになるんだけど、品物の一個一個、3割を掛けて取るというのは、やっぱりちょっとこれ高いような感じするけどな。

○花徳支所長（尚 康典君）

今言いました取りあえず手数料というのは、ほかの道の駅とかを参考にしまして決めた手数

料でありますので。

以上であります。

○12番（広田 勉君）

ほかの道の駅も構いませんけど、今、母間なんか100均の無人がありますでしょう。あれと戦わんといかんから、だからやっぱりこれ3割高いと思うし、場所代で、あんたのコーナーはここですよとか、この場所代で処理するとか、そういったあれには考えられないのかな。

○町長（高岡秀規君）

無人駅の今話が出ましたので、極力その民間を圧迫しないような形で、品ぞろえも今、四苦八苦で考えております。

手数料については15%から30%ということから、適切なパーセンテージを掛けて売ることになります。

○12番（広田 勉君）

今からちょっと検討してくださいね。いろいろやり方あると思うんだけど、大阪万博ではないけど、運営の赤字が出たときの責任は誰が負うのかと。

○花徳支所長（尚 康典君）

お答えいたします。

道の駅というのは、結局公益部門と駐車場とか、トイレとか、案内スペースなどと、あと収益部門の物販、厨房、飲食スペースなどで構成されており、基本的に公益部門に係る経費は指定管理料として自治体の負担、また収益部門の経費は管理者負担となっておりますが、両部門が同一施設の中にあるため、切り離して考えることは難しいとされております。

したがって、施設全体に係る維持管理や諸経費などは指定管理料として自治体が負担するケースが多くなっていますので、公益部門に関しては町のほうで負担する必要があると思います。

○12番（広田 勉君）

食堂も一応43席ぐらいあるんだけど、そのメニューの注文は町からも指示されるのか、受託者の勝手なのか。

○花徳支所長（尚 康典君）

お答えいたします。

今現在、まだ指定管理者との合同にはメニュー開発も進めており、また役場の関係者を交えた交流会とかも行っておりますので、また今、今月下旬には、またグルメ屋さんとも一緒に連携して、島の食材を生かしたメニュー開発を協力していただくということになっておりますので、実際、だから今指定管理者、地域営業課、花徳支所、一緒にメニュー開発を進めているところであります。

○12番（広田 勉君）

前も言いましたけど、例えばお客さんがイセエビ食べたいと言ったら、今、徳之島で出すところないですよ。沖永良部の西郷食堂では食べられるんですけど、徳之島では今出すところが、相談したら出すかも分かりませんが、メニューとしては出ているところないと思うんですけどね。

そういったこともありますので、徳之島で食べたいなというのがあるはずなんですよ、いろいろ。そういうのが出せるものかどうか、また検討してください。

次に、道の駅に品物を並べる場合、生産者なのか職員なのか、売れ残った場合はどうなるのか。

○花徳支所長（尚 康典君）

お答えいたします。

指定管理者が定める出荷会員募集要項によりますと、道の駅に陳列する商品につきましては、生産者による委託販売となっていますので、結局陳列は、その生産者が行うことになります。

あとまた売れ残った商品の引取りは、またそういった生産者という形になります。

以上でございます。

○12番（広田 勉君）

現在のその出品者というか、出資者、品物を持ってくる申込者というのはどれぐらいいるのか。

○花徳支所長（尚 康典君）

お答えいたします。

出荷者の申込状況につきましては、9月5日現在で31件でございます。内訳といたしましては、農産品で15件、加工品で7件、工芸品等で6件、そしてまた複合という形で3件でございます。

○12番（広田 勉君）

前、中村スタンドってありましたけど、そこを全部、今撤去してあるんですけど、そこを今誰かが借りているみたいだけど、あなた方なのか、誰が、いつからいつまで借りるのか。関係ない。

○議長（行沢弘栄君）

広田議員、ちょっと通告から外れていますので、分からないようです。

○12番（広田 勉君）

あなた方は関係ないわけね。ああ、そう。いや、あなた方に貸したというふうなことを聞いたものだから、家主が。じゃあ、分かりました。

じゃあ、終わりますけども、今パワハラが非常に問題になっているんですけど、集中して質問

したら、これパワハラじゃないかなというふうを受け取るか、勉強してもらうための親心か、受け取る側の受け取り方ですからね。おねだりは絶対に駄目ですので、今後またよろしくお願
いします。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。13時30分より再開します。

休憩 午後 0時07分

再開 午後 1時30分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、松田太志議員の一般質問を許可します。

○6番（松田太志君）

皆様、こんにちは。

例のごとくトップバッターが福岡議員で、最後の一般質問となります。しばらくお時間を頂
きたいと思います。

令和6年第3回定例会において、6番松田太志が通告の5項目について質問をいたします。
町長並びに担当課長の答弁を求めます。

まず初めに、9月10日にも植木議員のほうからもありました。7月10日に御逝去されました
徳田虎雄名誉理事長へ心からお悔やみを申し上げます。

私が中学校か高校時代の頃です。天城町のトライアスロンの大会に、真っ黒に日焼けをし、
挨拶に訪れている徳田理事長をお見かけしたのを覚えております。その際に、言葉の力強さに
鳥肌が立ったのを昨日のように覚えております。ALSという難病に懸命に、必死に生きた、
形のある顕彰記念館には、擦り切れてぼろぼろになった靴があり、言葉では表せられない人の
人生の歩みがありました。我々徳之島町議員も町発展のために頑張っていこうではありません
か。

それでは、1項目めの質問に入ります。

徳之島町における学校教育の熱中症対策ガイドラインについて質問をいたします。

各小中学校において、体育祭が開催をされております。毎日のように熱中症警戒アラートが
メールで届く中で、徳之島町のガイドラインについてお伺いをいたします。

○学校教育課長（太 稔君）

松田議員の御質問にお答えいたします。

本町では、熱中症対策ガイドラインでは作成していません。

しかし、各学校で危険管理マニュアルの中で、熱中症対策ガイドラインを作成し、熱中症計
などを活用して対策を講じています。

また、小中学校校長研修会で、県の熱中症対策ガイドラインについて周知し、指導を行っております。

以上です。

○6番（松田太志君）

太課長、答弁ありがとうございます。

令和6年4月に環境省と文科省の学校における熱中症対策ガイドラインというのがありまして、追補版ということで、私も目を通しております。

高岡町長にも何点かお伺いをしたいんですが、町としては、このガイドラインを作成していないというふうな捉えでよろしいのでしょうか、もう一度お願いいたします。

○町長（高岡秀規君）

先ほど課長が答弁いたしましたけれども、確認したところ、町ではなくて、各学校で作成をしているということでありました。

○6番（松田太志君）

太課長、ガイドラインというのは、どういった意味を示しますか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えします。

熱中症に関しましては、何度以上だと危険だということで、外での授業をしないと、教室の対策、そういったものに対しての時間に対して、温度に対しての最低ラインだと思っております。

以上です。

○6番（松田太志君）

課長、すみません、ガイドラインというものに対しての意味、ガイドラインって何ですか、ガイドライン。

○教育長（福 宏人君）

ありがとうございます。今、議員御指摘のとおり、環境省と文科省のほうから、学校現場における熱中症対策ということで、今、追補版も出ておまして、今後学校のほうでは、学校安全法の29条において、既にいろんな関連マニュアルの中で、熱中症対策についても各学校で今策定をしておりますが、さらに今回気候変動とか、いろんなことで、さらに法も大分変わっております。対応も現在の状況では、またきめ細かくする必要があるということで、学校のほうにそういったような対策とか、マニュアルをつくる際のガイドラインとは、そういったことについてきちっと説明をしながら、こういった方向でというような基準を示すものがガイドラインというふうに考えておりますので、先ほど課長が話したとおり、校長会も含めて、そういったところで、またさらに詳しく示していきたいというふうに考えています。

以上です。

○6番（松田太志君）

先ほど教育長からもありましたが、ガイドライン、指導方針と私は捉えるんですが、この令和6年4月の環境省、文科省の「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」の1ページにあるんですが、「この手引きは、教育委員会等の学校設置者が作成する熱中症対策に係る学校向けの熱中症対策ガイドライン等の作成・改訂に資することを目的として作成したものです。」とあるんですね。

私なりに捉える中では、学校設置者の教育委員会なりがこういったガイドラインを作成すべきで、このガイドラインを基として各学校が熱中症に対する対策をするべきでないかというふうに捉えたんですが、こういった徳之島町としてのペーパーデータでガイドラインをつくるべきではなくて、そのまま学校単位でもいいというふうな考えでよろしいのでしょうか。

○教育長（福 宏人君）

今、文科省のほうからも4月30日付で、学校教育活動における熱中症の事項についてのこの依頼が参っておりますので、学校においては、このガイドラインについても話をしているところでございますが、今、議員御指摘のこのガイドラインをつくるべきだというような御指摘でございますので、いろんな学校に下ろすガイドラインについては、国、県のそういったものについて参酌してそこを、参酌という意味を御存じだと思いますが、それを基に教育委員会が策定となっておりますので、こういったことも踏まえて、さらに詳しいこともありますので、これに基づいて教育委員会から再度、これについて参酌をして学校のほうに下ろしていくということで、今後もまた進めてまいりたいというふうに思っています。

以上です。

○6番（松田太志君）

教育長、ありがとうございます。この環境省並びに文科省が作りましたガイドラインの中に8つの柱というものがあります。命と健康を守るための普及啓発及び情報提供、そして高齢者、こども等の熱中症弱者のための熱中症対策、管理者がいる場合等における熱中症対策、地方公共団体及び地域の関係主体における熱中症対策、産業界との連携、熱中症対策の調査研究の推進、極端な高温の発生への備え、熱中症特別警戒情報の発表・周知と迅速な対策の実施という8つのものがございます。

これを踏まえた上で、現場でいる子供たちが熱さへの気づきを現場で働く先生方、子供たちへ周知していけないというふうに私は捉えているんですが、こういったものがありながら市町村のクーリングシェルター、こういったものを市町村長が要件を満たす地域を指定できるふうなことになっているんですね。

クーリングシェルター、例えば徳之島町でいえば、図書館のような暑い時期にちょっと体を

冷やしながら勉強できたり学ぶことができるような、こういったクーリングシェルターというのを徳之島町でも指定していくことをしていかなければならないというふうに思うんですが、高岡町長の答弁を願えますか。

○町長（高岡秀規君）

実はこの熱中症対策をどのように解決するかということで、この間の町村会の振興を考える会に正副会長で出席した際にも、この話題が出ました。

まず、話題になったのが、一応体育館等の冷房、空調施設の整備が必要じゃないかと、東京都においては8割以上が整備されているにもかかわらず、各県においては0%の進捗率であるということから、国等々について、支援策を早急に願いますということをお話したところでございます。

その中で、設備をするのはいいんですけども、維持管理について、相当かかってしまうということから、二の足を踏んでいる町村の実情を訴えたところであります。

このガイドラインにつきましては、何度以上がそういった運動を控えるとか、そういったガイドラインを設けるということは必要であろうし、それを参考に準じた形になろうかというふうに思います。

それで、一番ガイドラインで町村が努めなければいけないのはアラートです。注意喚起をいつ出すのかとか、そういった教室等についての情報の共有であるとか、こういった対策をするべきなのかとか、そういったことは町との連携が必要になろうかというふうに思います。

今後も、今各教室には冷房が入っている状況ですが、体育館でありますとか、大きな施設への冷房の暑さしのぎのための施設整備は必要じゃないかなというふうに考えているところであります。

○6番（松田太志君）

町長、今、クーリングシェルターについて伺ったところで、その次の（2）でそれを聞こうかと思っていましたが、市町村長が要件を満たす地域の施設、指定できるというふうなことになったんですね。こういったものを今後指定していけるか、こういった施設が指定施設となるかというようなことで答弁をお願いします。

○町長（高岡秀規君）

今、各教室には冷房が入っているのではないかなとありますが、クーリング、その施設をどの位置に、例えば学校以外のことなのか、それで必要なかどうかというと、公園等々が指定される可能性が高いのかなというふうに思いますが、その場所についても、そしてまた維持管理についても、そしてまた費用対効果、実際にそういったものを設置した場合に温度が下がるのかどうか、ディズニーランドとか、大きな遊園地にはそういった場所があるんですが、ただ、水蒸気ですか、そういったものだけではなかなか、そこにいる人は大丈夫なんですけど、そこで

たくさん集まるということはなかなか厳しいとか、そういったことも鑑みて、どういったクーリング施設が必要なのかというのは、今後はしっかりと検討しなければいけないかなと、十分調査の上、検討しなければいけないかなというふうに思います。

○6番（松田太志君）

町長、すみません。クーリングシェルターの中身で、冷房設備の普及や高齢化の状況等の地域の実情に応じて、冷房施設が整っている場所をあらかじめ確保し、熱中症特別警戒情報（警戒アラート）発表時には、高齢者や諸事情でエアコンを使用できない方々が冷房の効いた空間に避難できるよう、要件を満たす地域がクーリングシェルターになってきますので、公園ですと、外になりますので、図書館であるとか、文化会館、イメージとして、今後それは市町村長が指定するものですから、今後検討していただきたいと思うんですが、暑い時間帯に町民の方々が避難できるような施設という意味合いのクーリングシェルターとなってくるというふうなことでお願いしたいと思います。

そして、熱中症対策普及団体というものがございまして、これも同じように市町村長が地域の実情に合わせて、民間団体等を普及団体と指定できることとされているんですね。行政のみならず、民間団体や企業等とも連携をして、市町村長が熱中症対策の普及啓発に取り組む民間団体を普及団体として指定することができるものとされているそうです。今後、行政としてどういった民間団体がこういうのに当てはまるのか、検討していただければと思います。

次の（2）の質問に行きたいと思います。

先ほど町長が答弁されたんですが、もう一度ちょっとお伺いをしたいと思います。

議会の初日に、9月5日、町長が出張報告で、体育館の全体の冷房のお話をされていまして。町村の振興を考える会、これについてももう一度答弁を願います。

○町長（高岡秀規君）

今、その町村での会合の中では、そういったクーリング、水蒸気のそれは体育館以外でも、そういった外につけるべきじゃないとか、いろんな避難するところが必要じゃないかなと、そこには維持管理費、そしてまたそういった民間にあっても広さというものが確保できない。じゃあ、ずっと使わないのにクーラー入れたままなのかという、維持管理はどうするんだという話があって、まず最初に飛び出したのが学校の体育館の整備でございます。

その中で、ある程度補助事業はありますよという国側の国会議員の皆さんの答弁であったんですが、結果的に町村としたら、それは一時的な金額でできるかもしれない。しかしながら、その維持管理について相当かかるんで二の足を踏むと、東京都みたいに財政豊かなところは100%に近い整備ができていのに、田舎の地方にとってはほとんど整備されていない、その現状を国が一つの施策でやっていただきたいという話をしたところであります。

そして、以前各教室にクーラーをつけるという施策で、国のほうで、補助事業でやった経緯

がございますが、その当時は、維持管理については特別交付税措置ということがうたわれて、口頭だったのか文章だったのか、ちょっと忘れましたが、そういったことも考慮するという話だったんですが、今担当に聞きますと、特別交付税措置はされていないようだということですので、その維持管理をしっかりと考慮しながら、体育館への空調施設については、子供たちのクラブ活動、そしてまた体育の事業等を考えますと、早めの、早急な空調設備の整備が必要かなというふうには考えております。

○6番（松田太志君）

町長、先ほど私が取り上げましたガイドラインの環境省、文科省の資料の中で、8つの柱の下のほうになるんですが、「公立小中学校等の施設について、地方公共団体における計画等を踏まえ、教室や体育館等へのエアコン設置を支援する。」というような文章がありまして、予算的にどれぐらいというものは全く載っていないんですが、今後町として、この文章、予算を確保するためにヒントとして取り上げていただきたいと思います。

次の質問に行きたいと思います。

徳之島町における部活動の地域移行について質問をしたいと思います。

現在の徳之島町における部活の地域移行の方向性についてお伺いをしたいと思います。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

部活動の地域移行に関しましては、当初、令和8年度から完全移行とっておりましたけども、県のほうに確認したところによりますと、地域の実情に合った体制を構築して地域移行をしてくださいということでした。

本町におきましては、それに組みこみまして、部活動への地域移行に関しましては校長会のほうでお話をしていきまして、現在、校長会で校長での話合い、次に、校長と教育委員会を含めた話合いというふうに順番をつけて会議を進めているところです。

以上です。

○6番（松田太志君）

私も中学校のほうで部活動の地域移行の話をいろいろ伺うんですが、先生方によってはちょっと違う捉え方をしているものがあって、これは早めに教育委員会なり、学校教育課が現場のほうに町の方向性を示していただいて、かつ先ほど校長会であるとか、教育委員会での話合いというふうなことであったんですが、大事なことは、ぜひそれに携わる保護者も入れていただいて、現場の声をもう少し組み入れていただきたいと思いますが、そこら辺についてはどのようにお考えですか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

すみません。説明が少し不足しておりましたけど、まず現在は校長会で話をして、教育委員会と校長で話をすると、次の段階で、そういった方々、地域に関わるスポーツ少年団とか、そういう活動をされている方、そして保護者とか、段階を踏んで、広げていって会議を進めていきたいと思います。

以上です。

○6番（松田太志君）

中学校のほうでは一部外部指導者を入れて、今後そういった方向性を進めていくというふうな話も伺っているんですが、そこら辺は伺ったことありますか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

外部指導者というか、コーチ、そういった方に関しては学校のほうで直接行っている、この方は無償ボランティアということで指導している方がいらっしゃるとは伺っております。

以上です。

○6番（松田太志君）

中学校でも様々なスポーツがある中で、外部指導者が入って、学校教育課でしたか、条例ではなくて、外部指導者の規約等もつくっていたようでした。役場を働きながら指導に携わっているというふうな方もいらっしゃるというふうなことで、地域でいる方が子供たちと指導に関わり長く同じような指導を、それはもちろん先生方も必要で、先生方を除外するわけではなくて、先生方も限られた3年ないし5年の中で指導に携わっていただいているわけですね。

しかしながら、部活動というのは教育の時間外になるかというふうに学んだと思います。その中で、先生方もボランティアとして携わっていきながら、子供たちの距離感も縮めていきながら自らのスキルアップにつながってっていると、その中で、この地域にいる方々が指導に長く携わっていただくことが必要になってくると思います。

そういった面で、今後必要になってくる課題は、太課長、どのように考えていますか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

町のほうでも、地域部活動指導員の規則を設定しております。その中で、活躍できる、活動される方を薦めております。

また、議員のおっしゃる課題と申しますのは、まず部活動が地域移行になった場合、その指導者をどのように確保するか、また土日に関しての地域移行にありますけども、その受皿、そういった団体が、例えば連盟がするのかわ、そういった活動をされている方が引き受けてくれるのかとか、そういった人材の確保が必要だと思っております。

以上です。

○6番（松田太志君）

太課長が先ほど申しました人材です。高岡町長、奄振の開発計画の中に、奄美群島が抱える条件不利性の改善ということで、教育及び人材育成というものがございまして、地域を支える人材の育成確保というのがあります。将来の地域産業を担う人材の育成を目指し、青少年の自立の精神、ふるさとを愛する心を培うというような文言があります。こういったものも、徳之島町だけではなく、奄美全体を考えたときに、そこに携わる指導者、人材が一番重要になってくると思うんです。その人材に対して子供たちがこの人から学びたいというふうに私は集まってくる、それなりのスポーツの種目も大事なんですけども、その人材については、町長はどういった視点をお持ちですか。

○町長（高岡秀規君）

全国的に、奄美だけではなくて、その人材が不足しているというのは事実です。それで、今回の町村の考える会でも、実はこの話題も出ました。なぜ地域移行になるんだと、クラブ活動は学校の教育の一環じゃないのかと、それを強く望むべきじゃないかという意見が多数寄せられました。

その中で、なかなか地域移行ということから、働き方改革の中から、非常に厳しい状況であると、そして以前学校の先生のOBに聞きますと、クラブ活動の中では教員がクラブ活動で同行する場合旅費は出るんだけど、いわゆる事務員がいますよね。事務員がクラブ活動と一緒に行く場合は、旅費が出ないんだそうです。

そして、その事務員が幾ら、何で学校の先生だけが旅費が出るんだ、何で事務員が出ないんだという、本雇いですよ。といったことでも、いろんな議論があったようです。

そして、この人材についても、各地域で、各県で不足していると、特に小さな過疎地域についてはそうであると、そしてまた地域移行に関しては、人材育成についても実際には補助事業がつくられて構築されてはいますが、今後その人材確保については様々な分野からアプローチすべきかなと、例えば大学、体育大学であるとか、そして一般の人、学校の先生、希望者があればしっかりとした指導を教育といいますか、スキルアップする研修でありますとか、そういったことも必要になってくるかなというふうに思います。

そしてまた、学校の先生も気持ちの強い、クラブ活動はボランティアでもいいからやりたいという先生も必ず中にはいますので、鹿児島県ではそういった先生が多いのかなと私はすごく感心しているところですが、その中でクラブ活動における旅費、いわゆる日当とクラブの地域移行になったときの日当の算出があまりにも格差があるということから、町村会として以前、同等にするべきだという話もしたところでございます。

今後は、人材育成については、議員がおっしゃるように、あらゆる大学でありますとか、ほかのプロのそういった抱えるチームでありますとかに人材の養成をすることも想定をしたほう

がいいのかなどというふうに感じているところです。

○6番（松田太志君）

部活の地域移行に関しなが、やはり人材、そこで指導をしていただく方の課題等について答弁を頂きました。これがこの次の（2）に関わってくるんですが、T F A等の旅費助成の話はどうなったのかというふうな質問に行きたいと思います。

T F Aといいますのは、徳之島における中学校のクラブチームです。サッカーになるんですが、去る6月の議会の最終日だったと記憶しております。何名かの方々には、そのT F Aの令和6年大会日程予定表と昨年の令和5年大会日程表の資料のほうをお配りしております。

令和6年度大会日程表について御覧いただきたいんですが、5月の3、4、5、南海日日新聞杯、奄美大島のほうで開催をされまして、徳之島のチームが優勝しております。

そして、このチームが優勝報告会並びになかなか苦しい中での活動ということで、要望書のほうを提出に来たところです。このときに子供たちの思いを聞いていただいたと記憶をしているんですが、高岡町長の中で、どういった記憶がございますか。

○町長（高岡秀規君）

まず、なぜこの活動があるかという、当然子供たちの心身の健康等々を目的としていると、子供たちの目線で考えると、どの省庁であろうが関係ないわけですね。やっていることはスポーツで、同じなわけです。

だけど、扱う省庁が違って、対策が違うというのは、やはりよろしくない、それは大人の事情であって、子供の事情じゃないということだと私は感じています。

その中で、今回クラブが地域移行になる、そしてまた部活動でどうするかではなくて、子供たちの視点に立ったときに、その活動に対して町がどうあるべきかということになれば、そういった垣根を乗り越えて、ある程度平等な対策が必要になってきているなというふうには思います。

○6番（松田太志君）

ぜひ平等な対策のほうをお願いしたいと思います。

先ほどありました南海日日新聞杯、奄美大島で開催されましたのが優勝しました。そして、7月、23、24、25日に中体連県総体が鹿児島県のほうで開催をされております。この際に、32チーム中3位という結果を残しております。これは鹿児島で有名な神村学園中等部、神村学園、町長、御存じでしょうか。神村学園は、中等部のときから、ほかの県外から中等部の生徒を募集しているんですね。

しかしながら、徳之島のT F Aは、徳之島で育った子供たちだけでサッカーに挑んでいるわけです。その中で、この32チーム中3位という成績は、本当に素晴らしい成績で、あと1歩まで来ているんです、町長。この成績について、まず町長、どのようにお考えでしょうか。

○町長（高岡秀規君）

島の子供たちの可能性を感じたところであります。以前、徳之島高校の先生に伺いますと、島の子供たちは潜在的な能力がすごく高いと、しかしながら、中学、高校に上がっていくときに、だんだんだんだん体力にしても、学力にしても落ちてくるという話がありました。今の島の子供たちのレベルの高さを、生まれ持った特徴を伸ばすためにも、しっかりと対策は打っていききたいというふうに思います。

○6番（松田太志君）

町長から答弁を頂きましたが、教育長、このクラブチームになるんですが、教育的なお立場で、教育長からも答弁を頂けますか。

○教育長（福 宏人君）

先ほどの今後の部活の地域移行も含めて、今後子供たちが、特にこの島の子供たちが、今後芸術も運動も含めて、そういったような活動を今後どうしていくのかというようなことを根本的にちょっと考えながら、これはやっぱり持続可能じゃないと駄目だろうというふうに考えています。

従来その部活につきましては、学校においては、部活と生徒指導とは両輪というような形で、ずっと先生方を中心に、ずっとこれを運営してきましたが、近年働き方改革の中で、部活の在り方も大きく転換をしております。

先ほどのちょっと繰り返しになりますが、今後、先ほど議員がおっしゃるとおり、学校での課題、保護者での課題、指導者での課題もきちっとして、この徳之島町の部活の在り方、地域移行も含めて、どうあるべきかはきちっとそこで論議しながら、方向性を見据えてやる必要がある、それが子供たちの持続可能な活動につながるものだと考えています。

それから、もう一つ、今、中体連も含めて、これまで中体連の在り方も部活を中心の在り方で、クラブは、これは以前の話ですよ。なかなか一緒に大会ができないということで、そこはちょっとすみ分けがしてあったんですよ。

以前から、同じ子供で同じ活動についてはということで、いろいろと論議がなされたと聞いています。今回、前年度ぐらいから、クラブの子供たちも参加をするというような体制づくりが今進んでおりますので、そういったような在り方をこれからは見直していきながら、本町においても、そういったようなことで、子供たちのそういったような運動、芸術の活動についてどうするのか、そこについては8年度から、今3年間を国は準備期間となっておりますので、本町の実情に合わせた形で、ぜひ進めていければというふうに思いますので、関係の皆様と話を進めながら推進していければというふうに考えているところでございます。

以上です。

○6番（松田太志君）

教育長、ありがとうございます。

少し話を戻すんですが、令和6年度大会日程予定表の中で、10月19日、20日、高円宮杯U-15という大会がございます。高円宮杯といいますと、サッカーの皇室関係の方が顧問に就かれている大会で、これはクラブチームしか出れないんですね。

その中で、先日徳之島町の徳和瀬グラウンドのほうで予選会がありまして、奄美のチームと徳之島のこのT F Aが予選会をしまして、徳之島のチームが2勝しまして出場権を獲得しているんです。

いろいろ情報提供いただいた方であったり、私もその会場に見に行ったんですが、U-15で、この高円宮杯に出るのがどれぐらいすごいことなのかと聞いたときに、例えばサムライジャパンの日本代表に選ばれるぐらいすごいんじゃないかというふうな感じのことも少し言われつつ、今後この出場権を獲得した子供たちに期待をしながら、結果を一つ一つ残していつまで、以前優勝報告会に来て、町のほうで記念撮影をしました。

記憶の中で、町の広報紙のほうに掲載していただけたのかと思ったら、していただけていなかったもので、この点については、広報関係はどなたが答弁いただけますか。

○企画課長（中島友記君）

お答えします。

要望活動に来ていただいた際、私も出席いたしまして、一緒に写真撮影させていただきましたが、特にちょっとそういった掲載の要望等もなかったものですから、広報担当との共有があまりうまく出なかったなと思っております。

○6番（松田太志君）

今後、町の広報紙に掲載していただけますか、これは何もこのT F Aだけではなくて、離島甲子園に行った子供たちも、ぜひ町のほうに報告会に来ていただいて、そういった撮影をして、その町の広報を見た方々が、あっ、自分の孫が載っている、誰々さんの子供が載っているよ、頑張っているよというふうな流れができればと思ってなんですね。この点について、もう一度答弁をお願いします。

○企画課長（中島友記君）

今、議員が言われたように、頑張っている子供たちを紹介するということはすごく大切なことだと考えておりますので、また担当と打合せをしまして掲載を予定したいと思います。

○6番（松田太志君）

ぜひ担当者と打合せをしていただきたいと思います。

太課長、大分話が戻るんですが、6月議会の最終日にT F Aの子供たち、そしてお母さん方が町のほうにお越しいただいて、なかなか大変な中やりくりをしている、町のほうとして何か補助が頂けないかということで要望に来ていただきました。この点について、太課長は、6月

から、今9月ですか、3か月経過をしていますが、何か前進したものだとかというのがございましたらお願いします。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

徳之島町の補助金に関しましては、部活動大会出場補助金というのがございます。それに関しましては、部活動をしている方への補助金です。主に中体連大会の出場です。

議員のおっしゃっている団体に関しましては、この部活動外活動ですので、この要綱には該当しないということで、現在、補助金の支払いができない状況です。

これに関しまして各市町村、近隣市町村にこのようなケースがないかということで、今要綱とか取り寄せて、このような対応ができないかということ、また部活動移行等も進めながら検討している次第です。

以上です。

○6番（松田太志君）

太課長、私は、天城町の議員の方々、伊仙町の議員の方々と話をする際に、旅費助成の話になることもあります。

そして、子供会の集まりのときに、徳之島町でこのT F Aに関してですが、旅費がないよねという話をよく聞くところです。3か月あって、私もいろいろ調べました。確かに徳之島町立中学校等部活動大会出場補助金交付要綱があるんですね。高岡町長、この要綱は、中学校の部活動というくくりになるんですね。確かにT F Aはクラブチームで、部活動ではありません。

しかしながら、その部活動でできなかった背景があるんですね。背景が10年前になります。徳之島町ではスポーツ少年団サッカーも盛んにしておりまして、中学校もサッカーをしたいという子供たちが多くいたときに、学校と学校教育課のほうに相談に訪れたそうです。

そうしたときに役場の担当者から、野球を中心にやっていきたいんだというふうに言われたそうです。その方からのお話ですので、私が直接言われたわけではございませんが、これは、高岡町長、先ほど言われました。子供たちのしわ寄せがあってはいけない、スポーツは全てにおいて平等だというふうな方向性で私は共感をしているんですが、野球があるからこそ中学校で部活動ができなかった。

だけでも、子供たちはサッカーで輝きたいんですね。その子供たちが指導者がいたおかげでクラブチームができて、そのクラブチームを経て、神村の高等学校に行った選手もいます。私は、神村のインスタをフォローしているんですけども、その中で得点をした方が前どこにいたチームなのかということで、T F Aということで、点数が載って、写真も掲載されるんですね。

そうすると、すごいうれしくなるんですよ。そういった中で、子供たちが中学校3年間、事実上2年ぐらいしかないんです。その中で、どういうふうにして輝いて、次の子たちに憧れの

連鎖を持ち出せるかという状況下の中で、10年前の話ですので、今現在、前向きな話をしている中で、この要綱が時代に沿っていないのであれば、町長と教育委員会なり学校教育課で、要綱を変更していくような方向性が必要ではないでしょうかというのが一つ。

クラブチームが昨年頃から中体連の大会に出場できるようになっております。その中で、出場はできるんだけど、旅費はないというような現状、この2点について、町長、答弁をお願いします。

○町長（高岡秀規君）

今、その要綱等の変更については、今、太課長のほうも検討をするという話で、今回の議会で話をしたところであります。

そしてまた、旅費の中体連に参加できるようになったということが、言わば地域にクラブが移行するとか、世の中の流れだろうというふうに思います。それで、よく僕が羨ましいと思うのが、僕はあまりスポーツはしてこなかったんですけども、30代、40代の皆さんが同じ空手部だった、同じサッカー部だった、同じバスケット部だったよなという仲間づくりで、いろんな懇親会の席で話が盛り上がっているのを聞いたり、あと都会で一緒になって同じクラブ活動をやった仲間が集まっているんですという報告もしたりします。

大人になって生きるものが子供の頃の活動だろうというふうにも思いますので、大人目線ではなくて、子供目線に立ったときに、やはり障害となる部分は取って、子供たちの成長を身を守るべきかなというふうに思っておりますので、今後はまた学校教育課とも話をしながら、その融和に、拡充へ向けて取り組みたいと思います。

○6番（松田太志君）

町長、ぜひこの交付要綱、時代の流れ等もありますので、町長が認める団体なり、そこは議員としてあれですが、前向きに進めていただきたいと思います。

太課長からも答弁を願えますか。

○学校教育課長（太 稔君）

お答えいたします。

先ほど町長が申したとおり、これに関しましては検討を進めている段階ですし、議員おっしゃるように、伊仙町とか、天城町、そのほか和泊町のほうから要綱は既に取り寄せております。その中で、見直しながら、できるだけ早急にこのように対策を講じたいと思います。

以上です。

○6番（松田太志君）

旅費の補助の件終わりました、次のほうに行きたいと思います。

3の今後の認定こども園のタイムスケジュールについてお伺いをしたいと思います。

議会でもありました、給食センターの件も出ていましたので、今後認定こども園の作業部会

がどのようなスケジュールでされるのかというのを伺いたいと思います。

○介護福祉課長（廣 智和君）

お答えいたします。

作業部会の話合いのスケジュールということなんですけれども、認定こども園に関する子ども・子育て会議の作業部会につきましては、子育て会議会長とも日程調整をしておりましたけれども、議会が終わった今月、9月27日に第1回の作業部会を実施することとしております。

以上です。

○6番（松田太志君）

町長、今朝、私も議事録を確認しながら、たしか平成29年の12月議会で認定こども園について質問を取り上げて、町長が必要性を述べたと記憶をしております。それから約5年ですか、その中で、町長の中で、この認定こども園、北部のほうで座談会等も実施しているようですが、町民の方々からこの認定こども園についてどういった話が上がっているとかというのはありますか。

○町長（高岡秀規君）

直接私のほうに認定こども園についてお話を伺ったというのはないんですけども、町の方針として、認定こども園というものは進めたほうが良いというふうな考えです。それはなぜかというと、御両親がお仕事をしている、していないにもかかわらず通える保育園というものも、今後は必要になってくるのではないかなというのが当初考えていたスタート地点でした。そこには認定こども園という施策もあるとか、今現在、こども家庭庁ができたときに、徳之島町のある程度の課題、問題点をこども家庭庁に申し上げております。

そしてまた、今後認定こども園についても、東天城地区に一応考えていますが、学校教育課ないし教育委員会と話した中では、まず東天城中学校の建設をしたときに、どこにこども園の場所を併設するののかも含めて、それが終わった後にでもしっかりと場所等の選定をしたかどうかという話もございました。

ここは場所等もそうですが、あと人材の確保等についてもしっかりと熟知しながら、熟慮しながら進めていきたいというふうに考えております。

○6番（松田太志君）

作業部会のスケジュールは伺いましたので、介護福祉課と学校教育課の話合いがなされているのかについて伺いたいと思います。

○介護福祉課長（廣 智和君）

お答えいたします。

介護福祉課と学校教育課の話合いにつきましては、現在行われておりませんが、先ほどもお答えいたしました9月27日の作業部会等を通じて、また建設検討委員会自体も立ち上げ

ることを進めておりますので、そういった進み具合で、また今後話合いがなされていくと、していくという方向で考えております。

以上です。

○6番（松田太志君）

次に行きたいと思います。

この子ども子育て支援計画について伺いたいんですが、以前子育てに関する保護者のほうに、携帯のほうで答えてくださいというようなことで、QRコードの張った用紙が配られまして、その内容が120問あったんですね。

なかなか時間がかかるなと思いながら対応したんですが、このアンケート結果の前に、最初アンケートをした中でどれぐらいの子育てに関する方々が答えられたのかというのについて伺いたいと思います。

○介護福祉課長（廣 智和君）

お答えいたします。

子ども子育て支援計画アンケート結果回収率につきましては、令和5年度でアンケートを行っております。未就学児につきましては、対象児童286件中151件の回答があり、回収率としては52.8%となっております。全体です。ちょっとアンケート上、未就学児と就学児で分けていくところがありますので、すみません、ちょっと別々でお答えいたします。

就学児分につきましては、対象児童300件中38件の回答でありまして、回収率が12.7%と、かなり回収率がちょっと低くなっていったところです。

以上です。

○6番（松田太志君）

廣課長、これは携帯でのアンケートのみだったんですか。

○介護福祉課長（廣 智和君）

昨年度のアンケートで、未就学児分につきましても、両方とも基本QRコードでした。未就学児分、ちょっと回収率が低いものですから、2回目で、また再度お願いしておりますけれども、QRコードということになります。

以上です。

○6番（松田太志君）

このアンケートの結果について、300件中何件でしたか、12.7%は。

○介護福祉課長（廣 智和君）

未就学児分が52.8%で、就学児分が12.7%でございまして、実際取りまとめてありますのが未就学児分の52.8%、151件分の回答の取りまとめをしておるところでございます。

○6番（松田太志君）

町民の方々にこれはぜひお願いをしなければいけないと思っているんですが、アンケートの回答率がなかなか低い状況で、町民の皆様にもしっかりとお願いをして、次の3期ですか、子ども・子育て計画の5年間というスパンでなってきますので、しっかりと答えて、どういったニーズがあるのか、時代の流れによってというのを答えていただくような方向性も必要だと思うんですね。町長は、なかなか回収率が低い状況についてどのように捉えますか。

○町長（高岡秀規君）

まず、気づかないということもあろうかというふうに思いますし、見たときに、明日にでも出そうとかと、そういったこともあろうかというふうに思います。

それで、アンケートについては、アンケートの結果を出す期間、募集する期間等の工夫も必要かなと、それといつでも、どこでもアンケートに答えられるような状況はネット上なのか手紙なのか等々も含めて、恐らく課のほうでは様々な工夫を凝らしているんでしょうけども、周知というのは手紙だけではなくて、学校関係者のほうにも声かけをお願いすることも必要かなとは思いました。

○6番（松田太志君）

アンケートの結果として、時代のニーズに合ったサービス、こういったものが必要ではないかというふうなのが出てきたと思います。それについて、答えられる範囲で、廣課長のほうからお願いいたします。

○介護福祉課長（廣 智和君）

お答えいたします。

これからアンケートの結果につきましては、今年度の子育て計画を策定する中で、会議の中で、また精査していくんですけれども、ただ、多項目にわたりますので、ちょっと簡単に出したものをお答えいたします。

アンケートの内容については、もちろん計画を策定する中で、確認を含めて提示させていただくんですけれども、保護者からの意見の中であったものの一部としては、小児科医、耳鼻科医を常駐してほしい、また雨天時にも遊べる屋内施設を造ってほしい、他町と比べて子育て支援策が足りていないなどの意見が多数ございました。

以上です。

○6番（松田太志君）

廣課長、ありがとうございます。それを含めて、子ども・子育て会議の中で、しっかりと次なる5年間を計画をしていただければと思います。

次の質問に行きます。

児童手当の変更制度について伺いたいと思います。

○介護福祉課長（廣 智和君）

お答えいたします。

大きく5つほどございますので、その大枠を回答いたします。

1つ目が、所得制限が撤廃されます。2つ目が、支給期間がこれまで15歳未満でしたのを18歳年度末までに延長されます。3番目が、第3子以降の手当額が3万円に増額いたします。4番目が、第3子以降の算定対象年齢が変わります。5番目が、支給回数が年6回、偶数月に変更となります。

また、この制度変更に関しましては、10月頭に配布します広報紙にも載せてありますので、また御覧いただければと思います。

以上です。

○6番（松田太志君）

案内するののかというのを聞こうと思ったんですが、課長のほうから、10月広報紙に掲載するというようなことで、ありがとうございます。

そのまま質問続けてよろしいでしょうか、議長。

○議長（行沢弘栄君）

長くなりそう。

○6番（松田太志君）

早めに終わります。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。14時40分より再開いたします。

休憩 午後 2時26分

再開 午後 2時40分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

松田議員。

○6番（松田太志君）

4項目めの4番目の質問に入りたいと思います。

住宅入所選考についてお伺いをしたいと思います。

(1)の白久団地のような住宅建設が検討できないかというふうな質問を伺います。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えいたします。

白久団地につきましては、シルバーハウジング、高齢者や障害者向けの公営住宅としてシルバーハウジング・プロジェクト事業計画を策定した上で、公営住宅等長寿命化計画にも事業として計画を上げて整備しております。

白久団地のような住宅建設につきましては、現在の長寿命化計画では、将来人口推計によりますと、目標管理戸数が40戸減の需要見込みとなっているため、今後の団地建て替えに合わせて、シルバーハウジングの建設を協議していきたいと考えております。

以上です。

○6番（松田太志君）

この住宅に関しても時代の流れ等、そして人口が変動する中で、今後町として長い視点で検討していただきたいと思います。

次に行きます。

包括等との情報共有ができないかという質問に移りたいと思います。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

これまでの住宅入居につきましては、包括や社会福祉協議会との情報共有は行ってきております。これからも入居相談等がある際には、その都度対応してまいります。

以上です。

○6番（松田太志君）

徳之島町町営住宅管理条例が手元にあるんですが、町営住宅入居先行委員会がございます。その中で、委員として、町議会議員2名、民生委員2名、町職員2名、その他町長が適当と認める者1名とありまして、なかなか様々な案件の中で、限られた時間で、先行していく中で重要となってくるものは、町のほうで作り出していく資料、そして包括等がお越しいただけるのであれば、そういった方々の生の声を聞きたいという意味で質問を上げさせていただいたんですね。

これも時代の流れ等あって、またコロナ禍以降、なかなか人と人のつながりが薄れていっている中で、どういうふうにしていけば前に進んでいけるのかというふうな意味合いも込めて質問を上げさせていただいたんですが、先日の町長が適当と認める者1名という方に対しては、どういった方が当てはまりますか。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

以前の町長が認める方は、元役場職員の方で、民生委員等の経験もある方でした。今回の町長が認める方も役場職員で、総務課長の経験等もされている方で、広い知識を持たれているということで選ばれていると思っています。

以上です。

○6番（松田太志君）

高岡町長、私、これ手元にありまして、町議会議員2名、民生委員2名、町職員2名、先ほ

どの建設課長が言われた1名になるんですが、こういったメンバーの中に包括なり介護福祉課長なり、そういった方々を入れる必要性があるなというふうに感じたんですね。その点について、町長の見解を伺いたいと思います。

○町長（高岡秀規君）

その住宅の入居につきましては、あらゆる生活状況、生活環境、介護福祉がある程度情報のある世帯ということもあろうかというふうに思いますので、今後少しその検討委員会等々と意見交換しながら、どうするかということも話していきたいというふうに思います。

○6番（松田太志君）

ぜひ時代の流れ等もありますので、今後検討していただきたいと思います。

次の3番目に行きたいと思います。

徳之島町が出生率日本一となりまして、今後どのようにしてこの徳之島町に子育て世代が根づいて、そしてまた島に帰ってきて、先ほども述べましたとおり、憧れの連鎖を生み出す仕組みをつくっていけるかという文言を込めて、衣食住の住の意味合いで質問を投げかけさせていただきます。

子育て世代などが入りやすいように規則等の見直しができないかという質問になります。住宅のほうで抽せんをするわけですね。これは抽せんが何回以上外れればとか、そういったのを少し伺っているんですが、議場で答えれる範囲でお願いいたします。

○建設課長（作城なおみ君）

お答えします。

抽せんが外れた方の優先入居に移行できる回数は、10回外れた方となっております。

○6番（松田太志君）

建設課長、月1回あるかないか、人の出入りがあるので、まばらだとは思いますが、10回となりますと、1年ぐらいはかかるわけですね。

その中で、1年あれば、衣食住の中で住、住みにくい環境徳之島町というふうには子育て世代の人が捉えて、町外または島外に行ってしまう可能性というのもゼロではないというふうに思います。

といいますのは、昨年、私が住んでおります亀徳小学校で、1学期、2学期、3学期ともに転校したことがありまして、太課長もよく理解していると思うんですが、昨年120名いた生徒が23名島外に行きまして、今97名だったかというふうに記憶をしております。23名といいますのは、一クラス分に相当するんですね。亀徳小学校でいえばですね。亀徳地区でいえば、住宅が多くありまして、それぞれの生活環境で住んでいるわけですが、何かしらの住みにくい環境があったかと思うんですね。

それぞれですので、ここでは述べませんが、今後そういった子育て世代が住みにくいような

ものを取り除いて、徳之島町に住んでよかったというふうな住宅の在り方というのも必要だと思います、これについては、高岡町長、どのようにお考えですか。

○町長（高岡秀規君）

子育てしやすい世代の住宅の在り方についてですが、設計等々、どのような設計にすればいいのか等々の技術的なものなのか、それともほかの環境が原因するのか等々は、まだこの情報が十分では今の段階ではないので、しっかりと子育て世代に向けた住宅とは何なのかということとは、少し調査をさせていただきたいというふうに思います。

○6番（松田太志君）

今後とも時代の流れに沿って、この規則も見直していただきたいと思います。

そして、この規則の中で住宅の戸数が載っているんですが、少し変更があつて、課長のほうでちょっと、後ほど変更等があれば、資料等も差し替えていただきたいと思いますので、お願いいたします。

最後の質問に行きたいと思います。

5項目になります。

レプリコンワクチンについてお伺いをしたいと思います。

徳之島町におけるレプリコンワクチンの方向性についてお伺いをします。

○健康増進課長（吉田 忍君）

松田議員の御質問についてお答えいたします。

まず初めに、このレプリコンワクチンとは、Meiji Seika ファルマという企業が製造し、昨年11月28日に厚労省より承認を得ている新たなワクチンとなっております。まだ1年も経過しておらず、そのワクチンの接種に当たっての必要項目等々、情報が不足している中がございます。

また、今年6月に行われた国会等々で質問答弁がなされておりますが、中身につきましてはなかなか情報が得られない中がございます。

本町といたしましては、先日の宮之原議員の答弁にちょっと重複いたしますが、9月補正予算成立後に、10月1日から来年3月31日まで定期予防接種を開始いたしますが、この中で、今回レプリコンワクチンを含めて5社のワクチンがございます。こちらのほうを今後4月以降は当内の医療機関が医師と相談の上、ワクチンについてはどちらを使用するかという判断をしてみたいと思います。

本町といたしましても、3町、そして医療機関の従事者との調整の中でもこのレプリコンワクチンについては、まだまだ情報が不足しているため、令和6年度につきましては少し慎重性を持ちたいという判断に至っております。

○6番（松田太志君）

2024年5月29日にありました厚生科学審議会の検討する小委員会の資料がありまして、その中で、デルタ株流行下のベトナムにて1万6,000例の大規模試験で有効性を検証したというふうなことがありました。

しかしながら、世界で日本のみですか、今後こういったワクチンを打っていこうというふうな方向性、そして先ほど課長もありましたとおり、情報がまだないんですね。

宮之原議員、福岡議員からも、このワクチンについて少し触れておりましたが、都会のほうでは、このワクチンを接種した方が本当に入店お断りというふうな方向性もあったりして、なかなか方向性が見えない中で物事が進んでいるというふうなことがあるようです。

そして、このワクチンが自己増殖型ワクチンというふうなことで、じゃあどういうふう増殖していくんだというふうな問題もあるようです。高岡町長は、このレプリコンワクチンについて、どのような認識がございますか。

○町長（高岡秀規君）

いわゆる不活性ワクチンとは違って、メッセージーRNAが遺伝子の情報をコピーするというものですが、レプリコンワクチンの特徴として、今、議員がおっしゃったように、自己複製するメッセージーRNAを生成するということから、接種者、非接種者、接種者から非接種者にワクチン自体がうつるのではないかなという懸念があるということが言われております。その検証は、まだされておられません。

よって、安全性は確認されているがゆえに、恐らく日本では許認可、認可になるだろうというふうに思います。今後、安全性が確認されたということで、恐らくワクチン接種する方が出てくるだろうというふうに思いますので、我々はどのワクチンを打つかという選択肢は打つ側をお願いをし、必ずしもそれがいいということではなく、過度なPRはしないほうがいいのかなというふうに思っております。

○6番（松田太志君）

町長なりの答弁ありがとうございます。

コロナワクチンは、このワクチンを含めて5種類ある中で、様々な事例があって、心疾患等がある方が急に亡くなられたりというのがあり、それがワクチンが原因だったのかというふうなので、実際にいろいろと事例があったようです。

最終的には、本人がどのようなワクチンを選ぶのか、打たないのかというふうなのは最終的に本人なりの判断になってくると思いますので、私もこれが情報が入りながらちょっと注視していきたいと思っております。

以上で、私の一般質問のほうを終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（行沢弘栄君）

以上で、本日の日程は全部終了しました。

次の会議は、9月13日午前10時から開きます。

本日は、これで散会いたします。お疲れさまでした。

散 会 午後 2時55分

令和6年第3回徳之島町議会定例会

第4日

令和6年9月13日

令和6年第3回徳之島町議会定例会会議録
令和6年9月13日（金曜日） 午前10時 開議

1. 議事日程（第4号）

○開 議

- 日程第 1 議案第71号 なごみの岬公園管理運営基金条例の制定について
.....（町長提出）
- 日程第 2 議案第72号 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例
の整理に関する条例について（町長提出）
- 日程第 3 議案第73号 徳之島町国民健康保険条例の一部を改正する条例に
ついて（町長提出）
- 日程第 4 議案第74号 徳之島町堆肥センター設置条例の全部を改正する条
例について（町長提出）
- 日程第 5 議案第75号 徳之島町花徳地区高品質堆肥施設設置及び管理に関
する条例の廃止について（町長提出）
- 日程第 6 議案第76号 鹿児島県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更
する規約について（町長提出）
- 日程第 7 議案第77号 機械器具設置工事請負契約の締結について（町長提出）
- 日程第 8 議案第78号 物品購入契約の締結について（令和5年度（繰）徳之
島町下水道事業可搬式発電機購入（3工区）） …（町長提出）
- 日程第 9 議案第79号 令和6年度一般会計補正予算（第3号）について
.....（町長提出）
- 日程第10 議案第80号 令和6年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第
2号）について（町長提出）
- 日程第11 議案第81号 令和6年度介護保険事業特別会計補正予算（第2号）
について（町長提出）
- 日程第12 議案第82号 令和6年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第2
号）について（町長提出）
- 日程第13 議案第83号 令和6年度水道事業会計補正予算（第2号）につい
て（町長提出）
- 日程第14 議案第84号 令和6年度下水道事業会計補正予算（第2号）につ
いて（町長提出）
- 日程第15 議案第85号 令和5年度一般会計歳入歳出決算の認定について
.....（町長提出）

- 日程第16 議案第86号 令和5年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算
の認定について …………… (町長提出)
- 日程第17 議案第87号 令和5年度農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算
の認定について …………… (町長提出)
- 日程第18 議案第88号 令和5年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認
定について …………… (町長提出)
- 日程第19 議案第89号 令和5年度公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の
認定について …………… (町長提出)
- 日程第20 議案第90号 令和5年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の
認定について …………… (町長提出)
- 日程第21 議案第91号 令和5年度水道事業会計歳入歳出決算の認定につい
て …………… (町長提出)
- 日程第22 報告第6号 令和5年度健全化判断比率について …………… (町長提出)
- 日程第23 報告第7号 令和5年度資金不足比率について …………… (町長提出)
- 日程第24 報告第8号 継続費精算報告書について …………… (町長提出)
- 散 会

1. 本日の会議に付した事件

- 議事日程記載事件のとおり

1. 出席議員（16名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	内 博行 君	2番	政田 正武 君
3番	宮之原 剛 君	4番	植木 厚吉 君
5番	竹山 成浩 君	6番	松田 太志 君
7番	富田 良一 君	8番	勇元 勝雄 君
9番	徳田 進 君	10番	池山 富良 君
11番	是枝 孝太郎 君	12番	広田 勉 君
13番	木原 良治 君	14番	福岡 兵八郎 君
15番	大沢 章宏 君	16番	行沢 弘栄 君

1. 欠席議員（0名）

1. 出席事務局職員

事務局 長 清原 美保子 君 主 査 中野 愛香 君

1. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の名

職名	氏名	職名	氏名
町 長	高岡 秀規 君	教 育 長	福 宏人 君
総務課長	村上 和代 君	企 画 課 長	中島 友記 君
建設課長	作城 なおみ 君	花徳支所長	尚 康典 君
農林水産課長	高城 博也 君	耕 地 課 長	水野 毅 君
地域営業課長	清瀬 博之 君	農委事務局長	白坂 貴仁 君
学校教育課長	太 稔 君	社会教育課長	安田 誠 君
介護福祉課長	廣 智和 君	健康増進課長	吉田 忍 君
おもてなし観光課長	吉田 広和 君	税 務 課 長	新田 良二 君
住民生活課長	大山 寛樹 君	選管事務局次長	上原 悟 君
会計管理者・会計課長	田畑 和也 君	水 道 課 長	保久 幸仁 君

△ 開 議 午前10時00分

○議長（行沢弘栄君）

おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

△ 日程第1 議案第71号 なごみの岬公園管理運営基金条例の制定について

○議長（行沢弘栄君）

日程第1、議案第71号、なごみの岬公園管理運営基金条例の制定についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第71号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、なごみの岬公園管理運営基金条例の制定について議会の議決を求める件であります。

内容は、1944年6月29日、亀徳沖で米軍潜水艦の魚雷攻撃で撃沈された輸送船、富山丸の慰霊碑が建立されているなごみの岬公園の管理運営及び富山丸慰霊祭事業等の運営のための基金を設置するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○8番（勇元勝雄君）

この寄附行為は何月ごろ行われたのでしょうか。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。

休憩 午前10時02分

再開 午前10時05分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○企画課長（中島友記君）

すみません、お答えいたします。

こちらのほうは令和5年の10月の20日に富山丸の慰霊祭の継続等についての寄附ということで寄附をいただいております。

以上です。

○8番（勇元勝雄君）

この質問を出したらいろいろ言う人もいますが、この質問を出したのは、今日の朝、パッと見て、これ、いつごろ寄附をされたのかと思って質問したわけです、いじめじゃないんですよ。企画課長も4月で変わってすぐだから分からなかったと思いますが、1,000万の金を寄附したその人の、いつ寄附をしたか分からないような状態じゃ、前の企画課長は分かっていたと思うんですよ。この人もそういう目的で使ってくれという思いで寄附したと思いますが、もっとスピーディーにこういう基金を作らなければ、あの金はどうなったのかなと寄附した人も疑問に思うわけですよ。今後、スピード感を持ってやってもらいたいと思います。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第71号、なごみの岬公園管理運営基金条例の制定についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第71号は原案のとおり可決されました。

△ 日程第2 議案第72号 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第2、議案第72号、刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第72号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について議会の議決を求める件であります。

内容は、刑法等の一部改正に伴い、文言等を改正するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第72号、刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第72号は原案のとおり可決されました。

△ 日程第3 議案第73号 徳之島町国民健康保険条例の一部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第3、議案第73号、徳之島町国民健康保険条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第73号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町国民健康保険条例の一部を改正する条例について議会の議決を求める件であります。

内容は、令和6年12月2日に現行の被保険者証が廃止となるため、被保険者証の返還に応じないものに関する部分を削除するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第73号、徳之島町国民健康保険条例の一部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第73号は原案のとおり可決されました。

△ 日程第4 議案第74号 徳之島町堆肥センター設置条例の全部を改正する条例について

○議長（行沢弘栄君）

日程第4、議案第74号、徳之島町堆肥センター設置条例の全部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第74号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町堆肥センター設置条例の全部を改正する条例について議会の議決を求める件であります。

内容は、徳之島町堆肥センターの管理運営を指定管理または町直営として明確にすることと、類似施設である徳之島町花徳地区高品質堆肥施設の有効活用を図るため、管理運営を徳之島町堆肥センターへ統合するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第74号、徳之島町堆肥センター設置条例の全部を改正する条例についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第74号は原案のとおり可決されました。

△ 日程第5 議案第75号 徳之島町花徳地区高品質堆肥施設設置及び管理に関する条例の廃止について

○議長（行沢弘栄君）

日程第5、議案第75号、徳之島町花徳地区高品質堆肥施設設置及び管理に関する条例の廃止についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第75号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、徳之島町花徳地区高品質堆肥施設設置及び管理に関する条例の廃止する条例について議会の議決を求める件であります。

内容は、平成14年に施設の設置とともに条例を制定いたしました。施設の有効活用を図るため徳之島町堆肥センターへ統合するものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第75号、徳之島町花徳地区高品質堆肥施設設置及び管理に関する条例の廃止についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第75号は原案のとおり可決されました。

△ 日程第6 議案第76号 鹿児島県後期高齢者医療広域連合規約
の一部を変更する規約について

○議長（行沢弘栄君）

日程第6、議案第76号、鹿児島県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第76号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、鹿児島県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約について議会の議決を求める件であります。

内容は、令和6年12月2日に現行の被保険者証が廃止となり後期高齢者医療制度の事務に係る規約を改めるため、鹿児島県後期高齢者医療広域連合規約を変更することについて地方自治法第291条の11の規定により議会の議決を求めるものであります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第76号、鹿児島県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第76号は原案のとおり可決されました。

△ 日程第7 議案第77号 機械器具設置工事請負契約の締結について

○議長（行沢弘栄君）

日程第7、議案第77号、機械器具設置工事請負契約の締結についてを議題とします。

本件について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第77号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、去る8月21日に一般競争入札した令和6年度国内肥料資源活用総合支援事業に係る機械器具設置工事請負契約について議会の議決を求める件であります。

内容は、製糖工場から本町堆肥センターに搬入されるハカマを粉砕するために必要な粉砕機と袋詰め機の導入であります。契約金額9,350万円、契約の相手方、福岡市中央区大手町1丁目1の3、三友機器株式会社代表取締役平木一男であります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○8番（勇元勝雄君）

機械の処理能力、粉砕機の処理能力、袋詰め機の処理能力。

○議長（行沢弘栄君）

しばらく休憩します。

休憩 午前10時18分

再開 午前10時20分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○農林水産課長（高城博也君）

申し訳ありません。

まず粉砕機に関しましては、1時間800キロの能力があるというふうな形で試験結果が出ております。

続きまして、袋詰め機に関しましては、1時間当たり750キロを予定しているところであります。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第77号、機械器具設置工事請負契約の締結についてを採決します。

お諮りします。本件は決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第77号は可決されました。

△ 日程第8 議案第78号 物品購入契約の締結について（令和5年度（繰）徳之島町下水道事業可搬式発電機購入（3工区））

○議長（行沢弘栄君）

日程第8、議案第78号、物品購入契約の締結について（令和5年度（繰）徳之島町下水道事業可搬式発電機購入（3工区））を議題とします。

本件について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第78号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、去る8月30日に指名競争入札した令和5年度徳之島町下水道事業可搬式発電機購入に係る物品購入契約について議会の議決を求める件であります。

内容は、現在、8基ポンプの設備が稼働しており、台風などの自然災害時にポンプ設備の運転が停止すると下水処理に重大な影響を与えることから、今回、災害時に稼働するために非常用発電機の購入を行うものであります。契約金額685万3,000円、契約の相手方、鹿児島県大島郡徳之島町亀津522番地の9、有限会社佐多電機工業代表取締役佐多省一朗であります。参考までに指名業者を申し上げますと、有限会社大沢電電商事株式会社、九電工徳之島営業所、有限会社佐多電機工業、セタ電機産業有限会社、有限会社森電業の5社であります。

何とぞ御審議の上、議決していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○10番（池山富良君）

下水道の問題ですけれども、下水というのは上から下に流れるのが普通なんです。今、我々の下水処理場は町の中をやはり高場とって上のほうに上げてるんですね。これは必ず、この機械は必ず故障します。だから今後、やはり10年先を見据えて、町長にお願いしたんですけども、やはり下水道の処理場はぜひ下のほうに作って、次の世代の人たちのために作っていただきたい。それをやっぱり長期で計画してないと、この問題は必ず毎年毎年出てくるんです。そうすると大変な負担になりますので、高岡町長のまず、ああ、高岡町長、偉いと言われるように、ぜひ本来は下に埋め立てでもして、ぜひ亀津漁協あの辺に作っていただきたいと思えます。これは要望です。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第78号、物品購入契約の締結について（令和5年度（繰）徳之島町下水道事業可搬式発電機購入（3工区））を採決します。

お諮りします。本件は決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第78号は可決されました。

△ 日程第9 議案第79号 令和6年度一般会計補正予算（第3号）について

○議長（行沢弘栄君）

日程第9、議案第79号、令和6年度一般会計補正予算（第3号）についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第79号の提案理由を御説明申し上げます。

本件は、令和6年度一般会計補正予算（第3号）について議会の議決を求める件であります。

内容は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ5億785万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ97億4,029万1,000円とするものであります。

歳入の主な内容は、地方交付税 5 億 77 万 6,000 円、国庫支出金 1 億 7,657 万 9,000 円、繰越金 8,306 万 3,000 円などの増額、繰入金 3 億 2,645 万 7,000 円の減額であります。

歳出の主な内容は、民生費 1 億 7,635 万 3,000 円、教育費 9,202 万 6,000 円、災害復旧費 9,176 万 3,000 円、総務費 4,035 万 6,000 円などの増額であります。

なお、事項別明細につきましては、審議の段階で御説明申し上げます。

何とぞ御審議の上、議決していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○3番（宮之原剛君）

昨日、補正予算説明もいただいておりますので、1点だけお伺いをいたしたいと思っております。

事項別明細書25ページ、款項目7、1、4の12、一番上の行ですけれども、亀徳新港周辺整備事業計画案作成業務委託料というのが出てますけれども、これは亀徳新港前の記念植樹帯の整備も含めていると思っておりますので、このことについて私も何回か今まで一般質問取り上げてきましたので、ちょっと気になってお伺いをしたいと思っておりますけれども、昨日の説明で、役場若手職員のプロジェクトチームができておりますけれども、この中での発想、アイデア、また構想を元にコンサルタントに依頼して計画案を作ってもらおうということではありますが、この計画案をこれから県に上げるのでしょうか。これからのタイムスケジュール等、またどのような補助事業を使うのか、分かる範囲で結構ですからお伺いいたします。

○おもてなし観光課長（吉田広和君）

宮之原議員の御質問にお答えします。

この計画についてははまだ案の段階ですけれども、県の魅力ある観光づくり事業のにぎわい回廊事業への新たな要望のための計画策定になります。このにぎわい回廊事業については、市町村からの提案や企画に基づき県が整備し、整備後は町が管理することになります。

以上です。

○3番（宮之原剛君）

まだ頭出しの段階だということですね。一步踏み出したのかなと思っておりますが、県の事業でできる可能性があるということでもありますので、早期実現を期待しておりますので、ぜひ頑張っていたきたいと思っております。答弁は要りません。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

○8番（勇元勝雄君）

昨日、説明をもらいましたが、ちょっと疑問に思う点がありますので、アンダーシービレッジ、補助金を出してありますが、この施設が完成した時点でこの施設はどこの所有になるでし

ようか。これは前の企画課長にもお願いして、所有は町のほうに取るべきじゃないかという話をしていますけど。

○議長（行沢弘栄君）

勇元議員、ページ言ってもらえませんか、歳出、歳入。

○8番（勇元勝雄君）

10ページの2、1、15の18ですね。

○企画課長（中島友記君）

お答えします。

この事業は、漁協と連携して、アンダーシービレッジ整備事業との補助金として取り扱っておりまして、これは漁協と連絡を密にして連携して実施していくということで進めていますので、その設置に関して設置後のことについても、所有者の権限、所有権というものについては、また協議をした上で覚書等を交わして、ちゃんとした管理を、所有権について協議を進めていきたいと考えております。

○8番（勇元勝雄君）

これ、現在の漁協長だったら話は分かると思います。しかし、将来的に変わる可能性もありますよね。そしてそのアンダーシービレッジが観光地として栄えた場合、将来の漁協長が、これは漁協の所有だから使用料を取るとか、観察料を取るとか、そういう状態になったら困りますので、必ず補助金と言う方、あくまでも補助金ですから、そういう協定書はきちっと交わしてやってもらいたいと思います。

次に、12ページ、2、1、27、18、12ですね、委託料。昨日も聞きましたけどはっきりした返事がもらえませんでしたので、まず第一に、これは公募していないという話でしたけど、公募しなかった理由ですね。公募する人がいなくてもある程度プレゼンして、どういう内容で運用しているのか。そういう計画書が恐らく業者から出てきていると思います。その計画書はあるのか。協定書はまだ昨日はできていないという状態でしたけど、これは早急に協定を結ぶべきだと思います。

そしてなぜ債務負担しなかったのか。来年度以降はどのような委託料を、どのような手段で委託料を払うのか。これは支所長に先ほど渡してありますけど。

○花徳支所長（尚 康典君）

すみません、お答えいたします。

まず公募をなぜしなかったのかというあれなんですけど、これ前も議会でも答弁させていただいたんですけど、徳之島町公の施設における指定管理の指定等に関する条例第5条第1項に、公の施設の性格、規模、機能等を考慮し、設置目的をさらに効果的かつ効率的に達成すると指示をする場合においては、第2条の規定、公募によらず法人等を指定管理者の候補者として選

定することができるということに基づき、公募はしませんでした。

次に、協定書の件ですけど、一応協定書のほうは今現在、案は一応できているんですけど、この管理運営委託料が今回の議会で議決外にその協定書のほうは管理運営団体と協議して進めていきたいと考えております。

それと、債務負担行為はなぜしなかったということなんですけど、これは債務負担行為の指定管理制度を採用するに当たって、債務負担行為を設定する義務はないということがございまして、今回は債務負担行為は上げておりません。

また来年度以降につきましては、次の12月議会でまた債務負担行為は今からちょっといろいろと数字とかをまた詰めていって、また債務負担行為を上げる形になると思います。

以上です。

○8番（勇元勝雄君）

協定書がなかったら、この934万6,000円という金は出てこないんですよ。どういう仕事をするからこれだけの金が要りますよという、前提になる協定書がなかったらこの金額は出てこないんですよ。地方自治法で214条歳出予算の金額継続費の総額または繰越明許費の金額の範囲内におけるものを除くほか、普通公共団体が債務を負担する行為をするときには、予算で債務負担行為として定めておかなければならないという項目があります。またあえて債務負担行為をしない自治体もあります。こういう回答が来ていますよね。債務負担行為をしなければ、指定管理者を受けた業者は来年から金が入るか、入らないか分からないわけですよ。議会が予算を通すという前提で債務負担行為をしているわけだから。こういうの議会軽視ですよ。

まず第1に疑問に思うのは、どうして初めからこういう赤字予算を組まなければいけないのか。道の駅を作るに当たっては、恐らく町長も、支所長もあちこちの道の駅を見て、こういう施設を徳之島町に作っても大丈夫だという前提で道の駅を作っているわけです。伊仙の百菜、名前が道の駅ではないだけであって、あれも道の駅と一緒に業務形態ですよ。6億余りの金をかけて最初から赤字。この934万6,000円、これは3倍したら恐らく3,000万近くの金が5年間で出なければいけない。1年間でですね。こういう状態で道の駅を運営する。非常に私は疑問に思うんですよ。この予算を通した我々議会も瑕疵がありますけど、運営に対して公募もしない。なるべく公募しなさいということが書いてありますね、事情にも。事情の都合のいいところだけを取って公募しなかった。そういう公募しなくてもその業者1社だったら計画書を恐らく持ってきているはずですよ。こういう計画で道の駅を運営したいからお願いしなさいということで、そして初めから赤字ありきで年間3,000万の、恐らくいくらになるかは分かりません。この予算から見たら恐らく3,000万近くなりますよね。また運営状況を見て債務負担を来年出す。934万6,000円の運営ができなかったら、また金額上がるわけですよ。せっかくのふるさと納税の金、ふるさと納税している方々の思いを酌み取ってやらなければ、前、町長が

美農里館を作るとき、各集落で説明会をしました。その場でも私が質問をしました。何を加工するか。さつまいもを加工する。販路を探してありますか。今から探します。案の定、さつまいもは美農里館の前にサンテナで積んで、恐らく後はどうなったか分かりませんが、そのときも町長に言いました。6億、7億をかけるわけだから、もっと計画を持ってやらなければだめだと言うこと、これ二の舞ですよ。民間だったら社長はクビですよ。美農里館でも四、五千万の赤字。道の駅、この間、奄美の住用の道の駅に電話して聞いたら、ある程度トントンにしているという話でした。道の駅というのは徳之島では絶対に持たない施設なんですよ。交流人口、赤字になっている道の駅も大分多いと聞きます。

総務課長、なぜ債務負担行為をしなかったのか、お伺いします。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

債務負担行為は12月にする予定となっております。

○15番（大沢章宏君）

ちょっと1点だけお伺いします。

歳出の17ページですね。民生費の中の目の10の定額減税一帯支援調整給付金事業の中の18負担金ですね、7,600万。これは対象者と、いつから支払われるのかと、支払い方法ですね、その3点お伺いします。

○税務課長（新田良二君）

ただいまの御質問にお答えいたします。

こちら、本案が成立次第、対象者約1,700人の方に案内文を通知いたします。その案内文にまた返信を付けていただいて、指定の口座を記入していただいて返信していただきます。その届き次第、順次、指定口座のほうへ給付をいたします。この申請期限が本年の11月29日を申請期限といたします。

以上でございます。

○15番（大沢章宏君）

その対象者はどういった人が対象、人数もですけど、どういった人が対象かということと、今ちょっとありましたけど本人が申請するということですかね。

○税務課長（新田良二君）

こちらは国の算定ツールを使用しまして約1,700名の方にこちらから案内文をお送りいたしまして、また返信用封筒に指定する口座を付けていただいて口座振替を行います。

以上です。

○15番（大沢章宏君）

要するに、定額減税し切れなかった人が対象ということですかね。その人が大体今では今の

予想だと1,700人ぐらい予想されるということですかね。

○税務課長（新田良二君）

申し訳ございません。

既に皆さんの個人住民税が1万円、所得税が3万円、減税してございます。おっしゃるとおり定額減税し切れない分を、これから給付するという形でございます。

以上です。

○10番（池山富良君）

先ほどの道の駅の件でございますけれども、私は、あれは国が県の補助金をもらって、とんでもない施設なんですね。勇元議員がおっしゃるのはよく分かります。赤字になったらどうするのって、町の負担になるよということですが、そういったことを念頭において、やはりあの施設だけは成功をさせないといけないと私は思っている。高岡町長の名にかけても、まあ取りあえずふるさと納税、返礼品とかいろいろのがあります。向こうを通して返礼品を送るなり、そしてあの道の駅だけは3か町の人々がみんな見ております。そして成功をするのは高岡町長の私は使命だと思っておりますので、そういった地域営業課を向こうに移すなり、返礼品を向こうから送って、そしてぜひ成功をさせてもらいたいと思いますので、これはプラス面、さっきはね、勇元さんがおっしゃるマイナス面もあります。けども、あれは絶対に町長、あなたの名にかけて潰すわけにはいきませんので、ぜひ頑張ってください。

○13番（木原良治君）

1点だけ質疑します。

歳入の7ページ、雑入のほうでいきます。これは、事前に調べておくように、裏づけが確実なようにという一応通知はしております。お願いします。医学就学基金返還金174万5,000円、これは医者ドクターとして徳之島から誕生したということで受け止めていますけど、もう少し丁寧に説明してください。

○健康増進課長（吉田 忍君）

お答えいたします。

雑入にあります医学就学基金返還金174万5,000円、こちらは本町亀津で生まれ育った女性でございます。幼少期の頃は私の近所に住んでいて、とてもバイタリティのあるお子さんだった記憶がございます。その後、鹿児島大学歯学部に入學しまして、在学期間中に歯科医師免許を取得しております。貸与期間は平成28年4月から平成31年3月までの3年間貸与され、医師免許取得、そしてまた卒業後はやはり歯科医師ということもございまして、現在は島外の歯科医院で勤務をしているところでございます。そのためこれまで分割で返済をしていた残額、この174万5,000円について今年3月末に一括で完済されております。

健康増進課といたしましても、医師、歯科医師等目指して夢を叶えている方々がいらっしや

ることはもう非常に喜ばしいことと思っております。町の広報紙で現在も周知しておりますが、残念ながらこの方以後は申請相談はありません。

以上です。

○13番（木原良治君）

この医学の就学基金の趣旨が生かされたということですよ。それで喜ばしいことだと思います。そしてその予算を次からも、そして広報のほうも総務課長、しっかりと医学部のほうに次を目指す子供たちが手本となった証になるので、この趣旨、そして達成したことに対して、また予算に対してこれをどう生かすか、一言だけ答弁いただけますか。

○総務課長（村上和代君）

お答えいたします。

今、吉田課長のほうからございましたが、本当に島の子供たちが医師を目指し頑張っておられる姿は本当に喜ばしいことでございます。またこれを機に、医学就学基金、また看護、そのほかにも理学等ございますが、皆さんがこれを活用していただいて、これからも徳之島の子供たちが自分の夢に向かって進んでいけるように、こちらのほうもしっかりと広報してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

○8番（勇元勝雄君）

2、1、27の12、委託料に対して私は反対いたします。

その理由は、仕事の内容が決まっていないのに委託者に金を払うというのは、実際、この委託料は払う場所はないと思うんですよ。この間、指定管理者をした委託者は12月1日から委託されているわけですよ。私はこういう予算はデタラメだと思うんですよ。委託者もないのに委託料を組む。その内容も決まっていないのにお金を、予算を組む。こういう現在の町政。私はそういう観点から、この予算に対しては反対いたします。恐らくこういう予算を通すということは、我々議会の恥だと思っておりますので、私は反対いたします。

○議長（行沢弘栄君）

次に、原案に賛成者の発言を許します。

○15番（大沢章宏君）

奄美、沖縄が世界遺産登録されまして、今やっぱり議会の中でも徳之島にも観光するところが少ないということで、皆さん、やっぱりあちこちに観光施設を作ってほしいという要望はいっぱい出ております。

そういった中で、高岡町長が遺産センターをしっかりと予算を確保して、その中でまたこういった道の駅が完成12月にする予定です。やっぱりそういった観光拠点施設を、これから世界遺産を見据えて観光客が増えることが予想されます。そういった中でやっぱりあちこち、今、皆さん何回も言いましたけれども、この施設が少ない中で、これは本当にこれからの徳之島町の重要な拠点になると考えております。

また先ほど池山議員からもありましたとおり、何とか一生懸命、皆さん頑張っていていただいて黒字化にするよう一生懸命頑張ることがこれからの責務だと思っております。また何回も言いますけれども、本当に世界遺産登録されてせつかく予算で作りましたので、また12月オープンに目前に迫っておりますので、予算がないと何事も執行できないと思っておりますので、この補正予算に対して賛成であります。

○議長（行沢弘栄君）

次に、反対者の発言を許します。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

これで討論を終わります。

これから、議案第79号、令和6年度一般会計補正予算（第3号）についてを採決します。この採決は起立によって行います。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者起立]

○議長（行沢弘栄君）

起立多数であります。したがって、議案第79号は原案のとおり可決されました。

△ 日程第10 議案第80号 令和6年度国民健康保険事業特別会計
補正予算（第2号）について

○議長（行沢弘栄君）

日程第10、議案第80号、令和6年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第80号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、令和6年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）について議会の議決を

求める件であります。

内容は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ5,078万7,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ14億7,111万8,000円とするものであります。

歳入の内容は、繰入金4,258万7,000円、繰越金813万2,000円、県支出金6万8,000円の増額であります。

歳出の内容は、総務費5,000万円、諸支出金55万円、保険事業費23万7,000円の増額であります。

なお、事項別明細につきましては審議の段階で御説明申し上げます。

何とぞ御審議の上、議決していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第80号、令和6年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第80号は原案のとおり可決されました。

△ 日程第11 議案第81号 令和6年度介護保険事業特別会計補正予算（第2号）について

○議長（行沢弘栄君）

日程第11、議案第81号、令和6年度介護保険事業特別会計補正予算（第2号）についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第81号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、令和6年度介護保険事業特別会計補正予算（第2号）について議会の議決を求め

る件であります。

内容は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ5,740万9,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ11億398万9,000円とするものであります。

歳入の内容は、繰越金6,959万9,000円、保険料231万2,000円などの増額、繰入金1,463万1,000円の減額であります。

歳出の内容は、諸支出金5,720万9,000円、地域支援事業費20万円の増額であります。

なお、事項別明細につきましては審議の段階で御説明申し上げます。

何とぞ御審議の上、議決していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第81号、令和6年度介護保険事業特別会計補正予算（第2号）についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第81号は原案のとおり可決されました。

△ 日程第12 議案第82号 令和6年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）について

○議長（行沢弘栄君）

日程第12、議案第82号、令和6年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第82号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、令和6年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）について議会の議決を求

める件であります。

内容は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ141万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1億5,319万1,000円とするものであります。

歳入の内容は、繰越金152万9,000円、諸収入24万7,000円、繰入金7万6,000円の増額、後期高齢者医療保険料44万2,000円の減額であります。

歳出の内容は、予備費152万9,000円、保険事業費29万3,000円、総務費3万円の増額、後期高齢者医療広域連合給付金44万2,000円の減額であります。

なお、事項別明細書につきましては審議の段階で御説明申し上げます。

何とぞ御審議の上、議決していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第82号、令和6年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第82号は原案のとおり可決されました。

△ 日程第13 議案第83号 令和6年度水道事業会計補正予算（第2号）について

○議長（行沢弘栄君）

日程第13、議案第83号、令和6年度水道事業会計補正予算（第2号）についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第83号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、令和6年度水道事業会計補正予算（第2号）について議会の議決を求める件であ

ります。

内容は、収益的収入におきまして営業外収益1,154万5,000円、営業収益500万円の増額であります。収益的支出におきまして営業費用1,489万5,000円、営業外費用165万円の増額であります。また資本的収入におきまして企業債1,870万5,000円の減額であります。資本的支出におきまして建設改良費550万円の増額であります。

なお、事項別明細につきましては審議の段階で御説明申し上げます。

何とぞ御審議の上、議決していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第83号、令和6年度水道事業会計補正予算（第2号）についてを採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第83号は原案のとおり可決されました。

△ 日程第14 議案第84号 令和6年度下水道事業会計補正予算（第2号）について

○議長（行沢弘栄君）

日程第14、議案第84号、令和6年度下水道事業会計補正予算（第2号）についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

議案第84号の提案理由を御説明申し上げます。

本議案は、令和6年度下水道事業会計補正予算（第2号）について議会の議決を求める件であります。

内容は、収益的収入におきまして、下水道事業営業外収益588万8,000円、農業集落排水事業営業外収益40万円の増額であります。収益的支出におきまして下水道事業営業費用628万6,000

円の増額、下水道事業特別損失39万8,000円の減額、農業集落排水事業営業費用40万円の増額であります。また資本的支出におきまして建設改良費899万円の減額であります。

なお、事項別明細につきましては審議の段階で御説明申し上げます。

何とぞ御審議の上、議決していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

○8番（勇元勝雄君）

要望で聞いてもらいたいと思います。

発電機ですね、5年度の当初予算で予算を取っています。発電機、おそらく下水道の川を渡るとかああいうところの発電機だと思いますけど、必要だから予算を取っているわけですから、早急にやらなければ1年半ぐらい遅れているわけですから、台風災害がなかったからよかったですけど、そういう点を気をつけてやってもらいたいと思います。

○議長（行沢弘栄君）

ほかに質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第84号、令和6年度下水道事業会計補正予算（第2号）についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第84号は原案のとおり可決されました。

△ 日程第15 議案第85号 令和5年度一般会計歳入歳出決算の認定について

△ 日程第16 議案第86号 令和5年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について

△ 日程第17 議案第87号 令和5年度農業集落排水事業特別会計

歳入歳出決算の認定について

- △ 日程第18 議案第88号 令和5年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- △ 日程第19 議案第89号 令和5年度公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- △ 日程第20 議案第90号 令和5年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について
- △ 日程第21 議案第91号 令和5年度水道事業会計歳入歳出決算の認定について

○議長（行沢弘栄君）

日程第15、議案第85号、令和5年度一般会計歳入歳出決算の認定についてから、日程第21、議案第91号、令和5年度水道事業会計歳入歳出決算の認定についてまで、7件を一括議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○町長（高岡秀規君）

令和5年度各会計歳入歳出決算の認定について議会にお願いするに当たり、各議案の提案理由を御説明申し上げます。

まず、議案第85号、令和5年度一般会計歳入歳出決算の認定について御説明申し上げます。

令和5年度一般会計歳入歳出総額は101億5,164万1,642円、歳出総額は98億888万5,947円、歳入歳出の差引き額は3億4,275万5,695円ではありますが、翌年度へ繰り越すべき財源が1億969万1,886円のため、実質収支額は2億3,306万3,809円であります。この実質収支額のうち、地方自治法第233条の2の規定により1億2,000万円は財政調整基金へ繰り入れ、1億1,306万3,809円を翌年度へ繰り越すべく処置いたしました。

それでは、各項目の内容について御説明申し上げます。

本町の歳入の75.2%に当たる76億4,292万1,974円が地方交付税、国庫支出金、県支出金、町債などの依存財源であります。その中で最も高い比率を占めているのが地方交付税の37.6%で38億1,692万4,000円、続いて国庫支出金の13.9%で14億683万5,479円、町債の10.8%で11億62万6,000円、県支出金の9.4%で9億5,293万8,495円などとなっております。

一方、自主財源は歳入総額の24.8%に当たる25億871万9,668円で、町税は10.1%で10億2,061万3,267円となっております。

徴収実績は現年度分が98.9%、滞納分が17.0%で、全体で95.5%となっております。

歳出につきましては、民生費が最も高く22.8%で22億3,681万3,801円、続いて総務費の19.7%で19億3,126万5,119円で、教育費の14.1%で13億8,147万1,563円、衛生費の9.5%で

9億3,612万1,853円、農林水産業費9.4%で9億1,939万4,154円、公債費の8.9%で8億7,668万9,335円、土木費の7.8%で7億6,428万7,499円などとなっております。

次に、議案第86号、令和5年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について御説明申し上げます。

歳入総額は14億2,535万7,064円、歳出総額は14億1,722万3,860円、歳入歳出の差引き額は813万3,204円となっております。

歳入の主な内容は、県支出金10億8,583万1,076円、国民健康保険税1億7,197万8,661円、繰入金1億5,992万9,628円、繰越金426万6,467円などであります。

また、自主財源であります保険税の徴収実績は、現年度分が94.4%、滞納分が23.2%、全体で83.4%となっております。

歳出の内容は、保険給付費10億4,670万2,878円、国民健康保険事業費給付金3億3,759万9,210円、保険事業費1,422万3,355円、諸支出金1,187万7,257円、総務費745万1,160円であります。

次に、議案第87号、令和5年度農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について御説明申し上げます。

歳入総額は1,358万2,160円、歳出総額は1,321万33円、歳入歳出の差引き額は37万2,127円あります。

歳入の内容は、繰入金1,212万3,000円、使用料及び手数料142万6,000円、繰越金3万3,160円あります。

歳出の内容は、事業費955万6,981円、公債費365万3,052円あります。

次に、議案第88号、令和5年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について御説明申し上げます。

歳入総額は11億7,569万3,671円、歳出総額は10億9,209万2,929円、歳入歳出の差引き額は8,360万742円あります。この実質収支額のうち地方自治法第233条の2の規定により1,400万円は基金へ繰り入れ、6,960万742円を翌年度へ繰り越すべく処置をいたしました。

歳入の主な内容は、国庫支出金3億2,903万438円、支払基金交付金2億9,104万9,000円、繰入金1億6,819万3,960円、保険料1億6,056万2,860円、県支出金1億5,160万3,550円などあります。

歳出の内容は、保険給付費9億7,541万1,240円、諸支出金5,645万1,854円、地域支援事業費3,875万4,996円、総務費2,147万4,839円あります。

次に、議案第89号、令和5年度公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について御説明申し上げます。

歳入総額は5億5,425万2,325円、歳出総額は5億4,365万3,554円、歳入歳出の差引き額は

1,610万1,971円ではありますが、翌年で繰り越すべき財源が111万2,000円のため実質収支額は948万9,971円であります。

歳入の主な内容は、町債2億1,190万円、国庫支出金1億8,705万9,000円、繰入金1億1,481万7,000円、使用料及び手数料2,813万4,489円などであります。

歳出の内容は、事業費4億1,720万6,060円、公債費6,642万8,805円、総務費6,001万5,489円であります。

次に、議案第90号、令和5年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について御説明申し上げます。

歳入総額は1億3,683万638円、歳出総額は1億3,530万537円、歳入歳出の差引き額は153万101円となっております。

歳入の主な内容は、後期高齢者医療保険料7,338万8,200円、繰入金5,369万5,175円、諸収入817万8,482円などあります。

歳出の内容は、後期高齢者医療広域連合給付金1億2,306万3,775円、保険事業費842万680円、総務費336万9,882円、諸支出金44万6,200円であります。

次に、議案第91号、令和5年度水道事業会計歳入歳出決算の認定について御説明申し上げます。

収益的収入総額は4億6,225万7,669円ではありますが、一般会計から2億4,159万7,000円を繰り入れてあります。収益的支出総額は4億3,137万6,158円あります。資本的収入総額は6億9,101万5,000円あります。資本的支出総額は7億8,029万9,469円あります。資本的収入額は資本的支出額に不足する額8,928万4,469円は過年度及び当年度分損益勘定留保資金5,666万7,118円及び当年度分消費税及び地方消費税資本的支出調整額3,261万7,351円で補填いたしました。

以上、各会計の歳入歳出決算について御説明申し上げましたが、事項別明細につきましては審議の段階で御説明申し上げます。

何とぞ御審議の上、認定していただきますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（行沢弘栄君）

これから総括質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

お諮りします。

本決算案7件については、議長と監査委員を除く14人の委員をもって構成する令和5年度歳入歳出決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにしたいと思います。御

異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。

したがって、本決算案7件については、議長と監査委員を除く14人の委員をもって構成する令和5年度歳入歳出決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することに決定しました。

委員会条例第8条第2項の規定によって、委員長、副委員長は委員会において互選することになっております。互選のためしばらく休憩します。

休憩 午前11時19分

再開 午前11時20分

○議長（行沢弘栄君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいま決算審査特別委員会の委員長及び副委員長が決定しましたので御報告いたします。

委員長に総務文教厚生常任委員会委員長の植木厚吉議員、副委員長に経済建設常任委員会委員長の松田大志議員が決定しました。

△ 日程第22 報告第6号 令和5年度健全化判断比率について

○議長（行沢弘栄君）

日程第22、報告第6号、令和5年度健全化判断比率について、報告を求めます。

○総務課長（村上和代君）

それでは報告いたします。

報告第6号、財政健全化法における令和5年度健全化判断比率について申し上げます。

実質赤字、連結実質赤字等はございません。実質公債費比率7.9%、将来負担比率39.5%となっております。

以上でございます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

以上で、報告第6号については終わります。

△ 日程第23 報告第7号 令和5年度資金不足比率について

○議長（行沢弘栄君）

日程第23、報告第7号、令和5年度資金不足比率について、報告を求めます。

○総務課長（村上和代君）

それでは報告いたします。

報告第7号、令和5年度資金不足比率について申し上げます。

資金不足比率はございません。

以上でございます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

以上で、報告第7号については終わります。

△ 日程第24 報告第8号 継続費精算報告書について

○議長（行沢弘栄君）

日程第24、報告第8号、継続費精算報告書について、報告を求めます。

○総務課長（村上和代君）

報告第8号、継続費精算報告書について、御報告いたします。

地方自治法施行例第145条第2項の規定に基づき継続費精算報告書を調整いたしましたので、別紙のとおり議会に報告いたします。

内容につきましては、お手元に配付してございます令和5年度継続費精算報告書のとおりでございます。一般会計総務費、総務管理費、新庁舎建設事業、事業費全体計画額23億4,466万円に対し、実績額23億4,438万9,310円でございます。

以上、一般会計1件でございます。

○議長（行沢弘栄君）

これから質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

以上で、報告第8号については終わります。

○議長（行沢弘栄君）

以上で、本日の日程は全部終了しました。

次の会議は、9月20日午後3時から開きます。

本日は、これで散会いたします。お疲れさまでした。

散 会 午前11時24分

令和6年第3回徳之島町議会定例会

第5日

令和6年9月20日

令和6年第3回徳之島町議会定例会会議録

令和6年9月20日（金曜日） 午後3時 開議

1. 議事日程（第5号）

○開 議

○日程第 1 徳之島愛ランド広域連合議員の選挙

○日程第 2 議案第85号 令和5年度一般会計歳入歳出決算の認定について
……………（決算審査特別委員長報告）

○日程第 3 議案第86号 令和5年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算
の認定について ……………（決算審査特別委員長報告）

○日程第 4 議案第87号 令和5年度農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算
の認定について ……………（決算審査特別委員長報告）

○日程第 5 議案第88号 令和5年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認
定について ……………（決算審査特別委員長報告）

○日程第 6 議案第89号 令和5年度公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の
認定について ……………（決算審査特別委員長報告）

○日程第 7 議案第90号 令和5年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の
認定について ……………（決算審査特別委員長報告）

○日程第 8 議案第91号 令和5年度水道事業会計歳入歳出決算の認定につい
て ……………（決算審査特別委員長報告）

○日程第 9 議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の申し出について
……………（議会運営委員長）

○閉 会

1. 本日の会議に付した事件

○議事日程記載事件のとおり

1. 出席議員（15名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	内 博行 君	2番	政田 正武 君
3番	宮之原 剛 君	4番	植木 厚吉 君
5番	竹山 成浩 君	6番	松田 太志 君
7番	富田 良一 君	8番	勇元 勝雄 君
10番	池山 富良 君	11番	是枝 孝太郎 君
12番	広田 勉 君	13番	木原 良治 君
14番	福岡 兵八郎 君	15番	大沢 章宏 君
16番	行沢 弘栄 君		

1. 欠席議員（1名）

9番 徳田 進 君

1. 出席事務局職員

事務局 長 清原 美保子 君 主 査 中野 愛香 君

1. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した当局職員の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町 長	高岡 秀規 君	教 育 長	福 宏人 君
総務課長	村上 和代 君	企 画 課 長	中島 友記 君
建設課長	作城 なおみ 君	花徳支所長	尚 康典 君
農林水産課長	高城 博也 君	耕地課長補佐	武田 祐助 君
地域営業課長	清瀬 博之 君	農委事務局長	白坂 貴仁 君
学校教育課長	太 稔 君	社会教育課長	安田 誠 君
介護福祉課長	廣 智和 君	健康増進課長	吉田 忍 君
おもてなし観光課長	吉田 広和 君	税 務 課 長	新田 良二 君
住民生活課長	大山 寛樹 君	選管事務局長	藤 康裕 君
会計管理者・会計課長	田畑 和也 君	水 道 課 長	保久 幸仁 君

△ 開 議 午後 3時00分

○議長（行沢弘栄君）

こんにちは。

これから本日の会議を開きます。

△ 日程第1 徳之島愛ランド広域連合議員の選挙

○議長（行沢弘栄君）

日程第1、徳之島愛ランド広域連合議員の選挙を行います。

お諮りします。選挙の方法については、地方自治法第118条の第2項の規定によって、指名推選にしたいと思います。御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、選挙の方法は指名推選で行うことに決定しました。

お諮りします。指名の方法については、議長が指名することにしたいと思います。御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議長が指名することに決定しました。

徳之島愛ランド広域連合議員に、富田良一議員を指名します。

お諮りします。ただいま議長が指名しました富田良一議員を徳之島愛ランド広域連合議員の当選人と定めることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、ただいま指名しました富田良一議員が徳之島愛ランド広域連合議員に当選されました。ただいま徳之島愛ランド広域連合議員に当選されました富田良一議員が議場におられます。会議規則第33条第2項の規定によって、当選の告知をします。

△ 日程第2 議案第85号 令和5年度一般会計歳入歳出決算の認定について

△ 日程第3 議案第86号 令和5年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について

△ 日程第4 議案第87号 令和5年度農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について

- △ 日程第5 議案第88号 令和5年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- △ 日程第6 議案第89号 令和5年度公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- △ 日程第7 議案第90号 令和5年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について
- △ 日程第8 議案第91号 令和5年度水道事業会計歳入歳出決算の認定について

○議長（行沢弘栄君）

日程第2、議案第85号、令和5年度一般会計歳入歳出決算の認定についてから、日程第8、議案第91号、令和5年度水道事業会計歳入歳出決算の認定についてまでを一括議題とします。決算審査特別委員長の報告を求めます。

○決算審査特別委員長（植木厚吉君）

皆様、こんにちは。

それでは、報告を行いたいと思います。

令和5年度歳入歳出決算審査特別委員会に付託されました一般会計並びに特別会計決算書の審査の経過と結果について御報告申し上げます。

去る9月17日、18日、2日間にわたり、町長をはじめ総務課長、財政主幹並びに各担当課長、担当職員の出席を求め、各会計歳入歳出事項別明細書等に基づき、審査を行いました。

審査の過程では、令和5年度の決算に係る事業の成果、課題または今後の方策等について質疑や要望等がなされました。

主な要望について御報告いたします。

ふるさと思いやり基金を活用した事業を各課で実施していますが、事業の実施のみでなく、実施後の検証をしっかりと行い、今後の事業推進に努めていただきたい。

各種税金・使用料・水道料金収入未済については、積極的に徴収率向上に向けた努力をすること、また、滞納が常習化している方や約束不履行など、悪質と認められる場合には、給水停止や法的措置の取組に努められたい。

なお、質疑については、皆様御周知のとおりでございますので省略させていただきます。

それでは、結果を御報告申し上げます。

議案第85号、令和5年度一般会計歳入歳出決算の認定について、議案第86号、令和5年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について、議案第87号、令和5年度農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について、議案第88号、令和5年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について、議案第89号、令和5年度公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の

認定について、議案第90号、令和5年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について、議案第91号、令和5年度水道事業会計歳入歳出決算の認定について、以上7件について、全会一致で認定すべきものと決定いたしました。

以上で、報告を終わります。

○議長（行沢弘栄君）

これから、委員長報告に対する質疑を行います。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

質疑なしと認めます。

これから、議案ごとに討論、採決を行います。

議案第85号、令和5年度一般会計歳入歳出決算の認定について討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第85号、令和5年度一般会計歳入歳出決算の認定についてを採決します。この決算に対する委員長の報告は認定とするものです。

お諮りします。この決算は委員長の報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第85号は認定することに決定しました。

これから、議案第86号、令和5年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第86号、令和5年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決します。この決算に対する委員長の報告は認定とするものです。

お諮りします。この決算は委員長の報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第86号は認定することに決定しました。

これから、議案第87号、令和5年度農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第87号、令和5年度農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について採決します。この決算に対する委員長の報告は認定とするものです。

お諮りします。この決算は委員長の報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第87号は認定することに決定しました。

これから、議案第88号、令和5年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第88号、令和5年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決します。この決算に対する委員長の報告は認定とするものです。

お諮りします。この決算は委員長の報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第88号は認定することに決定しました。

これから、議案第89号、令和5年度公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第89号、令和5年度公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決します。この決算に対する委員長の報告は認定とするものです。

お諮りします。この決算は委員長の報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第89号は認定することに決定しました。

これから、議案第90号、令和5年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第90号、令和5年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決します。この決算に対する委員長の報告は認定とするものです。

お諮りします。この決算は委員長の報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第90号は認定することに決定しました。

これから、議案第91号、令和5年度水道事業会計歳入歳出決算の認定について討論を行います。

[「討論なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

討論なしと認めます。

これから、議案第91号、令和5年度水道事業会計歳入歳出決算の認定についてを採決します。この決算に対する委員長の報告は認定とするものです。

お諮りします。この決算は委員長の報告のとおり認定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、議案第91号は認定することに決定しました。

△ 日程第9 議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の申し出について

○議長（行沢弘栄君）

日程第9、議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の申し出についてを議題とします。

委員長から、会議規則第75条の規定によって、お手元に配りました申出のとおり、閉会中の継続調査の申出があります。

お諮りします。委員長から申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（行沢弘栄君）

異議なしと認めます。したがって、委員長から申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

○議長（行沢弘栄君）

以上で、本日の日程は全部終了しました。

会議を閉じます。

令和6年第3回徳之島町議会定例会を閉会します。お疲れさまでした。

閉 会 午後 3時13分

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

徳之島町議会議長 行 沢 弘 栄

徳之島町議会議員 内 博 行

徳之島町議会議員 木 原 良 治